◎準指圖債權ノ調查權ニ關スル諸問

一　記名式所持人拂債權ノ性質（二續民五五七頁）
二　定期貯金證書ノ性質（二續民五五六頁）
三　銀行ノ預金證書ト無記名債權（三續民八六條八九頁）
四　無記名債權カ指圖債權カ（民法二七二頁）
五　記名式所持人拂ノ債權ト讓渡手續（民法二七一頁・續民法一一七二頁）

第四百七十二條　【指圖債權ノ讓受人ノ權利】

1 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

◎指圖債權ノ對抗要件ニ關スル諸問

一　本條ニ所謂對抗事由ノ解釋（民法二七二頁）
二　本條ニ所謂善意惡意ノ意義（續民法一一七二頁）
三　記名式持參人拂債權ノ性質（二續民五五七頁）
四　指圖債權ニ關スル民法規定ノ適用（續商法一〇三六頁）
五　貨物引換證ノ惡意讓受人ト運送人（二續民五五七頁）
六　貨物引換證ニ依ラサル運送品ノ引渡（本條後出）

七　倉荷證券ト引換ヘサル受寄物返還（本條後出）

◎貨物引換證ニ依ラサル運送品ノ引渡

一〔東京控〕運送品ニ付貨物引換證カ發行セラレタル場合ニ於テ運送人カ之ト引換ニ非スシテ運送品ヲ引渡シタルトキハ民法第四百七十二條ニ依リ其後善意ニテ貨物引換證ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ其引渡ヲ以テ對抗シ得サル結果右第三者ハ運送人ニ對シ運送契約ニ基ク運送品ノ引渡請求權ヲ取得スルヲ以テ其權利ヲ行使シ得ルト共ニ若シ運送品ノ引渡義務ノ履行カ不能トナリタルトキハ之ニ因ル損害賠償ヲ請求シ得ルコト勿論ニシテ被控訴人カ叙上ノ如ク善意ニテ本件貨物引換證ヲ取得シ又控訴人ハ該貨物引換證ヲ發行シタル結果運送人トシテノ義務ヲ負擔シタルモノナルカ故ニ控訴人ハ被控訴人ニ對シ本件運送品ノ滅失ニ因ル商法所定ノ前記損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（東京控訴院昭和四年ネ一六七一號同八年二月一六日判決法律新聞三五五〇號九頁・法律評論二二卷商法二四六頁）

二　貨物引換證ニ依ラサル運送品ノ引渡（二續商一六七二頁）

◎倉荷證券ト引換ヘサル受寄物返還

◎　倉荷證券ト引換ヘサル受寄物返還（三續商三八三條ノ二）

一〔大審院〕1案スルニ原院ハ林好郎ハ上告人ヨリ昭和三年七月六日金一萬圓ヲ借受ケ擔保トシテ本件寄託物ヲ提供シ同日被上告會社ニシテ右寄託物ニ對スル倉荷證券ヲ發行セシメ其ノ儘之ヲ上告人ニ差入レ置キ同年八月ニ至リ上告人ノ要求ニ依リ好郎ニ於テ該倉荷證券ノ裏書欄ニ好郎ノ氏名ヲ記載シ捺印シタルモノニシテ被上告會社カ本件寄託物ヲ好郎ニ交付シタル同年七月中ニハ上告人ハ未タ好郎ヨリ該倉荷證券ノ白地裏書ヲ受ケ居ラス從テ寄託物ノ所有權ヲ取得セサルヲ以テ其ノ當時被上告會社カ倉荷證券ト引換ニ非スシテ右寄託物ヲ好郎ニ交付シ之ヲ滅失セシメタリトスルモ上告人ノ所有權ヲ侵害スルモノト云フヲ得ス被上告會社カ上告人ノ右寄託物ニ對スル所有權ヲ侵害シタルコトヲ前提トシテ被上告會社ニ其ノ損害ノ賠償ヲ求ムル本訴ハ既ニ此ノ點ニ於テ失當ナリトノ理由ノ下ニ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルモノトス然モ上告人カ本訴ノ請求原因トシテ主張スル事實ハ上告人ハ右好郎ヨリ本件倉荷證券ヲ同人ノ白地裏書ニ依リ讓受ケタルニ被上告會社ハ不法ニモ證券ト引換ニ非スシテ寄託物ヲ好郎ニ交付シタルニヨリ證券ノ所持人タル上告人ハ證券ニ依リ寄託物ノ引渡ヲ受クルヲ得ス損害ヲ被リタルヲ以テ其ノ賠償ヲ求ムト云フニ在リテ其ノ賠償ヲ求ムル所以ハ必シモ寄託物ノ所有權ヲ失ヒタリト爲スニ限ラサルコトハ原判決事實摘示及之ニ引用セル第一審判決事實摘示ニ依リ之ヲ窺ヒ得ヘク同摘示中ノ所有權ノ侵害ナル字句ニ拘泥スヘキモノニ非サルモノト云フヘク而モ倉荷證券ハ其ノ記名式ナルトキト雖證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載セサル限リ裏書ニ依リ其ノ讓渡又ハ質入ヲ爲シ之ニ依リ其ノ效力ヲ寄託物ニ及ホシ得ヘキモノナレハ證券ト引換ニ非スシテ受寄物ヲ返還スルカ如キコトアランカ善意ナル證券ノ所持人ハ其ノ證券取引カ受寄物返還ノ前ナルトキト後ナルトヲ問ハス證券ニ依リ寄託物ノ返還ヲ受クルヲ得スシテ不測ノ損害ヲ蒙リ其ノ證券所持人トシテ有スル正當ナル利益ヲ害セラルニ至ルヘキヲ以テ倉庫營業者ハ倉荷證券ト引換ニ非サレハ受寄物ヲ返還スヘカラサルモノト云フヘク此ノ事ハ返還ヲ受クル者カ偶々證券ノ所持人ナル場合ニ於テモ其ノ理ヲ異ニスルモノニ非ス

2故ニ若倉庫營業者ニシテ證券ト引換ニ非スシテ受寄物ヲ返還スルカ如キコトアランカ當時證券ヲ所持スル者又ハ其ノ後善意ニ證券ヲ讓受クヘキ者カ不測ノ損害ヲ被ルコトアルヘキコトハ倉庫營業者ニ於テ容易ニ之ヲ知リ得ヘキモノニシテ證券所持人カ之ニ因リ受ケタル損害ハ倉庫營業者ノ過失ニ因リ通常生スヘキ損害ト認ムヘキヲ以テ特別ノ事情ナキ限リ倉庫營業者ハ之ヲ賠償スヘキ義務アルモノトス然ラハ若原判示ノ如ク被上告會社カ林好郎ニ對シ本件倉荷證券ト引換ニ非スシ

テ受寄物ヲ返還シタル事實アリトシ且原判示ニ所謂本件倉荷證券ノ裏書欄ニ好郎ノ爲シタル記名捺印カ同人ノ白地裏書ニ因ル證券ノ讓渡ヲ意味スルモノトセハ其ノ讓渡ノ日カ原判示ノ如ク寄託物返還ノ後ナリトスルモ上告人カ其ノ讓渡ヲ受ケタル當時寄託物ノ既ニ返還セラレタル事實ヲ知ラサル限リ尙上告人ノ請求ヲ認容セラルルコトアルヘキハ自ラ明ニシテ原院カ前示ノ如ク判示シ轍ク上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ違法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院昭和七年オ九四二號同八年二月二三日判決大審院判例集一二卷民事四四九頁）

○右一ノ批評—小町谷操三氏法學協會雜誌五二卷三號一八二頁

第四百七十三條　【無記名債權ノ讓受人ノ權利】

1 前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス

◎無記名債權ニ關スル諸問

一　無記名債權ナリヤ否ヤノ標準（續民法一一七三頁）

二　商品券ノ法律關係ト取消及解除（本條後出）

三　無記名債權ニ關スル諸問（三續民八六條）

◎商品券ノ法律關係ト取消及解除

一　〔東京地〕控訴人カ昭和三年一月廿六日被控訴會社新宿分店內郵便切手賣捌所ニ到リ被控訴會社發行ニ係ル額面一圓ノ商品券ヲ呈示シテ金三錢ノ郵便切手一枚ヲ請求シタルトコロ拒絕セラレタルコト仍テ同年三月七日被控訴人ニ對シ向フ三月內ニ商品券ノ券面額ニ相當スル金一圓ヲ現金ニテ返還スヘキ旨催告シ次テ同年四月十一日契約解除ヲ爲スヘキ旨ノ意思表示ヲ爲シタルコトハ當事者間爭ナキトコロナリ仍テ右解除ノ當否ヲ按スルニ先ツ控訴人被控訴人間ニ解除セラルヘキ契約關係アリヤト云フニ甲第一號證ノ裏書ニ依レハ被控訴人ハ右證券ノ所持人ニ對シ同人ノ選擇ニ從ヒ被控訴人ノ店舖ニ於テ販賣セラルル物品ヲ券面額ニ相當スル丈交付スルコトヲ約セルモノナルコト明カナルヲ以テ該證券ハ被控訴人ニ對スル右ノ如キ物品請求權ヲ化體シタル無記名證券ナリト謂フヘク從テ之ヲ取得スル行爲ハ有償無償ノ區別ニ依リ賣買交換又ハ贈與タルコトアルヘク要スルニ債權契約關係ナリト謂ハサルヘカラス而シテ直接ニ被控訴人ヨリ證券ヲ取得セサル控訴人ノ如キ者ハ固ヨリ右債權關係設定ノ當事者ニ非サルモ此種ノ證券上ノ責任ハ音ニ物品交付ノ本來ノ義務ノミナラス解除取消等ニ關スル責任モ總テ證券ノ所持人ニ對シテノミ負擔スルモノト爲スニ非サレハ證券流通上ノ安全ハ確保シ得サルカ故ニ此種ノ證券上ノ債權關係ハ被控訴人ノ如キ轉得者ニ依リテモ承繼セラルルモノト認ムルヲ相當トス（控訴人ハ此債權關係ヲ寄託ナリト謂フモ右ハ單ニ右債權關係ニ對スル法律上ノ意見ヲ開陳シタルニ過キサルモノト認ムルヲ相當トスルニ依リ特ニ其判斷ヲ爲サス）從テ若シ被控訴人カ右證券上ノ義務ノ履行ヲ肯セサルニ於テハ控訴人ハ相當手續ノ後右債權關係ヲ解除シ得ヘキヤ勿論ナリ然ルニ控訴人ハ右解除ヲ爲スニ當リ被控訴人ニ對シ相當期間ヲ定メテ本來ノ給付ノ履行ヲ催告セサルヘカラサルニ不拘之ヲ爲サス券面額相當ノ金額ヲ現金ニテ引渡スヘキ旨ヲ催告シ之カ履行ナキヲ理由トシテ契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルモノナルコトハ控訴人ノ主張スルトコロニ依リ明カナルヲ以テ斯ル解除ハ其前提要件ヲ欠如シ解除ノ效果ナキモノト云ハサルヘカラス（東京地方裁判所昭和三年レ三八八號同年一月二八日判決法律評論一八卷商法四八六頁）

第五節　債權ノ消滅

第一款　辨濟

第四百七十四條　【債務ノ辨濟ト第三者】

1 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

2 利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

◎債務ノ辨濟ニ關スル諸問

一　本條ニ所謂辨濟ノ意義（三續民五〇〇條）

二　債務ノ辨濟ト法律行爲（本條後出一三〇六頁）

三　辨濟契約成立ノ推定（續民法一一七三頁）

四　債權ヲ消滅セシムル合意ノ適否（三續民五一九條）

五　辨濟行爲ト要素ノ錯誤（二續民五五九頁）

六　抵當權ノ效力有無ト辨濟行爲ノ要素（二續民一二九頁）

七　辨濟額ノ不確定ト條件附辨濟（續民法一四五五頁）

八　競賣代金交付ノ錯誤ト抵當權ノ喪否（民法一九八頁）

九　辯護士ヲ通セル辨濟事實ノ否定（三續民九九條二二二頁）

一〇　外國通貨ニ依ル辨濟ト換算方法（三續民四〇三條九六五頁「邦貨支拂ニ關スル諸問」ノ九參看）

一一　擔保物處分ノ約款ト辨濟方法ノ制限（續民法一〇二二頁）

一二　辨濟ト擔保物返還トノ同時履行（三續民五三三條）

一三　預金證書ノ交付ニ依ル辨濟（二續民五六一頁）

一四　爲替券ノ送付ト辨濟ノ效力（本條後出一三〇六頁）

一五　競落確定後ノ辨濟—供託ノ效力（本條後出一三〇七頁）

一六　辨濟ト更改トノ差異（二續民五六〇頁）

一七　辨濟ノ引受ト債務ノ引受トノ異同（二續民六一三頁）

一八　代物辨濟ニ關スル諸問（三續民四八二條）

一九　一部辨濟ニ關スル諸問（本條後出一三〇九頁）

二〇　超過辨濟カ否カト社會通念（本條後出一三〇九頁）

二一　僅少殘額ノ存否ト社會通念（本條後出一三一〇頁）

二二　消滅シタル債務ト復活ノ合意（本條後出一三一〇頁）

二三　貸借ノ同意ニ含ム辨濟ノ同意（本條後出一三一〇頁）

二四　辨濟ニ關スル認定ノ當否（本條後出一三一〇頁）

二五　高利辨濟カ否カノ認定（本條後出一三一一頁）

二六　債務存在ノ爭ト債務消滅ノ抗辯（本條後出一三一二頁）

二七　勸定相濟ノ意義（本條後出一三一二頁）

二八　辨濟事實ノ擧證責任（本條後出一三一三頁）

二九　辨濟點ニ確定力ヲ及ホササル判決（本條後出一三一三頁）

三〇　第三者ノ辨濟ニ關スル諸問（本條後出一三一三頁）

三一　本條第二項ノ法意及適用（本條後出一三一四頁）

三二　第三者ノ辨濟ヲ禁スル特約ノ成立（本條後出一三一四頁）

三三　第三者ノ辨濟ト利害關係（本條後出一三一四頁）

三四　利害關係ナキ者ノ辨濟ノ效力（本條後出一三一五頁）

◎債務ノ辨濟ト法律行爲

一〔大審院〕辨濟カ法律行爲ナルヤ否ヤハ專ラ債務關係ノ實質如何ニ依ルモノニシテ不作爲債務ノ辨濟ノ如キハ消極的行爲ナルカ故ニ法律行爲ニ非サルコト勿論ナリト雖モ金錢給付債務ノ辨濟ノ如キハ當事者雙方ノ意思ノ合致ニ依リ債權債務ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ行ハルルモノナレハ法律行爲ナルコト疑ヲ容レサルモノトス故ニ金錢給付債務ノ辨濟カ法律行爲ニ非サルコトヲ前提トスル論旨ハ適法ノ上告理由タラス（大審院大正四年オ二六五號同年六月二四日判決法律新聞一〇三八號二八頁）

二　辨濟ト意思表示ノ要否（二續民五五九頁）

◎爲替券ノ送付ト辨濟ノ效力

一〔大審院〕當院ハ曩ニ本件ニ付爲シタル判決ニ於テ本件不動産ノ抵當權者タル上告人ニ於テ第三取得者タル野島和市ヨリ抵當權滌除金支拂ノ爲送付シタル居宅拂爲替券ニ付現金ノ拂渡ヲ受ケタルモノトセハ既ニ滌除金ノ辨濟ヲ受領シタルコトト爲ルヲ以テ和市ノ爲シタル滌除ハ茲ニ完成シ上告人ノ抵當權ハ消滅シタルモノト謂フヘク之ニ反シテ上告人カ單ニ右爲替券ヲ受領シタルノミニテ未タ其ノ現金ノ支拂ヲ受ケサルニ於テハ滌除金ノ辨濟ヲ受ケタルモノト謂フヲ得サル旨判示シ上告人カ居宅拂爲替券ヲ受領シタルコトハ法律上現金受領ノ效力ヲ有セサルモノト爲シタレハ原院ハ須ク此見解ニ遵由シ裁判ヲ爲スヘキニ事茲ニ出テスシテ上告人カ滌除權者野島和市ノ送付シタル居宅拂爲替券ヲ受領シタル以上ハ現實ニ滌除金ヲ受領シタルモノト認ムルヲ妥當ナリトシ以テ爲替券受領ト同時ニ滌除ハ完成シ上告人ノ抵當權ハ茲ニ消滅シタルモノト判定シタルハ裁判所構成法第四十八條ノ規定ヲ無視シタル不法ノ裁判タルヲ免レス（大審院大正一二年オ二五六號同年七月一〇日判決法律新聞二一七一號二〇頁）

二　右一ノ曩ノ判決ニ續民法一四六五頁「居宅拂郵便物ノ返還ト提供ノ效力」

三　履行ノ提供ト郵便爲替又ハ振替貯金（二續民五八一頁）

◎競落確定後ノ辨濟—供託ノ效力

一〔大審院〕案スルニ競賣ノ基本タル抵當權カ消滅シタルトキハ競賣手續ハ之ヲ續行スルコトヲ得サルモノニシテ假令競落許可決定カ確定スルモ競賣不動產ノ所有權ハ競落人ニ移轉スルモノニ非サル事ハ夙ニ本院判例トスル所ナリ然ルニ抗告人ハ再抗告ヲ爲スト共ニ供託ニ因リ本件債務ヲ免レタルコトノ證據トシテ供託書及通知書ノ寫ヲ提出シタルニヨリ假令其ノ提出カ既ニ抗告棄却ノ決定ヲ爲シタル後ナリトスルモ再抗告ノ存スル以上原審ハ再度ノ考案ニ因リ不服ノ點ヲ更正スルコトヲ得ルモノナレハ右供託ノ適否ヲ審査シ以テ更正ノ必要アリヤ否ヲ決スヘキ筋合ナルニ拘ラス原審カ此ノ措置ニ出テサリシハ不法ニシテ重要ナル訴訟手續ニ違背セルモノトス（大審院昭和四年ク六一八號同年七月二四日決定法律新報一九三號一一頁）

二〔仙臺地〕1訴外村上龜藏カ昭和二年五月二十一日付被控訴人ニ對スル金千七十五圓ノ債權ニ基キ其ノ抵當物タル本訴不動產外八筆ノ不動產ニ付同年十月二十八日抵當權實行ノ爲氣仙沼區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ控訴人カ昭和三年三月二十三日ノ競賣期日ニ於テ本訴不動產ニ付競買ノ申出ヲ爲シ同月二十六日競落許可決定ヲ得其ノ競賣代金支拂及配當期日カ昭和四年一月二十九日ナリシコトハ當事者間爭ナシ而シテ成立ニ爭ナキ甲第三號證ニヨレハ本訴不動產ニ付テハ昭和四年一

月卅一日控訴人ニ競落ニ因ル所有權移轉登記ヲ爲シアルカ故ニ控訴人ハ其ノ競買代金ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ推認スルニ足レリ然リ而シテ成立ニ爭ナキ甲第一、三、六、七號證竝ニ成立ヲ是認スヘキ甲第二號證ニ依レハ被控訴人カ有債權者村上龜藏ノ死跡承繼人タルコトニ爭ナキ村上吉一ニ對シ昭和四年一月十二日競賣ノ基本トナリタル抵當債權額ノ全部ヲ支拂ヒ且同人ヨリ共益費用請求權ノ免除ヲ得タルコトヲ認メ得ヘシ以上認定ノ事實關係ニ依レハ被控訴人ハ控訴人カ本訴不動產ヲ競落シ其ノ決定確定シ一年以上ヲ經過シタル後債權者ニ對シ其ノ競賣ノ基本トナリタル債權ヲ辨濟シタル事實關係ナリトス

2然ルニ競賣法第二條ニ依レハ競落人ハ競落許可決定ノ確定ニ因リテ競落不動產ノ所有權ヲ取得シ其ノ上ニ存スル抵當權ノ消滅スヘキコト明白ナレハ叙上ノ如ク現ニ有效ニ存在セシ債權竝抵當權ニ基ク競賣手續ニ於テ債權竝抵當權消滅前控訴人カ抵當不動產ヲ競落シ競落ノ許可決定確定シタル以上ハ控訴人ハ有效ニ其ノ所有權ヲ取得シ競賣ノ基本タル抵當權カ消滅スヘキハ當然ニシテ其ノ後ニ至リ被控訴人カ抵當債權者ニ債務ノ辨濟ヲ爲スモ既ニ有效ニ生シタル控訴人ノ所有權ノ取得及抵當權消滅ノ效力ヲ如何トモスル能ハサルヤ言ヲ俟タス蓋シ無效ナル債權竝抵當權ニ基ク競賣手續若クハ既ニ消滅シタル債權竝抵當權ニ基ク競賣手續ニ於テ競賣不動產ノ競落ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令手續上競落許可決定ハ確定スルモ競落人ニ於テ競賣不動產ノ所有權ヲ取得スル效果ヲ生セサルコトハ大審院判例ノ示ス所ナレトモ苟クモ競落許可決定竝其ノ確定ノ當時尙債權竝抵當權有效ニ存續セル以上ハ競落許可決定カ其ノ效果ヲ發生セサル謂ノ毫モ存在セサルノミナラス競賣法第二十三條カ競賣申立人ハ最高價競買申込人ノ同意アルニ非サレハ競賣申立取下ヲ爲スコトヲ得サル趣旨ヲ規定シ既ニ最高價競買申込人アル以上ハ競落許可決定以前ト雖其ノ競賣申立ニ付競賣申立人ニ單獨ノ處分權ヲ許サスシテ最高價競賣申込人ノ利益ヲ保護シタル法意ヨリ見ルモ競落許可決定確定後債務者カ爲シタル債務辨濟ノ爲ニ遡及シテ既ニ生シタル該競落許可決定ノ效果ヲ抹消滅却シ最高價競買申込人ノ承諾ナクシテ競賣申立ノ取下ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ生セシムヘキ理アラサルヲ以テナリ然ラハ被控訴人ノ本訴請求ノ理由ナキコト自ラ明白ナルカ故ニ之ヲ是認シタル原判決ハコレヲ不當トス（仙臺地方裁判所昭和四年レ二七七號同五年一〇月二七日判決法律新聞三一九七號八頁・法律評論二〇卷民法四九頁）

三　競落決定後ニ於ケル債務辨濟ノ效力（諸法下一二四九頁）

四　競落許可決定ト債權消滅トノ關係（諸法上一八二頁）

五　決定確定後ノ異議ノ拒否（諸法上二二〇頁）

六　競落後ノ辨濟期ノ變更ト競落ノ效力（諸法下一二五〇頁）

◉競賣完結後ノ所有權確認ノ訴（諸法上一八〇頁）

◉競賣手續ノ無效確認ト訴ノ利益（續民訴七二五頁）

◉一部辨濟ニ關スル諸問

一　一部辨濟ト時效中斷ノ範圍（三續民一五六條三九五頁）

二　登記前ノ一部辨濟ト登記金額（三續民三七二條）

三　利息振替拂ノ默認ト元本ノ承認（三續民一五六條三九四頁）

四　債權ノ一部辨濟ト抵當權ノ消長（三續民三七二條）

五　連帶債務者一人ノ分割辨濟ノ效力（三續民四四〇條）

六　債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力（三續民四九四條）

七　手形數通ニ對スル內拂ト承認範圍（三續民一五六條三九五頁）

◉超過辨濟カ否カト社會通念

一〔大審院〕1按スルニ之ヲ社會一般ノ通念ニ照ストキハ債務者其ノ負擔スル債務ノ額ヲ超過シテ辨濟ヲ爲スコトナキヲ常トスルヲ以テ債務者カ債務ノ辨濟トシテ一定ノ金額ヲ給付シタルトキハ特別ノ事情ナキ限リ債務者ハ少クトモ其ノ給付シタル金額ノ債務ヲ負擔スルカ故ニ之カ給付ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス

2本件ニ付之ヲ觀ルニ原審口頭辯論ノ結果ニ依レハ當事者間ノ爭點ハ被上告人ノ債務額ハ三千圓ナリヤ若ハ八百圓ナリヤニ在リテ原審ハ被上告人ノ負擔セル債務ノ額ハ最初三千圓ナリシモ後日合意上之ヲ八百圓ト變更シタルモノト認定シタルモ被上告人カ右ノ如ク八百圓ト變更サレタリト稱スル日時後ニ二千圓ヲ本件債務辨濟ノ爲ニ支拂ヒヲ爲シタル事實ハ原審ノ確定シタル所ナリトス果シテ然ラハ被上告人カ其ノ辨濟ヲ爲シタル當時ニ於テ負擔セル債務ノ額ハ八百圓ニ非スシテ遙カニ之ヲ超過スル額ナリシコトヲ推認シ得ヘカリシモノトス蓋斯ル倍額以上ノ金額ヲ債務ノ辨濟トシテ支拂ヲ爲スコトハ特別ノ事情ナキ限リ之ヲ認メ得ヘキモノニ非サレハナリ從テ本件ニ於テ最初ノ三千圓ノ債務カ八百圓ニ變更セラレタルヤ否ヲ認定スルニ當リテハ右八百圓ニ超過セル千二百圓カ如何ナル目的ノ爲ニ給付セラレタルヤヲ明ニセサルヘカラサル重要ナル事項ニ屬スルモノナルニ原審ハ此ノ點ニ付考慮ヲ拂フコトナク漫然證人ノ證言ノミニ措信シテ債務ハ八百圓ニ減額セラレタルモノト認定シ以テ右二千圓ノ支拂ニ因リ被上告人ノ債務全部消滅シタル旨ヲ判示シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ不法アルモノトス（大審院昭和七年オ一七〇六號同年一二月二日判決法律新報三一五號九頁・法學二卷七號九五頁・

法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事三二八頁）

◎僅少殘額ノ存否ト社會通念

一〔岡山地〕金額五百圓ノ貸借關係ニ於テ借主カ月一分五厘ノ割合ニ依ル利息ヲ附シ其ノ元利金ノ大部分ヲ辨濟シ殆ト全額ニ近キ債務ヲ消滅セシメ僅ニ金二十錢ニ滿タサル債務殘存シ且其ノ債務ハ本件辯論ノ全趣旨ニ依リ認メ得ヘキ控訴人ノ供託ノ際ニ於ケル計算方法ノ過誤ニ基因スル場合當初設定シタル抵當權カ該僅少債權ノ上ニ依然存續スルモノト爲スカ如キハ取引上ノ信義ニ反スル不當ノモノニシテ寧ロ前示金三百七十一圓五錢ノ債權ノ消滅ト共ニ抵當權モ消滅シタルモノト認ムルヲ社會通念上妥當ナリト解ス（岡山地方裁判所昭和七年レ二九三號同八年九月二六日判決法律新報三四二號二六頁）

◎消滅シタル債務ト復活ノ合意

一〔廣島控〕一旦辨濟ニ因リ債務ヲ消滅セシメタルトキハ新ニ舊債務關係ト同一ナル別個ノ債務ヲ發生セシムルハ格別縱令契約當事者ノ同意ヲ以テスルモ消滅前ニ於ケルト同一ノ債務關係ニ復セシメ既往ニ遡リテ其ノ效力ヲ保有セシムルコト能ハサルモノトス（廣島控訴院昭和三年ネ二〇七號同五年一月二四日判決法律評論一九卷民法三四六頁・法律新聞三〇八七號一五頁）

二　消滅セル債權債務ノ復活契約（三續民一一九條）

◎消滅債權ノ復活ト其ノ抵當權（三續民四六八條「消滅債權ノ讓渡ト異議ナキ承諾」參看）

◎貸借ノ同意ニ含ム辨濟ノ同意

一〔大審院〕貸借ニ付キ親族會ノ同意ヲ得タル場合ニ於テハ其ノ辨濟ニ付キ同意ナキモノト云フ可カラサルヲ以テ原審カ貸借ニ關シ同意アリタルコトヲ判示シタル以上所論辨濟ノ同意ニ關スル事實モ自ラ判斷アリタルモノト解シ得ヘシ（大審院昭和七年オ二四六七號同八年四月六日判決法學二卷一一號九八頁）

◎辨濟ニ關スル認定ノ當否

一〔大審院〕按スルニ被上告人カ上告人ノ前主訴外石島安次郎ヨリ二百圓ト五百圓ノ二口合計金七百圓ヲ借受ケタルコトハ原院ノ認ムル所ナレハ其ノ債務カ辨濟ニ因リ既ニ消滅シタルモノト爲サンニハ原院ハ須ラク右二百圓ト五百圓ノ全額現金ニテ債權者ニ交付セラレタルカ又ハ其ノ他ノ事由ヲ判示セサルヘカラス然ルニ原院カ被上告人ハ債權者安次郎ノ申出ニ依リ訴外恒川鈔三ニ對シ金百圓ヲ交付シ其ノ後安次郎カ本訴債權ヲ上告人ニ讓渡スル迄ノ間ニ於テ安次郎ニ對シ順次ニ現金五百圓以上ヲ交付シタル事實ヲ判示シタルニ止マリ其ノ六百圓以外ニ被上告人ノ交付シタル金額ヲ明示スルコトナク本訴債務ハ辨濟ニ因リ既ニ消滅シタルモノト爲シタルハ理由不備ノ不法アル判決ニシテ破毀スヘキモノトス（大審院大正一三年オ一二八號同年五月二九日判決法律新聞二二七四號二一頁）

二〔大審院〕按スルニ原審カ本件差押命令及ヒ轉付命令ノ目的タル債權ノ不存在ヲ判示シタルハ訴外小泉彦太郎ニハ被上告人ニ對スル金五百五十圓ノ債務ト其他數口ノ債務トアリテ被上告人ハ之ヲ整理シ其辨濟ニ充ツル爲メ訴外寺田喜平次ヨリ彦太郎ニ對スル贈與金百五十圓ヲ同人ノ承諾ヲ得テ受領シ夫々辨濟ヲ了シタルモノト爲スニ在リテ被上告人ニ於テ彦太郎ノ委託事務ヲ處理シ債務ノ辨濟ヲ了シタルニ依リ預金債權トシテ存在セサルモノト爲シタルカ如シト雖モ原判決ノ引用セル第一審判決ノ事實摘示ニ依レハ被上告人ハ第一審以來右百五十圓ハ被上告人カ彦太郎ノ爲メニ負擔セル前示債務ニ充當スヘキ契約彦太郎トノ間ニ成立シ受領シタルモノニ屬シ受領ト同時ニ被上告人ノ所有ニ歸シタル旨ヲ主張シ債務辨濟ヲ請負ヒ受領ト同時ニ金錢ノ所有權被上告人ニ歸シタルモノニシテ辨濟ノ有無ヲ問ハサルモノノ如シ然ルニ原審カ被上告人ノ主張ヲ釋明セシムルコトナク漫然前示ノ如ク判示シタルハ不當ニ事實ヲ確定シ理由不備ノ不法アル判決ニシテ破毀スヘキモノトス（大審院大正五年オ二九〇五號同年七月五日判決法律新聞一一七一號三一頁）

三　高利辨濟カ否カノ認定（本條後出次問）

四　債務存在ノ爭ト債務消滅ノ抗辯（本條後出）

五　辨濟ノ認定（續民法一一七四頁）

六　辨濟ノ有效ナル場合（二續民五六〇頁）

◎辨濟事實ノ擧證責任（本條後出一三一三頁）

◎高利辨濟カ否カノ認定

一〔大審院〕按スルニ乙第一、五號證ノ入金カ或ハ延期料或ハ違約損害金ト記載シアリ又上告人カ約定ニ係ル高率ナル利息ノ支拂トシテ右入金ヲ受領スル意思アリテ之ヲ受領シタルコトハ原院ノ認定セル所ナレハ假令債務者タル被上告人ニ於テハ利息制限法ノ制限ヲ超過セサル利率即チ年一割二分ノ率ニ於ケル利息ニ充ツル意思ヲ以テ右入金ヲ爲シタルモノトスルモ是レ畢竟債務者ノ心裡留保タルニ止マリ之カ爲メ被上告人カ延期料又ハ違約損害金トシテ高率ナル利息ヲ支拂フ意思表示ヲ妨クルモノニ非ス何トナレハ辨濟ハ法律行爲ニ非ストスルモ當事者ノ合意ヲ以テ高率ナル利息ヲ授受スルコト事實ニ於テ有リ得可ケレハナリ然ルニ原院カ如上ノ事實ヲ認メナカ

ラ被上告人ハ年一割二分ノ率ニ於ケル利息ノ支拂ニ充ツル意思ナ以テ右入金ヲ爲シタル者ト認メ當事者カ約定ニ係ル高率ナル利息ヲ授受シタルモノニ非スト爲シタルハ辨濟ニ關スル法則ヲ不當ニ適用セス理由不備ノ不法アル判決ニシテ破毀スヘキモノトス（大審院大正八年オ九八七號同九年三月二〇日判決法律新聞一六八六號一七頁）

◎債務存在ノ爭ト債務消滅ノ抗辯

一〔大審院〕按スルニ上告人ノ訴訟代理人カ原審ニ於テ上告人ハ東北共益合資會社ノ無限責任社員ニシテ金千圓ヲ出資スルコトトシ內金百圓以上ノ拂込未濟額アルコトハ認ムルモ大正三年三月二十八日退社シ同日其登記ヲ了シ本訴提起前二ケ年ヲ經過シタルカ故ニ商法第七十三條ニ依リ其債務ハ消滅シタルモノナリ故ニ本訴請求ニ應スヘキ義務ナシト陳述シタルコト原判決ノ事實摘示ニ依リ明白ニシテ卽チ上告人ハ尙ホ出資トシテ百圓以上拂込ムヘキ債務アリシモ其債務ハ既ニ消滅シタル旨抗辯シ債務ノ存在ヲ爭フモノナルコト疑ヲ容ルルノ餘地ナシ故ニ商法第七十三條ヲ引用シタルハ不當ナルニセヨ債務ノ存在ニ付爭ナキモノト謂フヘカラス然ルニ原審カ「債務ノ存在ニ付爭ナキ以上ハ云々」ト判示シ恰モ上告人カ東北共益合資會社ニ對シ百圓以上ノ債務ヲ負擔スルコトニ付當事者間爭ナキモノノ如ク確定シ從テ上告人ニ本訴請求ニ應スヘキ義務アリト判定シタルハ不法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス（大審院大正六年オ九六五號同七年一月二四日判決法律新聞一三七六號三二頁）

◎勘定相濟ノ意義

一〔大阪區〕被告代理人ハ甲第一號證ヲ援用シ同號證ニ「以上勘定相濟」ト記載シアルハ數量ノ計算相濟ノ意味ニシテ金錢上ノ計算ヲ包含スルモノニアラサル旨辯解スレトモ原告カ大正四年十月二日ヨリ同年十一月二日迄計百三十二圓九十六錢ノ加工賃同日迄ノ分トシテ被告ニ支拂ヒタルコトハ被告ノ認ムル所ナルト甲第一號證ノ「勘定相濟」ノ文詞ハ普通金錢上ノ計算結了ヲ意味スルト證人松永唯榮ノ甲第一號證ハ當事者間ノ取引關係ヲ記載シタル通帳ニシテ之ニ品數ノ記載アル故値段モ分リ同號證ニ依リテ金ノ計算ヲ爲シタルコトアルヲ記憶スル旨ノ證言トヲ參酌スレハ同號證ノ右記載ノ數量ハ勿論金錢其他總テノ取引關係ヲ結了シ前說明ノ如ク甲第二號證ノ預リ分ノミト爲リタルコト明ナルカ故ニ本抗辯ハ理由ナシ（大阪區裁判所大正五年ハ一一一三號同年一〇月二四日判決法律新聞一一八七號二二頁）

◎辨濟事實ノ擧證責任

一〔大審院〕債權成立ノ事實ニ爭ナキ以上其ノ辨濟アリタル事實ヲ主張スル者ハ之ヲ證明スヘキ責任アルコト多言ヲ要セス然ラハ本件債權ニ付被上告人ノ認ムル一部辨濟ノ外尙ホ辨濟アリタル事實ヲ主張スル上告人ハ之ヲ證明スヘキ責任アルカ故ニ其ノ確證ナキコト原判示ノ如クナル以上原審カ被上告人ニ對シ所論ノ釋明若クハ立證ヲ促スコトナク上告人敗訴ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ（大審院昭和七年オ二七八〇號同八年三月二五日判決法學二卷一一號一〇六頁）

二　債權消滅ノ立證責任（民訴一九二頁）

◉交互債權ト辨濟ノ推定（民法二七九頁）

◎辨濟點ニ確定力ヲ及ホササル判決

一〔法曹會〕債權ノ辨濟ニ因リ抵當權消滅シタリトノ理由ニ基キ抵當權登記ノ抹消手續ヲ命スル判決アリタルトキハ其ノ理由ハ判決主文ニ包含セラレサルモノナルカ故ニ判決ノ確定力ハ債權消滅ノ點ニ及ハサルモノトス（民事訴訟法第二百十一條參照）（法曹會昭和三年一月二八日決議法曹會雜誌六卷三號一〇六頁）

二〔大審院〕甲號證ノ判決ハ元金四百五十圓ニ對スル利息金ノ請求事件ニ關スル判決ニシテ其元本四百五十圓ハ既ニ辨濟セラレタルコトヲ肯定シアルモ該判決ニ對シテハ原告ヨリ控訴ヲ爲シ控訴審ニ於テ該事件ハ右利息請求ニ付キ一事再理ヲ求ムルモノト認メ其請求ノ內容ヲ審究スルコトナク控訴ヲ棄却シタルモノナルトキハ元金四百五十圓ニ付キ既ニ辨濟セラレタリトノ點ニ付テ確定判決アリト云フコトヲ得サルモノトス（大審院大正一〇年オ六二〇號同年一一月二四日判決法律新聞一九三二號一九頁）

◎第三者ノ辨濟ニ關スル諸問

一　本條第二項ノ法意及適用（本條後出）

二　第三者ノ辨濟ト其ノ性質及效果（二續民五五九頁）

三　第三者ノ辨濟ヲ禁スル特約ノ成立（本條後出）

四　第三者ノ辨濟ト利害關係（本條後出）

五　利害關係ナキ者ノ辨濟ノ效力（本條後出）

六　第三者ノ辨濟ト債務者ノ反對意思（續民法一一七五頁）

七　辨濟ニ該當セサル第三者ノ出捐（二續民五六一頁）

八　債務ノ辨濟ヲ約シタル第三者ノ責任（民法二七三頁）

九　第三者ノ辨濟豫約ノ效力（民法二七二頁）

一〇　不作爲債務ト第三者ノ辨濟（續民法一一七四頁）

一一　第三者ノ辨濟ト債務者承認ノ效力（續民法一一七六頁）

一二　第三者ノ手形行爲ニ依ル辨濟（二續民五六一頁）
一三　立替辨濟ニ因ル償還請求權ト時效（續民法一一七六頁）
一四　第三者ノ辨濟ト立證責任（續民法一一七六頁）

◎本條第二項ノ法意及適用

一　本條第二項ノ趣旨（本條後出「利害關係ナキ者ノ辨濟ノ效力」一、二參看）

二〔大審院〕民法第四百七十四條第二項ハ利害ノ關係ナキ有セサル第三者カ債務者ノ意思ニ反シテ爲シタル辨濟ハ總テ之ヲ無效トスル趣旨ヲ定メタル規定ナルコト明ニシテ債權發生後債務者ト第三者又ハ債權者間ニ特定ノ第三者ノ辨濟ヲ禁止スル契約ヲ爲シタル場合ノミニ關スル規定ニ非ス（大審院昭和六年オ二三三五號同年一二月二二日判決法律新聞三三六五號一一頁四段・法律評論二一卷民法一三〇頁）

◎第三者ノ辨濟ヲ禁スル特約ノ成立

一〔大審院〕債權ニ付第三者ノ辨濟ヲ許ササル旨ヲ特約スルハ必スシモ債權成立ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非スト雖モ債權成立後ニ爲シタル特約ハ單ニ其ノ效力ヲ將來ニ向テノミ發生スルノミニシテ遡及效ヲ有スルモノニ非サレハ辨濟ニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者カ債權者ニ辨濟ヲ提供シ且

之ヲ供託シタル場合ニ其ノ供託ヲ有效トスヘキヤ將タ又無效トスヘキヤヲ斷スル爲ニハ單ニ叙上特約ノ存スルコトヲ明ニスルヲ以テ足レリトセス其ノ特約ノ成立シタル時期ヲモ確定スルコトヲ要スルモノトス（大審院昭和六年ク一六〇七號同七年八月一〇日決定法律評論二一卷諸法六三四頁）

◎第三者ノ辨濟ト利害關係

一〔土浦區〕第三者カ自己ノ債權ノ滿足ヲ受クルカ爲ニ他人ノ債務ヲ辨濟スルハ縱令其債務者ト第三者ノ債務者ト同一人ニ非ラサル場合ト雖該辨濟ト第三者ノ債權ノ滿足トノ間ニ因果關係アレハ辨濟ニ付法律上正當ノ利害關係アリト解スヘキヲ以テ原告ハ被告ノ右債務ヲ辨濟シタルニ因リ當然訴外銀行ニ代位シ原告ノ被告ニ對スル求償權ノ範圍ニ於テ同銀行カ被告ニ對シテ有セシ債權ヲ取得シタルモノト謂フヘク該求償權ノ範圍ハ原告カ義務ナクシテ被告ノ債務ヲ辨濟シタルモノナレハ事務管理ノ法則ニ從ヒ原告カ支出シタル金員ノ償還ト之ニ對スル民法所定ノ遲延損害金ノ限度ニ止ルヘク該償還義務ニ期限ノ定ナキモノナルカ故ニ被告ハ請求ヲ受ケタルトキヨリ遲滯ノ責ニ任スヘキモノトス（土浦區裁判所昭和七年ハ一〇一六號判決年月日不詳法律新聞三五六四號八頁）

二〔大審院〕第三者カ債務者ノ意思ニ反シテ有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ルニハ該辨濟ヲ爲スニ付キ自ラ利害關係ヲ有スルコトヲ必要トシ單ニ利害關係ヲ有スル第三者ヨリ辨濟ノ委託ヲ受ケタルノミニテハ未タ辨濟ヲ爲スニ付利害關係ヲ有スルニ至ルモノト爲スヲ得サルモノトス（大審院昭和六年オ二三三五號同年一二月二二日判決法律新聞三三六五號一二頁二段・法律評論二一卷民法一三〇頁）

三　債務ノ辨濟ト利害關係ヲ有スル者（續民法一一七四頁）

◎利害關係ナキ者ノ辨濟ノ效力（本條後出）

◎利害關係ナキ者ノ辨濟ノ效力

一〔大審院〕民法第四百七十四條第二項ノ規定ハ利害關係ヲ有セサル第三者ノ爲シタル辨濟ノ有效ナルカ爲ニハ其ノ辨濟當時債務者ノ意思ニ反セサルコトヲ必要トスル法意ニシテ債務者ニ於テ其ノ辨濟前豫メ債權者又ハ第三者ニ對シ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニアラサレハ其ノ辨濟ヲ有效トスルノ趣旨ニアラス〔大正六年（オ）第四六四號同年十月十八日本院判例參照〕論旨ハ之ト反對ノ見地ニ立チ原判決ヲ批難スルモノニシテ理由ナシ（大審院昭和六年オ二三三五號同年一二月二二日判決法律新聞三三六五號一一頁・法律新報二七八號九頁）

二　右一ノ引用判例―續民法一一七五頁「第三者ノ辨濟ト債務者ノ反對意思」ノ二

三〔大審院〕民法第四百七十四條第二項ノ規定ハ利害ノ關係ヲ有セサル第三者カ債務者ノ意思ニ反シテ爲シタル辨濟ハ右第三者ニ於テ當時其ノ辨濟カ債務者ノ意思ニ反スルコトヲ知リタルト否トヲ問ハス常ニ無效トスル法意ナルコト明瞭ナルヲ以テ原審カ訴外岡部知惠雄ニ於テ其ノ爲シタル辨濟カ債務者タル被上告人ノ意思ニ反スルコトヲ知リタリヤ否ヤニ付何等審理判斷ヲ爲ササリシトスルモ之ヲ以テ判斷遺脫ノ不法アリト謂フヘカラス（大審院昭和六年オ二三三五號同年一二月二二日判決法律新聞三三六五號一二頁二段・法律評論二一卷民法一三〇頁）

四　利害關係ナキ第三者ノ辨濟ノ效力（二續民五五九頁「本條第二項ノ法意」參看）

第四百七十五條　【他人ノ物ノ引渡ト取戻權】

1 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

◎本條ニ關スル諸問

一　本條ノ取戻拒否權ノ性質（二續民五六二頁）
二　他人ノ物ノ引渡ト有效ノ辨濟（二續民五六二頁）
三　他人ノ物ノ引渡ト其取戻（民法二七三頁）

第四百七十六條　【讓渡能力ナキ辨濟者ト取戻權】

1 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

◎本條及次條ノ適用範圍（二續民五六二頁）

第四百七十七條　【受領者ノ善意處分ト取戻權】

1 前二條ノ場合ニ於テ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債權者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

◎本條ニ關スル諸問

一　本條及次條ノ適用範圍（二續民五六二頁）

二　辨濟金ノ取戻ト占有ノ效力（二續民二七七頁）

三　他人ノ物ノ引渡ト其ノ取戻（民法二七三頁）

第四百七十八條　【準占有者ニ爲シタル辨濟】

1 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限リ其效力ヲ有ス

◎債權ノ準占有ニ關スル諸問

一　本條ノ趣旨（二續民五六三頁）

二　債權ノ準占有者ノ意義（二續民五六三頁）

三　假裝ノ權利賣ト第三債務者ノ辨濟（三續民三六四條）

四　小作料ノ支拂ト本條ノ適用（本條後出）

五　對抗權ナキ債權讓受人ニ對スル辨濟（本條後出）

六　保證金取戻債權ノ轉付ト本條（本條後出）

七　領收證（僞造）ノ持參者ニ對スル支拂ノ效力（三續民一〇九條二四五頁）

八　善意辨濟ノ主張ト釋明權ノ不行使（本條後出）

九　無權利者ニ對スル惡意辨濟ノ認定（本條後出）

◎準占有ニ關スル諸問（三續民二〇五條六一〇頁）

◎受取證書ノ持參人ニ關スル諸問（三續民四八〇條）

◎小作料ノ支拂ト本條ノ適用

一〔大阪地〕被告等ハ昭和三年十一月本件土地ノ新所有者ナル上田庄三郎、小山己之助外九名ヨリ本件土地ハ前記日時同人等ニ於テ買受ケ之カ移轉登記ヲモ經由シタルニヨリ昭和三年

度ノ小作料ハ全部同人等ニ支拂ハレ度キ旨ノ催告ヲ受ケタルコトヲ認メ得ヘク同年十二月二十日同人等ニ對シ各自本件賃料ヲ支拂ヒタルコトハ原告ノ認ムルトコロナレハ反證ナキ限リ被告等ハ同人等ヲ本件賃料ノ債權者ナリト信シテ右辨濟ヲ爲シタルモノナルコトヲ推認スルコトヲ得ヘキヲ以テ右ハ民法第四百七十八條ニ依リ辨濟ノ效力ヲ有シ原告ノ前主賢治郎カ有シタリシ叙上日割ニ依ル賃料債權ハ之レニ依リテ消滅ニ歸シタルモノト謂ハサルヘカラス（大阪地方裁判所昭和五年ワ二九九三號同八年三月九日判決法律新聞三五四二號一三頁●法律評論二二卷民法六五一頁）

二〔大審院〕原審ニ於テ訴外藤源一ハ上告人等ニ對シ本件小作米債權ヲ訴外井手虎治ヨリ買受ケ其ノ權利者ト爲リタリト主張シテ該債權ノ辨濟ヲ求メ之ヲ受領シタリトノ事實ヲ認定シタル事ハ寔ニ所論ノ如クナリト雖モ民法第四百七十八條ニ所謂債權ノ準占有者ナリト爲スニハ一般取引觀念上自己カ債權者ナル事ヲ信ヒシムルニ足ル事由ニ基キ債權者タル行爲ヲ爲シタル事ヲ要スルト共ニ前叙原審認定ニ係ル事實アレハトテ必スシモ右要件ヲ具備セルモノト謂フヲ得サルヲ以テ原審ニ於テ前叙事實ヲ認メナカラ右源一カ本件小作米債權ノ準占有者タル事ヲ認ムルニ足ラスト爲シタレハトテ何等違法アルモノニ非ス又債權ノ準占有者ニ非サル者ニ對シ辨濟トシテ給付ヲ爲スモ其ノ給付ハ善意ニテ爲サレタルト否トヲ問ハス辨濟タルノ效力ヲ有スルモノニ非サルコト勿論ナルト共ニ原審亦此ノ趣旨ニ於テ上告人等ノ右源一ニ對シテ爲シタル給付ヲ辨濟タル效力無キモノト爲シタルモノナルコト自ラ明白ナレハ此ノ點ニ於テモ何等違法アルコト無シ從テ論旨ハ採用スルニ足ラス（大審院昭和五年オ二一二一號同六年二月二一日判決判例彙報四三卷一一號民事六三四頁●法律評論二〇卷民法一八七頁）

◎對抗權ナキ債權讓受人ニ對スル辨濟

一〔大審院〕1按スルニ被上告人ハ訴外近藤逸之助ヨリ本件養魚場ヲ上告人主張ノ賃料ニテ賃借シ右近藤逸之助ノ被上告人ニ對スル昭和三年度ノ賃料債權五百五十圓ニ付上告人ヨリ債權差押竝轉付命令ヲ申請シ該命令カ昭和三年九月二十八日午前十一時三十分（原判決ニ昭和五年トアルハ昭和三年ノ誤記ト認ム）被上告人ニ送達セラレタルトコロ之ヨリ先右近藤逸之助ハ同年八月二十二日右賃料債權ヲ訴外土肥信太郎ニ讓渡シ其ノ兩三日後被上告人（原判決ニ控訴人トアルハ被控訴人ノ誤記ト認ム）ニ對シ口頭ヲ以テ右讓渡ノ事實ヲ通知シ尙右債權讓渡ノ確定日附アル通知カ被上告人ニ到達シタルハ同年九月二十八日午後二時ヨリ三時ニ至ルマテナルコト及被上告

人カ右土肥信太郎ニ對シ昭和四年一月二十二日同年二月二十五日ノ兩度ニ右債務全額ヲ辨濟シタルコトハ原審ノ確定シタル事實ナリ

2而シテ差押債權者タル上告人ハ本件債權讓渡ニ付テハ債務者以外ノ第三者ニ該當スルヲ以テ之ニ對シ右ノ讓渡ヲ對抗センカ爲ニハ其ノ通知若ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルコトヲ要ス故ニ此ノ對抗要件ヲ具備セサル場合ハ勿論其ノ通知若ハ承諾カ確定日附アル證書ヲ以テ爲サルルモ轉付命令ノ送達ニ後レテ爲サレタル場合ニ於テハ本件債權ノ讓受人タル土肥信太郎ハ其ノ債權ノ讓渡ヲ以テ差押債權者タル上告人ニ對抗スルコトヲ得サルヘク反テ上告人ハ轉付命令ニ依ル本件債權ノ取得ヲ以テ土肥信太郎ニ對抗スルコトヲ得ヘク其ノ結果本件債權ノ讓受人タル土肥信太郎ハ一旦取得シタル債權モ取得セサルコトト爲リ上告人カ唯一ノ債權者ト爲ルニ至ルモノナルヲ以テ被上告人ヨリ右土肥信太郎ニ對シ本件債權ノ辨濟ヲ爲シタリトスルモ上告人ノ立場ヨリ之ヲ見ルトキハ債權者ニ非サル者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ外ナラスシテ有效ノ辨濟ニ非サルコト論ヲ俟タス原審ハ證人近藤逸之助竝乙第二號證ニ依リ被上告人カ自己ノ爲ニ前記讓受債權ヲ行使シテ支拂ヲ請求シタル土肥信太郎ニ對シ前記日頭ニ依ル近藤逸之助ノ通知ニ依リ債權カ有效ニ土肥信太郎ニ移轉シタルモノト信シ善意ニテ右債務全額ヲ辨濟シタル事實ヲ確定シ右辨濟ハ民法第四百七十八條ニ依リ有效ナルモノト判定シタルモ前記ノ如キ事實關係ノ下ニ於テハ被上告人ノ右辨濟ヲ以テ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル善意ノ辨濟ト解スルコトヲ得サルヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス（大審院昭和六年オ二三四二號同七年五月二四日判決大審院判例集一一卷民事一〇二一頁・法律新報二九九號九頁）

○右一ノ批評—我妻榮氏法學協會雜誌五二卷六號一四五頁

◎保證金取戻債權ノ轉付ト本條

一〔長崎控〕甲ハ乙カ被告取引所ニ差入レタル身元保證金ノ返還ヲ受クヘキ債權ニ付裁判所ヨリ差押竝轉付命令ヲ受ケ該命令ハ第三債務者タル丙ニ送達セラレタルモノナレハ甲ハ自己ノ爲ニスル意思ヲ以テ乙ノ丙ニ對シテ有セシ身元保證金ノ返還ヲ受クヘキ債權ヲ行使シタルモノト云フヘク從テ第三債務者丙カ該身元保證金請求權カ有效ニ甲ニ轉付セラレタルモノト信シ甲ニ該轉付金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ該支拂ハ民法第四百七十八條ニ依リ辨濟ノ效力ヲ有スルモノトス（長崎控訴院大正一五年ア二三號昭和二年一一月一九日判決法律新聞二七八七號一三頁・法律評論一七卷民法二九〇頁）

二〔大審院〕株式取引所仲買人ノ身元保證金返還債權ニ對シ仲買人ノ資格存續中ニ於テ發セラレタル轉付命令カ法律上有效ナリヤ否ノ問題ノ如キハ特別ノ法律智識ヲ有スル者ト雖遽ニ其ノ歸趨ヲ斷シ難キモノアリテ其ノ他特別ノ事情ナキ限リ轉付命令ヲ受ケタル第三債務者ナル取引所ハ苟モ債務者タル仲買人ニ返還スヘキモノハ之ヲ債權者ニ引渡ササル可カラスト思料スヘキハ一般取引上ノ觀念トシテ當然ナルモノト云フヘク斯ル判斷ハ之ヲ過失ニ因ルモノト爲シ難キノミナラス被上告人カ取引所トシテ屢々此ノ如キ事件ニ遭遇スヘキ地位ニ在ルノ故ニ其ノ理ヲ異ニスルコトナキヲ以テ轉付命令カ如上ノ理由ニ因リ無效ナルモノト判斷セラルルトキト雖該命令ニ基キ債權ヲ行使スル者ハ之ヲ債權ノ準占有者ナリト云フ可ク善意ニテ轉付債權者ニ爲シタル辨濟ヲ以テ有效ナルモノト認ムルニ於テ何等ノ不法ナキモノトス（大審院昭和二年オ一九一號同三年五月三〇日判決法律評論一七卷民法一〇九九頁・法律新聞二八九二號九頁）

◎善意辨濟ノ主張ト釋明權ノ不行使

一〔大審院〕本件ニ於ケル上告人ノ抗辯トシテハ上告人ハ其ノ轉付命令ノ送達ヲ受クルヤ訴外門貴志ニ於テ有效ニ債權ヲ取得シタリト信シ同人ニ對シ該轉付債務ノ辨濟ヲ爲シタリト主張スルモノナレハ其ノ抗辯中ニハ縱令其ノ轉付命令カ被上告人主張ノ如キ理由ニ依リ效力ヲ生セサリシトスルモ上告人ノ辨濟ハ債權ノ準占有者ニ對シ善意ヲ以テ爲シタルモノニシテ之ニ因リ上告人ノ債務ハ消滅シタリトノ抗辯ヲ包含セルモノト解セラレサルニ非ス果シテ然ラハ原審ハ宜シク釋明權ヲ行使シ斯ル抗辯ヲモ提出セルモノナリヤ否ヤヲ明ニシタル上事件ニ付テノ裁判ヲ爲スヘキ筋合ニシテ原審カ其ノ抗辯ノ趣旨ヲ明ニスルコトナク單ニ右轉付命令ノ效ナカリシコトノミヲ以テ上告人ノ爲シタル辨濟ヲ無效ナリト判示シタルハ釋明權ノ行使ヲ懈リタル違法アルモノトス（大審院昭和六年オ二九一八號同七年七月六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二〇九頁）

◎無權利者ニ對スル惡意辨濟ノ認定

一〔大審院〕原判決ハ上告人ノ親權者タル井上ミチノハ武田豐秋ヨリ被上告人カ先代ノ家督ヲ相續シタルニ依リ本件小作米ハ被上告人ニ支拂ハレ度キ旨申出アリタル際之ヲ承諾シ居リタルヲ以テ其ノ後上告人主張ノ如ク訴外村岡ハツネニ對シ辨濟ヲ爲シタリトスルモ上告人ハ善意ノ辨濟者ニ非サルカ故ニ右辨濟ハ無效ナル旨判示シタリ然レトモ凡ソ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ナルコトヲ了知シナカラ之レニ對シ辨濟ヲ爲スカ如キハ極メテ稀有異例ノ場合ニ屬スルコト實驗則ニ照シ明

瞭ナルカ故ニ斯ノ如ク惡意ニ依リ無權利者ニ對シ辨濟ヲ爲シタル事實ヲ認定セントセハ其ノ之ヲ爲スニ至レル特別ノ事情ヲ闡明ナラシムルヲ要スルコト多言ヲ俟タス然ルニ原審ハ事茲ニ出テス前叙ノ如ク何等首肯スルニ足ルヘキ特別ノ事情ニ付說示スルトコロナク漫然上告人ノ親權者ニ於テ被上告人カ家督相續ニ因リ本件小作米ヲ受領スル權利ヲ取得シタルコトヲ了知シナカラ無權利者タル訴外村岡ハツネニ對シ辨濟トシテ右小作米ノ支拂ヲ爲シタル旨認定シ以テ輒ク上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ審理不盡理由不備ノ不法アルモノト謂フヘシ（大審院昭和七年オ二一六九號同八年五月一七日判決法學三卷一號九七頁）

第四百七十九條　【無權限者ニ爲シタル辨濟】

1 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

◎無權限者ノ辨濟受領ト本條

一〔大審院〕無權代理人ノ爲シタル辨濟（受領）行爲ニ付本人ノ追認アリタル以上其ノ行爲ハ本人ノ爲メニ完全ニ效力ヲ生スヘク此ノ場合ニ民法第四百七十九條ヲ適用スヘキモノニ非ス（大審院昭和七年オ二八六一號同八年二月三日判決法學二卷九號九六頁）

二　非債權者ニ爲シタル辨濟ノ效力（二續民五六四頁）

◎無權代理人ノ辨濟受領ト不當利得（三續民一一七條「無權代理人ニ對スル辨濟ト本條」一ノ4參看）

第四百八十條　【受取證書ノ持參人】

1 受取證書ハ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

◎受取證書ノ持參人ニ關スル諸問

一　本條ニ所謂受取證書ノ意義（民法二七五頁）

二　利益配當金領收證ノ性質（二續民五六五頁）

三　僞造受取證書ト本條（本條後出）

四　證書持參ノ代理人ニ對スル辨濟ノ效力（民法二七八頁）

五　證書委任狀等ノ持參ト表見代理（三續民一一〇條二七五頁）

六　通帳持參者ニ對スル辨濟ノ效力（二續民五六五頁）

七　通帳以外ノ受取證書ニ依ル預金ノ拂戻（二續民五六五頁）

八　警戒電報ノ受領ト貯金拂戻ノ當否（本條後出）

◎債權ノ準占有ニ關スル諸問（三續民四七八條）

◎僞造受取證書ト本條

一〔大審院〕民法第四百八十條ハ單ニ受取證書ヲ持參スル者ハ辨濟受領ノ權限アリト看做シ辨濟受領ノ委任狀等他ニ其權限ヲ證明スルノ要ナキコトヲ規定シタルモノニシテ受取書其モノノ正當ニ成立シタルモノナルコトヲ要スルハ當然ニシテ事實僞造ノ受取書ナル以上ハ假令之ヲ眞正ノ受取書ナリト信スル上ニ於テ過失ナシトスルモ同條ノ適用ヲ見ル能ハサルハ勿論ナリ（大審院明治四〇年オ四六三號同四一年一月二三日判決法律新聞四七九號八頁）

二　僞造受取證書ト銀行拂渡ノ效力（民法二七五頁）

三　領收證（僞造）ノ持參者ニ對スル支拂ノ效力（三續民一〇九條二四五頁）

◎警戒電報ノ受領ト貯金拂戻ノ當否

一〔大審院〕1 上告人ノ主張スル所ハ要スルニ本件警戒電報ヲ受領シタル宿直員其ノ他當該掛員ニ於テ本件ノ如キ場合ニ付法規上命セラレタル義務ヲ履行シ警戒ノ措置ヲ爲シタラシハ局待拂取扱局ニ於テ上告人ノ代理人ナリト詐稱シテ本件郵便貯金ノ拂戻ヲ請求シタル者ニ對シ該拂戻ヲ爲ス前預入申込書預入原簿等ニ警戒ノ符箋ヲ爲スコトヲ得テ右拂戻ヲ防止シ得ヘカリシニ拘ラス前記掛員等ニ於テ前記ノ義務ヲ履行セス警戒ノ指置ヲ爲スコトヲ怠リ依テ右拂戻ヲ爲スニ至リタルモノナルカ故ニ該拂戻手續ニハ重大ナル過失アリ從テ該拂戻ハ郵便貯金法第十三條ニ所謂成規ノ手續ヲ得タル拂出ニ該當セスト云フニ在リ

2 之ニ對シ被上告人ニ於テハ微細ナル點ニ至リテハ上告人ノ主張ヲ否認スト雖本件ノ如キ場合宿直員其ノ他當該掛員カ法規上一定ノ警戒手續ヲ爲スヘキ義務アリ該義務ノ履行トシテ預入申込書及預入原簿ニ警戒ノ表示カ爲サルヘキモノナルコトハ之ヲ認ムルモノニシテ唯右掛員等ニ於テ右義務ヲ履行シ右表示ヲ爲シ得ル迄ニハ二時間以上ヲ要スルニ反シ郵便貯金局待拂ノ請求アリタル時ヨリ其ノ拂戻ヲ了スル迄ニハ僅ニ三十分ニシテ足ルヲ以テ前記掛員等ニ於テ右義務上執ルヘキ措置ノ多少遲滯シタリトスルモ之カ爲重大ナル過失アリタリト爲スヲ得スト抗爭スルモノナルヲ以テ

3 原審ニ於テハ須ク本件警戒電報ヲ受領シタル宿直員其ノ他當該掛員ハ法規上果シテ如何ナル順序方法ニ依リ警戒手續ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ手續ニ依リ爲サルヘキ預入申込書預入原簿ノ警戒表示ヲ爲シ了スル迄ニハ幾千時間ヲ要スヘキヤ本件拂戻ノ請求アリタル時刻ハ何時ナルヤ斯ル拂戻請求アリタルトキハ如何ナル手續ニ依リ其ノ拂戻ヲ爲スヘキモノニシ

テ右請求アリタルヨリ拂戻ヲ了スル迄ニハ幾干時間ヲ要スヘキヤ卽本件局待拂取扱局所ニ於テ本件拂戻ヲ爲シタル時迄ニ果シテ前記警戒ノ表示ヲ爲シ得ヘカリシモノナルヤ否及本件電報ヲ受領シタル宿直員其ノ他當該掛員ハ果シテ法規上命セラレタル警戒ノ措置ヲ爲シタルヤ否ヲ判斷スヘキモノトス蓋之ヲ判斷スルニ非スンハ本件拂戻手續ニ於テ重大ナル過失アリタリヤ否得テ之ヲ知ルヘカラサレハナリ然ルニ原審ニ於テハ毫モ前揭諸點ヲ顧慮スルコト無ク單ニ「被控訴人(上告人)主張ノ如ク宿直員ニ於テ本件ノ如キ電報ヲ受領シタルトキハ翌朝開廳時間迄ニ之ヲ經理課審査掛ニ持參シテ當該掛員ニ交付スヘキモノニシテ又宿直員其ノ他ノ掛員ハ取扱規程ノ如何ニ拘ラス時宜ニ應シ適宜當該擔務者ニ通告シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ警戒ノ方法ヲ講スヘキ義務アルモノナルニ拘ラス是等ノ者カ右ノ義務ヲ怠リタリトノ事實或ハ前示立會郵便局カ發シタル電報カ審査掛員若ハ原簿主管掛ニ既ニ配付セラレアルニ拘ラス同掛員カ之ヲ看過シテ被控訴人ノ代理人ト詐稱スル勇ナル者ニ貯金ノ全拂ヲ爲シタリトノ事實」ハ之ヲ認ムルヲ得ストノ理由ニ依リ輒ク本件拂戻手續ニハ重大ナル過失アリトスル上告人ノ主張ヲ排斥シ去リテ其ノ請求ヲ斥ケタルハ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト言ハサルヲ得ス(大審院昭和二年オ一〇五一號同三年三月一〇日判決法律新聞二八四九號一一頁)

◎支拂差止ノ債務ニ關スル諸問

一　本條第一項「自己ノ債權者」ノ意義(續民法一一七八頁)
二　支拂ノ差止ヲ受ケタル者ノ辨濟ノ效力(民法二七五頁)
三　支拂ノ差止ヲ受ケタル者ノ相殺權(本條後出)
四　差押命令ニ違反シタル處分ノ效力(本條後出)
五　被差押債權ニ基ク給付請求ノ適否(本條後出)
六　本條第二項ノ求償權行使ノ要件(續民法一一七九頁)

◎支拂ノ差止ヲ受ケタル者ノ相殺權

一　支拂ノ差止ヲ受ケタル者ノ相殺權(續民法一一七九頁)
二　本條後出「被差押債權ニ基ク給付ノ訴ノ適否」一ノ1參看)

九號一一頁)

第四百八十一條【支拂差止ノ債務ト辨濟】

1 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

◎差押命令ニ違反シタル處分ノ效力

一〔福岡地〕債權差押ノ場合ニ於テ第三債務者ニ對シ辨濟其他ノ處分ヲ禁スルコトヲ通例トシ從テ債權者モ取立等ヲ爲シ得サルモノナルカ如シ然レトモ債權差押ノ目的トスルトコロハ債務者カ第三債務者ニ對シ有スル差押債權者ノ債權ヲ保全セントスルニアリテ之カ目的ノ爲メニ第三債務者ニ對スル處分ノ禁止ヲ命スルモノナリ從テ右目的ヲ脫出セサル範圍ニ於テ爲サレタルモノト認ムヘキ本件競賣申立ニ付テハ何等違法ノモノナリト謂フヲ得ス(福岡地方裁判所大正一四年ヤ四二號同一五年一二月一八日決定法律新聞二七〇四號六頁・法律評論一六卷民法一〇八一頁)

二〔大審院〕債權ノ差押アリタル場合ニ於テ法律カ債務者ニ對シテ其第三債務者ニ對スル債權ヲ處分スルコトヲ禁止スル所以ノモノハ差押債權者ノ爲メ其權利ノ實行ヲ確保セントスルカ爲メニ外ナラス故ニ此目的ヲ害セサル限度ニ於テハ債務者ハ其第三債務者ニ對スル債權ヲ處分スルヲ妨ケサルモノト爲ササルヘカラス法律ニ於テ差押債權者ニ優先權ヲ與ヘサルノ結果他ノ債權者ハ民事訴訟法第六百二十條ノ規定ニ依リ配當要求ヲ爲スノ權利ヲ有スルモ未タ配當要求ヲ爲ササルニ於テハ債權ノ差押ニ付キ利害ノ關係ヲ有セサルヲ以テ差押アリタル債權ノ處分ニ對シテ固ヨリ其無效ヲ主張シ得ヘキニアラス(大審院明治四二年オ二四三號同年七月二七日判決大審院判決錄一五輯民事六八一頁)

三　差押命令ニ違反シタル處分ノ效力(續民法一一七九頁)
四　差押命令ニ違反スル處分若ハ辨濟(續民訴一三三九頁)

◎被差押債權ニ基ク給付請求ノ適否

一〔東京地〕凡ソ債權ニ付差押命令發セラルルトキハ第三債務者ハ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁セラレ債務者ハ債權ノ處分殊ニ其ノ取立ヲ爲スヲ禁セラルルモノニシテ若シ右命令ニ違反シテ第三債務者ハ債務者ニ支拂ヲ爲シ債務者ハ之ヲ取立ツル如キコトアランカ右債務ノ辨濟ハ差押債權者ヲ害スル限度ニ於テ之ヲ同債權者ニ對抗シ得サルヘキコト民法第四百八十一條ノ明規スル所ニシテ其ノ他第三債務者ハ支拂ノ差止ヲ受ケタル後ニ債務者ニ對シ取得シタル反對債權ニ因リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スル能ハサルニ至ルコトモ同法第五百十一條ノ明定スルトコロナリ換言スレハ金錢債權ニ付差押ノ效力生シタルトキハ債務者ハ依然差押債權ノ主體タル地位ヲコソ喪失セサレ其ノ債權者トシテ保有シ得ヘキ權利ノ內容ハ一般ノ場合ニ比シ著シク制限セラレ債權ノ取立卽チ其ノ內容ノ實現ハ到底之ヲ完全ニ果シ得ヘカラサルニ至ルト共ニ第三債

務者モ亦辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ安全ナル債務消滅ノ效果ヲ招來セシムル能ハサルニ至ルヲ以テ債權差押ノ實體法上ノ效果ト謂ハサルヘカラス而シテ之ヲ訴訟法上ヨリ觀察スルトキハ債務者（本件差押債權ノ債權者）タル原告ハ債權差押ノ結果其ノ訴求ニ係ル金錢債權ニ付取立其他ノ處分行爲ヲ爲ス一切ノ權能ヲ剝奪セラレ依然債權ノ主體タル地位ニ在リ乍ラ而モ該債權ヲ訴訟物トスル給付ノ訴ニ於テ該訴訟ヲ實施追行スル權能ヲ缺キ從テ正當ナル當事者適格ヲ喪失スルニ至ルモノト斷セサルヲ得サルモノナリ果シテ然ラハ本件ニ於テ原告カ金二萬圓ノ轉付債權ヲ現ニ保有スルコト洵ニ原告主張ノ如シト雖モ叙上說示ノ理由ニヨリ右差押命令ノ解止セラルルコト無キ限リ右差押債權ノ履行ヲ求ムル原告ノ本訴請求ハ失當ニシテ認容スヘカラサルモノトス（東京地方裁判所昭和五年リ九九號同七年三月二三日判決法律新報三〇四號二六頁）

第四百八十二條　【代物辨濟】

I 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

◎代物辨濟ニ關スル諸問

一　代物辨濟ノ意義及性質（本條後出）

二　代物辨濟ノ目的タリ得ルモノ（續民法一一八〇頁）

三　代物辨濟ト代物價額トノ關係（本條後出）

四　代物辨濟ノ成立要件（續民法一一八〇頁）

五　代物辨濟豫約ノ成立（續民法一一八一頁）

六　新債務ノ負擔ト代物辨濟（二續民五六六頁）

七　第三者ノ代物辨濟ノ效力（二續民五六六頁）

八　第三者ニ對スル代物給付ノ諾約（本條後出）

九　債務ノ不存在ト代物辨濟ノ效力（二續民五六八頁）

一〇　代物辨濟ヲ滅却スル契約ノ效力（續民法一一八一頁）

一一　代物辨濟ノ不成立（續民法一一八一頁）

一二　抵當物件ニ對スル代物辨濟ノ契約（本條後出）

一三　抵當物ノ代物辨濟ト所有權ノ移轉（本條後出）

一四　一番抵當ノ代物辨濟ト二番抵當ノ地位（民法一七〇頁「一番抵當權者ノ家屋取毀ト二番抵當權者」ノ一參看）

一五　代物辨濟ノ豫約ト選擇債權（民法二七六頁「代物辨濟ノ豫約ト履行ノ請求」參看）

一六　代物辨濟ト詐害行爲ノ成否（二續民四八六頁）

一七　代物辨濟ノ附款ト保證債務トノ關係（三續民四四六條一一七五頁）

一八　債權讓渡ト代物辨濟（商法三八五頁）

一九　代物辨濟カ相殺カノ判定（續民法一一八〇頁）

二〇　免除契約ト代物辨濟契約トノ併存（三續民五一九條）

二一　賣渡擔保ト代物辨濟ノ趣旨（二續民一一七頁）

二二　擔保物ノ代物辨濟ノ效力（商法三八六頁）

二三　米券擔保ノ貸借ト代物辨濟ノ慣習（三續民九二條一二八頁）

二四　金錢消費貸借ノ豫約ト代物給付（民法三九三頁）

二五　債權取立ノ代理ト代物辨濟受領權（續民法八二六頁）

二六　預金證書ノ交付ニ依ル辨濟（二續民五六一頁）

二七　不法行爲ノ賠償方法ト漁艇ノ提供（商法二九九頁）

二八　管理人ハ代物辨濟ヲ爲シ得ルヤ（續民法一三九九頁）

二九　自己ノ株式ト代物辨濟ノ效力（本條後出）

三〇　手形ノ授受ト更改又ハ代物辨濟（二續民五六七頁）

三一　小切手ノ授受ト代物辨濟（本條後出）

三二　代物辨濟トセル手形ノ不渡（本條後出）

三三　代物辨濟ノ「抗辯」カ「證據說明」カ（本條後出）

◎代物辨濟ノ意義及性質

一　代物辨濟ノ意義（本條後出「代物辨濟ト代物價額トノ關係」ノ一及二參看）

二　代物辨濟ノ意義及性質（續民法一一七九頁）

◎代物辨濟ト代物價額トノ關係

一〔大審院〕所謂代物辨濟トハ債務者カ本來負擔セル給付ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲シ債權者カ其給付ヲ受領スルコトニ依リテ債務ヲ消滅スヘキコトヲ承諾スル行爲ヲ指稱スルモノナルニ依リ債務者カ爲シタル他ノ給付ノ價格如何ニ拘ラス債權者カ之ヲ受領シタル以上其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有シ債務ハ消滅ニ歸スルモノト云ハサルヘカラス（大審院昭和七年ヲ二四一號同年五月三一日判決法學二卷一號九六頁）

二〔大審院〕代物辨濟トハ債務者カ債權者ノ承諾ヲ得テ其ノ負擔シタル給付ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲シテ債務ヲ消滅セシムルコトヲ謂ヒ其ノ本來ノ給付トノ之ニ代ヘテ爲ス給付トハ必スシモ其ノ價額ニ於テ相等シキコトヲ要セス從テ本來ノ給付ノ價額カ多額ナル場合ニ於テモ債權者ニ於テ債權ノ一部ニ付拋棄若ハ免除ノ如キ行爲ヲ爲スコトヲ必要トスルモノニ非ス（大審院昭和五年ヲ七六號同年五月三〇日判決法律評論一九卷民法八二一頁・法律新聞三一三四號九頁・判例彙報四一卷一五號民事七八頁）

三　代物辨濟ト代物價額トノ關係（民法二七六頁）

四　債務額ヨリ多キ代物辨濟ト利息制限法（二續民五六八頁）

第三者ニ爲スコトヲ承諾シタルニ因リ債務者カ他ノ給付ヲ第三者ニ爲シタル場合ニ於テモ其ノ給付ハ一面ニ於テハ債權者ニ對スル給付タルヲ失ハスシテ有效ナル代物辨濟トナルモノトス（大審院昭和五年オ六〇六號同年九月二〇日判決法律評論一九卷民法一四七二頁・法律新聞三一九一號九頁）

◎抵當物件ニ對スル代物辨濟ノ契約

一〔東京控〕控訴代理人ハ右代物辨濟契約ハ一方ニ於テ抵當權ノ設定アリテ被控訴人ノ債權ノ擔保十分ナルニ拘ラス流質契約ト同一ノ結果ヲ來スヘキ契約ニシテ一種ノ流質契約ト見ルヘキモノナルヲ以テ民法第三百四十九條ニ違反シ無效ナル旨主張スルニ付按スルニ同條ハ質權ニ關スル規定タルニ止リ擔保權ニ關スル一般的禁止規定ニアラサルヲ以テ假令右代物辨濟契約カ質權ニ於ケル流質契約ト同樣ノ結果ヲ招來スヘキモノナリトスルモ同條ノ適用ナキコト明ナルヲ以テ（抵當權ニ付テハ勿論同條ト同趣旨ノ規定ナシ）此點ニ關スル控訴人ノ抗辯ハ理由ナシ（東京控訴院昭和五年ネ二三六號同六年一〇月一二日判決法律新聞三三四六號一六頁・法律評論二一卷民法三一二頁）

二〔大審院〕所謂流質禁止ニ關スル民法第三百四十九條ノ規定ハ抵當權ニ準用ナキヲ以テ其ノ準用アルコトヲ前提トスル上告論旨ハ理由ナシ（大審院昭和六年オ三〇九四號同七年五月七日判決法學一卷一〇號一一二頁）

三　流質禁止規定ノ適用範圍（民法一五九頁）

四〔朝鮮高〕債務者カ豫メ債務額ヲ以テ抵當不動產ノ對價ト定メ之ト債務額トヲ相殺スル目的ヲ以テ抵當不動產ヲ抵當權者ニ賣渡シタルトキハ是レ卽チ代物辨濟ヲ約シタルモノニシテ其ノ賣買ト云ヒ相殺ト云フハ代物辨濟ニ因テ生スヘキ法律上ノ效果ヲ他ノ類似ノ觀念ヲ以テ理解セントスル當事者ノ思惟ノ構成ニ過キス法律事實自體ニ差異アルモノニ非サルカ故ニ之ニ依テ代物辨濟ニ關シテノ前述ノ理論ノ適用ヲ回避シ得ルモノニ非サルナリ然則チ原判決ハ代物辨濟ノ觀念ヲ誤解セルニ非サレハ民事訴訟法第四百七條第二項ニ違背スルモノニシテ破毀ヲ免レス（朝鮮高等法院昭和七年民上五一號同年四月一五日判決司法協會雜誌一一卷七號八七頁・法律評論二一卷民法九八八頁）

◎抵當物ノ代物辨濟ト所有權ノ移轉（次問）

◎抵當物ノ代物辨濟ト所有權ノ移轉

一〔東京地〕甲カ乙ヨリ金錢ヲ借受ケ右債務履行ヲ確保スル爲甲所有ノ土地ニ抵當權ヲ設定スルト同時ニ右消費貸借上ノ債務ヲ期限ニ辨濟スル能ハサルトキハ之ヲ條件成就ト看做シ卽時ニ右抵當物件ノ所有權ヲ乙ニ移轉スヘキ旨ノ代物辨濟ノ豫約ヲ爲シ之カ登記ヲ經由シタル事實アル場合ニ於テ右代物辨濟ノ豫約カ甲カ辨濟期ニ債務ヲ履行セサルトキハ債權者タル乙ニ於テ該債權ノ滿足ヲ得ル方法トシテ其ノ選擇ニヨリ抵當權ノ實行ヲ爲スコトナク直チニ條件成就ト看做シ代物辨濟トシテ右抵當物件ノ所有權ヲ卽時ニ取得スルヲ得ヘキ趣旨ナル場合ニ於テハ甲ノ債務不履行アラハトテ當然直チニ條件成就シ右土地ノ所有權カ乙ニ移轉スルモノニ非ス之カ效果ヲ生セシムルニハ乙ノ意思表示アルヲ要スヘキモノナルヲ以テ乙カ右代物辨濟ノ效果ヲ生セシムヘキ意思表示ヲ爲ササル限リ右消費貸借債務ノ消滅セサルコト論ヲ俟タス（東京地方裁判所昭和七年ヲ九〇號同八年九月二九日判決法律評論二二卷民法一〇一〇頁）

二〔大審院〕消費貸借契約ヲ締結スルト同時ニ債務者ノ不履行ノ場合ノ爲ニ豫メ抵當物ヲ代物辨濟ト爲スヘキ契約及之ニ伴フ所有權移轉ノ物權的意思表示ヲ爲シ其ノ效力ノ發生ヲ債權者ノ意思ニ繫ラシメタル場合ニ於テハ假令期限ニ至リ債務者カ其ノ債務ノ履行ヲ懈ルモ直ニ代物辨濟ノ效力ヲ生スルモノニ非スシテ債權者カ抵當權ヲ實行スルト代物辨濟ノ效力ヲ發生セシメ直ニ債務ヲ消滅セシムルトハ一ニ債權者ノ自由ニ在ルモノト謂ハサルヘカラス（大審院昭和四年オ三七三號同年五月二二日判決法律新報一八六號九頁）

三〔朝鮮高〕流抵當ノ特約ハ別段ノ意思表示ナキ限リ期限經過ト同時ニ代物辨濟ノ效力ヲ生スルコトナク抵當不動產ニ付所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキニ於テ其ノ效力ヲ生セシムル約旨ノモノト觀ルヲ相當トス蓋債務不履行ト同時ニ代物辨濟ノ效ヲ生スルトセンカ之ニ因リテ債權者ハ直チニ其ノ擔保權ト共ニ債權ヲ喪フヘク之ニ代ヘテ取得セル土地所有權モ其ノ登記ヲ經サル限リハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得サル結果其ノ間抵當權設定者カ同土地ヲ處分シ又ハ其ノ債權者ヨリ强制執行ヲ受ケ其ノ登記ヲ經由スル等ノ場合ニハ最初ノ債權者ハ何等得ル所ナクシテ債權ヲ喪フニ至ルヘク之レ固ヨリ登記ヲ怠リタル結果ナリト雖モ登記ヲ爲ササルカ故ニ債權者ハ此ノ危險ヲ甘受セサルヘカラスト爲スハ取引ノ實狀ニ適セサルモノニシテ流抵當契約ヲ斯ノ如キ趣旨ト解スルハ債權者ノ地位ヲ單純ナル抵當權者ヨリ却テ危險不利ナル狀態ニ置カントスルモノニシテ取引ノ實狀ヨリ見テ當事者ノ眞意ニ合セサルモノト謂フヘク特別ノ意思表示ナキ場合ニ斯ノ如ク解スルハ意思推測ノ當ヲ得タルモノニアラス不動產物權ノ移轉ヲ目的トスル各種ノ契約カ一般ニ其ノ登記アリテ義務履行ノ完了シタリト觀ラルルカ如クニ亦債權者カ完全ニ抵當不動產ノ所有權ヲ取得シ之ヲ第三者ニ對抗シ得ル狀態ニ至リタルトキ卽チ

登記アリタルトキニ至リテ初メテ債權及抵當權ヲ消滅セシムル趣旨ノモノト觀ルヲ妥當トス（朝鮮高等法院昭和五年民上三四五號同年一〇月一八日判決法律評論一九卷民法一一三二三頁）

四〔朝鮮高〕債務者カ抵當不動產ヲ抵當權者ニ引渡シテ代物辨濟ヲ爲サンコトヲ約シタル場合ニ未タ其ノ所有權移轉登記ヲ了ラサルニ拘ラス之ニ因テ債權及ヒ抵當權ハ消滅スルモノトセハ債務者カ後ニ該不動產ヲ第三者ニ讓渡シ所有權移轉登記ヲナストキハ第三者ハ一面登記ノ欠缺ヲ理由トシテ抵當權者ノ所有權ノ取得ヲ否定スルト同時ニ他面代物辨濟ニ因ル債權及抵當權ノ消滅ヲ主張シ得ルコトトナリ抵當權者ハ結局不動產ノ所有權ヲ取得スルコトナクシテ空シク抵當權ヲ喪失スル不當ノ結果ヲ生スヘキカ故ニ代物辨濟ニ因ル不動產ノ所有權ノ取得ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ルニ至ル迄ハ債權從ツテ又抵當權ハ消滅スルコトナシト解セサルヘカラス是レ夙ニ當院ノ判例トスル處ナリ然レトモ抵當權者ト債務者トノ關係ニ於テハ抵當權者ハ代物辨濟ニ付テノ契約ノ結果本來ノ債權ノ辨濟ヲ請求スルコトナカルヘク又其ノ約旨ヨリスルモ抵當權者ハ債務者ニ對シテハ唯所有權移轉登記手續ヲ爲スコトニ因テ代物辨濟ヲ完成スヘキコトヲ請求シ得ルニ止リ本來ノ債權ノ履行ヲ求メ若クハ抵當權ヲ行使スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス故ニ又代物辨濟ノ目的タル不動產ノ所有權移轉登記ノ了ラサル間ハ本來ノ債權及ヒ抵當權ハ消滅スルコトナシト雖消滅時效ハ進行スルコトナキモノト解セサルヘカラス而シテ債務者カ其ノ不動產ヲ重ネテ他ニ讓渡シ所有權移轉登記ヲ爲シタルトキノ如キ代物辨濟ヲ完成スルコトノ不能トナリタル場合ハ其ノ後ハ抵當權者ハ本來ノ債權ニ付テ履行ヲ請求シ抵當權ヲ行使シ得ルコト勿論ナルカ故ニ此ノ時ニ於テ債權ノ消滅時效ハ其ノ進行ヲ始ムルモノトス（朝鮮高等法院昭和七年民上五一號同年四月一五日判決司法協會雜誌一一卷七號八七頁・法律評論二一卷民法九八七頁）

五　不動產ノ代物辨濟ト成立時期（二續民五六七頁）

六　流抵當契約ト所有權移轉ノ時期（二續民三八七頁）

◎自己ノ株式ト代物辨濟ノ效力

一〔大審院〕商法第百五十一條第一項ニ依レハ會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得サルヲ本則トスルカ故ニ司法上例外トシテ其ノ取得ヲ許シタル場合ニ非サル限リ會社カ自己ノ株式ヲ取得スルモ其ノ取得ノ無效ナルコト多ク言ヲ須キス然ルニ商法上會社カ株主ニ對スル債權ノ代物辨濟トシテ自己ノ株式ヲ取得スルコトヲ許シタル規定ナキカ故ニ會社カ其ノ株主ニ對スル債權ノ代物辨濟トシ自己ノ株式ヲ取得シタルトキハ其ノ取得ハ無效ニシテ右株式ノ交付ハ代物辨濟タル效力ナク從テ會社ノ債權ハ未タ消滅セサルモノト解セサルヘカラス（大審院昭和八年オ七九三號同年一一月一一日判決法律新報三四七號一三頁）

二　自己ノ株式ト代物辨濟ノ效力（續商法七二五頁）

◎似非自己發行株券買取ノ有效（續民法一〇二六頁）

◎小切手ノ授受ト代物辨濟

一〔東京地〕債務者カ債權者ヲ滿足セシムル爲ニ小切手ヲ振出シタル場合ニ辨濟ニ代ヘテ之ヲ爲シタルモノナリヤ辨濟ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノナリヤハ當事者ノ意思解釋ノ問題ニ屬スト雖普通ノ場合ニ於ケル當事者ノ意思ハ辨濟ニ代フニ在ラシテ辨濟ノ爲ニスルニ在ルモノト解スルヲ相當トス（東京地方裁判所昭和三年レ一二九號同年一一月二九日判決法律評論一八卷民法一八六頁）

二〔大審院〕既存債務ニ付小切手ヲ授受スルトキハ特ニ當事者ノ意思明白ナル場合ノ外ハ其ノ振出ハ既存債務確保ノ目的ニ出テ其ノ辨濟ノ爲ニセルモノト推定スヘキモノナルコトハ屢々當院ノ判示スルトコロナリ然リ而シテ辨濟ノ爲授受シタルトキト雖後日小切手ノ支拂アルヘキコトヲ豫期シ帳簿面ニ之ヲ入金ト記載スルカ如キ必スシモ其ノ事例ニ乏シカラス又右ノ事例アルコトニ想到セハ斯ル記入アル帳簿ニ基キテ作成發行セラルル計算書中ニ偶々小切手金額ニ相當スル代金ノ控除アリタレハトテ毫モ異トスルニ足ラサレハ原判決カ所論原判示ノ各事情ハ未タ以テ當該小切手ノ授受ニ依リ直ニ代金債務ヲ消滅セシムルノ合意アリタルモノト斷スヘキ資料ト爲シ難キ旨判示シタルハ敢テ原審ノ爲シ得ヘキ範圍ヲ逸脫シタルモノト云フ可カラス（大審院昭和二年オ一一二二號同三年二月一五日判決法律新聞二八三六號一一頁・法律評論一七卷民法五三七頁）

三　小切手ノ振出ト更改又ハ代物辨濟（二續民五六七頁）

◎履行ノ提供ト小切手（二續民五七八頁）

◎代物辨濟トセル手形ノ不渡

一〔大審院〕代物辨濟ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有スルモノナレハ原判決認定ノ如ク被上告人及上告人間ニ於テ上告人ノ原判示債權ニ對スル代物辨濟トシテ所論約束手形ノ授受アリタルモノトスル以上上告人ノ右債權ハ之レト同時ニ消滅ニ歸シタルモノト謂フヘク而シテ既ニ如上代物辨濟アリ右債權ノ消滅ヲ來シタル以上假リニ其ノ後ニ至リ右手形不渡トナリタレハトテ之レカ爲メ當然ニ右代物辨濟カ效力ヲ失ヒ右債權ノ復活スヘキ理由ナキモノトス（大審院昭和二年オ六四二號同年一一

月九日判決法律新聞二七七號一二頁）

◉手形ノ不渡ト原債權ノ行使（三續民五一三條）

◉代物辨濟ノ「抗辯」カ「證據說明」カ

一〔大審院〕口頭辯論調書ニ控訴代理人ノ陳述トシテ「乙第三、四號證ヲ以テ報酬金ノ代リニ軸物十五六點ヲ渡シ居ルコトヲ證ス」トノ記載アリテ上告人ノ訴訟代理人カ原院ニ於テ報酬金ノ代物トシテ軸物十五六點ヲ被上告人ニ交付シタル事實ヲ主張シタルコト寔ニ明瞭ナリ被上告代理人ハ控訴代理人ノ右陳述ハ證據說明トシテ爲サレタルニ止マリ抗辯トシテ事實ヲ主張シタルニ非サル旨論スレトモ若シ上告人ニ於テ報酬金ノ代物トシテ軸物ヲ交付シタル事實アランカ被上告人ノ債權ハ少クトモ一部辨濟セラレタルコトトナリ本訴請求ハ少クトモ一部不當タルニ歸スヘキヲ以テ上告人ノ代理人カ此事實ヲ主張シタルハ卽チ被上告人ノ請求ヲ爭フ爲メノ抗辯タルコト疑ヲ容ル可カラス然ルニ原院カ之ヲ無視シ其點ニ關シ何等ノ判斷說明ヲ爲ササリシハ理由不備ノ不法アルモノトス（大審院大正八年オ九一四號同一〇年二月一四日判決法律新聞一八二六號一七頁）

第四百八十三條　【特定物ノ引渡義務】

1債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條　【辨濟ノ場所】

1辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

◉履行場所ニ關スル諸問

一　本條ノ法意及適用（本條後出）

二　債權者ノ現時ノ住所ノ意義（二續民五六九頁）

三　債權者ノ住所變更ト辨濟ノ場所（二續民五六九頁）

四　不作爲債務ト履行地（續民法一一八二頁）

五　履行ノ場所ト途先場所トノ關係（民法二七七頁）

六　慣習ニ依ル履行場所（本條後出）

七　地代辨濟ノ場所（民法一三五頁）

八　賃物ヲ擔保トスル貸金債務ノ履行地（民法二七七頁）

九　賠償義務ノ履行地（本條後出）

一〇　債權ノ讓渡ト辨濟ノ場所（民法二七六頁）

一一　持參債務ト履行場所（本條後出）

一二　賣買代金ト支拂地（續民法一一八二頁・續商法八七九頁）

一三　荷爲替賣買ノ履行地（二續民五七〇頁）

一四　隔地賣買ト代金支拂場所ノ商慣習（二續商一六一一頁）

一五　輸入鉛ノ賣買ト受渡場所ノ商慣習（二續商一二八二頁）

一六　船舶ノ簡易引渡ト賣主ノ義務履行地（續民法一一八三頁）

一七　大阪神戸ト船舶引渡地ノ商慣習（續民法一一八三頁）

一八　單ニ神戸ト定メタル場合ノ受渡場所（續商法八九五頁）

一九　賃貸借ニ因ル債務辨濟ノ場所（民法四一四頁）

二〇　民法前ノ賃貸借ト債務辨濟ノ場所（民法二七六頁）

二一　受任者ノ義務履行地（本條後出）

二二　清算人及組合員間ノ契約ト履行地（二續民五七〇頁）

二三　會社設立發起契約ノ履行地（民訴九頁）

二四　株券名義書換ノ訴ト履行地（民訴一一頁）

二五　集金員ノ派遣ト辨濟ノ場所（續民法一一八三頁）

二六　破產ノ開始ニ因ル履行地ノ變動（本條後出）

二七　英法ノ債務履行地（民法二七八頁）

二八　履行場所ヲ確定セサル理由不備（本條後出）

◉本條ノ法意及適用

一〔大審院〕民法第四百八十四條ハ上告人主張ノ如ク單ニ引渡ヲ要スル物ノ辨濟ノミニ關スル規定ニアラス廣ク一般ノ債務ノ履行ノ場所ヲ定メタルモノト解スヘキモノトス（大審院大正二年オ二七〇號同年一二月二二日判決大審院判決錄一九輯民事一〇六八頁・法律新聞九二二號二六頁）

二　履行地ヲ規定シタル本條ノ旨趣（續民法一一八二頁）

三　性質上一定スル履行地ト本條ノ適用（民法二七六頁）

◉慣習ニ因ル履行場所

一〔大審院〕按スルニ原判決ハ本件債務履行地ノ場所カ神戸ナルコトヲ定ムルニ民法ノ規定ヲ適用シタル者トセンカ履行ノ場所ニ關シテハ民法第四百八十四條ニ規定スル所アルヲ以テ假令ヒ神戸ニ之ト異ナル慣習アリタレハトテ先ツ當事者カ其習慣ニ依ルノ意思ヲ有セシコトヲ確定スルニ非レハ慣習ニ從ヒテ履行ノ場所ヲ定ムルヲ得サル筋合ナリ（民法第九十二條）然ルニ原院ハ當事者ニ慣習ニ依ルノ意思アリシコトヲ確定セス又原判決ハ商慣習法アリトシテ之ヲ適用シタリトセンカ履行ノ場所ニ關シテハ商法第二百七十八條ニ規定スル所アレハ慣習法ヲ適用スルヲ得ス（商法第一條）將タ原判決ハ行爲ノ性質ニ因リテ履行ノ場所ノ定マル場合ナリトシテ商法第二百七十八條ニ依リ本件履行ノ場所ヲ定メタリトセンカ該法條ヲ適用センニハ先ツ當事者ノ債務カ商行爲ニ因リテ生シタルコトヲ確定セサルヘカラサルニ原院ハ之ヲ爲サス漫然「以上ノ

證據ヲ綜合セハ本訴ノ賣買ハ神戸ニ行ハルル慣習ニ從ヒ神戸ニ於テ物ノ引渡及ヒ代金ノ支拂ヲ爲スモノナルコト明瞭ニシテ」ト說示セルハ斷定ニ根據ヲ欠クモノニシテ上告論旨ハ其理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス（大審院明治三九年オ五七二號同四〇年二月二八日判決法律新聞四一四號一〇頁）

◎賠償義務ノ履行地

一〔東京地〕1原告ノ本件請求ノ趣旨ハ要スルニ被告ハ原告ノ所有ニ係ル汽船石狩丸ノ積荷及其陸揚竝ニ引渡ニ付原告ノ代理事務ヲ處理スヘキ代理店契約ヲ爲シ同時ニ右積荷ニ數量ノ不足ヲ生シタルトキハ其原因ノ如何ヲ問ハス絕對的ニ原告ニ對シ其不足ニ付之カ賠償ヲ爲スヘキ旨ノ契約ヲ爲シタルトコロ其後被告ハ右契約ニ從ヒ右石狩丸ノ積荷ノ陸揚ヲ爲シタルニ調査ノ結果陸揚荷物ニ不足ヲ發見シタルヲ以テ右契約ニ基キ該不足ニ對スル賠償金ノ支拂ヲ求ムト謂フニ在リテ右賠償ニ關スル契約上ノ義務ノ履行トシテ金圓ノ支拂ヲ求ムルモノナルコト極メテ明白ナリ而シテ金圓支拂ノ義務ハ履行地ニ付別段ノ定メナキトキハ債權者ノ現時ノ住所（法人ニ在リテハ其現時ノ營業所ノ所在地）ニ於テ支拂ヲ爲スヲ要スルモノナレハ右賠償金ノ支拂ニ付原告及被告間ニ東京市以外ノ他ノ場所ニ於テ之カ支拂ヲ爲スヘキ特約ナキ限リ其支拂ハ原告會社ノ營業所ノ所在地タル東京市ニ於テ之ヲ爲スヘキモノト謂フヘシ

2被告ハ本件契約ノ義務履行地ハ大阪市ナル旨主張スレトモ原告ノ本訴請求ハ原告主張ノ代理店契約ニ基ク積荷又ハ其陸揚若クハ其引渡行爲其モノノ履行ヲ求メ又ハ之等ノ義務ノ不履行ニヨル損害賠償ヲ求ムルモノニアラスシテ被告ノ右陸揚後ニ判明シタル數量ノ不足ニ付其塡補ヲ爲スヘキ特約ニ基ク金圓支拂義務ノ履行ヲ求ムルニ在リテ該義務ハ右積荷其陸揚又ハ引渡等ノ義務若クハ之等ノ義務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ義務トハ自ラ別異ノモノナルヲ以テ假令右積荷其陸揚又ハ引渡義務ノ履行地カ大阪港ナリトスルモ此ノ故ヲ以テ本件請求ニ係ル義務ノ履行地モ亦大阪港ナリトハ斷シ難ク其他本件當事者カ本件義務ノ履行地ヲ大阪市又ハ其他ノ土地ニ合意シタリト認ムヘキ何等ノ資料ナキヲ以テ本件數量不足ニ對スル塡補金ノ支拂ハ債權者タル原告會社ノ所在地即チ東京市ニ於テ之ヲ爲スヲ要スルモノト解セサルヘカラス（東京地方裁判所昭和四年ワ三四三號同年六月二八日判決法律新聞三〇一四號一五頁）

二〔大審院〕1損害賠償債權ハ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノナルヲ以テ別段ノ意思表示ナキ限リ民法第四百八十四條ノ規定ニ依リ債權者ノ現時ノ住所ヲ以テ其ノ履行地ナリト認ムヘキ

モノトス

2義務不履行ニ因ル損害賠償請求權ハ本來ノ義務ト同一性ヲ有シ時效ノ起算又ハ擔保ノ存續等ノ點ニ付本來ノ義務ノ延長ト認メラルルモノナレ共履行期又ハ履行地ノ如キ本來ノ義務ニ特有ナルモノニ付テハ當然變更アルモノニシテ此ノ點ニ付テハ右損害賠償義務自體ニ付別ニ之ヲ定ムヘキモノトス（大審院昭和五年ラ一〇一號同年一二月二七日決定法律評論二〇卷民訴三二六頁）

三　特約ニ基ク補償債務ノ履行地（二續民五六九頁）

◎持參債務ト履行場所

一〔大審院〕民事上ノ債務ノ履行ニ付當事者カ持參拂ノ特約ヲナシタル時ハ其債務ノ履行ノ場所ハ債權者ノ住所ニシテ營業所ニ非ス從ツテ債務者カ債權者ノ營業所ニ其債務ノ履行ヲ提供シタリトスルモ有效ナル履行ノ提供アリト爲ス得サルハ論ヲ俟タサル所ナリ上告人ハ本件賃料ノ支拂場所ハ上告人ノ住所ナルニ拘ラス其營業所ニ爲シタル履行ノ提供ハ效力ナキ旨ノ抗辯ヲ爲シタルニ對シ原判決ハ本件賃貸借契約ニ於テハ賃料ヲ持參シテ支拂フヘキ旨ノ特約アリタル事實ヲ確定シタル上上告人ノ營業所ニ爲シタル履行ノ提供ヲ以ツテ有效ナリトシ上告人ノ右抗辯ヲ排斥シタルモノニシテ原判決ハ所論ノ如キ違法アルコトヲ免レス（大審院昭和六年オ七號同年七月一七日判決法律評論二〇卷民法四八三頁・法律新報二六四號一一頁）

二　地代辨濟ノ場所（民法一三五頁）

三　持參債務ト履行ノ場所（二續民五七〇頁）

◎受任者ノ義務履行地

一〔吳　區〕受任者カ受任義務ヲ履行スヘキ地ハ別段ノ意思表示ナキ限リ委任契約ノ債權者即チ委任者ノ住所ナリトス（吳區裁判所昭和二年ハ四一九號同三年一一月一二日判決法律新聞二九六八號一〇頁）

二〔東京地〕受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其ノ他ノ物ヲ委託者ニ引渡スコトヲ要スルモノニシテ其ノ引渡ヲ爲ス場合ニ付別段ノ意思表示ヲ爲ササルトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其ノ物ノ存在セル場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス（東京地方裁判所昭和六年ワ二一七五號同年一一月二七日判決法律新報二八五號二四頁）

◎破產ノ開始ニ因ル履行地ノ變動

一〔東京控〕破產會社ノ從前ノ支部支店ヲ履行地ト定メテ爲シタル取引ニ付テハ支店支部閉鎖後ニ在リテハ最早其履行地ハ

從前ノ支部支店ノ所在地ニアラスシテ破産管財人ノ事務所所在地タル東京市ナリト謂ハサルヘカラス是レ當事者ノ住所ヲ履行地ト定メテ爲シタル取引ニ於テ後日其當事者ノ住所ニ變更ヲ生シタルトキ其履行地モ亦自ラ變更ヲ來タスコトアルト一般ナリトス（東京控訴院昭和六年ラ九六號同七年五月三日決定法律新聞三四一四號一〇頁）

◎履行場所ヲ確定セサル理由不備

一〔大審院〕案スルニ被上告人ハ上告人ノ債務不履行ヲ原因トシテ本件賣買契約ヲ解除シ本訴違約金ノ請求ヲ爲スモノナレハ原院カ該契約解除ノ適法ナルコトヲ認メ被上告人ノ本訴請求ヲ認容スルニハ必ス（一）上告人カ本件債務ヲ履行セサリシコト（二）被上告人カ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シタルモ其期間内ニ履行ナカリシコト（三）上告人ニ本件債務不履行ノ責任アルコト等ノ事實ヲ認定セサルヘカラス又此等ノ事實ヲ認定スルニハ理論上當然ノ順序トシテ先ツ本件債務ノ履行ノ場所ハ何レニ在リヤヲ確定セサルヘカラス而テ原判決ノ引用ニ係ル第一審判決事實摘示ニハ原告訴訟代理人（被上告人）ノ陳述トシテ「手附金ノ支拂場所ハ最初神戸市ナリシモ其後合意上大阪市ニ變更シタリ云々」トアルニ依リテ之ヲ觀レハ被上告人ハ原審ニ於テ被上告人ノ債務タル訴外村上信太郎外三名ノ賣渡承認書ノ交付ト上告人ノ債務タル手附金ノ支拂トヲ履行スヘキ地ハ最初神戸市ナリシモ其後大阪市ニ變更シタリト主張シタルモノト認ムルコトヲ得ヘシ然ルニ原院ハ此點ニ付キ何等ノ判斷ヲ爲サス漫然「控訴人（被上告人）ハ正式ニ其履行ヲ催告シタル上之カ履行ヲ爲ササル時ハ契約ヲ解除シテ所定ノ違約金ヲ求ムルノ外ナキヲ思ヒ同月（大正七年六月）二十八日書面ヲ以テ二日ノ期間（相當ノ期間ト認ム）ヲ定メテ被控訴人（上告人）ニ履行ノ催告ヲ爲シタルモ被控訴人ハ尚之ニ應セサリシヨリ同年七月十三日右不履行ヲ原因トシテ賣買解除ノ意思表示ヲ爲スト共ニ所定ノ違約金ノ支拂ヲ催告シタルモノナルコト云々」ト判示シ其結果被上告人ノ本訴請求ヲ認容スルニ至リタルハ理由不備ノ不法アルモノト謂ハサルヲ得ス（大審院大正一〇年オ一二一號同年五月六日判決法律新聞一八五四號二〇頁）

◎辨濟ノ費用ニ關スル諸問

第四百八十五條　【辨濟ノ費用】

1 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ增加シタルトキハ其增加額ハ債權者之ヲ負擔ス

一　競賣費用ハ辨濟費用ニ該當ス（二續民五七四頁「費用及利息元本ノ併存ト其ノ充當」ノ一參看）

二　抵當權ノ擔保範圍ト實行費用（本條後出）

三　住所變更ニ因ル辨濟費用ト負擔者（二續民五七〇頁）

◎抵當權ノ擔保範圍ト實行費用

一〔大審院〕債權ヲ擔保スル爲抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟ヲ爲ササルトキハ債權者ハ抵當權ノ實行ヲナシ之ニ因リ債權ノ辨濟ヲ受ケサルヘカラス而モ抵當權ノ實行ヲ爲スニハ勢ヒ若干ノ費用ヲ要スルコトハ言ヲ俟タサル所ナルヲ以テ設定行爲ニ特ニ費用ヲ債務者ニ於テ負擔セサル旨ノ定アル場合ハ格別然ラサル以上抵當權ヲ以テ擔保スヘキ債權ノ範圍内ニハ自ラ之カ費用モ包含スルモノト謂ハサルヘカラス尤モ不動産登記法第百十七條ニハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニハ之カ實行費用ヲ申請書ニ記載スヘキコトヲ命セスト雖這ハ不動産質權ヲ以テ擔保スル債權ノ範圍内ニハ民法第三百四十六條ニヨリ之カ實行費用ヲ包含スルニモ拘ラス不動産登記法第百十六條ニハ質權設定ノ登記申請書ニ之カ費用ノ記載ヲ命セサルト同趣旨ニシテ畢竟之等ノ費用ハ質權又ハ抵當權ニ必然隨伴スルモノナルニヨリ當然ノ事理トシテ特ニ申請書ニ之カ記載ヲ必要トセサリシモノニ外ナラス然ラハ本件ノ如ク辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル被上告人カ債務者ニ代リ抵當權ヲ以テ擔保スル債權全部及抵當權實行ノ費用ヲ債權者タル上告銀行ニ辨濟ヲ爲シ之ニ因リ當然同銀行ニ代位シ其ノ有スル抵當權ヲ取得シタル場合ニ於テ上告銀行ニ對シ右抵當權及之カ實行費用ニ付代位辨濟ニ基ク登記申請（此ノ場合ニハ不動産登記法第百二十五條ノ規定ニ從ヒ附記登記ノ方法ニ依ルヘキモノトス）ニ協力スヘキコトヲ命シタレハトテ之ヲ以テ所論ノ如ク抵當權實行ノ費用ニ付テハ主タル登記カ存在セス從テ附記登記ヲ爲スコトヲ得ス其ノ他右費用ニ付登記ヲ爲スヘキ法條ナキニヨリ結局不能ノ事項ヲ强ユル不法アリト謂フヘカラス（大審院昭和二年オ五五二號同年一〇月一〇日判決大審院判例集六卷民事五五四頁）

第四百八十六條　【受取證書ノ請求】

1 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

◎受取證書ノ請求ニ關スル諸問

一　辨濟ト受取證書トノ同時履行（本條後出）

二　受取證書ト引換ヘサル辨濟ノ效力（本條後出）

三　何レノ債權ノ領收ナルカノ明記（本條後出）

◎辨濟ト受取證書トノ同時履行

一〔東京地〕1辨濟者カ辨濟受領者ニ對シテ受領證書ノ交付ヲ請求スル權利ハ雙務契約ノ場合ニ於ケル對價的關係ニアル義務ニ對スルモノニ非サルコト勿論ナリト雖辨濟者ニ右ノ權利ヲ認メタル民法第四百八十六條ノ規定ノ趣旨ハ債務者其ノ他ノ辨濟ヲ爲シタル者ヲシテ辨濟受領ノ事實ヲ證明スルニ最モ確實ニシテ而モ吾人日常ノ取引生活ニ於テ普通一般ニ行ハルル受取證ナル書面ヲ得セシメ以テ後日再ヒ二重ノ請求ヲ受クルカ如キ危險ヲ防止スルニ在ルモノナルカ故ニ債務者カ債務ノ全部又ハ一部ニ對シ其ノ辨濟ヲ爲サントスルトキハ債權者ニ對シ其ノ受取證書ノ交付ヲ交換的ニ請求スルコトヲ得ヘク若シ債權者カ其ノ交付ヲ拒ミタルトキハ債務者モ亦其ノ辨濟ヲ拒否スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トスヘク從テ雙務契約ニ於ケル同時履行ニ關スル民法第五百三十三條ノ法理ハ本條ノ場合ニモ類推適用サルルモノト謂ハサルヘカラス

2繼續的供給契約ノ如ク雙方ノ當事者カ回歸的ニ又ハ繼續的ニ給付ヲ爲スヘキ雙務契約ニ於テハ當事者ノ一方ハ相手方カ前ノ履行期ニ屬スル對價タル債務ノ履行ヲ提供セサルコトヲ理由トシテ後ノ履行期ニ屬スル自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トスヘキカ故ニ繼續的給付ノ義務ヲ負擔スル債務者ノ受取證書ノ請求ニ關シテモ亦債務者ハ債權者カ前期ニ屬スル割賦金ノ辨濟ニ對スル受取證書ヲ交付セサルコトヲ理由トシテ後期ノ割賦金ノ支拂ヲ拒否スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス（東京地方裁判所昭和六年レ六四九號同年一一月三〇日判決法律新聞三三五〇號一五頁・法律新報二七九號二三頁・法律評論二一卷民法一〇三頁）

◎受取證書ト引換ヘサル辨濟ノ效力

一〔大審院〕債務者カ債務ノ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキコト民法第四百八十七條ニ依リ明ナレハ被上告人ハ受取證書ト引換ニ辨濟ヲ爲スノ必要ナシ加之同法第四百八十六條ニ依リ受取證書ト引換ニ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テモ之ト引換ニ爲ササリシ辨濟ヲ無效ト謂フコトヲ得ス（大審院昭和四年オ一六三五號同五年三月二四日判決法律新聞社編大審院裁判例〔四〕民事一三頁）

◎何レノ債權ノ領收ナルカノ明記

一〔大審院〕元來金員ノ領收證ハ債務者カ之ヲ以テ他日債務辨濟ノ證據ト爲ス可キモノナレハ二個以上ノ債權存在スル場合其孰レノ債權ニ對シ辨濟シタルヤハ其當時債務者ニ於テ之ヲ領收證ニ明記セシムヘク債權者ノ隨意ニ放任ス可カラサル條

理ナリトス（大審院明治二七年民事三四六號同二八年二月二三日判決大審院判決錄一輯民事一五四頁）

第四百八十七條　【債權證書ノ返還】

1債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

◎債權證書ノ返還ニ關スル諸問

一　本條ノ適用（本條後出）
二　辨濟以外ノ債務消滅ト本條ノ適用（二續民五七一頁）
三　債權證書ノ返還義務者（續民法一一八四頁）
四　債權證書ノ返還請求權者（續民法一一八四頁）
五　代位辨濟者ト債權證書ノ請求權（續民法一一九六頁）
六　辨濟者ノ債權證書ニ對スル權利（刑法一八一頁）
七　債權證書ノ所有者（民法二七八頁）
八　時效ニ罹リタル債權證書ノ效力（民法六四頁）
九　證書持參ノ代理人ニ對スル辨濟ノ效力（民法二七八頁）
一〇　代理人ニ對スル證書返還ノ請求（民法二七八頁）
一一　債權證書ノ存否ト權利關係ノ認定（本條後出）
一二　舊債權引直證書ノ存在ト立證責任（民法二九六頁）

◎本條ノ適用

一〔廣島控〕凡ソ債權證書ノ授受ニ依リ金錢消費貸借契約成立シタル場合ニハ特種ノ事情ナキ限リ債權者ハ辨濟ノ完了シタルトキ始メテ其ノ債權證書ヲ債務者ニ返還スルヲ以テ取引ノ通念トス（廣島控訴院昭和三年ネ二〇七號同五年一月二四日判決法律新聞三〇八七號一五頁・法律評論一九卷民法三四六頁）

二　本條ノ適用（民法二七八頁「債務ノ辨濟ト債權證書ノ返還」參看）

◎債權證書ノ存否ト權利關係ノ認定

一〔大審院〕債權證書カ債權者ノ手裡ニ存スルコトニヨリテ債權ハ未タ消滅セサルモノト認メサルヘカラサル實驗則存スルコトナシ（大審院昭和六年オ四一〇號同年九月九日判決法學一卷一號一一二頁）

二〔大審院〕1原判決ヲ觀ルニ原審ハ上告人等ニ於テ上告人等ハ本訴債務ノ辨濟トシテ昭和五年七月三十一日及同年九月七日ノ兩度金五百圓宛ヲ支拂ヒタリト主張シタルニ對シ上告人等主張ノ時間ニ上告人等主張ノ如キ金員ノ支拂アリタルコトハ被上告人ノ認ムル所ナルモ其ノ各金員カ本訴債務ノ辨濟トシテ支拂ハレタルモノナリトノコトヲ認ムルニ足ル證左無ク

却テ債權證書カ被上告人ノ手裡ニ存スルニ依レハ右事實ハ之ヲ認ムルヲ得ストシ以テ上告人等ノ右主張ヲ排斥シタルモノナルコト明白ナル所トス

2 然レトモ如上金員授受ノ事實アリタル以上其ノ支拂アリタル時期ハ孰レモ本訴債務辨濟期後ニ屬シ其ノ支拂ハレタル金額ハ兩度トモ各本訴債務額ヲ超過セサルモノナルカ故ニ當事者間別ニ債務關係ノ存スルアリテ右各金員ハ此ノ別口債務ノ辨濟ニ充テラレタリトノ事實無キ限リ其ハ一應本訴債務ノ辨濟トシテ支拂ハレタルモノナリト觀ル可キハ當然ナリ從テ原審ニ於テ上告人等ノ右主張ヲ排斥セムニハ上告人等主張ノ各金員カ本訴債務以外ノ別口債務ノ辨濟トシテ支拂ハレタルコトヲ明示スル所無カル可カラス若シ夫レ債權證書カ被上告人ノ手裡ニ存スレハトテ其ノ一事ニ依リ直チニ右各金員ハ本訴債務ノ辨濟トシテ支拂ハレタルモノニアラスト爲スノ非ナルコトハ固ヨリ多言ヲ俟ツヘキニ非ス何者本訴債務ニ付テハ其ノ成立ノ當時ヨリ一ケ月一分ノ利息ヲ附スヘキ約ナルコトハ原審ノ確定セル所ニ係リ從テ右各金員カ其ノ辨濟トシテ支拂ハレタリトスルモ尙相當額ノ利息債務ノ殘存スルコト明ナル故ニ之ヲ證ス可キ證書ヲ被上告人ノ留保スヘキハ寧當然ニシテ毫モ怪シム可キニ非サレハナリ然ラハ則チ冒頭所揭ノ如キ理由ノ下ニ輒ク上告人等ノ主張ヲ一蹴シ去リタル原判決ハ

理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院昭和六年オ三〇七三號同七年七月一六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二二二頁）

三　證書ノ存否ト權利關係ノ推定（續民訴一五一三頁）

四　交互債權ト辨濟ノ推定（民法二七九頁）

五　借用證書ノ授受ト借金有無ノ立證責任（民法三八七頁）

第四百八十八條【辨濟ノ充當】

1 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

2 辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

3 前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

◎任意充當ニ關スル諸問

一　期限前ノ辨濟ノ充當（本條後出）

二　相殺充當ノ適否（三續民五一二條）

三　擔保及無擔保ノ兩債權ト充當順序（本條後出）

四　月賦金ノ辨濟充當ト遲滯ノ有無（本條後出）

五　一部辨濟又ハ內入辨濟ト充當（本條後出）

六　配當金ノ受領ノ委任及辨濟充當ノ承諾（三續民一五六條三九九頁「暗默ノ債務承認」參看）

七　辨濟充當ノ規定ニ反スル商慣習（商法二頁「砂糖賣買ニ關スル履行順序ノ商慣習」參看）

八　手形數通ノ內入辨濟ノ充當（三續民一四七條三九五頁「手形數通ニ對スル內拂ト承認範圍」參看）

九　制限超過ノ利息ト充當ノ當否（三續民四九一條）

一〇　辨濟受領者ノ充當ト效力發生時期（二續民五七二頁）

一一　辨濟ノ充當ト當事者ノ意思表示（二續民五七二頁）

一二　充當ノ指定ニ關スル推定（本條後出）

一三　辨濟後數ケ月ヲ經タル充當指定（本條後出）

一四　辨濟ノ充當ト立證責任ノ顚倒（續民法一一八四頁）

◎期限前ノ辨濟ノ充當

一〔大審院〕消費貸借ノ辨濟期到來スルモ債務者カ其ノ支拂ヲ爲ス能ハス數回交涉ノ結果其ノ期限カ延期セラレタルカ如キ場合ニハ其ノ延期セラレタル辨濟期日ノ到來前擔保トナレル株式ヲ債權者名義ニ書換ヘ其ノ時價ニテ辨濟ニ充當スルコトモアリ得ル事實ニ屬スルカ故ニ本件ノ株式ヲ上告人名義ニ書換ヘタル當時本件ノ消費貸借ハ債權者タル上告人ノ承諾ニ因リ延期セラレタル辨濟期ニ達シ居ラサリシトスルモ原判決ノ擧示セル事實ニヨリ所論辨濟充當ノ事實ヲ推認スル妨ト爲ルモノニ非ス（大審院昭和五年オ一六二五號同年一一月二六日判決法律新聞三二〇九號一三頁・法律評論二〇卷民法一三二頁）

◎擔保及無擔保ノ兩債權ト充當順序

一〔大審院〕債權者カ物上擔保權ヲ有スル債權ト無擔保債權トヲ有スル場合ニ其ノ物上擔保ノ目的タル不動產カ賣却セラレ其ノ代金ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルトキハ特別ノ事情ナキ限リ物上擔保權ヲ有スル債權ノ辨濟ニ充ツルヲ普通ノ事情ナリトス蓋債權者カ物上擔保權ヲ取得スルハ債權者其ノ人ノ信用ノミヲ以テ滿足セサル爲ニ外ナラサルニ拘ラス其ノ擔保ノ目的物カ賣却セラレ其ノ代金ヲ受領スルニ當リ無擔保債權ノ辨濟ニ充ツルカ如キハ當初物上擔保權ヲ取得シタル趣旨ニ反シ容易ニ思考スルヲ得サレハナリ今此ノ見地ヨリシテ證人池端サヨノ證言ヲ精査スルニ其ノ全趣旨ニ徵スルモ同人カ藤島了修ニ賣却シタル土地ノ代金ヲ以テ內緣ノ夫タル上告人勘四郎

等ノ大坂喜太郎ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テタルニ非スシテサヨカ同債權者ニ對シテ負擔スル債務ノ辨濟ニ供シタル事實ヲ認ムルヲ得ス然ラハ原審ハ結局證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル不法アルコトニ歸著シ本論旨ハ其ノ理由アリ（大審院昭和五年オ二九七五號同六年六月一二日判決法律新聞社編大審院裁判例（五）民事一〇六頁・法律新報二六七號九頁）

◎月賦金ノ辨濟充當ト遲滯ノ有無

一（大審院）月賦拂契約成立ト同時ニ支拂ヒタル月賦額ト異ル金圓ニ關シ受領者ト辨濟者間ニ辨濟ノ充當ニツキ主張ヲ異ニスル時ハ裁判所ハ須ラク右金圓カ果シテ當該月賦金ニ充テラレタルモノナリヤ又ハ月賦金ニ何等ノ關係ナク支拂ハレタルモノナリヤヲ審理シ履行遲滯ノ有無ヲ認定セサルヘカラス（大審院昭和五年オ二〇〇五號同六年四月一五日判決法律新聞社編大審院裁判例（五）民事六一頁）

◎一部辨濟又ハ內入辨濟ト充當

一　內入辨濟ト充當ノ當否（二續民一三三二頁）
二　元利債務ノ內入辨濟ト法定充當（三續民四九一條）
三　期限前ノ元利ト內入辨濟ノ充當（三續民四九一條）
四　一部辨濟ト制限超過ノ充當（三續民四九一條「制限超過ノ利息ト充當ノ當否」ノ五參看）
◎債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力（三續民四九四條）

◎充當ノ指定ニ關スル推定

一（朝鮮高）準消費貸借ノ合意アリタル事實ハ一應其ノ目的タル債務カ既ニ存在シタルモノナルヘシト推斷スルノ根據ト爲リ得ヘシト雖本件ニ於ケルカ如ク原告主張自體ニ於テ制限超過ノ利息ノ支拂アリタルコトヲ前提トシ被告之ヲ爭フ場合ニ於テ其カ被告ニ於テ任意制限超過ノ約定利率ニ從ヒ利息ノ支拂ニ充當スヘキコトヲ指定シタリシモノトノ推定ヲモ生スルモノニ非ス原告ニ於テ之ヲ立證スルヲ要スルハ當然ナリ卽チ原判決ハ此ノ點ニ關スル證據法則ヲ誤解シタル違法アルモノトス（朝鮮高等法院昭和七年民上三五五號同年一〇月七日判決司法協會雜誌一一卷一二號二一三頁・法律評論二一卷民法一二七三頁）

◎辨濟後數ケ月ヲ經タル充當指定

一（大審院）當事者ノナス充當ノ指定ハ辨濟アリタル時ニ於テナサルヘキモノナルコト民法ノ規定上洵ニ明ナレハ本件ニ於テ辨濟アリタル時ヨリ數月後ニ至リ債權者タル上告人ヨリ一方的ニ充當ノ指定ヲナスモ其ノ效力ヲ認ムルニ由ナキモノト云ハサルヘカラス若シ夫レ其ノ指定ニ對シ債務者タル被上告人等ニ於テ之ヲ承認シタリトノコトハ原判決ノ是認セサリシトコロナレハ其ノ承認アリタルコトヲ理由トシテ指定ノ效力ヲ肯定スルコトモ亦難シト云ハサルヲ得ス（大審院昭和八年オ五四六號同年六月五日判決法學三卷一號九九頁）

第四百八十九條【法定ノ充當】

1當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當ス

一　總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス
二　總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス
三　債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス
四　前二號ニ揭ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ハ辨濟ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス

◎法定ノ充當ニ關スル諸問

一　先發債務ニ對スル辨濟ノ充當（本條後出）

第三續民法　債權　總則　債權ノ消滅　辨濟　四八九條　一三四一

二　後發割賦金ノ辨濟ト先發既濟ノ認定（三續民四九〇條）
三　債務者ノ爲メニ利益多キ辨濟充當（續民法一一八五頁）
四　保證附債務ト單純債務トノ比較（續民法一一八五頁）
五　利率ノ相違ト債務者ノ利害（續民法一一八五頁）
六　利息充當ノ順序ト一般ノ事例（三續民四九一條）
七　數金ヲ延滯家賃ニ充當シ得ルヤ（三續民六一九條）
八　現金其ノ他ノ交付ト充當ノ方法（二續民五七三頁）
九　辨濟ノ充當ト認定ノ當否及實驗則（本條後出）
一〇　韓國ニ於ケル債務ノ充當方法（民法二八〇頁）
◎任意充當ニ關スル諸問（三續民四八八條）

◎先發債務ニ對スル辨濟ノ充當

一（大審院）當事者間ニ二個ノ債務アリテ而シテ上告人申立ノ如ク其辨濟ノ方法順序ニ付爭ナキトキハ裁判所ニ於テ其成立ノ最モ舊キ債務ニ先ツ充當セラレタリト爲スハ當然ノ事ナリトス（大審院明治二九年五一五號同三〇年四月一三日判決大審院判決錄三輯民事四卷六三頁）
二　先發債務ニ對スル充當（續民法一一八六頁）
◎何レノ債權ノ領收ナルカノ明記（三續民四八六條）

◎辨濟ノ充當ト認定ノ當否及實驗則

一〔大審院〕原判決事實摘示ニ徵スレハ被上告人ハ原審ニ於テ示談不成立ナリトスレハ上告人ヨリ受取リタル一千五百圓ハ本件手形金ト其ノ他ノ債權トニ對スル辨濟ニ充當セラルヘキコトヲ認メタルコト明ナルカ故ニ原審カ示談不成立ノ事實ヲ認定セル以上ハ其ノ他ノ債權ノ存否ヲ判斷シ若シ其ノ他ノ債權存在セハ辨濟充當ノ法則ニ從ヒ右一千五百圓ノ一部ヲ若シ其ノ他ノ債權存在セサレハ右一千五百圓ノ全部ノ本訴請求金額中ヨリ控除セサルヘカラス然ルニ此ノ點ニ付判斷控除スルコトナク手形金全額ノ支拂ヲ上告人ニ命シタルハ違法ト云フヘク本論旨ハ理由アリ（大審院大正一三年オ九八四號同一四年五月二七日判決法律新聞二四六八號九頁）

二〔大審院〕原判決ハ乙第四號ニ利子トシテ受取リタル旨ノ記載ナキヲ以テ同證ニ揭記セル金三百圓ハ本件元金ノ內ニ辨濟セラレタルモノト認定シタルモノニシテ而シテ右金圓カ別途貸金ノ內ヘ支拂ハレタリトノコトハ何人ヨリモ其申立ヲ爲シタル事蹟之レナキヲ以テ原院ハ如上ノ認定ヲ與ヘタルモノニシテ本論旨ハ畢竟原院ノ專權タル事實ノ認定ヲ論難スルニ過キス以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス（大審院明治三九年オ一九二號同年五月二二日判決大審院判決錄一二輯民事七九七頁

●法律新聞三五九號一四頁）

三〔大審院〕原裁判所ハ上告人カ數口ニ辨濟シタル金額及ヒ其有スル二個ノ反對債權ヲ認メタル上被上告人ノ七口ノ債權ニ順次辨濟竝相殺ノ法定充當ヲ爲ストキハ結局本件ニ於テ被上告人ノ請求スル(一)債權額三百圓(六)ノ債權中七十五圓ハ些ノ影響ヲ被ラサル旨判示シ右二口ノ債權額合計三百七十五圓ニ利息ヲ附シテ支拂フヘキコトヲ上告人ニ命シタレトモ上告人ノ辨濟金及ヒ反對債權カ被上告人ノ債權ニ對シ如何ナル順位ニ依リ如何ニ充當セラレタリヤ其關係ヲ具體的ニ明示スル所ナキヲ以テ何故ニ(二)ノ債權及ヒ(六)ノ債權ノ一部カ辨濟セラレスシテ殘存スルカノ理由ヲ知ルニ由ナシ原判決ハ此點ニ於テ理由不備ノ不法アルヲ免レス（大審院大正九年オ八七四號同一〇年五月二四日判決法律新聞一八六三號二二頁）

四　辨濟充當ニ關スル實驗則（二續民五七三頁）

第四百九十條　【數箇ノ給付アル債務ノ充當】

1 一個ノ債務ノ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

◎後發割賦金ノ辨濟ト先發既濟ノ認定

一〔大審院〕分割辨濟ノ特約アル貸借ニ在リテハ先ツ辨濟期ノ到來シタル割賦金及其ノ延滯利息ヨリ順次其ノ辨濟ヲ爲スヘキヲ取引一般ノ事例トシ其ノ延滯分ヲ差措キ其ノ後ニ支拂フ可キ分ヲ辨濟スルカ如キハ異常ノ事ニ屬スルヲ以テ其ノ最後ニ支拂フ可キ割賦金カ辨濟セラレタル事實ニ付爭ナキ以上特別ノ事情ナキ限リ其ノ以前ノ割賦金及延滯利息ハ其ノ支拂ヒヲ了シタルモノト認ム可キヲ相當トシ上告人カ擧クル諸種ノ事情ハ必スシモ右推定ヲ覆スニ足ルモノニアラス（大審院昭和四年オ八九三號同年一〇月二六日判決法律新聞二〇八〇號一二頁●法律評論一九卷民法一六一頁）

◎利息充當ノ順序ト一般ノ事例（三續民四九一條）

第四百九十一條　【利息及費用アル債務ノ充當】

1 債務者カ一個又ハ數個ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用、利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

2 第四百八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎利息及費用ノ充當ニ關スル諸問

一　本條ノ旨趣〔期限ノ利益トノ關係〕（續民法一一八六頁）

二　運延損害金ト本條ノ利息（本條後出）

三　辨濟充當ノ合意ト法定充當ノ運命（本條後出）

四　本條第二項ノ適用（民法二八〇頁）

五　本條ニ依ラサル合意充當ノ效力（本條後出）

六　辨濟ノ費用ニ關スル諸問（三續民四八五條）

七　賣買代金ノ利息ト辨濟充當ノ適否（本條後出）

八　利息充當ノ順序ト一般ノ事例（本條後出）

九　費用利息元本ノ併存ト其ノ充當（二續民五七四頁）

一〇　元利債務ノ內入辨濟ト法定充當（本條後出）

一一　期限前ノ元利ト內入辨濟ノ充當（本條後出）

一二　制限超過ノ利息ト充當ノ當否（本條後出）

一三　制限超過ノ利息ト法定充當（本條後出）

餘　錄

1 利息附債權ト支拂猶豫令（本條後出）

◎運延損害金ト本條ノ利息

一〔廣島地〕債務者ノ支拂義務アル競賣ノ原因タル債權金額ノ辨濟期ノ翌日ヨリ民事法定利率年五分ノ割合ニ依ル運延損害金ハ右法條ノ所謂利息中ニ包含セラルヘキモノト解スルヲ相當トス（廣島地方裁判所昭和五年テ二五號同六年五月二日決定法律新聞三二七四號一〇頁●法律評論二〇卷民法四七七頁）

◎競賣手續ノ費用ト本條ノ費用

一〔廣島地〕競賣手續ニ因リ生シタル費用ノ如キハ本來債權ノ辨濟ヲ得ンカ爲開始セラレタル競賣手續ニ因リ生シタルモノナレハ固ヨリ債務者ノ負擔ニ歸スヘキモノニシテ民法第四百九十一條ノ所謂費用ニ該當スルモノト解スルヲ相當トス（廣島地方裁判所昭和五年テ二五號同六年五月二日決定法律評論二〇卷民法四七七頁・法律新聞三二七四號一〇頁）

◎辨濟充當ノ合意ト法定充當ノ運命

一〔大審院〕金錢ノ消費貸借ニ於テ元本債務ト既ニ辨濟期ノ到來シタル其ノ利息債務竝元本債務不履行ニ因ル損害利息債務ノ併存スル場合ニアリテハ辨濟ノ充當ニ付特別ノ合意存セサル限リ民法四百九十一條ニ從ヒ順次利息及元本ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ要スルヲ以テ債務者カ右法定ノ充當方法ニ反シ辨濟ノ提供ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ヲ拒絕シ得ルコト論ヲ俟タスト雖債權者自ラ元本債務及利息債務ノ一部分ヲ債務者ニ請求シ債務者之ニ應シタルトキハ茲ニ辨濟ノ充當ニ付特別ノ合意成立スルモノト爲スヘキカ故ニ債權者ハ最早法定充當ヲ主張シテ右請求ニ對スル辨濟ノ提供ヲ拒絕シ得サルモノト爲サルヘカラス本件ニ付之ヲ觀ルニ抗告人ハ本件ニ於テ本件消費貸借ノ元本債務竝最後ノ二ケ年分ノ利息ヲ請求シ相手方之ニ應シ其ノ請求金額全部ニ付辨濟ノ提供ヲ爲シタルコトハ原審ノ確定セル事實ナレハ抗告人ハ最早法定充當ヲ主張シテ其ノ辨濟ノ提供ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノトス（大審院昭和三年ク六號同年三月三〇日決定法律新聞二八五四號一五頁・法律評論一七卷民法七一三頁）

◎本條ニ依ラサル合意充當ノ效力

一〔大審院〕債權者又ハ債務者ノ一方的ニ之ヲ爲スニ非スシテ其ノ雙方カ合意シテ之ヲ爲ス場合ニハ民法第四百九十一條ノ規定ニ依ラサル辨濟ノ充當モ其ノ效力ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス本件ニ付原審ハ被上告人ノ支拂ヒタル二千八百十二圓五十錢ハ本件債務ノ辨濟ニ充當スヘキ旨ノ被上告人ノ申出ヲ上告人ニ於テ之ヲ承諾シ以テ本件債務ノ辨濟ニ充當シタルモノト認定シタルコト原判文上明ナルニ因リ原審カ右金額ヲ本件以外ノ他ノ債務ノ利息ニ充當シタルコトノ上告人ノ抗辯ヲ排斥シテ被上告人ノ主張ノ大部分ヲ認容シタルハ素ヨリ正當ナリ（大審院昭和六年オ三四五〇號同七年四月二六日判決法律新聞三四〇八號七頁・法學一卷一〇號一一二頁）

◎賣買代金ノ利息ト辨濟充當ノ適否

一〔大審院〕案スルニ上告人（被控訴人原告）ハ本件賣買代金ニ付テハ上半月ノ取引ニ關シテハ其ノ月ヨリ又下半月ノ取引ハ原審ノ確定セル事實ナレハ抗告人ハ最早法定充當ヲ主張シテ其ノ辨濟ノ提供ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノトス（大審院昭和三年ク六號同年三月三〇日決定法律新聞二八五四號一五頁・法律評論一七卷民法七一三頁）

◎本條ニ依ラサル合意充當ノ效力

一〔大審院〕債權者又ハ債務者ノ一方的ニ之ヲ爲スニ非スシテ其ノ雙方カ合意シテ之ヲ爲ス場合ニハ民法第四百九十一條ノ規定ニ依ラサル辨濟ノ充當モ其ノ效力ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス本件ニ付原審ハ被上告人ノ支拂ヒタル二千八百十二圓五十錢ハ本件債務ノ辨濟ニ充當スヘキ旨ノ被上告人ノ申出ヲ上告人ニ於テ之ヲ承諾シ以テ本件債務ノ辨濟ニ充當シタルモノト認定シタルコト原判文上明ナルニ因リ原審カ右金額ヲ本件以外ノ他ノ債務ノ利息ニ充當シタルコトノ上告人ノ抗辯ヲ排斥シテ被上告人ノ主張ノ大部分ヲ認容シタルハ素ヨリ正當ナリ（大審院昭和六年オ三四五〇號同七年四月二六日判決法律新聞三四〇八號七頁・法學一卷一〇號一一二頁）

◎賣買代金ノ利息ト辨濟充當ノ適否

一〔大審院〕案スルニ上告人（被控訴人原告）ハ本件賣買代金ニ付テハ上半月ノ取引ニ關シテハ其ノ月ヨリ又下半月ノ取引ニ關シテハ翌月一分二厘ノ利息支拂ヲ受クルノ特約及慣習ノ存在ヲ主張シタル所原審ハ此ノ如キ特約竝慣習ハ執レモ之ヲ認メ難シト爲シ上告人ノ右利率ニ依ル請求ヲ排斥スルト共ニ凡ヘテ代金ニ關スル利息請求ヲ排斥シタルコト原判文上明白ナリ然レトモ賣買代金ニ付テハ買主ハ目的物引渡ノ日ヨリ利息ヲ支拂フノ義務アルコト民法第五百七十五條第二項ノ規定スル所ニシテ本訴請求中此ノ部分ニ該當スル請求ハ上叙民法ノ規定ニ基ク利息ニ關スルモノナルコト上告人ノ主張ノ全旨趣ニ徵シ之ヲ認ムルニ難カラサル所ナリ左レハ本件ニ於ケルカ如ク賣買ノ目的物ノ引渡濟ナルコトニ付當事者間爭ナキ場合ニ於テ原審カ上叙民法ノ規定ニ基ク利息請求ヲモ排斥シタルハ上叙民法ノ規定ヲ適用セサル不法アルモノト謂ハサルヘカラス加之債務者カ元本ノ外利息ヲ支拂フノ義務アルニ當リ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ順次ニ利息及元本ニ充當スヘキコトハ民法第四百九十一條ノ規定スル所ナルニ拘ラス原審カ上叙ノ如ク本件賣掛代金ニ付テハ被上告人（控訴人被告）ニ於テ前記民法第五百七十五條第二項所定ノ利息ヲモ支拂フノ義務ナキモノト認メタル結果被上告人ノ辨濟ヲ全部元金ニ充當スヘキモノト爲シタルハ上叙辨濟充當ニ關スル法則ニ違背シタル不法アルコトヲ免レサルモノトス（大審院昭和四年オ六四號同年五月二八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事二五四頁）

◎利息充當ノ順序ト一般ノ事例

一〔大審院〕大正十一年六月ヨリ同年十一月迄ノ利子ハ同十二年一月支拂ヲ了シタル事實アリタル場合ニ於テハ定期ニ生スル利息ノ支拂ハ定期ニ之ヲ爲シテ順次前ニ生シタルモノヨリ之カ支拂ヲ爲スヲ取引ノ一般事例ト爲スニ因リ特別ノ事情アラサル限リ大正十一年五月迄ノ利息ハ既ニ支拂ヲ了シタルモノト認定セラルヘキ筋合ナリトス（大審院昭和三年オ一一一七號同四年一月三一日判決法律新聞二九六二號一二頁・法律評論一八卷民法四八〇頁）

二　本條第三號ニ相當スル辨濟ノ充當（續民法一一八六頁）

◎後發割賦金ノ辨濟ト先發既濟ノ認定（三續民四九〇條）

◎元利債務ノ內入辨濟ト法定充當

一〔大審院〕元利ノ債務ノ存スル場合ニ於テ數次ノ內入辨濟アリタルトキハ其內入ノ法定充當ノ結果ハ各內入毎ニ之ヲ計算スヘキモノニシテ最後ノ內入ノ時ニ於ケル元利ノ額ト從前ノ內入總額トヲ比較シテ之ヲ決定スヘキモノニ非ス（大審院昭和五年オ三三一九號同六年一一月二六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事二五四頁）

二〔臺灣高〕案スルニ債務者カ任意ニ支拂ヲ了シタル利息ハ假令其利息カ利息制限規則所定ノ利率ヲ超過スル場合ト雖全部利息ニ支拂ハレタルモノナルヲ以テ其超過部分ヲ以テ元本ニ充當セラルヘキモノナリト謂フヲ得スト雖モ債務者カ元本及利息ヲ支拂フヘキ場合ニ特ニ利息トシテ支拂フ旨ヲ表示セス單ニ內入金トシテ支拂ヲ爲シタルトキハ民法第四百九十一條ニ依リ法律上ノ充當ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ之ヲ法律上無效ナル制限外ノ利息ニ充當スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タス原審ハ上告人ヨリ被上告人ニ數十回ニ亘リ支拂ヲ爲シタルコトニ爭ナキ合計金六百九十九圓ノ內入金ノ充當ニ付其ノ授受ノ都度當事者ノ孰レモ辨濟ノ充當ヲ指定シタルコトヲ認メサルカ故ニ前叙ノ如ク民法第四百九十一條ニ從ヒ法律上ノ充當ヲ爲スヘキ要スルモノトス然ルニ前叙內入金中金二十五圓七十六錢ヲ控除シタル殘額金六百七十三圓二十四錢ハ總テ之ヲ約定利息（百圓ニ付月三圓）ニ充當シタリトノ被上告人ノ充當計算ヲ是認シ從テ利息制限規則ノ制限ヲ超過スル利息ニモ之ヲ充當シタルハ法則ヲ不法ニ適用シタル違法アリ原判決中第二項ハ此ノ點ニ於テ全部破毀ヲ免レス（臺灣高等法院昭和四年上民二〇三號同五年四月三日判決臺法月報二四卷六號八八頁●法律評論一九卷民法五三二頁）

三〔大審院〕1按スルニ原判決ハ被上告人カ大正三年八月二日上告人ニ對シ金五百圓ヲ辨濟期ヲ大正四年一月二十日利息支拂方法ヲ期限內無利息期限ヲ徒過シタルトキハ期限內ノ利息ヲ三十六圓ト見積リ之ヲ元本ニ繰入レ元本ヲ五百三十六圓トシ之ニ對シテ貸付當日ヨリ一ケ月ニ付一分二厘ノ割合ノ利息ヲ付シテ支拂フコトト定メテ貸付ケタルモノニシテ上告人ハ被上告人ニ對シ本件貸金ノ內入辨濟トシテ大正五年二月三日金六十圓大正六年五月二日大正七年二月十日各金百圓大正九年六月二日金四百圓及大正八年一月十七日金百圓ヲ支拂ヒタル事實ヲ確定シ右內入辨濟金ノ充當方法ニ關シテハ當事者間ニ何等特別ノ意思表示ヲ爲シタル證憑ナキヲ以テ民法所定ノ原則ニ基キ先ツ利息ニ充當シ殘餘ヲ元本ニ充當シ計算ノ結果大正九年六月二日ニ於テ元本金二百二十三圓五十六錢五厘殘存スルモノトシ上告人ノ利息制限法違反ノ抗辯ニ對シテ本件消費貸借ハ前記認定ノ如ク三十六圓ニ付テハ一種ノ複利支拂契約ナルカ故ニ利息制限法ニ牴觸スルコト勿論ナルモ之ヲ以テ該契約カ無效ナリト斷シ難ク利息制限法ニ所謂裁判上無效ナリトアルハ訴訟ニ於テ請求シ得サル旨ノ法意ト解スヘク該契約ヲ無效トスル旨ノ法意ナリトハ解シ難シ然ラハ本件消費貸借ハ當事者間ニ有效ニ成立シ且其ノ一部ノ辨濟ハ有效ニ履行セラレタリト認ムルヲ相當トスル旨ヲ判示シテ之ヲ排斥シタルモノナリ

2然レトモ辨濟者カ內入辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ利息制限法所定ノ制限ヲ超過スル利息ニ付法律上ノ充當ヲ爲スコトハ之ヲ許ササルモノト解スヘキヲ以テ制限外ノ利息ニ付テハ有效ノ辨濟アリタルモノト謂フヲ得サルモノトス果シテ然ラハ原判決カ前示ノ如ク本件消費貸借ニ付利息制限法ニ牴觸スル部分アルコトヲ認定シタルニ拘ラス上告人ノ內入辨濟金ヲ以テ之ニ法律上ノ充當ヲ爲シ其ノ辨濟ヲ有效ト解シタルハ違法ニシテ論旨ハ此ノ點ニ於テ理由アリ（大審院昭和四年オ一一五六號同五年二月一四日判決法律評論一九卷民法五三〇頁）

◎期限前ノ元利ト內入辨濟ノ充當

一〔大審院〕債權ノ內金タル金員辨濟ノ當時利息中辨濟期ニ在ラサル部分アリタルコト所論ノ如シトスルモ元本モ亦辨濟期ニ在ラサリシ事實ハ判文上明白ナルヲ以テ右金員カ元利債權ノ辨濟ニ充當セラレタル以上之ヲ以テ先ツ利息ニ充當シ其ノ殘額ヲ元本ニ充當スヘキモノナルコトハ民法第四百九十一條第一項ノ規定ニ照シ明白ナル所ナリ（大審院昭和六年オ三六八四號同七年一〇月一五日判決法學二卷五號一二四頁）

◎制限超過ノ利息ト充當ノ當否

一〔上告論旨〕原判決ハ上告人（控訴人）カ原院ニ於テ倘假ニ甲第一號證ノ消費貸借ハ成立シタリトスルモ該證契約ノ利子ハ利息制限法ニ超過スルヲ以テ控訴人カ辨濟ヲ爲シタル金額ヲ利息制限法ニ超過スル部分ニ對シ充當シタルハ失當ナル旨抗爭（原審昭和五年三月十一日附準備書面第三及同日ノ辯論調書御參照ヲ乞フ）シタルニ對シ其ノ理由ノ中段ニ「次ニ被控訴人ハ本件貸金中ニ大正十二年十二月一日ヨリ昭和四年四月十四日迄ノ間ニ計三十一回ニ合計金九千五十九圓八十三錢ノ支拂ヲ受ケタルコト及該入金二十三回目以後即大正十五年一月二十九日以後利息ヲ年一割ニ減縮シタルコトハ其ノ自認スル所ニシテ控訴人ハ只前示元金ニ對シ右減縮以前ノ利子ヲ利息制限法ノ制限ヲ超過スル日歩金四錢ノ約定利率ニ依リ計算シ充當シタルハ不當ナリト抗爭スルモ控訴人ニ於テ其ノ充當ノ方法ニ付何等反對ノ意見ヲ表示シタリト認ムヘキ事情ナキ本件ニ於テハ控訴人ハ前記入金ノ都度約定利率ニ基キ利息ノ支拂ヲナスヘキコトヲ承諾シテ支拂ヲナシタルモノト認ムヘク從テ被控訴人ニ於テ右入金ニ付約定利率ニ基ク充當ヲ爲シタレハトテ毫モ失當ニアラサルニヨリ右抗辯ハ採用スルニ足ラス」トシテ排斥セラレタリ然レトモ元利ノ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ其ノ元利何レノ部分ニ辨濟スヘキヤノ意見ヲ表示セスシテ辨濟シ債權者カ民法ノ規定ニ從ヒ先ツ利子ニ充當スルニハ利息制限法ノ許サル制限內ニ限ラルヘキモノナルヲ前揭ノ如ク判斷シタルハ舉證ノ責任ヲ轉倒シ且法律ニ違背シタル判決ニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

二〔大審院〕然レトモ約定利率ノ定メアル場合ニハ當事者ハ該

約定利率ニ依リ辨濟ナナス意思アルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ原審カ論旨ニ摘錄スル如ク判示シタルハ正當ニシテ所論ハ法定充當ナナスヘキ場合ナリトノ前提ニ立脚シテ原判決ヲ批難スルモノナルニ因リ原判旨ニ副ハサルモノトス仍テ論旨ハ之ヲ採用セス（大審院昭和五年オ一三三六號同年九月九日判決法律新聞三一七七號一〇頁・法律評論一九卷民法一二五五頁）

三〔大審院〕審按スルニ金員ノ消費貸借ニ付制限外ノ高利ヲ約シタル場合ニ於テ債務者ノ辨濟シタル金員ヲ先ツ制限外ノ利息ニ充當スル意思アリタル時ハ其辨濟金ハ先ツ制限外ノ利息ニ充當セラル可シト雖モ然レトモ其意思ナクシテ入金シタルモノハ當然之ヲ制限外ノ利息ニ充當スルヲ得サルモノトス而シテ本件ニ付原院ノ認定シタル所ニ據レハ被上告人ノ爲シタル入金ハ先ツ制限外ノ利息ニ充當スル意思ヲ以テ交付シタルモノニアラサルナリ依テ原判決カ本件ノ入金ヲ制限外ノ利息ニ充當シタルモノニ非スト判示シタルハ違法ニアラス（大審院明治四四年オ四八號同年五月一九日判決法律新聞七二五號二五頁）

四〔大審院〕原判決引用ノ第一審判決事實摘示ニ依レハ被上告人ハ本件金二千五百圓ノ債務ニ對シ大正十一年三月十日金六百十三圓五十三錢同十二年六月二十八日金五百四十五圓八錢同十四年三月二十四日金一千圓昭和二年十一月二十六日金五百八十圓ヲ支拂ヒ右金員ハ各其ノ支拂ヲ爲シタル月ノ末日迄ノ約定利率ニ依ル利息竝損害金ノ辨濟ニ充當シタリト主張シタルコト明ニシテ上告人亦其ノ利息竝損害金ハ約定利率ニ依リテ右金員ヲ以テ辨濟ニ充當シタリト爲スモノナルコト原審口頭辯論ノ全趣旨ニ依リ明ナルヲ以テ本件二千五百圓ニ對スル利息竝損害金ハ利息制限法所定ノ利率ニ依ラス約定利率ニ依リ充當計算ヲ爲ササルヘカラス猶ホ又原審ハ被上告人ニ於テ訴外三村喜男太ノ上告人ニ負擔スル金千圓ノ債務ニ付百圓ニ付一ヶ月一圓三十錢ノ割合ニ依ル利子ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約シ前示支拂金ハ右債務ノ利息竝損害金ノ支拂ニ充當セラレタルモノナルコトヲ確定シタルモノナルヲ以テ特別ナル事情ノ存セサル限リ右利息竝損害金ノ支拂モ約定利率ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト做ササルヘカラス然ルニ原審カ本件利息竝損害金ヲ利息制限法所定ノ率ニ依リ計算シ以テ充當ヲ爲シタルハ一部ハ當事者間爭ナキ事實ニ反シ一部ハ特別事情ノ存在ヲ明ニスルコトナク計算充當ヲ爲シタル違法アルモノトス（大審院昭和六年オ二九九〇號同七年四月二六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事一一九頁）

五〔大審院〕案スルニ一部辨濟カ先ツ利息制限法ノ制限ヲ超過セル利息（之ヲ元本ノ一部トシテ準消費貸借ト爲シタル場合ニ元本中ノ此ノ部分）ニ充當セラレタリト爲スニハ辨濟當時ニ於ケル辨濟者又ハ債權者ノ充當ノ指定アルカ又ハ兩者間ニ其ノ旨ノ合意アルコトヲ必要トシ此等ノ事實ナキ限リ裁判所ハ一部辨濟ヲ以テ右制限ヲ超過スル部分ニ充當セラレタリト爲スヘキニ非ス然ルニ原判決ハ右ノ如キ充當ノ指定又ハ合意アリシ事實ヲ認定セスシテ上告人ノ入金カ右制限ヲ超過セル利息ニ充當セラレタル旨判示シタルモノニシテ此ノ點ニ於テモ理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免レス（大審院昭和七年オ一三〇一號同年一〇月二八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事三〇九頁・法學二卷六號八四頁）

六　制限超過ノ利息ト辨濟ノ充當（諸法下一九八七頁）

七　制限超過ノ利息ト法定充當（本條後出）

◉制限超過ノ利息ト元本組入ノ效力（三續民四〇五條）

三　本條前出「元利債務ノ內入辨濟ト法定充當」ノ二、三

◉利息附債權ト支拂猶豫令

一〔大審院〕利息ノ約定アル債權ニ付テハ昭和二年勅令第九十六號支拂猶豫令ハ其ノ適用ナキモノトス（大審院昭和六年オ二六九八號同七年四月三〇日判決法學一卷一〇號一一二頁）

二　支拂猶豫令ト利息又ハ遲延利息（三續民四〇四條九七〇頁）

第四百九十二條　【辨濟提供ノ效果】

1 辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

◉辨濟提供ノ效果ニ關スル諸問

一　債權者ノ遲滯ト履行ノ提供（續民法一一八七頁）

二　債權者ノ遲滯ニ關スル諸問（三續民四一三條）

三　履行ノ提供ニ關スル諸問（三續民四九三條）

四　辨濟提供ノ效果（二續民四三二頁「買主ノ受領拒絕ト賣主ノ引渡義務」・續民法一一八八頁）

五　辨濟ノ提供ト提供前不履行ノ責任（續民法一一八八頁）

第四百九十三條【辨濟提供ノ方法】

1辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

◎履行ノ提供ニ關スル諸問

一　本條ノ適用ト第四一三條トノ關係（本條後出一三五一頁）
二　履行提供ノ意義及實例（本條後出一三五一頁）
三　現實ノ提供ト取引ノ通念及實驗則（本條後出一三五一頁）
四　債務ノ本旨ニ從フ履行ノ提供（本條後出一三五三頁）
五　期限前ノ辨濟提供ト債權者ノ遲滯（續民法一一九三頁）
六　賣主勝手渡ナル特約ノ解釋（二續民五八六頁）
七　一定ノ品質數量ノ提供ト一部不適合（本條後出一三五三頁）
八　債務ノ一部ニ對スル履行ノ提供（本條後出一三五六頁）
九　數個ノ債務ト一個ノ履行提供（二續民五七八頁）
一〇　數名共同ノ辨濟ノ提供（本條後出一三五六頁）
一一　準禁治産者ニ對スル辨濟提供ノ效力（二續民一四頁）
一二　相手方ノ不在又ハ不明ト履行ノ提供（本條後出一三五七頁）
一三　同時履行ノ抗辯ト辨濟ノ提供（續民法一二一七頁）

一四　履行不能ノ賠償請求ト履行ノ提供（三續民四一五條一〇〇九頁）
一五　隣地者ノ荷爲替賣買ト履行ノ提供（本條後出一三五八頁）
一六　賃料支拂ノ數日ノ遲延ト債務ノ本旨（本條後出一三五四頁）
一七　減額請求ニ基ク賃料ノ提供（三續民二六六條七二五頁「減額地代ノ不受領ト債權者ノ遲滯」參看）
一八　醫師ト債務ノ本旨ニ從フ治療（本條後出一三五五頁）
一九　株式ノ荷爲替賣買ト履行ノ提供（本條後出一三五九頁）
二〇　目的物ノ價格變動ト履行ノ提供（本條後出一三五九頁）
二一　價格激動ノ株式賣買ト履行ノ提供（本條後出一三六〇頁）
二二　金錢債務ト小切手ノ提供（本條後出一三六二頁）
二三　支拂場所以外ノ履行ノ提供（三續民三四九條「擔保品沒收ノ特約ノ解釋」一ノ3參看）
二四　送金債務ト辨濟方法（二續民五八一頁）
二五　爲替券ノ送付ト辨濟ノ效力（三續民四七四條一三〇六頁）
二六　有價證券ニ依ル辨濟ノ提供（二續民五八〇頁）
二七　豫メ受領ヲ拒ミタル時ト履行ノ提供（二續民五八三頁）
二八　受領拒絕ノ事實認定ノ當否（三續民四九四條一三六九頁）
二九　相手方不履行ノ明瞭ト履行ノ提供（二續民五八一頁）
三〇　相手方不履行ノ明瞭ト言語上ノ提供（二續民五八三頁）
三一　辨濟ノ準備ニ關スル實例（本條後出一三六四頁）

三二　履行ノ催告ニ關スル諸問（三續民五四一條）

餘錄

1引渡ニ關スル諸問（三續民一七八條五四〇頁）
2辨濟スヘキ通貨ニ關スル諸問（三續民四〇二條九六四頁）

◎本條ノ適用ト第四一三條トノ關係

一〔大審院〕被上告人カ賣買契約解除損害賠償請求ノ訴訟ヲ上告人ニ對シテ提起シタルコトハ原判決文ニ明カナリ然レトモ右提起ハ被上告人ニ契約履行ノ意思ナキコト卽チ豫メ上告人ノ提供ヲ受領セサルノ意思ヲ表明シタルニ止マル債權者豫メ履行ヲ受クルコトヲ拒ムノ意思ヲ表示シタル場合ト同一ノ效力ヲ生スヘキニアラス只タ此場合ニ於テハ提供ハ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要セスシテ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルコトナルノミ（民法第四百九十三條）然ルニ上告人ハ第四百十三條ヲ引用シテ論スル所アルモ該法條ハ債務者カ現實ニ債務ノ履行ヲ提供シタルトキ債權者カ之ヲ受クルコトヲ拒ミタル場合ニ付テノ規定ニシテ提供ナキ場合ニ適用スヘキモノニアラス（大審院明治三五年オ三一八號同年一一月二八日判決法律新聞一二一號二六頁）

二　續民法一一八七頁「債權者ノ遲滯ト履行ノ提供」ノ四、五

◎債權者ノ遲滯ニ關スル諸問（三續民四一三條）

◎履行提供ノ意義及實例

一　履行ノ提供ノ意義（二續民四三二頁）
二　履行ノ提供ノ意義及要件（二續民五七六頁）
三　現實ノ提供ノ意義（二續民五七六頁）
四　現實ノ提供ト取引ノ通念及實驗則（本條後出一三五一頁）
五　履行ノ提供ト信義誠實ノ原則（二續民五七六頁）
六　債權ノ實行ト取引上ノ信義（三續民四一二條九八二頁）

◎現實ノ提供ト取引ノ通念及實驗則

一〔大審院〕1按スルニ同時ニ履行スヘキ債務ヲ負擔スル雙務契約ノ當事者雙方カ其ノ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲ遲滯ニ付スルニハ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告スルコトヲ要スルモノニシテ此ノ手續ヲ履踐シ相手方ヲ遲滯ニ付シタル後ニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得サルコトハ當院判例ノ示ス所ナリト雖如何ナル場合ニ於テ債務ノ履行ノ提供アリトヲ爲スヘキヤハ取引ノ通念並實驗則ヲ參酌シテ之ヲ判斷スヘキモノトス履行ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲スヲ原則トスルコトハ民法第四百九十三條ノ規定ニ依リ明ニシテ現實ノ提供

卽チ所謂事實上ノ提供トハ債務者カ履行ノ爲ニ必要ナル一切ノ行爲チ完了スルコトチ謂フモノナレハ金錢債務ニ在リテハ債務者ハ支拂チ爲スヘキ金錢チ履行ノ場所ニ持參シテ何時ニテモ之カ支拂チ爲シ得ヘキ準備チ爲スコトチ要スルモノトス然レトモ商人カ商品買入ノ契約チ爲スニ當リテハ轉賣ノ目的チ以テ之チ爲スチ通常トスルモノナレハ其ノ買入ノ契約チ爲シタル目的物ニ付既ニ轉買主定マリ商人タル買主カ其ノ轉買主ト同行シテ賣買契約履行ノ場所ニ到リタル場合ニ於テ轉買主カ其ノ轉買ノ爲ニスル代金チ携帶シ當初ノ賣主ヨリ履行ノ提供アリタランニハ直ニ之チ買主卽チ轉賣主ニ交付シ買主チシテ之チ賣主ニ支拂ハシムヘキ準備調ヒタルトキハ縱令買主自己ニ於テ代金チ携帶セサルモ買主ハ代金支拂ノ債務ニ付履行ノ提供チ爲シタルモノト解スルチ相當トス

2 原審ノ認定シタル事實ニ依レハ上告人ハ米穀商ニシテ（原判決理由ニハ米穀商ナリトノ明記ナキモ原院カ上告人ハ米穀取引チナセル旨チ供述セル證人大倉彦太郎ノ證言チ證據ニ採用シタルニ依リテ之チ觀レハ上告人カ米穀商ナルコトチ判斷シタルモノナルコトチ看取スルニ難カラス）大正十三年度玄米一俵四斗入二百五十俵チ代金一石ニ付二十九圓ニテ被上告人ヨリ買受クヘキ契約チ爲シ其ノ受渡場所チ空知郡瀧川町營業倉庫及瀧川驛トナシ大正十三年十一月三十日迄ニ受渡場所ニテ現品ノ受渡チナスヘク代金ハ同所ニ於テ現品ノ引渡ト同時ニ支拂チ爲スヘキコトチ約シタリ而シテ被上告人ハ右履行期日ニ目的物タル玄米ノ引渡チ爲ササリシチ以テ上告人ハ同年十二月二日被上告人ニ對シ同年同月五日限履行チ爲スヘキコトチ催告シ同月五日右受渡場所ニ赴キタリ其ノ際上告人ハ代金チ持參セサリシモ右玄米チ上告人ヨリ轉買シタル訴外畑貫次ノ代理人大倉彦太郎チ同行セシメタルモノニシテ同人ハ目的物タル玄米ト引換ニ代金チ支拂フ目的チ以テ金六千餘圓チ携帶シタルモノトス斯ル場合ニ於テハ反證ナキ限上告人ニ於テ轉買主ノ代理人大倉彦太郎ヨリ賣買代金チ受取リ被上告人ニ支拂チ爲スヘキ準備チ爲シタルモノト認メ得ヘク卽賣買代金ニ付履行ノ提供チ爲シタルモノト謂ヒ得ヘキモノトス然ルニ原院カ「之ニ依リテハ被控訴人（上告人）ハ同證人（大倉彦太郎）ノ携帶ニ係ル金圓チ何等ノ故障ナク隨意ニ控訴人（被上告人）ニ交付シ得ヘキ地位ニ於テ該金圓チ自己ノ支配ニ置キタリト云フコトチ得ス云々被控訴人ハ代金チ現實ニ提供シテ履行チ請求シタリト云フコトチ得ス」ト判示シ因テ以テ被上告人ニ履行遲滯ノ責ナキカ故ニ上告人ノ本件契約解除ハ其ノ效ナシト判定シタルハ提供ノ有無ノ事實チ認定スルニ當リ取引ノ通念及實驗則チ斟酌セサリシ不法アルモノト謂ハサルチ得ス（大審院昭和四年オ一〇八七號同五年四月七日判決法律新聞三一四三號七頁・法律評論一九卷民法八五九頁）

○右二ノ批評—法學博士水口吉藏氏法律論叢九卷九號一一二頁・法律評論一九卷民法一一〇五頁

○同　上—法學士末川博氏法學論叢二四卷六號一五一頁・法律評論一九卷民法一二四五頁

◎債務ノ本旨ニ從フ履行ノ提供

一〔大審院〕按スルニ原判決ノ確定スルトコロニ依レハ賣主タル上告人ハ特約ニ違背シ荷爲替附ニテ本訴ノ物品チ買主タル被上告人ニ送付シタル處被上告人ヨリ上告人ニ對シ同物品ノ卸賃ト配達賃合計七圓四十錢チ送リ來ルニ於テハ手形金チ支拂ヒ物品チ受領スヘキ旨申入レタルニ上告人ハ金五圓ノミ送付シタルモノナリト謂フニ在リ叙上認定ノ事實ニ依レハ被上告人ハ當該物品ノ卸賃ト配達料トチ上告人ニ於テ負擔スルコトチ條件トシテ本件荷爲替ニヨル約定物品ノ提供チ承諾シタルモノト解スヘク而シテ上告人カ被上告人ノ前陳ノ申入ニ對シ金五圓チ送付シ來レル所以ハ卸賃ト配達料トカ同金額ニテ足ルモノト思料シ被上告人ノ申込ノ金額チ認メサルノ消息ハ必スシモ之チ窺ヒ得サルニ非サルチ以テ右卸賃ト配達料トカ合計七圓四十錢チ要スルヤ或ハ又上告人ノ送付セル金五圓チ以テ十分ナルカチ判斷スルニ非スンハ上告人ノ本件荷爲替ニ依ル履行ノ提供ハ結局適法ニ歸シタルモノナルヤ否チ斷スルニ由ナキモノト謂ハサル可ラス然ルニ原審ハ此ノ點ニ付テハ毫モ考慮チ廻ラスコトナク漫然被上告人ノ申入レタル七圓四十錢全額ノ送付ナカリシ故チ以テ上告人ノ請求チ排斥シ去リタルハ到底審理不盡ノ違法アルチ免レサルモノトス（大審院昭和六年オ三一〇〇號同七年五月一〇日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事一三一頁）

二　債務ノ本旨ニ副ハサル履行カ（續民法一〇七九頁）

三　一定ノ品質數量ノ提供ト一部不適合（本條後出一三五三頁）

四　著荷ノ遲延ト契約本旨トノ關係（三續民四一五條一〇〇〇頁）

五　賃料支拂ノ數日ノ遲延ト債務ノ本旨（本條後出一三五四頁）

六　醫師ト債務ノ本旨ニ從フ治療（本條後出一三五五頁）

七　本條後出一三五六頁「債務ノ一部ニ對スル履行ノ提供」以下ノ各問參看

◎一定ノ品質數量ノ提供ト一部不適合

一〔大審院〕1 賣買契約ニ於テ一定ノ品質チ有スル一定數量ノ物品チ以テ其ノ目的物ト爲スコトチ約定シタル場合ニ於テ賣主カ其ノ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ提供チ爲シタリトテ爲スニハ右約旨ニ適合スル品質チ有スル物品チ右約旨ニ適合スル

數量ニ於テ提供スルコトヲ要スルコト勿論ナルカ故ニ數量ニ於テハ約旨ニ適合スル物品ヲ提供スルモ其ノ提供シタル物品ノ全部カ約旨ニ適合スル品質ヲ有スルモノニアラサル以上ハ該提供ハ全體トシテ債務ノ本質ニ從ヒタル履行ノ提供ト爲スヲ得ス從テ該物品中約旨ニ適合スルモノアレハトテ當事者ノ特別ノ意思表示ナキ限リ該部分ヲ分離シ之ニ付債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ提供アリタリト爲スヲ得サルヤ明ナリ

2今原判決ノ認定シタル所ニ依レハ上告人ハ被上告人先代ニ對シ品質良好新鮮ニシテ果形亦普通品ヨリ大ナル夏蜜柑百四十籠乃至二百籠ヲ賣渡スコトヲ約シタルニ拘ラス該契約ノ履行トシテ送付シタル百五十八籠ハ果形小ニシテ右約旨ニ適合セサルモノナリシト云フニ在ルヲ以テ該百五十八籠ノ提供ハ全體トシテ右賣買契約上ノ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ提供ト爲スヲ得サルモノニシテ縱令該百五十八籠中ニ所論ノ如ク右約旨ニ適合スルモノアリタレハトテ之ニ付當事者ノ特別ノ意思表示アリトノ主張ナキ本件ニ於テハ其ノ部分ニ付右債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ提供アリタルモノト謂フヲ得サルヤ明ナリ而シテ之ニ反スル所論商慣習存ストノコトハ原審ニ於テ上告人ノ主張立證セサリシ處ナルヲ以テ原審カ前叙認定事實ニ基キ前叙ト同趣旨ノ理由ノ下ニ上告人ノ右百五十八籠ノ送付ヲ以テ全體トシテ本件賣買契約上ノ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ提供ト爲スヲ得サルモノナリト判定シタルハ至當ニシテ何等違法ノ點アルヲ見ス又原審ハ所論ノ如ク右百五十八籠中七十籠ハ約旨ニ適合スルモノナリシモ之ヲ以テシテハ本件契約ハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハスト爲シ依テ以テ如上ノ判斷ヲ爲シタルモノニ非サルコト原判文上明白ナルヲ以テ原審カ斯ノ如キ點ニ付何等説明スル所ナカリシハ寧ロ當然ナリト謂フヘク之ヲ以テ違法ト爲スヲ得サルヤ勿論ナリ（大審院昭和三年オ九六〇號同年一二月一二日判決法律評論一八卷民法三四九頁）

◎賃料支拂ノ數日ノ遲延ト債務ノ本旨

一〔熊本區〕原告カ昭和二年四月六日熊本市花畑町十番地宅地二坪五合ヲ賃料一ケ月金八圓毎月二十五日拂其他原告主張ノ如キ約旨ヲ以テ被告ニ賃貸シタルトコロ被告カ昭和五年七月分ノ賃料ヲ同月二十五日迄ニ支拂ハサリシコト及原告カ同月二十九日被告ニ對シ右賃貸借契約解除ノ通知ヲ爲シタルコトハ孰レモ當事者間爭ナキトコロニシテ成立ニ爭ナキ乙第一號證ニ依レハ被告ハ賃貸借契約成立當時ヨリ賃料ハ必スシモ各月二十五日迄ニ支拂ハス月末若クハ翌月初頃迄ニ支拂ヒ原告亦之ヲ受領シテ何等異議ナカリシ事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ本件當事者間ニ於テハ毎月二十五日ノ賃料支拂時期ハ必スシモ同日迄ニ賃料ヲ支拂ハサルトキハ直ニ本件賃貸借契約ヲ解除シ得ヘキカ如キ嚴格ナルモノニ非サルモノナリシコトヲ推知シ得ヘキノミナラス賃料支拂義務ノ如キハ其性質上數日其支拂ヲ遲レタレハトテ債務ノ本旨ニ違ヒタルモノト謂フヘキニ非サレハ（東京區裁判所大正十二年二月六日判決法律評論十二卷民法一〇四頁參照）同月三十一日被告カ同月分ノ賃料ヲ支拂ヒ原告ニ於テ之ヲ受領シタルコトハ當事者間ノ爭ナキトコロナレハ被告ハ本件賃料ノ支拂ニ付何等遲滯ノ責ナキモノト判定セサルヲ得ス然ラハ原告ノ爲シタル本件賃貸借契約解除ノ意思表示ハ何等其效ナキモノニシテ從テ其契約解除ヲ前提トスル本訴土地明渡請求ハ既ニ失當タルヲ免レス（熊本區裁判所昭和五年ハ一三二五號判決月日不詳法律新聞三二一四號七頁・法律評論二〇卷民法二七六頁）

二　右一ノ引用判例―二續民五八八頁「支拂遲延ノ賃料ト供託ノ適否」

◎醫師ト債務ノ本旨ニ從フ治療

一〔東京地〕1被控訴人カ昭和二年二月一日ヨリ同年三月四日ニ亘リ控訴人市川いねニ對シ同人ノ擴張性漿液壁卵巢嚢腫ノ治療ノ爲メ一週二回或ハ隔日若クハ毎日鹽化アドレナリン一萬乃至一萬五千倍ノ溶液〇、五瓦乃至一、〇瓦ノ注射ヲ爲シ且時々硫若劑ヲ内服セシメタル事實控訴人等カ右治療代金ハ連帶シテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約シタル事實竝被控訴人カ現ニ施行シタル本件治療代金カ金九十二圓二十五錢ニ相當スル事實ハ當事者間爭ナシ

2控訴人等ハ被控訴人ハ控訴人市川ノ本件症狀ニ適應スヘキ治療ヲ爲スヘキ約旨ナルニ拘ラス被控訴人カ施行シタル本件治療ハ右症狀ニ對シ何等ノ效果ナク而モ被控訴人ハ此事實ヲ知リ乍ラ爲シタルモノニシテ假ニ之ヲ知ラサリシトスルモ其效果ナキコトハ一般ニ醫師トシテ容易ニ知リ得ヘキニ拘ラス之ニ注意セスシテ爲シタルモノナルヲ以テ畢竟被控訴人ハ未タ債務ノ本旨ニ從ヒタル治療ヲ爲シタルモノニ非サルヲ以テ控訴人等ハ右治療代金ヲ支拂フヘキ義務ナキ旨主張スルニ付按スルニ凡ソ醫師ニ對シ疾患ノ診療ヲ依頼スルハ依頼者ニ於テ特段ノ方法ヲ指定スル場合ハ格別然ラサルトキハ當該醫師ノ醫學的知識ト技倆ヲ信頼シ該醫師カ當該疾患ニ適應スヘキ治療方法ナリト信スル方法ニ從ヒ之ヲ爲スヘキコトヲ依頼スルヲ通例トス而シテ右通例ノ場合ニ在リテハ醫師カ其醫學上ノ知識經驗技倆等ニ訴ヘテ當該疾患ニ適應スヘキ方法ナリト信シテ診療ヲ施行スルニ於テハ假令該診療方法カ結果ニ於テ何等當該疾患ノ治癒ニ效果ナクシテ終リタリトスルモ此點ニ付醫師トシテ甚タシク注意ヲ缺如シタルニ因ルニアラサル限

リ醫師トシテハ疾患診療ノ依頼ニ對シ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ履行ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ控訴人等カ被控訴人ニ對シ爲シタル控訴人市川ノ本件疾患診療ノ依頼カ前揭ノ通例ノ場合ニアラサルモノト認ムヘキ何等ノ資料ナキヲ以テ本件モ亦叙上説示ノ理由ニ依リ被控訴人カ其知識經驗技倆ニ訴ヘ控訴人市川ノ本件疾患ノ治療ニ適當ナリト信シテ前揭ノ治療方法ヲ施行シタルニ於テハ假令該方法カ控訴人市川ヲシテ治癒セシムルニ足ラサリシトスルモ被控訴人ニ於テ醫師トシテノ不注意ノ責ムヘキ廉ナキ限リ被控訴人ハ其債務ノ本旨ニ從ヒ之ヲ履行シタルモノト認ムヘキモノトス

3而シテ原審ニ於ケル鑑定人川添正道ノ鑑定ノ結果竝當審ニ於ケル同鑑定人ノ訊問ノ結果ヲ綜合スレハ被控訴人カ控訴人市川ノ擴張性漿液壁卵巢嚢腫ノ治療方法トシテ爲シタル鹽化アドレナリンノ注射ハ未タ右疾患ニ對スル治療方法トシテ醫學界ノ一般ニ認メラレタルモノニ非スト雖モ該藥品ノ注射ハ血管ノ收縮ニ因リテ下腹部ニ貧血ヲ生セシメ卵巢嚢腫ノ增大ヲ抑止スル效果アルコトヲ否ミ難ク又硫若劑ノ服用ハ血管系神經系ニ及ホス作用ニ因リ右疾患ニ及ホス治癒ノ效果絶無ニアラス從テ被控訴人ノ爲シタル本件治療方法ハ被控訴人トシテハ其效果經驗上控訴人市川ノ疾患ニ對シ治癒ノ效果アルモノト信シテ之ヲ爲シタルモノナルコトヲ推知スルニ足ルヲ以テ被控訴人ハ控訴人等ノ本件依頼ニ對シ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ履行シタルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ控訴人等ハ被控訴人ニ對シ連帶シテ右治療代金九十二圓二十五錢ノ支拂ヲ爲スヘキ義務アルコト勿論ナルヲ以テ原判決ハ洵ニ相當ニシテ控訴人等ノ本件控訴ハ其理由ナシ（東京地方裁判所昭和五年レ七二八號同六年三月一三日判決法律新聞三二四九號一六頁）

◎債務ノ一部ニ對スル履行ノ提供

一〔東京地〕賃料カ一ケ月金百三十五圓ナルコト前認定ノ如クナル以上一ケ月金百圓ノ割合ニ依ル右金四百圓ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供ト爲シ難キヲ以テ之ヲ前提トスル右供託ハ何等其ノ效力ナキモノトス（東京地方裁判所昭和七年ヲ一五五九號同年一二月二六日判決法律評論二二卷民法四五二頁）

二　債務ノ一部ニ對スル提供及供託（二續民五七八頁「一部提供ノ效力」ノ二參看）

◎債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力（三續民四九四條）

◎數名共同ノ辨濟ノ提供

一〔一關區〕共同シテ爲シタル辨濟ノ提供ハ之ヲ一部辨濟ノ集合ト見ルヘカラサルコト勿論ニシテ債權者ニ於テ受領ヲ拒絶シタル場合ニ於テ辨濟ノ爲メ供託ハ右提供者共同ニテ之ヲ爲スモ將又單獨ニテ爲スモ有效ナリト解スルヲ相當トスヘキヲ以テ右金員（全額）ヲ申立人單獨ニテ昭和八年五月二十日供託シタルコト當事者間爭ナキ本件ニ於テハ右供託ノ適法ナルコト論ヲ俟タス（一關區裁判所昭和八年サ一〇八號同年七月三一日決定法律新聞三六四〇號九頁・法律新報三五三號二七頁）

◎相手方ノ不在又ハ不明ト履行ノ提供

一〔朝鮮高〕1案スルニ債權者ノ住所カ履行ノ場所ナル場合ニ住所ヲ移轉シタル後他人ノ住所ヲ恰モ之ニ寄寓スルカ如ク肩書トシテ履行ノ催告書ヲ發シタルトキハ其ノ場所ニ於テ履行ノ提供ヲ受クル意思ノ表示アルモノト解シ得ヘク債權者カ之ニ寄寓シタルコトナカリシトキト雖其ノ場所ニ於ケル履行ノ提供ハ履行地ニ於ケル提供トシテ效力アルモノト謂ハサルヘカラス加之不動產ノ賣買ニ於テ買主カ其ノ住居ヲ移轉シテ所在ヲ秘スルトキハ賣主ハ履行ノ提供ヲナスコト能ハス賣主ノ義務トカ同時履行ニ在ル限リ賣主ハ買主ヲ遲滯ニ付スルコトヲ得ス契約解除ノ意思表示スラモ之ヲ到達セシムルニ途ナキヲ以テ買主ノ履行ノ到底期待シ難キ狀況ニ在ルトキニ於テモ賣主ハ賣買ヲ約シタル不動產ヲ他ニ賣却スルコトヲ得ス若モ他ニ賣却スルトキハ自ラ債務不履行ノ責ニ任セサルヘカラサル結果トナル然レトモ斯ノ如キハ賣主ニ對シ頗ル酷ニシテ雙務契約ノ當事者雙方ノ利益ヲ均等ニ保護セントスル法ノ精神ニ悖ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ賣主ノ過失ナクシテ履行ノ提供ヲナスコト能ハス且社會ノ通念ニ從テ買主ニ履行ノ意思ナキモノト推測シ得ヘキ狀況ノ存スルトキハ賣主カ賣買ヲ解除スルコトナクシテ其ノ目的物ヲ處分スルモ後日買主ハ賣主ノ不履行ヲ責ムルコト能ハサルモノト解スルヲ妥當ナリトス

2然ラハ原判決カ被告ノ履行ノ提供ヲ假定シ郵便物ノ肩書ヲ金周浩方トシテノ原告ヨリノ催告ニ基キ被告カ金周浩方ニ於テ履行ノ提供ヲナシタリトスルモ當時金周浩方カ原告ノ住所若クハ居所ニ非サルコト明ナルカ故ニ提供ノ效力ナシト判示セルハ失當ナルノミナラス原告ハ住居ヲ移轉シ其ノ所在ヲ被告ニ秘シ自ラ履行ノ意思ナキニ拘ラス被告ヲシテ履行ノ提供ヲ不能ナラシメ債務不履行ノ責任ヲ被告ニ嫁センストスルモノナル旨ノ被告ノ抗辯ニ對シ判示スル處ナク唯被告カ賣買ノ目的物ヲ他ニ賣却シテ履行ヲ不能ナラシメタルコトヲ以テ被告ニ債務ノ不履行アリト爲セルハ理由不備ノ違法アルモノトス（朝鮮高等法院昭和八年民上九五號同年五月一二日判決司法協會雜誌一二卷九號二〇九頁）

二　相手方ノ不在又ハ不出頭ト履行ノ提供（二續民五七六頁）

◎隔地者ノ荷爲替賣買ト履行ノ提供

一〔大審院〕1原審ノ確定シタル事實ニ依レハ大正十五年中當事者間ニ係爭米穀ノ賣買契約成立シ賣主タル被上告人ハ賣買物件ヲ荷爲替附ニテ到達地取扱店タル中越伏木驛山ト千田運送店ニ宛テ發送シ買主タル上告人ハ爲替金額ヲ支拂ヒタル上訴外株式會社津澤倉庫運輸部津澤運送店主任中島英和夫ノ發行ニ係リ荷送人麾柄精米會社代人中村彌市宛ノ記名指圖式貨物引換證ニシテ裏書ナキモノ（甲第一號證）ノ交付ヲ受ケタル事實竝係爭米穀ハ大正十五年十二月一、二日頃前示到達地取扱店タル千田運送店ニ到著シ同月六日當時ニハ同店ニ現存シ居タル形跡アルモ昭和二年一月十日頃ニハ既ニ同店ニハ存在セサルニ至レリト云フニ在リ

2然リ而シテ賣主カ買主ニ對シ賣買物件ノ引渡ヲ爲スニ當リ買主カ隔地者ナルトキハ賣主ニ於テ買主カ通常ノ狀態ニ於テ容易ニ之カ引渡ヲ受クルコトヲ得ヘキ場所ニ之ヲ移シ且買主カ同シク通常ノ狀態ニ於テ容易ニ之カ引渡ヲ受クヘキ方法ヲ講スルニ非サレハ賣主ノ義務ハ履行セラレタルモノト云フコトヲ得サルヲ以テ本件ノ事實關係ニ於テハ賣主タル被上告人ハ買主タル上告人ノ爲ニ貨物引換證（甲第一號證）ニ裏書ヲ爲スコトヲ要スヘク若假ニ裏書ナキ貨物引換證ノ所持人ニ對シテモ貨物ノ引渡ヲ爲スカ如キ事實上ノ特別ノ風習アルモノトセハ到達地取扱店ニ於テ裏書ナキ貨物引換證ノ所持人ノミナラス全然貨物引換證ヲ所持セサル者ニ對シテモ貨物ノ引渡ヲ爲スカ如キ亂雜ノ取扱ヲ爲スコトナキヲ保セサルヘキヲ以テ少クトモ無權利者ノ引取ヲ防止スルニ足ル相當ノ手段ヲ講セサルヘカラサルモノト解スルヲ妥當トスヘシサレハ被上告人ニ於テ叙上ノ手續ヲ執ラサリシ場合ニ於テハ上告人ニ於テ特ニ取引上相當視スヘキ期間ヲ超エテ引取ヲ遷延シ又ハ同シク取引上相當視スヘキ引取ノ方法ヲ懈怠シタルカ如キ別段ノ事情ノ存セサル限被上告人ハ未タ其ノ義務ヲ履行シタルモノト云フコトヲ得ス然ルニ原審カ被上告人ニ於テ叙上ノ手續ヲ執リタル事實ヲ確定セス又上告人ニ前示ノ如キ遷延又ハ懈怠ノ事實アリタルコトヲ判定セスシテ被上告人ノ義務カ完全ニ履行セラレタルモノト判斷シタルハ審理不盡ノ違法アルヲ免レス（大審院昭和四年オ一七三五號同五年七月三日判決法律新聞三一六三號一〇頁・法律評論一九卷民法一一五三頁）

二　貨物引換證ニ依ル履行ノ提供（二續民五七九頁）

○右二ノ批評—法學博士水口吉藏氏法律論叢八卷三號九四頁・法律評論一八卷商法一八四頁

三　株式ノ荷爲替賣買ト履行ノ提供（次問）

◎株式ノ荷爲替賣買ト履行ノ提供

一〔大阪地〕本件株式ノ賣買ニ於テハ履行場所ヲ京都府下新舞鶴町株式會社安田銀行新舞鶴支店ト定メ賣主タル右控訴人ニ於テ同銀行ニ宛テ荷爲替ヲ取組ミ該荷爲替附ニテ賣買物件タル株式ヲ手附金ヲ受取ルト同時ニ右履行場所ニ送付スヘク買主タル控訴人ハ右銀行ニ於テ右爲替手形金ノ支拂ヲ爲シテ現品ノ引渡ヲ受クヘキ旨ヲ約シタルモノナルコトハ前段認定ノ如クナルヲ以テ株式引渡ト之カ代金支拂トハ同時履行ノ關係ニ在リト謂フヘク而モ右說示ノ如ク本件ニ於テハ控訴人ノ債務タル代金支拂義務履行ニ付債權者タル被控訴人ノ荷爲替ヲ發行シテ之ヲ賣買物件タル株式ト共ニ右履行場所ニ送付スル行爲ヲ要スルモノナルヲ以テ控訴人カ被控訴人ノ株式引渡義務不履行ヲ理由トシテ契約ヲ解除セントセハ少クトモ自己ノ債務タル代金支拂ノ準備ヲナシ之ヲ被控訴人ニ通知シテ其ノ受領ヲ催告シ以テ被控訴人ヲ遲滯ニ付セサルヘカラサルモノトス然ルニ控訴人ニ於テ事玆ニ出テサリシコトハ自ラ供述スルトコロニシテ控訴人ハ若シ代金ノ提供又ハ履行準備ノ通知ヲ要スルモノトセハ當時控訴人ハ履行場所タル前記銀行ニ於テ金四千圓ノ預金債權ヲ有シ居タルノミナラス何時ニテモ支拂ニ應スヘキコトハ本件契約當初被控訴人ニ通知シアリ被控訴人ニ於テ之ヲ熟知シ居リタルトコロナレハ履行請求ノ都度履行ノ準備アル事實ヲ告知スルヲ要セサル旨主張スルモ縱令履行場所カ銀行タル場合契約當初履行期日ニ支拂代金ニ充當スルニ十分ナル預金ヲ同銀行ニ有スヘキコトヲ豫メ約シ偶々履行期日ニ該預金ノ存在シタレハトテ現ニ履行ノ時ニ當リ控訴人ニ於テ自己ノ債務ノ履行ニ付爲スヘキ一切ノ行爲ヲ完了シ履行準備ノ成立シタル事實ソノモノヲ債權者タル被控訴人ニ於テ認識シ得ル狀態ニ置クニ非レハ被控訴人ヲ遲滯ニ付スルノ效ナキコトハ多言ヲ要セサルヲ以テ控訴人ノ爲シタル本件株式引渡ノ催告及契約解除ノ意思表示ハ其ノ效力ヲ生セサルモノト謂ハサルヘカラス（大阪地方裁判所昭和五年レ三九四號同年一二月九日判決法律新聞三二一七號七頁・法律評論二〇卷民法五六五頁）

◎目的物ノ價格變動ト履行ノ提供

一〔大審院〕1原判決ノ認定スル所ニ依レハ本件強制執行ノ債務名義タル釧路區裁判所昭和四年（ハ）第二六四號木材返還請求事件ノ確定判決（甲第四號證）ノ主文ニハ被告（本件上告人）ハ原告（本件被上告人）ニ對シ松丸太風倒枯損木二百石ヲ返還スヘシ若シ右物件ヲ返還スルコト能ハサルトキハ金六百四十圓ヲ支拂フヘシ云々ト記載アリテ其ノ判決ノ趣旨ハ右

松丸太風倒枯損木ヲ不特定物トシテ其ノ判決言渡當時昭和五年二月頃（判決確定當時モ同シ）ノ價格ヲ六百四十圓ト認定シテ其ノ引渡ヲ命シ更ニ右木材ノ引渡カ履行不能トナルヘキ場合ニ付之ニ代ルヘキ損害賠償トシテ金六百四十圓ノ支拂ヲ命シタルモノナルコト明ナリトス然ラハ則チ右木材引渡ノ判決ハ其ノ判決當時二百石ニ付六百四十圓ノ價格アリタル品質ヲ有スル松丸太風倒枯損木ノ右數量ノ引渡ヲ命シタルモノナレハ原判決認定ノ如ク其ノ後昭和五年八月ニ至リ木材ノ價格下落シタリトテ右判決ニ依リ認メラレタル給付ノ內容ニ變更ヲ生スヘキニ非スシテ上告人ハ該判決當時ニ於ケルト同種類品質數量ノ松丸太風倒枯損木ノ引渡ヲ爲スヲ以テ足レリトスヘキモノナルコト疑ナク下落當時ノ價格ニ依リ換算シタル六百四十圓相當ノ品質ヲ有スル木材又ハ其ノ價格ニ達スヘキ數量ノ木材ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フモノニ非ス（判決後ノ履行遲延ニ因リテ生スル損害ニ付テハ該判決ノ關スル所ニ非ス）

2然ルニ上告人（被控訴人原告）カ原審ニ於テ昭和五年八月該判決ノ趣旨ニ適合シタル木材ヲ提供シタルニ拘ラス被上告人カ換價金六百四十圓ニ付强制執行ヲ爲シタルハ不當ナリト主張シタルニ對シ原裁判所カ上告人ハ判決言渡及其ノ確定當時（昭和五年二月）ノ價格ニ依リ百石ニ付三百三十圓ニ相當スル松丸太風倒枯損木二百石ヲ釧路天寧驛ニ於テ引渡ノ準備ヲ整ヘ立會寸檢ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ爲シ訴外雜賀榮治ニ其ノ保管ヲ託シタル事實ヲ認定シナカラ昭和五年八月頃ニ於テハ右木材ハ百石ニ付二百二十圓ニ下落シタルヲ以テ須ク此ノ價格ニ依リ算定シタル品質數量ノ木材ノ提供ヲ爲スヘク昭和五年二月頃ノ價格ニ依リ算定シタル木材ノ提供ヲ爲スモ被上告人ニ於テ異議ナク之ヲ受領スルニ非サル限リ債務ノ本旨ニ適シタル履行ノ提供ト謂フヲ得サル旨判示シ因テ以テ換價金六百四十圓ニ付爲シタル强制執行ハ許スヘキモノナリト判定シタルハ前記判決ノ趣旨ヲ誤解シタル不法アルモノトス（大審院昭和六年オ二六一六號同七年六月三〇日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二〇三頁）

二　價格激動ノ株式賣買ト履行ノ提供（本條後出）

◎價格激動ノ株式賣買ト履行ノ提供

一〔大審院〕1原判決ヲ觀ルニ原審ハ昭和四年十月十五日株式賣買業者タル被上告人ハ賣主トナリ上告人ハ買主トナリ日營漁業株式會社株式五十株ノ賣買契約ヲ締結シ「其株式引渡ノ時間ニ付テハ別段ノ定メヲ爲サス被上告人ハ直チニ他ヨリ買受ケテ之ヲ上告人ニ交付スルト同時ニ代金ノ支拂ヲ受クヘキ約定」ナリシコト右契約ノ締結アリタル地方ニハ株式賣買業者ト注文客トノ間ニ株式ノ賣買契約成立シ賣主ヨリ其株式ヲ提供シタルニ拘ラス買主之ヲ受領シ當該株式ニシテ價格ノ騰落甚シキモノナルトキハ賣主ハ卽時賣買契約ヲ解除シ得ヘキ商慣習アリ當事者ハ右契約締結ノ際之ニ依ルノ意思アリタルコト前記賣買ノ目的物タル日魯漁業株式會社株式ハ價格ノ騰落甚シキモノナルコト及被上告人ハ前記賣買契約締結後直チニ大阪市ナル取引店ニ契約ノ目的物タル右株式ヲ注文シ前同年十一月十五日其送付ヲ受ケ卽日之ヲ被上告人ニ提供シ代金支拂ヲ求メタルニ上告人ハ之ニ應セサリシニ依リ被上告人ハ卽日契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ認定シタル上前記賣買契約ハ被上告人ノ爲シタル前記解除ノ意思表示ニ依リテ適法ニ解除セラレタリト爲シ以テ該解除ニ因ル損害ノ賠償ヲ上告人ニ命シタルモノナルコト明白ナリ但原審カ本件賣買契約ニ於ケル目的物引渡時期ニ關スル約旨ナリトシテ判示シタル所ハ稍明瞭ヲ缺クノ憾無キニ非ス廼チ此憾無キニ非スト雖之ヲ熟讀翫味スレハ其ノ趣旨ハ該引渡時期ハ某年某月某日ト云フカ如ク特定ノ日時ヲ指示スル方法ニテハ之ヲ定メサリシモ被上告人ハ契約締結後遲滯ナク他ヨリ買入レ又遲滯ナク被上告人ニ引渡スヘシトノ約定ナリト云フニアリテ固ヨリ如何ナル時期ニ引渡ヲ爲スモ可ナリトノ約定ナルコトヲ認定シタルモノニ非サルコトヲ看取スルニ足ル

提供シタルニ拘ラス買主之ヲ受領スルコトヲ拒ミタル場合若シ當該株式ニシテ價格ノ騰落甚シキモノナルトキハ賣主ハ卽時賣買契約ヲ解除シ得ヘキ商慣習アリ當事者ハ右契約締結ノ際之ニ依ルノ意思アリタルコト前記賣買ノ目的物タル日魯漁業株式會社株式ハ價格ノ騰落甚シキモノナルコト及被上告人ハ前記賣買契約締結後直チニ大阪市ナル取引店ニ契約ノ目的物タル右株式ヲ注文シ前同年十一月十五日其送付ヲ受ケ卽日之ヲ被上告人ニ提供シ代金支拂ヲ求メタルニ上告人ハ之ニ應セサリシニ依リ被上告人ハ卽日契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ認定シタル上前記賣買契約ハ被上告人ノ爲シタル前記解除ノ意思表示ニ依リテ適法ニ解除セラレタリト爲シ以テ該解除ニ因ル損害ノ賠償ヲ上告人ニ命シタルモノナルコト明白ナリ但原審カ本件賣買契約ニ於ケル目的物引渡時期ニ關スル約旨ナリトシテ判示シタル所ハ稍明瞭ヲ缺クノ憾無キニ非ス廼チ此憾無キニ非スト雖之ヲ熟讀翫味スレハ其ノ趣旨ハ該引渡時期ハ某年某月某日ト云フカ如ク特定ノ日時ヲ指示スル方法ニテハ之ヲ定メサリシモ被上告人ハ契約締結後遲滯ナク他ヨリ買入レ又遲滯ナク被上告人ニ引渡スヘシトノ約定ナリト云フニアリテ固ヨリ如何ナル時期ニ引渡ヲ爲スモ可ナリトノ約定ナルコトヲ認定シタルモノニ非サルコトヲ看取スルニ足ル

2而シテ被上告人カ本件賣買契約締結後遲滯無ク契約ノ目的物ナル株式ノ注文ヲ大阪市ノ取引店ニ爲シタルコトハ原判決ノ認定シタル所ナレトモ被上告人カ本件契約締結後一ケ月ヲ經過セル同年十一月十五日ニ至ルマテ該株式ヲ上告人ニ提供スルコトナク同日ニ至リ漸ク其提供ヲ爲シタルコトモ亦原判決ノ認定シタル所ニシテ契約締結ト提供トノ間斯ノ如ク日時ノ經過セルモノアル以上ハ其日時ノ經過カ當該株式ノ性質其他被上告人ノ責ニ歸スヘカラサル當事者合意上ノ特別事情ニ基因セサル限リ其提供ハ約旨ニ適合セルモノト謂フヲ得サルヤ言ヲ俟タス然ルニ原判決ニハ何等如上特別事情アリタリトノ判示アルヲ見サルナリ而シテ若シ被上告人ノ爲シタル提供ニシテ約旨ニ適セサルモノナリシトセンカ斯カル提供ノ受領ヲモ上告人ニ强キ其之ヲ拒ミタルトキ之ヲ理由トシテ契約ヲ解除シ因テ生シタル損害ヲ賠償セシムト云フカ如キコトハ其旨ノ特約アリテ始メテ爲シ得ヘキ事ニ屬シ斯カル特約無クシテハ許サルヘキ所ニ非ス然ルニ原審ニ於テ其存在ヲ認メ當事者カ之ニ依ルノ意思アリタリトセル商慣習ナルモノハ賣主ニ於テ約定ノ時期ニ提供ヲ爲シタルニ拘ラス買主カ其ノ受領ヲ拒ミタル場合ニ限リ賣主ハ卽時契約ヲ解除シテ之ニ因ル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシトノ趣旨ノモノナルヤ將タ賣主ノ提供カ約定ニ反スル時期ニ於テ爲サレタル場合ニ於テモ仍

ホ買主ハ之ヲ受領スルコトヲ要シ之ニ背カハ賣主ハ之ヲ理由トシテ右ト同一措置ヲ執ルコトヲ得ヘシトノ趣旨ノモノナルヤ原判文上之ヲ知ルコトヲ得ス其引用ニ係ル鑑定人ノ鑑定ト對照考覈スルモ亦又然リトス斯ノ如クニシテ仍ホ前叙ノ如ク被上告人ニ於テ其提供ヲ上告人カ受領セサルコトヲ理由トシテ爲シタル契約解除ノ意思表示ニ依リ契約ハ適法ニ解除セラレタリト爲シ之ニ因ル損害ノ賠償ヲ上告人ニ命シタル原判決ハ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト謂ハサルヲ得ス（大審院昭和五年オ三〇二五號同六年七月八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事一六一頁）

◎金錢債務ト小切手ノ提供

一〔東京地〕代金ノ支拂ニ付小切手ヲ以テスルコトハ反證ナキ限リ該代金ノ現實ノ提供アリタルモノト認メ難キヲ以テ代金支拂ノ爲小切手振出ノ目的ヲ以テ該代金相當額ノ預金記入アル銀行通帳竝小切手帳ヲ持參セルノ一事ニヨリテハ未タ右代金ノ支拂ニ付其ノ現實ノ提供アリト謂ヒ得サルモノト謂フヘキモノトス（東京地方裁判所昭和五年リ二七五號同七年五月三〇日判決法律評論二一卷民法六一三頁）

二〔朝鮮高〕辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要スト雖金錢貸借ニ於テ現實ニ提供ヲ爲スニハ必スシモ現金ニ限ルト解スヘキモノニ非ス苟モ一般取引上現金ト同樣ニ取扱ハルルモノナルトキハ尙現實ニ提供アリタルモノト解スルヲ妨ケス而シテ信用アル銀行ノ振出ニ係ル小切手ハ一般取引上現金ト同樣ニ取扱ハルルモノナルカ故ニ銀行ノ營業時間内ニ叙上ノ小切手ヲ辨濟ノ爲ニ提供シタルトキハ現實ニ辨濟ノ提供アリタルモノト解スヘク營業時間外ナルトキハ右小切手ヲ以テ直ニ現金ニ引換ヘ得ルノ便宜ヲ缺クカ故ニ同一ニ律スルコトヲ得スト雖債權者ニ於テ現金ヲ直ニ他ニ使用スル等ノ特別ナル事情ノ存セサル限リ現金ト同樣ノ取扱ヲ受クルコトハ信義ノ原則ニ合スルモノト謂フヘク取引上亦是認セラルルトコロナリ而シテ斯ル特別ナル事情ノ存在ハ須ク債權者ニ於テ主張且立證セサルヘカラサルモノトス（朝鮮高等法院昭和三年民上三〇八號同年一〇月一二日判決司法協會雜誌七卷一一號三六頁・法律評論一八卷民法一一一頁）

三〔大阪控〕1凡ソ債務ノ辨濟トシテ現金ノ提供ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テ小切手ヲ提供スルモ开ハ債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供アリタルモノト云フコトヲ得サルヘシト雖本件和解契約ニ於テハ前記ノ如ク金千圓ヲ期日ニ債權者タル訴外山本周平ノ住所ニ送金支拂フ旨ヲ約シタルニ止マリ其ノ送金方法ニ付テハ何等特段ノ定ヲ爲ササリシコト明白ナルノミナラス當審證人山本周平ノ供述ノ一部分原審證人田中莊治郎ノ供述及成立ニ爭ナキ乙第一號證ノ一ヲ綜合スレハ本件金千圓ハ期日タル昭和六年十二月三十一日ノ一般商業取引營業時間内ニ同訴外人カ現金ヲ提持シ得ラルル方法ニ依リ被控訴人ヨリ送金スルニ於テハ其ノ現金其モノノ輸送ニ依ル送金タルト普通送金方法トシテ用ヒラルル銀行取組ノ送金小切手又ハ郵便爲替ノ送付等ニ依ル送金タルトヲ問ハス其ノ何レニ依ルモ前記和解契約ノ不履行ヲ將來スルモノニアラスト爲シタル和解ノ趣旨ナリシコトヲ窺知スルニ十分ニシテ通常隔地者間ニ於テ金員ノ送付ヲ爲スニ付現金ソノモノノ輸送方法ニ依ラスシテ最モ簡易ニシテ安全ナル銀行取組ノ送金小切手ノ送付若クハ郵便爲替取組ノ方法ニヨルコトハ一般取引ノ實情ナレハ被控訴人カ本件送金小切手ノ取組ニ依リ本件金員ノ送付ヲ爲シタルハ洵ニ適切ナル處置ニ出テタルモノナリト云フヘシ2而シテ當審證人山本周平ノ供述ニ依レハ該小切手ハ履行期日タル昭和六年十二月三十一日ニ現金ニ引替ヘラレスシテ訴外山本周平カ昭和七年一月六日自己ノ取引銀行タル安田貯蓄銀行東京大塚支店ニ振込ミタルニ因リ其ノ一兩日後ニ現金ト引替ヘラレタル事實ヲ認メ得ヘシト雖本件和解契約ニ所謂原告住所ニ送金支拂ナル趣旨ヲ前判示ノ如ク認定スル以上本件ニ於ケルカ如ク送金小切手ノ送付アリタル場合ニ債權者卽チ訴外山本周平ニ於テ債務者タル被控訴人ニ對シ自己ノ責任ヲ以テ該小切手ヲ現金ニ引替フルノ手續ヲ盡スコト卽チ適法ニ小切手ヲ呈示スルコトノ協力義務ヲ承認シタルモノト認ムルヲ妥當トスヘク而モ前說示ノ如ク被控訴人ハ本件小切手ヲ履行期日タル同年十二月三十一日午前中ニ控訴人ノ許ニ到達セシメ當時控訴人カ安田貯蓄銀行ト取引關係アリシコト及翌年一月六日頃該小切手カ現金ニ引替ヘラレタルコトノ明白ナル本件ニ於テハ控訴人ニ於テ卽日同銀行ヲシテ本件小切手ノ呈示ヲ爲サシメタルニ於テハ約旨ノ如ク同日現金ヲ提持スルコトヲ得タルヘシト認ムルヲ相當トス然レハ卽チ本件小切手ノ送付ハ何等和解契約ノ本旨ニ反スルモノニアラス同日控訴人カ本件小切手ヲ現金ニ替フルコトヲ得サリシハ故意カ懈怠カ前記ノ如ク自己ノ協力義務タル小切手呈示ノ義務ヲ盡ササリシニ因ルモノト認メサルヲ得ス右認定ニ反スル當審證人山本周平ノ供述部分ハ措信セス其ノ他控訴人ノ全立證ニ依ルモ右各認定ヲ覆シ控訴人ノ抗辯事實ヲ認定スルニ足ラス果シテ然レハ被控訴人カ現金ソノモノヲ送付セスシテ小切手ヲ送付シタルハ債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供ニアラサル旨ノ控訴人ノ抗辯ハ失當ナリ（大阪控訴院昭和七年ネ一一〇一號同八年六月二八日判決法律新聞三五七八號一六頁・法律評論二二卷民法八七〇頁）

○右三ノ批評｜銀行判例一一卷一號二七頁

四〔大審院〕1金錢債務ニ付債務者カ債權者ニ對シ辨濟ノ爲小切手ヲ提供スルモ特別ノ意思表示又ハ慣習ナキ限リ債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供アリト謂フヲ得ス從テ其ノ小切手カ當時直ニ支拂ヲ受ケ得ヘキモノナルトキト雖之カ提供ニ依リ債務者ヲシテ不履行ニ因ル責任ヲ免レシムヘキモノニ非ス之當院判例ノ示ス所ナリ〔大正八年（オ）第二百九十六號同年八月二十八日當院判決參照〕

2然ルニ原判決ハ被上告人ノ代理人カ大正十四年四月初旬ニ於テ當時延滯シ居リシ土地ノ賃料及温泉使用料計千七十圓三十五錢ト同額ノ小切手（被上告人振出株式會社小田原實業銀行支拂ノ）ヲ支拂場所タル上告人方ヘ持參シ右延滯料金支拂ノ爲之ヲ持參シタル旨ヲ告ケタルモ上告人之カ受領ヲ拒絶シタル事實及當時該小切手カ即時支拂ヲ受ケ得ヘキモノナリシ事實ヲ認定シ此等事實ノミヲ以テ直ニ被上告人カ上告人ニ對シ右延滯料金債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供ヲ爲シ受領ヲ拒絶セラレタルモノナレハ爾後該料金ノ支拂ニ付延滯ノ責ナク從テ之ヲ理由トスル上告人ノ本件契約解除ノ意思表示ハ效力ナキ旨ヲ判示シ以テ其ノ解除ヲ前提トスル本訴請求ヲ排斥シタルコト判文上明白ニシテ右ノ如キ小切手ノ提供ヲ以テ現金ノ提供ト同視シ前記料金債務ノ本旨ニ從ヒタル辨濟ノ提供ナリト爲スヘキ當事者間ノ特別ノ意思表示又ハ慣習アリシ事實ニ付テハ原判決ハ何等判示アル所ナシ卽原判決ノ認定シタル前記事實ノミニテハ未タ以テ被上告人ノ延滯料金債務ニ付適法ナル辨濟提供アリタルモノト爲スヲ得サルニ拘ラス原判決ハ之アリタルモノト爲シ之ヲ理由トシテ本訴請求ヲ排斥シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリ

3加之原判決ニハ被上告人カ右辨濟ノ提供ニ依リ延滯ノ責ナキニ依リ上告人カ特約ニ基キ爲シタル契約ノ解除ハ其ノ效力ナキ旨判示シアリ其ノ所謂延滯トハ履行遲滯ノ意ナルヤ又單ナル辨濟未了ノ意ナルヤ從テ此ノ特約ノ內容カ此ノ執レノ場合ニ解除權ヲ留保スル特約ナルヤ明白ヲ缺ク嫌アリ原判決ハ此ノ點ニ於テモ理由不備ノ不法アリ原判決ハ全部破毀ヲ免レス（大審院昭和三年オ五八四號同年一一月二八日判決法律評論一八卷民法二四四頁）

五　右四ノ引用判例ー二續民五七八頁「履行ノ提供ト小切手」ノ五

◎辨濟ノ準備ト他人振出ノ小切手（本條後出一三六七頁）

◎辨濟ノ準備ニ關スル實例

一　履行ノ著手ト準備トノ別（三續民五五七條）

二　辨濟準備ノ完否ト其ノ實例（本條後出一三六五頁）

三　債權者ノ行爲ヲ要スル履行ノ提供（本條後出）

四　債權ノ辨濟ト債權者協力ノ要求（續民法一〇七一頁）

五　他人ノ物ノ賣買ト賣主ノ履行準備（續民法一二四九ノ一〇頁）

六　橫濱ノ履行地ト東京ニ於ケル支拂準備（二續民七一五頁）

七　辨濟ノ準備ト他人振出ノ小切手（本條後出一三六七頁）

◎辨濟準備ノ完否ト其ノ實例

一〔朝鮮高〕證言ニ依レハ殘代金ハ雄基洞ノ代書人ナシテ移轉登記申請手續一切ヲ爲サシメ崔夢悅ノ名義ニ所有權移轉登記ヲ受ケタル上同事務所ニ於テ登記濟證ト交換ニ支拂フ契約ナリシナリ若シ然リトスレハ賣買シタル土地カ姜奎辰ノ所有ニシテ何時ニテモ所有權ヲ移轉シ得ル狀態ニ在ルトキハ賣主ハ履行ノ準備ヲ爲セルモノト謂フヲ得ヘク一筆ノ土地ノ移轉登記ノ如キ一日ニテ事足ルヘキヲ以テ買主カ殘代金ヲ準備シ來ルヲ俟テ共ニ代書人事務所ニ至リ代書人ニ其ノ手續ヲ委任スレハ可ナリ豫メ書類ヲ作成シ期待シ難キ買主ノ履行ヲ待ツテ要セス然ルニ原判決ハ契約ノ趣旨ヲ認定スルコトナク漫然之等ノ書類ヲモ作成スルニ非レハ履行ノ準備トシテ未タ完全ナラサルモノト解シ殘代金ノ催告中ニハ同時ニ履行ノ受領ノ催告ヲモ包含セルコトヲモ看過シ姜奎辰ニハ履行ノ準備ナク又之ヲ準備シタル旨ノ通知ナカリシモノト判示シタルハ法ヲ誤解シタルモノナリ（朝鮮高等法院昭和八年民上四三五號同年一一月七日判決司法協會雜誌一三卷一號一四七頁）

二　辨濟準備ト金錢融通契約（續民法一五二四頁）

三　辨濟ノ準備ト他人振出ノ小切手（本條後出一三六七頁）

四　本條後出「債權者ノ行爲ヲ要スル履行ノ提供」一以下參看

五　履行準備ノ實例（二續民五八六頁）

◎債權者ノ行爲ヲ要スル履行ノ提供

一〔大審院〕解除ノ前提タル履行ノ催告ハ其ノ催告ト同時ニ債務者ヲ遲滯ニ付スル場合ニ於テモ尙ホ其ノ效力ヲ生スヘク〔大正十年六月三十日同年（オ）第二〇〇號判決參照〕又債務ノ履行ニ付債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ現實ニ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノナルカ故ニ上告人ノ住所ニ非サル富良野倉庫ニ於テ目的物ノ受渡ト同時ニ代金ノ支拂ヲ爲スヘキ本件賣買ニ於テハ被上告人カ代金支拂ヲ爲スニ付テハ債權者タル上告人ノ行爲ヲ要スルコト明ナルト共ニ原判決ノ認定シタル昭和二年十二月七日附被上告人ノ催告ハ同人ニ於テ代金支拂ノ準備ヲ爲シ上告人ニ對シ其ノ受領ヲ催告シタル趣旨ヲモ包含スルモノト解シ得ラルルヲ以テ被上告人ハ右催告ニ依リ上告人ヲ遲滯ニ付シ

タルモノト云ヒ得ヘク從テ該催告タルヤ解除ノ前提タル履行ノ催告トシテ適法ニシテ之ニ基ク解除ハ有效ナリト云ハサルヘカラス（大審院昭和四年オ四四二號同年九月七日判決法律新報二〇一號一〇頁）

二〔大審院〕原判決ノ認定ニ依レハ本件各賣買契約締結ノ際當事者間ニ於テ買主タル被上告人カ賣買物件ノ引渡場所ヲ指定シ同所ニ於テ該物件ト引換ニ代金ノ支拂ヲ爲スヘキ旨特約シタルニ基キ大正八年六月十七日被上告人ハ賣主タル上告人ニ對シ賣買物件ノ引渡場所ヲ深川佐賀町丸肥倉庫ト指定シ且十日ノ期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタリト云フニ在リテ右指定ノ結果上告人ハ賣買物件ト引換ニ代金ヲ受領セムト欲セハ右履行ノ場所ニ到ルコトヲ要スルカ故ニ本件賣買契約ニ於ケル代金債務ノ履行ハ民法第四百九十三條但書ニ所謂債務ノ履行ニ付債權者ノ行爲ヲ要スル場合ニ該當スルモノトス然ラハ該代金債務ニ付被上告人カ辨濟ノ提供ヲ爲スニハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告スルヲ以テ足ルカ故ニ原判示ノ如ク被上告人ニ於テ上告人ニ對シ前記履行ノ催告ヲ爲シタル際代金ノ支拂ニ付其ノ準備ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ之カ受領ヲ催告シタル以上ハ自己ノ債務ニ付適法ニ辨濟ノ提供ヲ爲シテ相手方ニ對シ其ノ債務履行ノ催告ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之ニ應シ賣買物件ノ引渡ヲ爲ササリシ上告人ハ爾後履行ノ遲滯ニアリタルモノト謂ハサルヘカラス（大審院昭和五年オ二四七〇號同六年四月一五日判決判例彙報四二卷二〇號民事三〇五頁）

三〔大審院〕債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルコトハ民法第四百九十三條但書ノ規定ニ依リテ明カナリ而シテ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキトハ債權者カ債務者ノ住所ニ到リ給付ヲ受領スヘキ場合ノ如キハ勿論債權者カ契約ニ基キ履行ノ場所ヲ指定スヘキ場合ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス蓋シ債權者ノ指定スル場所ニ於テ履行ヲ爲スヘキ契約アル場合ニ於テハ先ツ債權者ノ指定アルニアラサレハ履行ヲ爲ス事ヲ得サルヲ以テ其場所ノ指定ハ履行ニ付キ要スル債權者ノ行爲ナリト謂ヒ得ヘケレハナリ故ニ若シ上告人カ原審ニ於テ本件賣買契約ハ被上告人指定ノ小樽區内營業倉庫ニ於テ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキ約旨ニシテ被上告人ハ履行期日ニ至ルモ其倉庫ヲ指定セサルヲ以テ上告人ハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ受領ヲ催告シタルモノナレハ現實ノ提供ト同一ノ效力ヲ生スル旨主張シタリトセハ原院ハ須ク右特約ノ有無竝ニ被上告人カ其指定ヲ爲ササリシヤ否ヤヲ判斷スヘキモノニシテ其判斷ノ結果ハ原判決ノ主文ニ影響ヲ及ホスモノト謂ヘシ而シテ原判決ニ

引用シアル第一審判決事實摘示及ヒ原審口頭辯論調書ニ依レハ上告人カ原審ニ於テ如上ノ主張ヲ爲シタルコト明カナレハ原院カ右ノ爭點ニ付キ何等ノ判斷ヲ爲サス漫然被上告人ハ豫メ代金ノ受領ヲ拒絶シタルニ非サルヲ以テ上告人ノ現實提供ヲ爲サスシテ爲シタル履行ノ催告ハ被上告人ヲシテ遲滯ノ責ニ任セシムルヲ得サレハ契約解除ノ意思表示ハ其效力ヲ生セスト判斷シテ上告人敗訴ノ判決ヲ言渡シタルハ重要ナル爭點ヲ看過シタル不法アルモノトス（大審院大正九年オ四七〇號同年一一月四日判決大審院判決錄二六輯民事一六三七頁）

四　債權者ノ行爲ヲ要スル履行ノ提供（三續民四一三條「茸狩契約ト債權者ノ遲滯」參看）

五　債權者ノ行爲ヲ要スル場合ト履行ノ提供（二續民五八三頁）

六　同時履行カ先時給付カ（三續民五三三條）

七　辨濟ノ受領ト保佐人ノ同意（二續民一四頁「準禁治產者ニ對スル辨濟提供ノ效力」ノ二參看）

◎辨濟ノ準備ト他人振出ノ小切手

一〔大審院〕辨濟ノ準備アリタリト爲スニハ單ニ債務者カ辨濟ノ爲小切手ヲ所持シタル事實ヲ認メ得ルヲ以テ足レリトセスシテ該小切手カ何時ニテモ確實ニ現金ニ代ヘ得ヘカリシモノナルコトヲ認メ得ヘキコトヲ要スルトコロ原判示ニ依レハ被上告人ハ訴外福井清ヨリ金員ヲ借受クルコトノ承諾ヲ得テ同人振出ノ前記小切手ヲ受領シ引續キ右小切手ヲ所持シ居タル事實ヲ認メ得ルニ止リ該小切手ノ振出人ノ信用支拂人ノ氏名及支拂地等明ナラス從テ該小切手カ果シテ確實ニ支拂ハルヘキモノナリシヤ之ヲ窺知シ難ク原判示ニ依リテハ未タ被上告人ニ辨濟ノ準備アリタルコトヲ明ニスル能ハサルモノト謂ハサルヘカラス然レハ原判決ハ此ノ點ニ於テ擬律ノ錯誤又ハ理由不備ノ違法アルヲ免レス（大審院昭和三年オ三七〇號同年一一月二〇日判決法律新聞二九二三號七頁・法律評論一八卷民法一六四頁）

二　辨濟準備ト銀行振出小切手（續民法一四六五頁）

◎金錢債務ト小切手ノ提供（本條前出一三六二頁）

第四百九十四條　【辨濟ノ目的物ノ供託】

1 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

◎供託ニ關スル諸問

一　不動產ハ供託スルコトヲ得ルヤ（諸法上二三〇頁）

二　商人間ノ賣買ト民法上ノ供託解除（續民法一一九二頁）
三　辨濟ノ爲メニスル第三者ノ供託（民法二八四頁）
四　第三者ノ供託ト其ノ適否（民訴五八一頁）
五　代理人ノ供託カ第三者ノ供託カノ判定（諸法上二三二頁）
六　供託ノ必要ナキ場合（二續民五八八頁）
七　供託ノ要件（本條後出）
八　受領拒絶ノ事實認定ノ當否（本條後出）
九　賣渡擔保ノ否認及辨濟受領ノ拒絶（本條後出）
一〇　債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力（本條後出）
一一　減額請求ニ基ク賃料額ノ供託（本條後出）
一二　賃料ノ一部供託ヲ受領シタル效果（本條後出）
一三　供託書ノ交付義務ノ存否（本條後出）
一四　供託書ノ引渡又ハ供託物拂渡請求ノ同意（本條後出）
一五　敷金ヲ控除セル賃借料ノ供託（本條後出）
一六　債權者ノ不明ナル場合ト供託（本條後出）
一七　代理店ノ權限消滅ト供託所ノ移動（本條後出）
一八　債權差押ヲ受ケタル政府ト供託（本條後出）
一九　競落確定後ノ辨濟—供託ノ效力（三續民四七四條一三〇七頁）
二〇　債權者ノ不明ナル場合ト供託（本條後出）
二一　交付不能ノ競賣賣得金ノ供託（本條後出）

二二　供託ノ效果（二續民五八九頁）
二三　債權者ヲ誤リタル供託ノ效力（本條後出）
二四　供託ノ不適法ト債權者受領ノ效果（本條後出）
二五　供託ト債務消滅トノ關係（二續民五九一頁）
二六　供託無效確認ノ訴ト利益（民法二八四頁）

◎供託ノ要件

一〔上告論旨〕……我民法ニ於テ債務者カ自己ノ債務額ヲ直ニ供託スルコトヲ以テ債務免脫ノ原因ナリト爲シタル規定アルコトナシ民法第四百九十四條ニハ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲ニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其ノ債務ヲ免ルルコトヲ得但辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ」ト在ルノミ乃チ供託カ債務免脫ノ原因タルニハ（1）債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ム場合カ（2）受領ヲ爲ス能ハサル場合カ（3）又ハ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ於テ債務者ノ爲シタル供託ナラサルヘカラス換言スレハ以上ノ三者ノ一ノ存在スルコトカ供託ノ前提條件ナリ此ノ三者ノ一ノ存在セサル場合ニ爲サレタル供託ハ名ハ供託ナリト雖其ノ實ハ無用ノ供託ニシテ之ニハ債務免脫ノ效力ヲ伴ハサルモノナリ故ニ裁判所カ供託ヲ認メテ以テ債務ノ免脫ヲ判決セントスルニハ必ス債權者ノ受領拒絶ノ事實アリタルカ債權者ノ受領不能ノ事情アリタルカ若ハ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ナリシカノ三事實ノ內其ノ一ヲ確定セサルヘカラス是等三事實中ノ一ヲ確定セスシテ單ニ供託アリタル事實ノミヲ確定シ以テ債務ノ消滅ヲ判斷シタルハ以上ノ民法ノ法則ヲ無視スルモノナリ然ルニ原判決ハ前ニモ引用スル如ク被控訴人（被上告人）カ控訴人（上告人）主張ノ有益費ヲ供託セルノ一事ヲ確定シタルノミニテ有益費辨償ノ債務ヲ免レタリト判斷セルハ眞ニ違法ノ判決ナリト謂ハサルヘカラス原判決ハ此ノ點ヨリスルモ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

二〔大審院〕仍テ按スルニ……債務者カ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ債務ヲ免ルルコトヲ得ルニハ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルカ又ハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ限ルモノナルコト民法第四百九十四條ノ規定ニ照シテ明ナルヲ以テ裁判所カ供託ニ因ル債務ノ免脫ヲ判定セントスルニハ必スヤ叙上ノ場合ノ一ニ該當スル事實ヲ確定スルコトヲ要スルコト論ヲ俟タス然ルニ原判決ハ前示ノ如ク被上告人カ上告人主張ノ有益費ヲ供託シタル一事ヲ確定シタルニ止マリ何等叙上ノ場合ノ一ニ該當スル事實ヲ確定スル所ナク輒ク有益費辨償ノ債務ヲ免レタリト判斷セルハ違法ニシテ論旨ハ理由アルモノトス（大審院昭和五年オ一五四〇號同六年四月一四日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事六〇頁・法律新報二五五號一四頁）

三　供託ノ有效條件（續民法一一九三頁）

四　債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力（本條後出）
五　受領拒絶ノ事實認定ノ當否（本條後出）
六　供託書ノ交付義務ノ存否（本條後出）

◎受領拒絶ノ事實認定ノ當否

一〔仙臺地〕抗告人ハ其ノ債務辨濟ノ爲乙等ト共ニ現金四千三百圓ヲ相手方代理人甲辯護士ニ持參シ其ノ受領方ヲ申入レタル場合同人ハ徒ラニ態度ヲ曖昧ニシ又ハ面會ヲ避ケタル場合ニ於テハ之卽相手方代理人カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ少クトモ之ヲ受領スル能ハサリシモノト解スルヲ相當トス（仙臺地方裁判所昭和四年イ六號同年五月二七日決定法律評論一八卷民法六一五頁）

二〔大審院〕原院ハ上告人カ豫メ代金ノ受領ヲ拒ミタルニ被上告人ハ其ノ父增吉ヲ介シテ上告人ニ代金ノ受領ヲ催告シ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シタルノ事實ヲ認メタレトモ其ノ認定資料トシテ援用シタル證人佐伯重右衛門增吉楠岩之丞ノ證言ハ何レモ被上告人ハ其父增吉ヲシテ殘代金三千八百圓ヲ上告人ニ提供シ米ノ引渡ヲ求メシメタルニ上告人ハ米ノ準備ナシトテ其ノ受領ヲ拒ミタリト云フニ一致シ唯提供ノ日ニ付供述ノ符合セサルハ其ノ孰レカニ誤解アルニ過キスシテ要スルニ唯一ノ事實ニ付供述シタルモノニ外ナラサルハ彼此ノ

對照上極メテ明白ナリ然レハ其ノ供述シタル事實中ニ被上告人カ代金準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告シタルコト卽所謂言語上ノ辨濟提供ヲ爲シタル事迹ノ存スルコトヲ認ムルハ不當ナラストスルモ其ノ提供前ニ上告人カ豫メ辨濟ノ受領ヲ拒ミタル事實ノ供述ナモ其ノ供述中ニ包含スルモノト見ルハ無中ニ有ヲ認ムルモノニシテ原院カ此ノ事實ノ存在ヲ認定シタルハ證據ニ副ハサル不法ヲ包容スルモノト謂ハサルヘカラス債權者カ豫メ辨濟ノ受領ヲ拒ミタル事實ハ言語上辨濟提供ノ要件ニシテ其ノ存否ハ提供ノ效力ニ關スルモノナレハ前示ノ如ク不當ニ其ノ存在ヲ認メタルノ結果上告人ニ反對給付タル米ノ引渡ニ付履行遲滯ノ責ヲ負ハシメタル原判決ハ不法タルヲ免レス（大審院大正一二年オ三一〇號同年七月二〇日判決法律新聞二一七八號二〇頁）

三 債權者ノ受領拒絕ト債務者ノ供託（二續民五八七頁）

四 期限後ノ履行提供ト拒絕ノ當否（二續民五七七頁）

五 賣渡擔保ノ否認及辨濟受領ノ拒絕（次問）

六 辨濟者ノ代理權否認ト受領ノ拒絕（民法二八四頁）

七 親權者ノ賃料受領ノ拒絕ト供託（續民法一一九三頁）

◉履行提供ノ意義及實例（三續民四九三條一三五一頁）

◉賣渡擔保ノ否認及辨濟受領ノ拒絕

明白ナレハ果シテ當事者間ニ上告人主張ノ如キ賣渡擔保契約成立シタルコト眞實ニシテ之ニ基キ上告人ヨリ其ノ債務ヲ辨濟セントシタルニ拘ラス其ノ當時ヨリ被上告人カ謂レナク該契約ノ成立ヲ否認シテ辨濟ノ受領ヲ拒絕シ來リタルモノトセンカ上告人カ如何ニ辨濟提供ノ手續ヲ盡サントシタリトテ到底被上告人ニ之カ受領ノ意思ナカリシコト明確ナリト認メサルヲ得サルヘク斯ノ如キ場合ニ於テモ尙供託前特ニ現實又ハ言語上ノ提供ヲ要スルモノト爲スカ如キハ全ク實益ナキ手續ヲ煩ハスモノニ過キスシテ取引ノ通念ニ適切ナラサル所ナレハ上告人カ何等提供ヲ爲サスシテ直ニ供託ヲ爲シタルトキト雖其ノ供託ノ效アルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原裁判所カ被上告人ニ於テ辨濟ノ受領ヲ拒ミタルハ上告人主張ノ如キ債務關係ヲ否認シタルニ因ルカ故ニ其ノ受領拒絕ノ意思明確ナルモノト謂フコトヲ得サルカ如キ趣旨ヲ以テ判決ヲ爲シタルハ適切ノ理由ヲ具備セサルモノニシテ違法タルヲ免レス（大審院大正一二年オ五一七號同年一二月二八日判決法律新聞二二二八號一七頁）

二 右一ノ引用判例ー民法二八三頁「辨濟受領ノ拒絕ト供託ノ要件」ノ一、二

三 二續民五八七頁「債權者ノ受領拒絕ト債務者ノ供託」ノ二

一〔大審院〕1案スルニ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミタル場合ニ於テ債務者カ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其ノ債務ヲ免レントスルニハ先ツ現實ニ辨濟ヲ提供スルカ又ハ辨濟ノ準備ヲ爲シ其ノ債權者ニ通知シテ辨濟ノ受領ヲ催告スルコトヲ要スルヲ原則トスト雖此ノ原則ハ何等特別ノ事情存セサル通常ノ場合ニ適用アルモノニシテ債務者カ如何ニ辨濟セントスルモ特別ノ事情アリテ債權者カ到底之ヲ受領セサルコト明確ナル場合ニ於テハ債務者ハ必シモ提供ヲ爲スコトヲ要セス直ニ供託ヲ爲シテ其ノ債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス是本院判例ノ趣旨〔明治四十五年（オ）第百六號同年七月三日判決參照〕ニ於テ是認スル所ニ係リ其ノ趣旨ハ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒絕スルニ當リ相手方ノ主張スル債務關係ノ存在ヲ認ムルト否トヲ問ハサルモノニシテ毫モ其ノ間ニ區別ヲ爲スヘキ理由アルヲ見ス

2本件ニ於テハ上告人ハ其ノ所有建物ヲ被上告人ニ賣渡擔保トシテ金員ヲ借受其ノ債務ヲ辨濟スルニ於テハ該建物所有名義ヲ回復スヘキ契約シタルヲ以テ其ノ債務ヲ辨濟セントシタルモ被上告人ヨリ故ナク之カ受領ヲ拒マレタリト主張シ被上告人ハ上告人主張ノ如キ賣渡擔保契約ノ成立及債務關係ノ存在ヲ全然否認シ辨濟受領ノ原因ナキ旨抗辯シタルコト判文上明白ナレハ果シテ當事者間ニ上告人主張ノ如キ賣渡擔保契約成立シタルコト眞實ニシテ之ニ基キ上告人ヨリ其ノ債務ヲ辨濟セントシタルニ拘ラス其ノ當時ヨリ被上告人カ謂レナク該契約ノ成立ヲ否認シテ辨濟ノ受領ヲ拒絕シ來リタルモノトセンカ上告人カ如何ニ辨濟提供ノ手續ヲ盡サントシタリトテ到底被上告人ニ之カ受領ノ意思ナカリシコト明確ナリト認メサルヲ得サルヘク斯ノ如キ場合ニ於テモ尙供託前特ニ現實又ハ言語上ノ提供ヲ要スルモノト爲スカ如キハ全ク實益ナキ手續ヲ煩ハスモノニ過キスシテ取引ノ通念ニ適切ナラサル所ナレハ上告人カ何等提供ヲ爲サスシテ直ニ供託ヲ爲シタルトキト雖其ノ供託ノ效アルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原裁判所カ被上告人ニ於テ辨濟ノ受領ヲ拒ミタルハ上告人主張ノ如キ債務關係ヲ否認シタルニ因ルカ故ニ其ノ受領拒絕ノ意思明確ナルモノト謂フコトヲ得サルカ如キ趣旨ヲ以テ判決ヲ爲シタルハ適切ノ理由ヲ具備セサルモノニシテ違法タルヲ免レス（大審院大正一二年オ五一七號同年一二月二八日判決法律新聞二二二八號一七頁）

二 右一ノ引用判例ー民法二八三頁「辨濟受領ノ拒絕ト供託ノ要件」ノ一、二

三 二續民五八七頁「債權者ノ受領拒絕ト債務者ノ供託」ノ二

◉債務ノ一部ニ對スル供託ノ效力

一〔大審院〕債權者ハ債務ノ一部ヲ受領スル義務ナキヲ以テ其ノ供託ハ無效ニシテ辨濟ノ效力ナキモノトス故ニ原審カ該供託ニ依リ辨濟ノ效力ヲ生セサル旨判示シ被上告人ノ本訴請求ヲ認容シタルハ不法ニ非ス（大審院昭和七年オ一四五二號同八年二月六日判決法學二卷九號九八頁）

二 債務ノ一部ニ對スル履行ノ提供（三續民四九三條一三五六頁）

三 一部辨濟又ハ內入辨濟ト充當（三續民四八八條）

四 一部辨濟ニ關スル諸問（三續民四七四條一三〇九頁）

◉減額請求ニ基ク賃料額ノ供託（次問）

◉減額請求ニ基ク賃料額ノ供託

一〔大阪地〕被告ハ昭和五年五月十五日本件賃料減額ノ請求ヲ爲シ其ノ減額ニ依ル賃料ニ付適法ナル供託ヲ爲シタルヲ以テ不履行ノ事實ナシト抗爭スルヲ以テ按スルニ成立ニ爭ナキ乙第一號證竝ニ證人若木勝藏宮二郎ノ證言ヲ綜合スレハ昭和五年五月十五日被告ハ原告ノ代理人大阪不動產株式會社ニ對シ一ケ月一坪ニ付金十六錢ノ割合ニ依ル賃料ヲ以テ相當ナリトシ本件土地賃料ノ減額請求ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘク鑑定

人湯淺九市ノ鑑定（第二回）ノ結果ニ依レハ右減額請求當時ヨリ現在ニ至ル迄本件土地ノ相當賃料ハ一ヶ月一坪ニ付金十七錢ナリト認ムルヲ相當トス果シテ然ラハ本件土地ノ賃料ハ一ヶ月ニ付昭和五年四月十三日以降同年五月十四日迄ハ一坪金十九錢同月十五日以降ハ一坪金十九錢ナリトス而シテ昭和五年四月十三日以降同月末日迄ニ於ケル一坪ニ付金三錢ノ割合ノ賃料及同年五月一日以降ノ賃料ノ支拂ナキコトハ被告ノ認ムルトコロニシテ被告ハ同年五月一日以降六月末マテノ賃料ハ一坪ニ付金十六錢ノ割合ニテ供託シタリト主張スルモ右說示ノ如ク同月ノ賃料ハ一坪金十七錢ナルヲ以テ右ハ債務ノ本旨ニ從ヒタル供託ト謂フコトヲ得サルヲ以テ債務ノ辨濟トシテ效ナキモノトス（大阪地方裁判所昭和五年ヲ一五〇六號同六年一〇月二〇日判決法律評論二一卷諸法二六五頁）

二〔東京地〕債權者所有地ノ賃借人タル債務者等外二十六名カ其ノ賃料ノ比隣土地ノ賃料ニ比シ著シク不相當ナルヲ事由トシ債權者ニ對シ昭和四年十二月二十四日及翌五年四月五日ノ二回ニ亘リ賃料五割五分ノ値下ヲ要求シ且値下要求額ニヨル賃料ノ受領ヲ要請シタルコト竝債權者カ其都度右値下ノ要求及値下額ニヨル賃料ノ受領ヲ拒絕シタルコトハ債權者ノ爭ハサルトコロニシテ債權者カ右ノ如ク賃料ノ受領ヲ拒絕シタルハ債務者等ノ要求スルカ如キ値下額ニヨル賃料ノ受領ニ止リ債務者等ニ於ニ從前ノ賃料ヲ提供スルニ於テハ之カ受領ヲ拒絕セサルモノナリシコトハ辯論ノ全趣旨ニ徵シ之ヲ認メ得ヘク又借地人ハ假令地主ニ對シ賃料値下ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テモ右値下額ニシテ確定ヲ見ルニ至ル迄ハ引續キ從前ノ賃料ヲ支拂フヘキモノト認ムルヲ相當トスヘク本件ニ付債務者等カ債權者ニ對シ賃料値下ケノ請求ヲ爲シタルコト前認定ノ如クナリト雖右値下額ノ未タ確定セサルコト成立ニ爭ナキ乙第四號證乃至第七號證ノ各一、二ニ徵スルモ之ヲ認ムルニ難カラサルトコロナルヲ以テ債務者等ニ於テ供託ニヨリ債務不履行ノ責ヲ免レントセハ先ツ債權者ニ對シ其請求金額ニ付現實ノ提供ヲ爲シ之カ拒絕ヲ受ケタルコトヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ假令債務者等カ其主張ノ如ク債權者ノ前記催告ニ應シ右催告期間內ナル昭和五年六月九日債權者ニ對シ其請求ニ係ル延滯料ノ全額ニ付辨濟ノ準備アル旨ヲ通知シタリトスルモ右ハ未タ以テ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ノ提供ヲ爲シタルモノト認メ得サルコト叙上說示ノ理由ニヨリ明白ナルヲ以テ債務者等ノ爲シタル前記供託ハ既ニ此點ニ於テ不適法ナルモノト謂ハサルヘカラス（東京地方裁判所昭和五年サ三〇六八號同年一〇月二二日判決法律新聞三一九一號五頁）

三　右二ノ上告審―地代增減ノ請求ト一方的意思表示（三續民

二六六條七二五頁）

◉減額地代ノ不受領ト債權者ノ遲滯（三續民二六六條七二五頁）

◉賃料ノ一部供託ヲ受領シタル效果（次問）

◉賃料ノ一部供託ヲ受領シタル效果

一〔大阪地〕金錢ノ給付ヲ目的トスル賃料債務ニアリテハ既ニ辨濟期ノ到來セル賃料ノ全部ニ付之カ履行ノ提供ヲ爲シタル上其ノ全部ノ供託ヲ爲スニ非サレハ債務者ハ未タ其ノ履行遲滯アルコトヲ免レサレトモ債權者ニ於テ其ノ供託ニ係ル一部ノ賃料ヲ受領スルト否トハ其ノ權利ノ行使ニ屬スルモノナレハ此ノ場合ニ於テ賃貸人カ右供託金受領ニ際シ供託局ニ對シ何等ノ留保ヲ爲ササリシ一事ニヨリ之ヲ目シテ直チニ右賃料ノ殘債權ヲ拋棄シ賃料値上請求權ノ拋棄ヲ爲シタルモノト論斷スヘキ何等ノ理由ナシ（大阪地方裁判所大正一四年レ八一號判決年月日不詳法律新聞三一〇九號一一頁・法律評論一九卷民法七六三頁）

二　減額賃料ノ受領ト其ノ影響（三續民二六六條七二五頁「減額地代ノ不受領ト債權者ノ遲滯」一ノ1末尾參看）

◉供託ノ不適法ト債權者受領ノ效果（本條後出一三七七頁）

◉供託書ノ交付義務ノ存否

一〔大審院〕辨濟ノ受領ヲ拒マレタル債務者カ債務ヲ免カルル爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シタルトキハ供託ノ時ニ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ生シ債務者ハ此ノ時ニ於テ債務ヲ免カルヘク債務者カ供託受領證書ヲ債權者ニ交付スルコトハ供託ノ有效條件ニ非サレハ之ヲ交付スルト否トハ供託ノ效力ニ影響ナキコト本院判例ノ存スル所ナルカ故ニ〔大正九年（オ）第九百七十號同十年二月四日第一民事部判決參照〕所論ハ其ノ理由ナシ（大審院昭和四年オ六〇八號同年七月一二日判決法律評論一九卷民法一七一頁）

二　右一ノ引用判例―二續民五九一頁「供託受領證ノ交付ト供託ノ效力」ノ一

三　右一ト同旨判例―供託ト供託受領書ノ交付（民法二八二頁）

四〔東京地〕他日債權者ニ於テ該供託物ノ還付ヲ受ケンカ爲メニハ法定ノ還付請求書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ノ添付ヲ要スルコトハ供託物取扱規則第五條ノ定ムルトコロナルヲ以テ被告ハ前示保險金ノ眞實ノ債權者ニ對シ前記供託金受入ノ記載アル供託書ヲ交付スヘキ義務アルモノト解スルヲ相當トス（東京地方裁判所昭和八年ワ一一八八號同年一〇月二四日判決法律新聞三六四四號一三頁・法律新報三四五號二五頁）

五〔大阪控〕凡ソ債務者ヨリ爲ス辨濟ノ受領ヲ債權者ニ於テ拒ミタルカ爲メニ債務者カ其債務ヲ免ルル目的ニテ債權者ノ爲

メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シタル場合ニハ辨濟ノ效力發生シ供託書ヲ債權者ニ交付スルコトハ供託ノ有效條件ニアラスト雖モ之ヨリシテ直チニ債務者カ債權者ニ對シ供託書ヲ交付スルノ義務ナキモノト斷スルコト能ハス元來辨濟ノ爲メノ供託ハ債權者カ任意辨濟ヲ受領セサル爲メ又ハ之ヲ受領スル能ハサル爲メ若ハ債權者ヲ確知シ難キ爲メ辨濟者ニ於テ債權者ヲシテ何時ニテモ辨濟ヲ受領シ得ル狀態ニ置キ以テ債務者ノ債務ヲ免レシムルニ在ルモノナレハ債權者ヲシテ供託物ノ還付ヲ受クルニ付キ支障ナキ狀態ニ置クニアラサレハ辨濟者ハ其責ヲ盡シタリト爲シ難シ而シテ債權者カ供託物ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ供託書ヲ供託物還付請求書ニ添付スルコトヲ要スルコトハ供託物取扱規則第五條ニ依リ明白ニシテ又同法第十條ニ依レハ右供託書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ利害關係人ノ承諾書ノ提出アルコトヲ要シ其執レヲモ提出スル能ハサルトキハ債權者ハ供託官吏カ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付ニ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ其期間ヲ經過シタル後ニアラサレハ供託物ノ還付手續ヲ受ケ得サルニ至リ著シク債權者ヲシテ其ノ辨濟ノ目的物ヲ受領セシムルニ不便ヲ感セシムルニ至ルカ故ニ債務者ハ債權者ヨリ供託書ノ交付又之ナキトキハ之ニ代ル承諾ヲ請求セラルルニ於テハ信義誠實ノ原則上固ヨリ之ヲ拒否スヘキ筋合ニアラスト爲ササルヘカラス而シテ此事タルヤ假令債務ノ辨濟ニ關シ其辨濟カ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ナルコトヲ債權者カ爭フ場合ニ於テモ亦同樣ナリト論斷セサルヘカラス蓋辨濟ノ爲メニスル供託ハ債權者ノ關與セサル辨濟者自身ノ行爲ニシテ其適法ナルトキハ債務消滅ノ效果ヲ發生スルモノニシテ敢テ債權者ノ意思如何ヲ問フノ必要ナケレハナリ（大阪控訴院昭和七年ネ九四九號同八年三月六日判決法律新聞三五三〇號六頁）

六〔大審院〕辨濟ノ效力ハ供託ト共ニ當然直ニ發生スルモノニシテ供託書ヲ債權者ニ交付スルコトノ如キハ供託行爲ノ完了後卽辨濟ノ效力ヲ生シタル後ノ事ニ屬シ其ノ交付ノ有無如何ニ依リテ既ニ生シタル辨濟ノ效力ヲ左右スルモノニハ非ス供託法第八條第一項供託物取扱規則第五條第一號ノ規定ニ依レハ供託局ニ對シ供託物ノ還付ヲ請求スルニ當リテハ供託書ヲ提出スルコトヲ要スト雖之固ヨリ供託物還付請求ノ手續ニ關スル問題ニシテ此ノ手續規定ノ如何ニ依リテ供託竝辨濟ノ實體上ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニハ非サルカ故ニ若債務者カ債權者ニ供託書ヲ交付セサリシ故ヲ以テ債權者カ現實ニ供託物ヲ受領シ能ハサル場合アリトセハ債權者及債務者ノ間ニ別箇ノ法律關係ヲ生シ債權者ハ債務者ニ對シ何等カノ請求ヲ爲シ得ヘシト雖之ヲ以テ直ニ供託ニ因リテ生シタル辨濟ノ效力ヲ遮斷スルモノニ非サルハ言ヲ俟タサルトコロナリサレハ本件ニ於テ被上告人ヨリ上告人ニ對シ供託書ノ交付ナカリシコトヲ理由トシテ本件辨濟ノ效力ナシト主張スル論旨ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス（大審院昭和三年オ九九三號同四年三月一一日判決法律新聞二九六三號五頁・法律新報一八三號九頁・法律評論一八卷民法四七九頁）

七　供託ノ通知及供託書ノ交付（三續民四九五條）

◎供託書ノ引渡又ハ供託物拂渡請求ノ同意

一〔大阪地〕1凡ソ債權者カ債務ノ目的物ヲ供託シタル辨濟者ニ對シ當該供託書ノ交付又ハ供託書ヲ提出セスシテ供託物ノ拂渡ヲ請求スルニ付其ノ同意ヲ求メンカ爲ニハ須ク該供託カ適法ニ爲サレ之ニヨリテ既ニ債務者カ債務ヲ免レタルコト換言スレハ辨濟者ノ爲シタル供託ノ適法ナルコトヲ認メ供託物ヲ供託ノ本旨ニ從ヒテ受領スヘキコトヲ主張セサルヘカラサルモノト解スルヲ相當トス

2然ルニ本訴ハ原告等ニ於テ被告等カ本件土地及運河水面ノ賃貸料ニ相當スル金額ヲ供託シタルヲ以テ其供託書ノ引渡ヲ求メ且其引渡ヲ爲ササルトキハ供託書ヲ提出セスシテ供託局ヨリ該供託金ノ拂渡ヲ請求スルニ付之カ同意ヲ求ムルモノナルモ本件供託金ハ目下大阪控訴院ニ繫屬中ノ賃料値上請求訴訟ノ判決確定スル迄ハ之ヲ被告等ノ供託ノ本旨ノ如ク賃料ノ全部トシテ受領スルヤ又ハ一部トシテ受領スルヤ不明ナリ從テ本訴請求ハ本件供託金ヲ供託ノ本旨ニ從ヒ賃料ノ全部トシテ之ヲ受諾スル趣旨ニ於テ爲スヘキモノナリヤ或ハ賃料ノ一部トシテ受諾スル趣旨ニ於テ爲スモノナリヤ言明セスト謂フニ在リテ被告等ノ爲シタル本件供託カ適法ニシテ之ニヨリテ既ニ被告等カ供託ノ本旨通リ賃料債務ヲ免レタルコトヲ主張セサルコトハ原告等ノ陳述シタル請求原因事實自體ニ徵シ明白ナルカ故ニ原告等ハ被告等ニ對シ本件供託書ノ引渡竝ニ該供託書ヲ提出セスシテ供託金ノ拂渡請求ニ付之カ同意ヲ求メ得ヘキ權利ナキモノト謂ハサルヲ得ス（大阪地方裁判所昭和七年ワ七七六號同年一〇月七日判決法律新聞三四八一號一一頁・法律評論二一卷民法一〇四四頁）

◎供託書ノ交付義務ノ存否（本條前出）

◎敷金ヲ控除セル賃借料ノ供託

一〔法曹會〕賃借人ハ賃貸借終了ノ後ニ非サレハ敷金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テ賃貸借ノ存續スル限リハ賃借料ヨリ敷金ヲ控除スルコトヲ得ス故ニ之ヲ控除シテ爲シタル供託ハ其ノ效ナシ（法曹會昭和四年一二月一一日決議法曹會雜誌八卷二號一一六頁）

◎敷金ト家賃又ハ損害金トノ相殺（三續民六一九條）

◎代理店ノ權限消滅ト供託所ノ移動

一〔大審院〕原判決ハ前記上告人ノ拂込場所ノ特約アリトノ主張ニ付何等顧慮スル所ナク單ニ被上告會社ハ上告人ニ對シテ本件保險契約ヲ解除シ且被上告會社カ本莊代理店ニ付與シ居リタル本件保險料受領ノ權限ハ委任ノ解除ニ因リテ消滅シ同代理店ハ本件保險料受領ノ權限ナキニ至リタルヲ以テ本件債務ノ履行地カ本莊町ニ非サルコトヲ理由トシテ上告人ノ爲シタル供託ヲ不適法ナリト判定シタル者ナリ然レトモ本件債務ノ履行ノ場所ニ付明示又ハ默示ノ特約ノ存在スルコト上告人主張ノ如クナリトセハ被上告會社ノ爲シタル本件保險契約ノ解除又ハ本莊代理店ノ本件保險料受領ノ權限ノ消滅ノ如キハ何等本件保險料ノ支拂場所ニ影響ヲ來スヘキ事實ニ非サルヲ以テ上告人カ支拂場所タル本莊代理店ニ於テ爲シタル提供及由利支金庫ニ爲シタル供託ハ毫モ不適法ニ非サルモノト云ハサルヘカラス而シテ右拂込場所ノ特約ニ關スル上告人ノ主張ニ付テハ被上告會社ニ於テ之ヲ爭ヒタル事跡ナク且本件保險契約成立以後第一回乃至第三回ノ保險料ハ本莊代理店ニ拂込マレタルコト當事者間ニ爭ナク爾後拂込ノ場所ニ付變更アリト認メ得ラレサル本件ニ於テハ上告人ノ爲シタル本件供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲シタルモノト認ムヘキヲ相當トスルヲ以テ原判決カ拂込場所ニ關スル特約ヲ度外視シテ本件供託ハ債務履行地ニ非サル供託所ニ之ヲ爲シタルモノトシテ其ノ效力ヲ否定シタルハ失當ナリ（大審院大正一二年ヵ六二六號同一三年五月一九日判決法律新聞二二七四號二一頁）

◎債權差押ヲ受ケタル政府ト供託

一〔民事局〕第三債務者（政府）カ債權假差押又ハ差押命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ民法第四百九十四條ノ債權者カ辨濟ヲ受領スルコト能ハサル場合ニ準シ供託シ得ヘキ儀ト思考ス（民事局長昭和三年四月二一日民事五一三七號回答法曹會雜誌六卷六號一四七頁）

◎債權者ノ不明ナル場合ト供託

一〔東京地〕本件ノ如ク夫々債權者ナリト主張スル二人以上ノ者ノ內果シテ何レカ眞ノ債權者ナリヤヲ確知スルコト能ハストノ事由ニ依リ辨濟ノ目的物ヲ供託セラレタル場合ニ於テハ債權者ナリト主張スル者ノ間ニ於ケル確定判決ニ依リ眞ノ債權者タルコトヲ確定セラレタル者ニ於テノミ供託者ニ對シ供託書ノ引渡ヲ求メ得ルモノト解スルヲ妥當トス蓋シ民法第四百九十四條後段ノ規定ハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ辨濟ノ目的物ヲ供託スルノ方法ニ依リ債務者ヲシテ其債務ヲ免レシメ以テ速ニ債務者トシテノ羈絆ヲ脫セシメントノ趣旨ニ外ナラサルハ疑ノ餘地ナク然ルニ供託後ニ於テモ尙且依然トシテ債務者ハ供託書引渡ノ問題ヲ廻リテ債權者ナリト主張スル者等ノ間ニ於ケル係爭ノ渦中ヨリ脫却スルコトヲ得ス之等ノ者ヨリ夫々供託書引渡ノ請求訴訟等ヲ提起セラルルコトアランカ遂ニ債務者ノ利益保護ヲ目的トスル前示法條ノ趣旨ハ殆ント沒却セラルヘキヲ以テナリ（東京地方裁判所昭和八年ヲ一一八八號同年一〇月二四日判決法律新聞三六四四號一三頁・法律新報三四五號二五頁）

二　債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合（二續民五八八頁）

◎相手方ノ不在又ハ不明ト履行ノ提供（三續民四九三條一三五七頁）

◎交付不能ノ競賣賣得金ト供託

一〔民事局長〕執達吏カ强制執行ヲ實施シ賣得金ヲ申立債權者ニ交付セントスルモ其ノ所在不分明ナル場合ニ於テハ賣得金ハ民法第四百九十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ供託スルヲ相當ト思考ス（民事局長昭和八年民事甲一〇七八號同年九月二〇日回答法曹會雜誌一一卷一〇號九二頁）

◎債權者ヲ誤リタル供託ノ效力

一〔名古屋地〕家主甲カ家賃ヲ受領セサルニ付借家人乙カ家賃ヲ供託スルニ當リ債權者ヲ甲トスヘキヲ誤リテ丙トナシタルトキハ該供託ニ因リテハ借家人ハ其ノ家賃金ノ債務免脫ノ效力ナキコト多言ヲ要セスト雖モ家賃トシテ右ノ如ク供託アリタル以上辨濟ノ準備アリタルモノト認定スルヲ妥當トス（名古屋地方裁判所昭和二年レ一五六號同年五月三一日判決法律新聞二八六五號一二頁）

二　債權者ヲ誤リタル供託（續民法一一九三頁）

◎供託ノ不適法ト債權者受領ノ效果

一〔大審院〕被上告人カ供託證書ニ依リ本件供託金額ヲ受領シタル事實アルニ拘ラス其ノ當時ノ消息ニ付深ク推究スルコトナク供託自體不適法ナル以上絕對ニ供託ノ效力ヲ生セサルモノト爲シタルハ審理ノ不盡ニアラスンハ理由不備ノ違法アルヲ免レス債權者カ債務者ヨリ供託書ノ交付ヲ受ケ供託金額ヲ受領スル場合ハ特別ノ事由ナキ限リ債務者ノ爲シタル供託ノ效力ヲ認メ債務者免責ノ結果ヲ是認シタルモノト推定スルヲ相當トス蓋シ債權者カ債務者ノ爲シタル供託ノ無效ナル故ヲ以テ之ヲ受領セサレハ則チ己ム其ノ之ヲ受領シタルハ反對ノ事由ナキ限リ債務者ノ爲シタル供託ヲ受諾スル意思ヲ表示シタルモノニ外ナラスト認メ得ルヲ以テナリ（大審院昭和五年

ず三三六二號同六年一〇月二一日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事二〇一頁・法學一卷三號一二六頁）

◎賃料ノ一部供託ヲ受領シタル效果（本條前出一三七三頁）

第四百九十五條【供託所及供託手續】

1 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

3 供託者ハ遲滯ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

◎供託所及供託通知ニ關スル諸問

一　供託ヲ爲スヘキ供託所（二續民五九〇頁）

二　履行地ニ供託所ナキ場合ノ供託所（本條後出）

三　數箇ノ供託所アル場合ト其ノ選定（本條後出）

四　供託ノ通知及供託書ノ交付（本條後出）

◎履行地ニ供託局ナキ場合ノ供託所

一〔大審院〕原審ノ裁判ハ新潟供託局柏崎出張所カ廢止セラレ債務履行地ニ供託所ナキニ至リタル以上民法第四百九十五條第二項ニ依リ裁判所ニ對シ供託所ノ指定ヲ求メ其ノ指定セラレタル供託局ニ供託スヘキモノニシテ上告人等カ其ノ指定ヲ求ムルコトナク直ニ履行地外ニ存スル新潟供託局ニ供託シタルハ違法ニシテ該供託ハ無效タルコトヲ免レサルカ故ニ其ノ有效ナルコトヲ前提トスル上告人等ノ本訴請求ハ失當ナリトシテ之ヲ排斥セルモノトス然レトモ民法第四百九十五條第一項ニハ供託ハ債務履行地ノ供託所ニ供託スヘキ旨規定シアリ又供託法第一條ニハ金錢及有價證券ノ供託ハ供託局ニ之ヲ爲スヘキ旨規定シアリテ金錢ノ供託所ニ付テハ既ニ法律ノ規定存スルモノナルカ故ニ斯ル規定ナキ場合ノ爲ニ設ケラレタル民法第四百九十五條第二項ハ最早之ヲ適用スル餘地ナキモノト謂ハサルヲ得ス然レハ供託ノ當時若シ債務ノ履行地タル柏崎町ニ尙新潟供託局ノ出張所存在シタリトセハ上告人等ハ固ヨリ其ノ出張所ニ供託スヘキモノナリシコト論ヲ俟タサル所ナルモ該出張所カ廢止セラレ債務ノ履行地ニ供託所ナキニ至リタルトキハ履行地ノ供託所ニ供託スルコトハ不能トナリタルモノナルヲ以テ上告人等ハ履行地外ノ相當ナル供託局ニ供託スルコトヲ得ルモノト斷スルヲ相當トス蓋法律ハ一方ニ於テ債務者ニ供託ノ權利ヲ與ヘ乍ラ他方ニ於テ不能ヲ強イ以テ其ノ權利ヲ奪フモノトハ到底解スルコトヲ得サレハナリ然シテ新潟供託局ハ柏崎出張所ノアリタル當時其ノ本局タリシモノニシテ交通ノ便否ヨリ考フルモ必シモ本件ニ於ケル供託所トシテ相當ナルモノト認メ得サルニ非サルカ故ニ上告人等ノ爲シタル供託ハ適法ナリト論結セサルヘカラス然レハ原審カ叙上ノ如キ理由ニ因リ其ノ供託ヲ無效ナリトシ上告人等ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ違法ニシテ全部破毀ヲ免レス（大審院昭和七年ず二六三四號同八年五月二〇日判決大審院判例集一二卷民事一二一九頁・法律評論二二卷民法七一〇頁）

◎數箇ノ供託所アル場合ト其ノ選定

一〔法曹會〕民法第四百九十五條ノ辨濟供託ヲ爲スニ際リ其ノ義務履行地カ甲乙丙何レノ地ノ供託所ニ之ヲ爲スモ供託者ノ任意タルヘキモノトス民法第四百九十五條第二項ハ本問ノ場合ニ適用ナシ（法曹會昭和四年一月三〇日決議法曹會雜誌七卷三號五二頁）

二　一區域數供託所アル場合ト其ノ選定（二續民五九〇頁）

三　供託通知ノ懈怠ト其ノ影響（二續民五九〇頁）

四　供託書ノ交付義務ノ存否（三續民四九四條）

第四百九十六條【供託物ノ取戻】

1 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス

2 前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス

◎供託物ノ取戻ニ關スル諸問

一　本條規定ノ趣旨（本條後出）

二　本條第二項ノ意義（本條後出）

三　共同供託者ノ供託物返還請求權（諸法上二三四頁）

四　供託ト債務消滅トノ關係（二續民五九一頁）

◎本條規定ノ趣旨

一〔朝鮮高〕民法第四百九十六條ノ規定ハ單ニ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權消滅シタル場合ノ外債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻シ得ヘク此ノ場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノ

ト看做ス旨規定セルニ止リ供託ニ因リテ賣渡抵當ニ因ル權利ノ消滅セル場合ニ倘供託物ヲ取戻シ得サル趣旨ヲ包含セス故ニ本件ノ供託金ハ供託ニ因リテ所論賣渡抵當權ノ消滅セシト否トニ拘ラス債權者鄭允根ニ於テ供託ヲ受諾セス又之ヲ有效ト宣告シタル判決ノ確定セサル間ハ辨濟者錦鵬錦ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ヘク其ノ返還請求權ニ付原判示ノ差押及轉付命令アリ供託所タル被告銀行ニ於テ轉付債權者ニ供託金ヲ支拂ヒタルトキハ供託ハ其ノ當初ニ遡リテ效力ヲ喪フカ故ニ爾後債權者鄭允根從テ讓受人原告ハ當初ノ賣渡抵當ニ因ル權利ヲ行使スルハ格別被告ニ對シ供託金ノ支拂ヲ求ムルコト能ハサルモノトス原判決カ本訴ノ供託金拂渡請求ヲ排斥セル理由亦之ト同一ニシテ違法ニ非ス（朝鮮高等法院昭和八年民上七九號同年四月一八日判決司法協會雜誌一二卷八號一七二頁・法律評論二二卷民法七五七頁）

◎本條第二項ノ意義

一〔法曹會〕質權又ハ抵當權ノ存スル場合ニハ辨濟供託ノ取消ハ絕對ニ之ヲ許サレス——民法第四百九十六條第二項ニ「供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合」トハ辨濟供託ハ債權ヲ消滅セシメ從テ質權又ハ抵當權ヲモ消滅セシムルコトヲ指セルモノトス（法曹會昭和三年一二月二〇日決議法曹會雜誌七卷二號七四頁）

第四百九十七條　〔目的物ノ競賣及代價ノ供託〕

1 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

◎民法上ノ自助賣却ト其ノ適用（續商法八九二頁）

第四百九十八條　〔供託物ノ受領ト反對給付〕

1 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條　〔代位辨濟〕

1 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

2 第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎代位辨濟ニ關スル諸問

一　代位辨濟ト第三七四條トノ關係（本條後出）

二　本條ニ所謂辨濟ノ意義（三續民五〇〇條）

三　代位辨濟ノ意義（續民法一一九四頁）

四　特約ニ因ル債權者地位ノ承繼（本條後出）

五　代位辨濟ノ豫先承諾ノ效力（民法二八六頁）

六　一部代位辨濟ニ關スル諸問（三續民五〇二條）

七　租稅公課ノ代納ト代位權（三續民五〇〇條）

八　代位辨濟ト競賣手續トノ關係（三續民五〇〇條）

九　代位辨濟ト前主差押ノ效力（民法二八五頁）

一〇　代位辨濟ノ特約ト求償權ノ存否（本條後出）

一一　連帶保證ノ混同ト求償權（三續民五二〇條）

一二　連帶者一人ノ爲ノ代位ト求償權（本條後出）

◎第三者ノ辨濟ニ關スル諸問（三續民四七四條一三一三頁）

◎代位辨濟ト第三七四條トノ關係

一〔東京地〕惟フニ原告ハ民法第三百七十四條ニヨリ利息其ノ他ノ損害金ニ付テハ最後ノ二年分ニ付テノミ抵當權ヲ行フコトヲ得ルモノナルヲ以テ代位辨濟モ亦該規定ニヨル抵當權ノ及フ範圍ニ於テ辨濟ヲ爲サハ足ルモノト解セルモノナランモ抵當權ヲ行ヒ得ヘキ範圍ハ他ノ債權者ニ對スル關係ニ於テハ同條ノ規定ニヨリ制限セラルヘシト雖モ抵當權設定者ニ對スル關係ニ於テハ斯ノ如キ制限ヲ受クヘキモノニアラス寧ロ抵當權設定者ハ元本債權ト共ニ滿期ト爲リタル利息其ノ他ノ損害金ノ全額ヲ辨濟スルニアラサレハ抵當權ヲ抹消セシムルコト能ハサルモノニシテ第三者カ抵當權設定者ノ爲ニ辨濟ヲ爲ス場合ニ於テモ亦然リトス然ラハ原告ニ於テ其ノ主張ノ金員ヲ供託スルモ素ヨリ辨濟ノ效力ナク辨濟ノ有效ナルコトヲ前提トスル原告ノ本訴請求ハ其餘ノ爭點ニ干スル判斷ヲ爲スヲ竢モナク失當ナリ（東京地方裁判所昭和四年ヲ三四七四號同五年ヲ五一二二號同七年四月二九日判決法律新報二九七號二五頁）

二　本條（三七四）ノ法意（二續民三九三頁）

◎特約ニ因ル債權者地位ノ承繼

一〔東京控〕保證人カ右債務ヲ辨濟シタル場合ニハ抵當權質權ノ如ク法律上當然辨濟ヲ爲シタル保證人カ債權者ニ代位スルコト能ハスト雖モ債權者トノ間ニ特約ヲ爲シテ債權者ノ有スル前示特殊ノ地位ヲ承繼シ得ラルヘキ狀態ニ在ルモノト解スルヲ相當トス從テ斯ノ如キ場合ニハ民法第五百四條ニ所謂擔保ト其實質ハ大差ナキヲ以テ債權者タル增田闊治ニ於テ故意又ハ懈怠ニ因リテ右建物ニ依リテ辨濟ヲ得ヘキ前示特殊ノ地位ヲ喪失シタル場合ニハ同條ヲ類推適用スルヲ妥當ナリト謂フヘシ（東京控訴院昭和二年ネ九七號同五年九月一三日判決

法律新報二三五號二一頁）

◎代位辨濟ノ特約ト求償權ノ存否

一〔大審院〕原審ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人ハ本件抵當權ノ目的物件ヲ其所有者タル訴外小林友藏ヨリ代金四千九十圓ニテ買受ケ右代金ハ上告人カ小林ニ對シ有シ居タル同額ノ貸金債權ト相殺シタル上尙上告人ハ小林カ訴外三重縣農工銀行ニ對シ負擔スル債務即チ前記抵當權ニ依リ擔保セラルル債權ニ對スル債務ハ一切自己ニ於テ引受ケ辨濟ヲ了スヘキ旨約諾シ次テ右約定ニ基キ訴外銀行ニ對シ前記小林ノ債務ヲ完濟シ抵當權ヲ消滅セシメタルモノナリトス果シテ然ラハ上告人ハ右訴外銀行ニ對スル辨濟ニ依リ小林ニ對シ何等ノ求償權ヲ取得スヘキ理由ナキコト洵ニ明瞭ナリ（大審院昭和七年オ三三〇六號同八年三月一四日判決法學二卷一〇號九九頁）

◎連帶者一人ノ爲ノ代位ト求償權

一〔朝鮮高〕辨濟者カ債權者ニ代位シテ其ノ權利ヲ行使シ得ルハ辨濟者ノ求償權ノ範圍ニ限ルモノニシテ連帶債務者中ノ一人ノ爲メニ辨濟ヲナシタル者ハ其ノ債務者ニ對シテハ出捐ノ全額ニ付テ求償權ヲ有スト雖他ノ連帶債務者ニ對シテハ唯其ノ負擔部分ニ付テノミ之ヲ有スルモノト解セサルヘカラス蓋

シ辨濟者カ連帶債務者ノ一人ノ爲メニ保證人トナリタル者ナルトキハ他ノ連帶債務者ニ對シテハ其ノ負擔部分ヲ超エテ求償シ得サルコトハ民法第四百六十四條ノ規定スル處ニシテ連帶債務者ノ一人ノ爲メニ先ツ保證債務ヲ負擔シ然ル後ニ辨濟ヲナシタル場合ト始メヨリ連帶債務者ノ一人ノ爲メニ辨濟ヲナシタル場合トノ間ニ求償權ノ範圍ニ關シテ差別ヲ設クル理由ナク辨濟者ハ他ノ連帶債務者ノ爲メニ辨濟シタルモノニ非スト雖其辨濟ニ因テ負擔ヲ免レタル連帶債務者ノ利得ハ結局ニ於テ其ノ負擔部分ニ付テ存スルカ故ニ其ノ範圍ニ於テハ辨濟者ニ對スル直接ノ償還義務ヲ認ムルヲ相當トスレハナリ（朝鮮高等法院昭和七年民上一〇〇號同年五月二四日判決司法協會雜誌一一卷八號一一三頁・法律評論二一卷民法八三一頁）

第五百條【法定代位辨濟】

1 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

◎法定代位辨濟ニ關スル諸問

一　本條ノ法意（二續民五九三頁）

二　法定代位辨濟ノ要件（本條後出）

三　辨濟ニ付キ正當利益ヲ有スル者（本條後出）

四　代位辨濟者ト抵當權ノ順位（三續民三九二條九三二頁「本條第二項ノ適用範圍」ノ二參看）

五　連帶者一人ノ爲ノ代位ト求償權（三續民四九九條）

六　保證人ノ代位ニ因ル求償權ト對抗要件（三續民五〇一條）

七　手形ノ償還カ立換辨濟カノ判定（續民法一一九五頁）

八　手形金ノ法定代位辨濟ト求償權（三續民五〇一條）

九　租稅公課ノ代納ト代位權（本條後出）

一〇　賠償後ノ身元保證人ト代位私訴（刑訴八頁「身元保證人ノ賠償請求權」參看）

◉代位辨濟ニ關スル諸問（三續民四九九條）

◎本條ニ所謂辨濟ノ意義

一〔大審院〕民法第五百條ニ所謂辨濟トハ單ニ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ金品等ヲ債權者ニ給付スル場合ノミニ止マラス法律上辨濟シタルモノト看做サレタル場合ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス（大審院昭和六年オ一一八〇號同年一〇月六日判決大審院判例集一〇卷民事八八九頁・法律新聞三三七一號九頁）

二〔大審院〕民法第五百條ニ所謂「辨濟」ハ常ニ狹義即任意ニ債務ノ本旨ニ從フ履行ヲ爲ス場合ニノミ限局スヘキモノニ非ス又斯ク限局スヘキ何等實質上ノ理由ナシ何トナレハ任意ノ辨濟タルト擔保物件ヲ實行セラレタルトヲ問ハス其ノ物上保證人ノ出捐ニ因リテ以テ債務ノ本旨ニ從フ滿足ヲ債權者ニ與ヘ得タルノ點ハ兩者ノ間何等ノ差別ナケレハナリ（大審院昭和二年オ九三三號同四年一月三〇日判決法律新聞二九四五號一二頁）

◎法定代位辨濟ノ要件

一〔大審院〕抵當權ノ目的タル不動產ノ一部ヲ買受ケタル者ノ如キ辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ハ民法第五百條ノ規定ニ基キ辨濟ニ因リ當然債權者ニ代位スルモノニシテ辨濟者ニ於テ特ニ代位辨濟ヲ爲ス旨ヲ債權者ニ通知スルノ必要ナキモノトス（大審院昭和二年オ五五二號同年一〇月一〇日判決法律評論一六卷民法九七五頁）

◎辨濟ニ付キ正當利益ヲ有スル者

一〔大審院〕辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位スヘキコトハ民法第五百條ノ明定スルトコロナリ而シテ同條ニ所謂辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者トハ辨濟ニ因リ當然法律上ノ利益ヲ受クル者ノミヲ指稱シ縱令辨濟ニ付事實上利害關係ヲ有スルモ當然法律上

ノ利益ヲ受ケサル者ハ之ヲ除外スルモノト解スヘキモノトス蓋辨濟ニ因リ當然法律上ノ利益ヲ受クル者ハ辨濟ヲ爲ササルコトニ依リ自己ニ損失ヲ及スヘキ法律上ノ地位ニ在ルモノナレハ斯ル者ノ爲シタル辨濟ニ付テノミ當然代位ノ利益ヲ享受セシムル趣旨ナリト解スルヲ相當ト爲スヲ以テナリ（大審院昭和五年オ二五八八號同六年四月七日判決大審院判例集一〇卷民事三六九頁・法律新聞三三二三號一〇頁）

○右一ノ批評—法學博士末川博氏法學論叢二七卷一號一四八頁・法律評論二一卷民法六頁

二　辨濟ニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者（二續民五九三頁・續民法一一九四頁）

◉第三者ノ辨濟ト利害關係（三續民四七四條一三一四頁）

◉租稅公課ノ代納ト代位權

一〔法曹會〕公課金ノ徵收ハ公法關係ナルカ故ニ公課金代納者ハ民法第五百條ニ依リ其ノ優先權ヲ代位スルコトヲ得サルモノトス（法曹會昭和七年五月四日決議法曹會雜誌一〇卷八號八五頁）

二　租稅代納者ト代位權（民法二八五頁）

◉代位辨濟ト競賣手續トノ關係

第五百一條　〔代位辨濟ト求償權〕

1前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍內ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一　保證人ハ豫メ先取特權、不動產質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動產質權又ハ抵當權ノ目的タル不動產ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

二　第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス

三　第三取得者ノ一人ハ各不動產ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四　前號ノ規定ハ自己ノ財產ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五　保證人ト自己ノ財產ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財產ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保證人ノ負擔部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財產ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財產カ不動產ナルトキハ第一號ノ規

定ヲ準用ス

◉代位辨濟ノ求償權ニ關スル諸問

一　本條ノ法意（二續民五九五頁）

二　擔保共有地ノ分割ト本條ノ適用（本條後出）

三　第三取得者ノ意義（二續民五九五頁）

四　第一、二號ノ解釋及第三取得者ノ範圍（本條後出）

五　代位附記登記ニ關スル諸問（本條後出）

六　法定代位ト權利行使ノ範圍（二續民五九五頁）

七　第三取得者ノ分擔割合ノ確定時期（二續民五九六頁）

八　第三號ノ不動產價格ノ算出方（本條後出）

九　共同保證ト物上保證人トノ關係（二續民五二四頁）

一〇　代位辨濟ト求償權（本條後出）

一一　保證人ノ代位ニ因ル求償權ト對抗要件（本條後出）

一二　手形金ノ法定代位辨濟ト求償權（本條後出）

◉擔保共有地ノ分割ト本條ノ適用

一〔仙臺地〕1民法第五百一條ニ所謂第三取得者ハ一個ノ共有不動產ノ共有者間ニ於テ分割取得セル場合ヲモ包含スヘキコト同條ノ法意ニ徵シ些ノ疑ヲ容ルヘキニアラス

2甲乙丙三名カ其ノ共有ノ土地ニ付根抵當權ヲ設定シテ負擔シタル債務ヲ甲乙兩名カ代位辨濟シタル後該共有土地ノ分割ヲナシタル場合甲乙兩名ハ丙ニ對シ該土地ニ付抵當權者ノ地位ヲ取得スルモノニシテ右兩名ノ右代位辨濟ニ基ク債權者代位ノ範圍ハ民法第五〇一條第三號ノ規定ニ依リ丙ノ取得シタル土地ノ價格ニ應スルヲ以テ其ノ限度ト爲スヘキモノトス（仙臺地方裁判所石卷支部昭和四年ヲ四四號同五年七月二一日判決法律新聞三一五七號八頁・法律評論一九卷民法一二一三頁）

◎第一、二號ノ解釋及第三取得者ノ範圍

一〔大審院〕1民法第五百一條第一號ハ先取特權不動產質權又ハ抵當權ノ目的タル不動產ノ第三取得者カ豫メ保證人ノ代位アルヘキコトヲ知了セサル爲不測ノ損害ヲ被ルコトアルヘキヲ慮リ之等第三取得者ヲ保護セントスルノ法意ニ外ナラサルカ故ニ同號ニ所謂代位ノ附記登記ハ第三取得者カ右不動產ヲ取得スル以前ニ爲スヲ以テ足リ必シモ所論ノ如ク債務辨濟前ニ登記スルヲ要スルモノニ非スト解スルヲ相當トスヘシ然レトモ右ノ如ク第一號ニ於テ保證人ニ代位權ヲ認メタルニ拘ラス同條第二號ニ於テ第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セサル旨規定シタル所以ノモノハ其ノ擔保ノ目的タル不動產ニ付所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル者ハ保證人ト異リ或ハ代金ヲ辨濟シ又ハ滌除ヲ爲シテ其ノ擔保權ヲ消滅セシムル等其ノ利益ヲ保護スルノ途アルカ故ニ之等ノ權利取得者ヨリモ寧ロ保證人ヲ保護スルヲ相當トシタルニ由ルモノト解シ得ヘキカ故ニ右第二號ニ所謂第三取得者トハ如上ノ權利取得者ノミヲ指稱スヘク從テ亦同條第一號ニ所謂第三取得者中ニハ第二順位ノ抵當權者ノ如キハ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ妥當トス

2果シテ然ラハ本件ニ於テ所論ノ如ク上告人カ第二順位ノ抵當權ヲ取得シタルハ大正十五年七月六日ニシテ被上告人ノ爲シタル代位ノ登記カ昭和六年八月三十一日ナリトスルモ第二順位ノ抵當權者ニシテ民法第五百一條第一號ニ所謂第三取得者中ニ包含セサルコト前段說明ノ如クナル以上右ノ法條ニ則リ保證人タル被上告人ハ豫メ代位ノ登記ヲ爲スヲ要スヘキモノニアラス而シテ被上告人カ一部辨濟ヲ爲シタル者ナルコトハ原審ノ確定セルトコロナルカ故ニ同第五百二條ノ規定ニ從ヒ其ノ權利ヲ行使シ得ヘキ筋合ナリト謂ハサルヘカラス以上ノ點ニ關スル原判決ノ說示ハ明確ヲ缺ク嫌ナキニ非サルモ結局原審ハ保證人トシテ代位辨濟ヲ爲シタル被上告人カ第二順位ノ抵當權者タル上告人ニ優先シテ配當ヲ受クヘキ權利アル旨判定シ上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ相當ナルカ故ニ論

旨ハ採用スルニ由ナキモノトス（大審院昭和七年ヲ九九四號同年一二月二一日判決法律新聞三五一六號九頁・判例彙報四四卷九號民事四一七頁・法律評論二二卷民法一八八頁）

◎代位附記登記ニ關スル諸問

一〔大審院〕債務ノ辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有シ債務者ニ代リ抵當權ヲ以テ擔保スル債務ノ全部及抵當權實行ノ費用ヲ債權者ニ辨濟シタル者ハ民法第五百條ノ規定ニ從ヒ當然債權者カ有スル抵當權（之カ實行費用ニ關スル權利ヲ包含ス）ヲ取得スルモノナルヲ以テ債權者ハ右辨濟者ナシテ該權利ノ行使ヲ完全ナラシムル爲之カ移轉登記申請ニ付協力スル義務アルコト勿論ナリトス（大審院昭和二年ヲ五五二號同年一〇月一〇日判決法律評論一六卷民法九七六頁）

二　代位登記申請ノ協力義務（三續民四八五條一三三五頁「抵當權ノ擔保範圍ト實行費用」ノ一參看）

三〔法曹會〕1保證人カ民法第五百一條第一號ニ基キ爲ス代位ノ附記登記ハ第三者カ先取特權不動產質權又ハ抵當權ノ目的タル不動產ヲ取得スル以前ナルニ於テハ辨濟以前ナルト將又辨濟ト同時タルトヲ問ハス爲スコトヲ得ヘキモノトス

2叙上前段ノ場合ニ於テハ保證人ハ不動產登記法第二條ニ基キ代位附記ノ假登記ヲ爲スヘキモノニシテ代位辨濟ヲ爲シタルトキハ本登記ヲ爲スヘキモノトス又後段ノ場合ニ於テハ保證人ハ不動產登記法第百二十五條ニ依リテ先取特權不動產質權又ハ抵當權ノ移轉登記ヲ爲スヘキモノトス

3代位ノ附記登記後ニ於テハ民法第四百六十七條ノ手續ヲ爲スノ必要ナシ（法曹會昭和八年七月六日決議法曹會雜誌一一卷九號八七頁）

四〔大審院〕1民法第五百一條第一號ニ所謂保證人ノ豫メ爲ス代位ノ附記登記ハ必スシモ保證人カ債務ノ辨濟ヲ爲ス以前ニ爲スコトヲ要セス保證人カ債務ノ辨濟ヲ爲シタル後ト雖モ第三者カ先取特權不動產質權又ハ抵當權ノ目的タル不動產ヲ取得シ之カ登記ヲ爲ス以前ニ爲スニ於テハ同號ノ登記ニ該當スルモノトス蓋右ノ規定ハ畢竟第三者カ叙上擔保物權ノ目的タル不動產ヲ取得スルニ當リ此等ノ物權カ他ニ移轉シタルコトヲ知ラサルトキハ不測ノ損害ヲ被ムルコトアルヘキコトヲ慮リタルニ外ナラサレハ第三者カ先取特權不動產質權又ハ抵當權ノ目的タル不動產ヲ取得スルニ當リ此等ノ權利カ他ニ移轉シタル旨ノ登記アル以上第三者ハ不測ノ損害ヲ被ムルノ虞ナケレハナリ

2然ラハ本件ニ於テ原院カ上告人ニ於テ本件抵當權ノ目的タル不動產ヲ取得シ之カ登記ヲ爲シタル以前ニ被上告人カ債權者タル株式會社福島縣農工銀行ヨリ同銀行カ瀨上玉糸株式會

社ニ對スル債權ト共ニ本件抵當權ヲ讓受ケ之カ登記ヲ爲シタルコトヲ認メ前示第五百一條第一號ノ規定ニ基キ右抵當權ヲ以テ上告人ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲シタルハ不法ニ非ス上告人ニ於テ其ノ前主タル訴外宍戸謙次郎カ本件不動產ヲ取得シ之カ登記ヲ爲シタルハ被上告人カ前記銀行ヨリ債權ト共ニ抵當權ヲ讓受ケ之カ登記ヲ爲シタル以前ニ係ルヲ以テ被上告人ハ謙次郎ヨリ本件不動產ヲ讓受ケタル上告人ニ對シ抵當權ヲ主張シ得サルモノトシテ原判決ヲ批難スレトモ縱令其ノ主張ノ如キ事實アリトスルモ被上告人ハ本件抵當權ヲ以テ宍戸謙次郎ニ對抗スルコトヲ得サルニ止マリ同人ノ特別承繼人タル上告人ニ對シテハ既ニ前段說明シタル如ク上告人ノ本件不動產ノ取得登記ハ被上告人カ債權ト共ニ抵當權ヲ讓受ケタル登記以後ニ係ルヲ以テ被上告人ハ抵當權ヲ主張スルコトヲ得ヘキニヨリ右ノ批難ハ採ルニ足ラス（大審院昭和六年オ一一八〇號同年一〇月六日判決大審院判例集一〇卷民事八八九頁・法律新聞三三七一號九頁・法律新報二八一號一一頁）

五〔大審院〕保證人カ主タル債務者ノ爲ニ辨濟ヲ爲シタル後民法第五百一條第一號ノ規定ニ基キ先取特權不動產賣權又ハ抵當權ノ登記ニ爲ス代位ノ附記登記ハ保證人カ債權者ヨリ其ノ債權及之ヲ擔保スル先取特權不動產賣權ヲ又ハ抵當權ヲ讓受ケタル旨ヲ登記スルヲ以テ足ルモノト解スルヲ相當トス蓋シ此等ノ擔保物權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲スモノナルコトハ不動產登記法第百二十五條ノ規定スル所ニ係リ前示民法ノ法條ノ代位登記ト其ノ登記ノ方法ヲ同シクシ之ニヨリ右民法ノ法條ノ規定ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ヘケレハナリ（大審院昭和六年オ一一八〇號同年一〇月六日判決大審院判例集一〇卷民事八八九頁・法律新聞三三七一號九頁）

◎第三號ノ不動產價格ノ算出方

一〔法曹會〕本問ノ場合ハ非訟事件手續法第八十四條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ス又競賣裁判所ニ於テモ代位スヘキ債權額ヲ確定スルコトヲ得ス此ノ額ハ當事者間ニ爭アル場合ハ民事訴訟ニ依リテ確定スルノ外ナシ（法曹會昭和七年二月一〇日決議法曹會雜誌一〇卷五號九〇頁）

◎代位辨濟ト求償權

一〔大審院〕民法第五百一條ノ規定ニ依レハ債權者ニ代位シタル者カ債務者ニ對シ債權者ノ有セシ權利ヲ行フコトヲ得ヘキ範圍ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ニ限ラルルモノトス（大審院大正三年ク一一六號同年四月六日判決法律新聞九四一號二六頁）

二〔朝鮮高〕1連帶債務者カ債務ノ辨濟ヲ爲シタルニ因リ債權者ニ代位スヘキ範圍ハ其ノ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ニ限リ之ヲ定ムヘク連帶債務者カ一面ニ於テ物的擔保ヲ供シタル者ナルトキト雖民法第五百一條第四號ノ規定適用セラルルコトナシ

2其ノ辨濟ニ因リ代位取得セル抵當權カ債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ消滅セルトキハ代位權者ハ其ノ求償ヲ爲シ得ル金額ノ範圍ニ於テハ直チニ抵當權ヲ實行シテ滿足ヲ得ヘカリシ部分ニ付債權者ニ賠償ヲ求メ得ルモノトス（朝鮮高等法院昭和七年民上五一三號同八年二月二四日判決司法協會雜誌一二卷六號一四七頁）

三　連帶債務者ト代位權行使ノ範圍（民法二四〇頁）

四　保證人ノ代位ニ因ル求償權ト對抗要件（次問）

◎求償權ノ取得有無ノ立證責任（續民訴九六一頁「異常ノ事實主張ト立證責任」ノ一參看）

◎保證人ノ代位ニ因ル求償權ト對抗要件

一〔東京地〕民法第五百一條同第五百一條前項ノ規定ニ徵スルトキハ保證人カ債權者ニ對シ其ノ債務ヲ辨濟シタルトキハ主タル債務者ニ對シ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍內ニ於テ債權ノ效力及擔保トシテ其ノ債權者カ有セシ一切ノ權利例ヘハ抵當權ヲ行フコトヲ得ヘク之ヲ主タル債務者ニ對抗センカ爲ニハ必スシモ豫メ斯カル抵當權ニ付之カ取得登記ヲ經ルコトヲ要セサルモノトス（東京地方裁判所昭和三年ヨ二六四一號同四年六月一八日判決法律評論一八卷民法八七四頁）

◎手形金ノ法定代位辨濟ト求償權

一〔東京地〕振出人甲受取人乙ナル約束手形及振出人甲支拂人甲受取人乙ナル爲替手形ヲ乙ニ於テ丙及丁ニ白地裏書ヲ爲シタルモ其ノ裏書ニ際シ何等ノ對價ヲモ取得シ居ラサリシ關係上特ニ償還義務履行ノ形式ヲ避ケ約束手形ニ付テハ振出人爲替手形ニ付テハ引受人タル甲ノ爲當時ノ各所持人ニ對シ夫々民法第五〇〇條ニ基キ該各手形金ノ法定代位辨濟ヲ爲シ法律上當然該手形ノ所持ヲ取得シタリト謂フ場合ハ乙ハ該各手形ノ所持ヲ取得スルニ當リ前所持人トノ間ニ有效ナル手形債權讓渡行爲ナカリシモノナルコト明白ナルヲ以テ乙ハ若シ右法定代位辨濟ニシテ有效ナリトセンカ之ニ因リ甲ニ對シ民法上ニ於ケル求償權ヲ取得スルコトアルヘキハ格別之カ爲右各手形ノ正當ナル持人トシテノ地位ヲ取得スルモノニ非ス從テ假令右各手形上ノ權利カ時效ニ因リテ消滅シタリトスルモ乙ハ之ニ因リ甲ニ對シ利得償還請求權ヲ取得スルニ由ナキモノトス（東京地方裁判所昭和六年ヲ三八八號同八年三月三一

日判決法律新聞三五六〇號一四頁・法律評論二二卷商法三六九頁）

第五百二條【一部代位辨濟】

1 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

2 前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

◎一部代位辨濟ニ關スル諸問

一　連帶債務者ト代位權行使ノ範圍（民法二四〇頁）

二　連帶債務者ノ一部代位（續民法一一九六頁「連帶債務者ト代位權ノ行使」ノ二以下參看）

三　一部代位辨濟ト競賣ノ申立（本條後出）

◎一部代位辨濟ト競賣ノ申立

一［大審院］1 債權ノ一部ニ付代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其ノ辨濟シタル價格ニ應シテ債權者ト共ニ其ノ權利ヲ行使シ得ヘク其ノ權利ニシテ分割行使ヲ爲シ得ル以上之カ行使ニ付債權者ト共同スルノ要ナク各別ニ之カ行使ヲ爲シ得ルコト民法第五百二條第一項ノ規定ニ徵シ明白ナリ蓋同法條ニハ單ニ「債權者ト共ニ其ノ權利ヲ行フ」トアルニ過キサルモ其ノ權利ニシテ分割行使ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ債權者ト共同スルコトナク各自其ノ割合ニ應シテ各別ニ之カ行使ヲ爲シ得ル趣旨ナルコト同條第二項ト對照上毫モ疑ヲ容ルル餘地ナケレハナリ而シテ右第五百二條第一項ニハ債權ノ一部ニ付代位辨濟ヲ爲シタル者カ其ノ辨濟シタル價格ニ應シ債權者ノ權利ヲ行使スルニ付何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ殘存債務ニ付債權者カ其ノ權利ノ實行ヲ爲シ得ル時期ニ達シタルト否トヲ問ハス一部代位者ハ同條項ニ基キ債權者ノ權利ヲ行使シ得ルモノト解セサルヘカラス

2 然ルニ原決定ハ抗告人ハ藤守武次郎カ株式會社阿波農工銀行ヨリ金四萬圓ヲ利息年九分三厘トシ大正十五年三月一日ヨリ昭和十六年二月末日迄毎年二月及八月ノ各十五日ニ金二千四百九十九圓十七錢宛分割辨濟スヘク各辨濟期日ヲ徒過シタルトキハ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ニ依ル利息ヲ附加シテ支拂フヘキ定ニテ借受クルニ當リ武次郎ノ爲保證人ト爲リタル旨ヨリ該債務ノ一部辨濟ヲ爲シ本件抵當權ノ登記ニ代位ノ附記登記ヲ爲シタルコト明ナルモ抗告人カ代位辨濟ヲ爲シタル以外ノ殘債務即昭和五年八月以降ノ分割辨濟金ノ支拂未了ニシテ債權者銀行カ自ラ抵當權實行ヲ爲シ得ヘキ關係ニ在ルコトハ之ヲ認メ難キヲ以テ抗告人ハ未タ代位權者トシテ抵當權ノ實行ヲ爲シ得サルモノナリト說明シ抗告人ノ抗告ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ民法第五百二條第一項ノ法意ヲ誤解シタルニ基クモノニシテ違法タルヲ免レス（大審院昭和五年ク一三〇九號同六年四月七日決定大審院判例集一〇卷民事五三五頁・法律評論二一卷民法一二〇四頁）

○右一ノ批評—法學博士末川博氏法學論叢二七卷二號三二四頁・法律評論二一卷民法一二〇一頁

第五百三條【代位辨濟ト證書及擔保物】

1 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

2 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

◎代位辨濟ト債權證書ノ請求權（續民法一一九六頁）

第五百四條【擔保ノ喪失ト代位者ノ免責】

1 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

◎擔保ノ喪失又ハ減少ニ關スル諸問

一　本條ノ法意及適用（本條後出）

二　本條ニ所謂擔保ノ意義（民法二八七頁）

三　本條ニ所謂「故意」トハ（民法二八七頁）

四　擔保ノ減少ト保證人ノ免責（續民法一一九七頁・民法二八八頁）

五　債權者ノ買權取得懈怠ト保證人ノ免責（本條後出）

六　擔保物ノ下落ト保證人ノ自衛權（本條後出）

七　免責限度ノ算定標準（民法二八八頁）

八　擔保減少ノ免責限度ノ確定時期（本條後出）

九　擔保喪失ニ因ル損害額（三續民五〇一條「代位辨濟ト求償權」二ノ2參看）

一〇　免責ノ利益ハ讓渡シ得ルカ（民法二八八頁）

一一　本條免責ノ主張ト訴訟完結ノ遲延（本條後出）

◎本條ノ法意及適用

一〔大審院〕民法第五百四條ハ債權者カ擔保チ喪失又ハ減少シタルトキハ債務者カ他ニ財產チ有スルト否トチ問ハス代位チ爲スヘキ者ハ其擔保ニ依リテハ償還チ受クルコト能ハサル ニ至リタル限度ニ於テ其責チ免ルルノ意ニシテ他ニ償還チ受クルノ途ナキ場合ニ於テノミ適用チ見ルヘキ法文ニアラス（大審院明治三九年オ六〇六號同四〇年二月二三日判決大審院判決錄一三輯民事一六六頁・法律新聞四一三號一〇頁）

二〔大審院〕恩給チ受クル權利チ擔保ニ供スル契約ハ恩給法第一一條ノ禁止スル所ニシテ無效ナルカ故ニ債權者ハ債權ノ擔保トシテ債務者ヨリ恩給證書ノ交付チ受ケタリトスルモ債務者ノ有スル恩給チ受クル權利ノ上ニ何等ノ擔保チモ有スルモノニ非サルチ以テ其ノ恩給證書チ返還スルモ保證人ハ民法第五〇四條ニ依リ債務チ免ルヘキモノニ非ス（大審院昭和五年オ一八〇二號同六年五月一九日判決法律評論二〇卷民法六九〇頁）

三〔朝鮮高〕民法第五百四條ハ債權者カ其ノ擔保ノ喪失又ハ減少ニ付故意若クハ過失アルコトチ要件トシ代位シテ辨濟チ爲スニ付正當ノ利益チ有スル第三者ノ存スルコトニ付認識アルチ必要トスルモノニ非ス（朝鮮高等法院昭和三年民上三九二號同年一一月二七日判決法律評論一八卷民法一一二頁）

四　本條ノ法意及適用（二續民五九七頁）

五　本條チ適用スヘカラサル場合（二續民五九八頁）

◎債權者ノ質權取得懈怠ト保證人ノ免責

一〔大審院〕按スルニ債權者タル被上告人カ本件貸借契約チ取結ヒ且上告人先代毎夫チシテ本件債務ノ保證チ爲サシムルニ當リ債務者タル宗像秀藏ト右債務ノ擔保トシテ輪轉機一臺其他甲第四號證ノ契約書ニ表示ノ物件チ他ヨリ買得ノ上之ニ質權チ設定セシムヘキ旨ノ契約チ爲シタルコト竝同質權ノ設定ハ途ニ不能ニ了リタルコトハ原判決ノ確定スルトコロナリ惟フニ債務者カ債權者ニ對シ債務擔保ノ爲メ他ヨリ特定ノ動產チ買得シテ其ノ上ニ質權チ設定スヘキ旨特約シタルノミニテハ未タ當該動產ノ引渡ナク從テ質權ノ成立チ見ルニ至ラサルコト勿論ナリト雖又事情ノ如何ニ依リテハ債權者ハ一舉手一投足ノ勞ニ依リ容易ニ債務者ナシテ約定物件ニ付質權チ設定セシメ得ルコトナキニ非ラサルヘク本件ニ於テモ甲第四號證ノ貸借書中ニ本訴物件ニ付質權チ設定シタル旨表示シアルニ依リテ之チ觀レハ當事者ハ勿論保證人タル上告人ノ先代毎夫ニ於テモ右質權ノ設定ハ輒スク實行セラルヘク豫想シタル消息ハ必スシモ窺ヒ得サルニアラサルヘシ若シ果シテ債權者ニシテ輒スク債務者ニ質權ノ設定チ爲サシメ得ルニ拘ラス其ノ手續チ爲サシムルコトチ懈リ竟ニ機チ逸シテ質權ノ設定チ受クルコト能ハサリシモノトセハ結局同物件ヨリ保證人チシテ償還チ受クルコト能ハサルニ至ラシメタル點ハ事實擔保チ喪失セシメタル場合ト何等擇フルトコロナキカ故ニ民法第五百四條ノ規定チ準用シ質權ノ設定チ受ケサリシニ因リ保證人ノ被ルヘキ損害ニ付テハ債權者チシテ其ノ責ニ任セシムルチ相當トスヘシ然ラハ則チ本件ニ於テハ債權者タル被上告人ノ懈怠ニ因リ本訴質權ノ設定チ見ルニ至ラサリシモノナリヤ否ヤチ審究スヘキモノタルニ拘ラス原審カ漫然未タ質權ノ設定ナキノ故ノミチ以テ上告人ノ前示ノ抗辯チ排斥シ去リタルハ民法第五百四條ノ律意チ誤解シタルカ又ハ審理不盡ノ違法アルチ免レサルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ全部破毀セラルヘキモノトス（大審院昭和七年オ一九七五號同八年七月五日判決大審院判例集一二卷二二號民事二一九一頁・法律新報三五一號附錄二六頁）

○右一ノ批評—法學博士末川博氏法學志林三六卷五號六四頁・法律評論二三卷民法二四〇頁

◎擔保物ノ下落ト保證人ノ自衞權

一〔大審院〕保證人ハ債權者ニ對シテ債權ノ擔保タル抵當物件ノ下落ニ因ル損害ノ發生チ避ケンカ爲ニ其ノ主タル債務者ニ對スル權利チ行使スヘキコトチ請求スルノ權利アルモノニ非ス（大審院昭和五年オ一一二號同年六月六日判決法律新報二二四號九頁）

二〔大審院〕抵當權者ハ辨濟期ニ辨濟チ受ケサル場合ト雖モ抵當權ノ實行チ爲スノ責務アルコトナク抵當物件ノ競賣チ求ムルヤ否ヤハ素ヨリ抵當權者ノ自由ニ取捨シ得ルトコロニシテ開ハ保證人ヨリ抵當權實行ノ催告アリタルト否トニヨリ毫モ異ナル所ナキカ故ニ本件ニ於テ辨濟期到來以後抵當不動產ノ價格下落シタル事實アリトスルモ民法第五百四條ノ適用アルコトナク上告人ノ保證人トシテノ責任ニ何等ノ消長チ來タスヘキモノニ非ス（大審院昭和六年オ二八八〇號同七年三月八日判決法律評論二一卷民法一一九三頁・法學一卷八號一〇六頁）

三〔大審院〕上略—辨濟期ノ至レル後少カラサル歲月チ經過シ其ノ間主債務ハ則チ依然存續其ノ利息ノ如キハ漸ク遞加スルト共ニ一面擔保物ノ價額ハ著シク下落ニ赴キタリト云フ推移變遷ノ際ニ處シ何等カ債權者トシテ（縱令法律上ノ義務違反ニハ渉ラサルモ）保證人ニ對スル信義誠實ノ態度ニ缺クルトコロアル以上保證人免責ノ事由モ亦其ノ間ニ伏在セスト云フ可カラス今本件ニ於ケル事實ニ徵スレハ本件消費貸借ノ成立ハ大正十四年五月二十三日ニアリテ上告人先代ハ其ノ保證人タリ利息ハ毎月末日之チ支拂フヘク此ノ支拂ノ延滯ニ因リ債

務者ハ期限ノ利益ヲ失フ旨ノ定アリ而モ元金ハ更ナリ利息スラ當初ヨリ一回モ其ノ支拂無キヲ以テ辨濟期ハ已ニ同年六月一日ヲ以テ到來シタルトコロ爾後主債務ハ依然存續現在ニ於テ利息ハ殆ント元金ト同額ニ達シタルカ擔保物タル抵當不動産ハ昭和七年三月中競賣代金三十五圓ニテ競落セラレタリ此ノ不動産ノ大正十四年（本件貸借成立）當時ノ價額ハ上告人ニ從ヘハ約七百圓被上告人ニ從ヘハ約四百圓ナリト云フニ在リ斯カル事實ノ本件ニ於テ第一審以來當事者雙方專ラ民法第五百四條ヲ廻リテ互ニ抗爭應酬スルトコロアリ而シテ原審判示ハ則チ抵當權ノ行使ハ抵當權者ノ自由ナリ不景氣ノ來去ノ常人ノ得テト知スルトコロニ非ス民法第五百四條ハ本件ニ適用無シト云フニアルモ熟ラ々々上告人ノ抗辯ヲ吟味スルトキハ其ノ主張ノ趣旨ハ畢竟前叙事實ノ下ニ保證人ハ免責セラルルヲ相當トスト云フニ在ルヤ之ヲ窺フニ難カラス而モ此ノ主張ハ一二法條ノ死守ニ依リテ直ニ所斷シ得ラルル程爾ク單純ナル問題ニ非ス細ニ事情ノ存スルトコロヲ討ネ深ク法規ノ精神ヲ酌シ保證人ニ於テ何等カ藉口ノ端緒ヲ索メ得テ以テ苟モ其ノ責ヲ免レムトスルヲ防ク共ニ債權者ノ信義誠實ヲ顧サル措置ヲ警メ寛嚴其ノ節ニ中ルヲ努メサル限リ適正ナル解決ノ得ニ望ム可カラサルハ殆ント夫ノ木ニ緣リテ魚ヲ求ムルノ類ナラスンハアラス原判決ハ審理不盡ノ嫌アリ（大審院昭和八年オ一〇〇〇號同年九月二九日判決大審院判例集一二卷民事二四四三頁・法律新報三五一號附錄二一頁）

◎擔保減少ノ免責限度ノ確定時期

一〔抗告論旨〕抗告人ハ原審ニ於テ「（前略）本件抵當權拋棄ノ土地ハ拋棄當時金九十二圓ノ價格ヲ有シタルモノナルヲ以テ債權者カ右共同擔保物件ノ一部タル前記土地ニ對スル抵當ヲ拋棄スルト同時ニ右金額ノ責ヲ免ルヘキ旨卽免責ノ限度ハ抵當權拋棄當時ノ價格ヲ標準トシテ算出スヘキ旨」主張シタルニ對シ原審ハ「其ノ免責ノ限度ハ競賣申立ヲ爲シタル當時ノ價格ヲ標準トシテ算出スヘキ旨」判定セラレタリ然レトモ民法第五百四條ノ趣旨ハ辨濟ニ因リテ代位權ヲ有スルモノノ利益ヲ保護セントスルニ在ルヲ以テ若シ債權者ニシテ其ノ共同擔保物件ノ一部ヲ拋棄スルトキハ拋棄ト同時ニ其ノ擔保カ喪失シ此ノ時ニ於テ其ノ擔保物ヨリ辨濟ヲ受ケ得サルコト確定スルヲ以テ此ノ確定ノ時卽チ抵當權拋棄當時ノ價格ヲ標準トシテ其ノ免責限度ヲ定ムヘキコト當然ナリ（大審院判例〔昭和五年（オ）第一五九一號昭和六年三月十六日判決判例集第十卷四號〕モ亦此ノ趣旨ニ外ナラス信ス要スルニ原審決定ハ民法第五百四條ノ解釋ヲ誤リタル違法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

二〔大審院〕案スルニ抗告人先代カ大正二年六月二十七日本件競賣ノ目的タル抵當土地ノ中三筆ヲ買受ケ其ノ第三取得者トナリ抗告人ハ相續ニ因リテ之ヲ承繼シタル事實及抵當債權者タル本件競賣申立人カ昭和二年三月二十八日之ト共同擔保タリシ債務者所有ノ他ノ一筆ノ土地ニ對スル抵當權設定登記ノ抹消登記ヲ爲シ以テ故意ニ其擔保ヲ減少シタル事實ハ孰レモ原判決ノ確定セル所ナリ然レハ此ノ擔保減少ニ因リ抗告人カ償還ヲ受クル能ハサルニ至リタル限度ニ於テ抗告人所有ノ土地三筆ハ抵當權ノ負擔ヲ免レタルモノニシテ其ノ時期及限度ハ擔保減少ノ確定シタル時卽右抹消登記アリタル時ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス然ルニ原決定ニ於テハ昭和四年四月六日本件競賣申立當時ノ不動產ノ價格ヲ標準トシテ抗告人ノ免責ノ限度ヲ確定シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ所論ノ如ク違法アリ原決定ハ取消スヘキモノトス（大審院昭和七年ク九九二號同年八月五日決定法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二四七頁）

三〔大審院〕右一ノ抗告論旨引用ノ判例―1債務者カ債務ノ擔保トシテ自己所有ノ不動產ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ債權者ニ約シタル場合ニ於テハ債權者ハ其ノ債務者ニ對シ抵當權ノ設定ヲ爲シ之カ登記ニ協力スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者カ之ニ應セサルトキハ裁判上ノ訴追ヲ爲シ且抵當權設定ノ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ若シ債權者ニ於テ此等ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リ遂ニ債務者ヲシテ該不動產ヲ他人ニ讓渡シ抵當權ノ設定及其ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルニ至ラシメタルトキハ民法第五〇四條ニ所謂債權者ノ懈怠ニ因リ擔保ヲ喪失シタルモノト謂ヒ得ヘキヲ以テ右抹消登記ヲ爲シ以テ故意ニ其擔保ヲ減少シタル事實ハ孰レモ原判決ノ確定セル所ナリ然レハ此ノ擔保減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサル限度ニ於テ抗告人所有ノ土地三筆ハ抵當權ノ負擔ヲ免レタルモノニシテ其ノ時期及限度ハ擔保減少ノ確定シタル時卽右抹消登記アリタル時ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス然ルニ原決定ニ於テハ昭和四年四月六日本件競賣申立當時ノ不動產ノ價格ヲ標準トシテ抗告人ノ免責ノ限度ヲ確定シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ所論ノ如ク違法アリ原決定ハ取消スヘキモノトス（大審院昭和七年ク九九二號同年八月五日決定法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二四七頁）

三〔大審院〕右一ノ抗告論旨引用ノ判例―1債務者カ債務ノ擔保トシテ自己所有ノ不動產ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ債權者ニ約シタル場合ニ於テハ債權者ハ其ノ債務者ニ對シ抵當權ノ設定ヲ爲シ之カ登記ニ協力スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者カ之ニ應セサルトキハ裁判上ノ訴追ヲ爲シ且抵當權設定ノ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ若シ債權者ニ於テ此等ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リ遂ニ債務者ヲシテ該不動產ヲ他人ニ讓渡シ抵當權ノ設定及其ノ登記ヲ爲スコト

ヲ能ハサルニ至ラシメタルトキハ民法第五〇四條ニ所謂債權者ノ懈怠ニ因リ擔保ヲ喪失シタルモノト謂ヒ得ヘキヲ以テ右債務者所有ノ他ノ一筆ノ土地ニ對スル抵當權設定登記ノ抹消登記ヲ爲シ以テ故意ニ其擔保ヲ減少シタル事實ハ孰レモ原判決ノ確定セル所ナリ然レハ此ノ擔保減少ニ因リ償還ヲ受クル能ハサルニ至リタル限度ニ於テ抗告人所有ノ土地三筆ハ抵當權ノ負擔ヲ免レタルモノニシテ其ノ時期及限度ハ擔保減少ノ確定シタル時卽右抹消登記アリタル時ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス然ルニ原決定ニ於テハ昭和四年四月六日本件競賣申立當時ノ不動產ノ價格ヲ標準トシテ抗告人ノ免責ノ限度ヲ確定シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ所論ノ如ク違法アリ原決定ハ取消スヘキモノトス（大審院昭和七年ク九九二號同年八月五日決定法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二四七頁）

三〔大審院〕右一ノ抗告論旨引用ノ判例―1債務者カ債務ノ擔保トシテ自己所有ノ不動產ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ債權者ニ約シタル場合ニ於テハ債權者ハ其ノ債務者ニ對シ抵當權ノ設定ヲ爲シ之カ登記ニ協力スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者カ之ニ應セサルトキハ裁判上ノ訴追ヲ爲シ且抵當權設定ノ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ若シ債權者ニ於テ此等ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リ遂ニ債務者ヲシテ該不動產ヲ他人ニ讓渡シ抵當權ノ設定及其ノ登記ヲ爲スコト

旨判示シタルハ不法ナルノミナラス原裁判所カ主タル債務（消費貸借）ノ成立シタル大正一五年七月一九日ヨリ昭和三年五月二二日ニ至ルマテ二年チ經過セサルニ拘ラス元金千圓ニ對スル年一割ノ割合ニ依ル最後ノ二箇年ノ利息二百圓チ不動產ノ價格（四百圓ヨリ競賣費用二〇圓チ控除シタルモノ）ヨリ控除シ以テ上告人カ免責セラレタル元金一八〇圓チ算出シタル亦不法ナルヲ以テ原判決ハ破毀チ免レサルモノトス（大審院昭和五年オ一五九一號同六年三月一六日判決大審院判例集一〇卷民事一五七頁・法律評論二一卷民法二三二頁）

○右三ノ批評―法學博士末川博民法學論叢二七卷二號三一七頁・法律評論二一卷民法二二九頁

○同　上―福井勇二郎民法學協會雜誌五二卷一號一六二頁

四（大審院）民法第五百四條ニ依ル免責ノ限度ハ債權者カ抵當權實行ノ爲競賣ノ申立チ爲シタル場合ニ在リテハ其ノ申立アリタル時點チ標準トシテ之チ算出スヘキモノト解スルヲ相當トス（當院明治三五年（オ）第三百三十二號同年十月二日言渡判決參照）所論中島鑑定人ハ右ノ日時ニ於ケル當該不動產ノ價格ヲ鑑定シタルモノナレハ原判決カ之チ資料トシテ所論ノ如キ價格ト認定シタルハ洵ニ相當ニシテ本論旨採用ニ値セス（大審院昭和五年オ一〇四五號同六年四月一七日判決判例彙報四二卷二〇號民事三三九頁・法律新聞三二六六號一一頁）

五　右四ノ引用判例―民法二八八頁「免責限度ノ算定標準」

六（大審院）債權者カ擔保ノ保存ニ過失アリ其ノ全部又ハ一部チ喪失シタルトキハ代位チ爲スヘキ者カ後日辨濟チ爲スニ方リ結局代位ノ利益チ全部又ハ一部喪フコトトナルカ故ニ斯ル不利益ハ寧ロ之チ過失アル債權者ノ負擔ニ歸セシムルヲ相當トスヘシ民法第五百四條ハ斯ル趣意ノ下ニ規定セラレタルモノナレハ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其ノ擔保チ喪失又ハ減少セシメタル場合ニ於テハ代位チ爲スヘキ者チシテ辨濟チ待タス當該擔保ヨリ償還チ受クルコト能ハサル限度ニ於テ直ニ免責チ得セシムルモノト解スヘキモノトス本論旨ハ孰レモ叙上ト異ナル見地ニ出發シテ原判決チ非難スルモノニシテ採用ニ値セサルモノトス（大審院昭和五年オ一〇四五號同六年四月一七日判決判例彙報四二卷二〇號民事三三九頁・法律新聞三二六六號一一頁）

七（上告論旨）右六ノ上告論旨―第一點ハ（一）、民法第五百四條ハ第五百條ノ權利ニ基キ代位ヲナシタル代位債權者ノ權利ヲ保護スル規定ニシテ未タ代位ヲ爲ササルモノヲ保護セントスル規定ニアラサルナリ同條ニ云フ處ノ償還ヲ受クル能ハサル限度ニ於テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ルモノハ償還ヲ受クルコトヲ得ル地位ニアルモノヲ指スモノナルコト勿論ニシテ苟モ償還ヲ受クルノ權利ナキモノハ同條ニ含有セサルコト明ナリ（二）、抑第三取得者ノ有スル償還請求權ハ民法第五百條ニヨリ代位ヲ完全ニ履踐シタル後

ニ於テ始メテ發生スルモノニシテ其ノ代位前ニ於テ代位債權ノ債務者保證人抵當權設定者第三取得者ノ何レニ對シテモ求償スヘキ何等ノ權利ヲ有セス單ニ共同保證人共同抵當權設定者共同第三取得者ト云フニ止リ此等ノ間ニ於テ何等相互ニ求償權ヲ有スルモノニアラス求償權ヲ有セリトセンニハ民法第五百條ノ規定ニヨリテ先ツ代位辨濟ヲ完了シ代位債權者トシテ第五百一條ニ從ヒテ始メテ求償權ノ範圍ヲ定メ其ノ範圍內ニ於テ債權者ノ有セシ一切ノ權利ヲ債務者其ノ他保證人第三取得者ニ對シテ行フコトヲ得ルモノ卽求償權ヲ得タリト云フヘシ求償權カ代位ヲ完了シタル後ニ初メテ發生スルコト如上ノ通リナリトセハ代位辨濟ヲナササル以前又ハ以外ニ於テ償還ヲ求ムル權利アル理由ナク從テ民法第五百四條末段償還ヲ受クコト能ハサル限度ニ於テ其ノ責ヲ免ルルトノ法意モ自ラ明瞭トナリ代位辨濟ヲ了ヘ（五百條）求償權ノ範圍定マリ（五百一條）而シテ競賣手續ヲ終リ尙償還ヲ受クルコト能ハサル場合アルニ至リ（五百四條）初メテ其ノ責ヲ免ルヘキ金額現實シ此ノ時ニ至リテ故意又ハ懈怠ニ因リテ擔保ヲ減少シタル債權者（數多ノ債權者ヘ轉々セシ場合ハ其ノ減少セシメタル者）ニ對シテ責ヲ免レタル事由ヲ主張シ求償スルヲ許スノミ（三）、依テ本件被上告人カ未タ代位辨濟ヲナササルニ不拘既ニ求償權發生セリトシ其ノ求償權ニ基キ償還ヲ受クルコト能ハサル部分ノ數額ヲ決定セシテ漫然抵當權實行ノ債權範圍ヲ定メ以テ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ法則ヲ不法ニ適用シタル違法アリテ破毀セラルヘキモノナリト信スト云ヒ

同第十二點ハ原判決ハ其ノ理由中「而シテ控訴人ハ云々右物件ニ對シ第三取得者タル地位ヲ獲得シタルヲ以テ民法第五百條ニ所謂辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ニ該當シ從テ債權者タル被控訴人カ故意又ハ懈怠ニ因リ本件債權ノ抵當物件カ喪失又ハ減少セシメタルトキハ其ノ喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサル限度ニ於テ其ノ責ヲ免ルヘキ地位ヲ有スルニ至ルモノト云フヘシ」ト判示シ以テ被上告人ノ請求ヲ認容シ且上告人ノ抗辯ヲ排斥スル理由トシテ「本訴ハ民法第五百四條ニ基キ請求スルモノニシテ同條ハ既ニ辨濟ヲ爲シタルモノ卽既ニ代位ヲ爲シタル者ニ關スル規定ニアラスシテ若シ辨濟ヲ爲サハ代位ヲ爲スヘキ者ニ關スル規定ニシテ抵當不動產ノ第三取得者ハ辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スルモノナルヲ以テ民法第五百條ニ依リ辨濟ヲ爲サハ債權者ニ代位スヘキ地位ニ在ルモノナレハ云々民法第五百四條ニ規定スル利益ヲ享受スル者ナルヲ以テ云々」ト判示セリ然レトモ民法第五百條ニハ「辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス」ト規定セルヲ以テ同條ノ法定代位權ノ發生スルカ爲ニハ（一）、第三者カ辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スルコト及（二）、辨濟ヲ爲シタルコトノ二條件ヲ具備セサルヘカラサルヤ勿論ナレハ假令辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ト雖現ニ辨濟ヲ爲スニアラサレハ債權者ニ代位スルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス從テ同條ノ趣旨ニ承ケタル同法第五百四條ニ所謂「第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者」トハ現ニ辨濟ヲ爲シテ法定代位權ヲ得タル者ヲ指稱スルモノナルコト言

ヲ俟タス亦故ニ民法第五百條ハ辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタル效果トシテ法定代位權ヲ取得スル場合ノ規定ニシテ同法第五百四條ハ之ト對應シテ法定代位權ヲ取得シタル第三者カ債權者ノ擔保物ヲ減少シタルニ因リ免責ヲ得タル場合ノ規定ナリ然ルニ原判決カ右ノ如ク民法第五百四條ヲ解シテ既ニ辨濟ヲ爲シタル者卽既ニ代位ヲ爲シタル者ニ關スル規定ニアラスシテ將來辨濟ヲ爲サハ代位權ヲ取得スヘキ者ヲ指稱スルモノト爲シ以テ被上告人ヲ未タ辨濟ヲ爲サス從テ代位權ヲ取得セサルニ拘ラス尙被上告人ハ同條所定ノ利益ヲ享受スルモノナリトナシ上告人ノ抗辯ヲ排斥シ被上告人ノ請求ヲ認容シタルハ民法第五百條並第五百四條ノ解釋ヲ誤リタル違法ノ判決ナレハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ

同第十四點ハ原判決ハ其ノ理由中「尙被控訴代理人ハ被控訴人ニ於テ控訴代理人主張ノ如ク抵當物件中十數筆ノ不動產ニ付抵當權ヲ拋棄シタリトスルモ民法第五百條ニ依リ控訴人カ債權者タル被控訴人ニ代位セントセハ須ラク被控訴人ニ對シ全債權額卽金二千七百六十二圓十二錢ヲ支拂ヒ代位登記ヲ爲スヘク然モ被控訴人ニ對シテハ擔保物件ニ對シ競賣ヲ爲シ其ノ賣得金ヨリ配當ヲ受ケタル後尙不足額アルトキ初メテ其ノ不足額ノ範圍ニ於テ被控訴人ノ抵當權ヲ拋棄シタルコトヲ理由トシテ償還ノ請求又ハ損害賠償ノ形式ニ於テ請求ヲ爲シ得ルニ過キサルモノナレハ控訴代理人主張ノ如ク本件抵當權ノ各價格ニ準シ且被告ノ所有權取得ト同時ニ混同ニヨリ抵當權ノ消滅セル不動產ノ價格ニ對應スル數額ヲ控除シテ控訴人所有ノ抵當物件ニ對スル被控訴人ノ債權ノ行使ヲ制限スルカ如キハ其ノ理由ナキモノナリト抗爭スレトモ右抗辯ハ前段ノ抗辯ヲ排斥セル際說明セル處ニヨリ失當ナルコト明ナルヲ以テ本抗辯ヲ採用セス」ト判示シ代位辨濟未了ニ關スル上告人ノ抗辯ヲ排斥セリ然レトモ被上告人カ民法第五百條ニヨル法定代位權ヲ主張セントスルカ爲ニハ被上告人ハ先ツ上告人ノ有スル債權二千七百六十二圓十二錢ヲ辨濟セサルヘカラサルモノニシテ未タ全部ノ辨濟ヲ終ラサル以前ニ於テ代位辨濟ノ結果穫得スヘキ代位權ノ主張ヲ爲シ得サルコト第七點所論ノ如キモ假ニ被上告人カ債權者タル上告人ニ對シ全額ノ辨濟ヲ終リ代位ニヨリ全債權ヲ穫得シタリトスルモ未タ以テ上告人ニ對シ本訴ノ如キ請求ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ此ノ際ニ於テ代位辨濟者タル被上告人ハ先ツ其ノ代位債權ヲ以テ債務者ニ請求スヘク而シテ若シ債務者ニ於テ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトセハ本訴ノ請求ヲ爲シ能ハサルヘク而シテ債務者カ果シテ辨濟スルヤ否ハ未確定ニシテ從テ被上告人カ代位權ヲ以テ他ノ第三取得者ニ請求シ得ヘキ機會ノ生スルヤ否モ亦不確定ナレハナリサレハ此ノ際上告人ハ債務者ニ辨濟ノ資力ナキモノトシ代位ニ關スル登記手續ヲ完了シ其ノ代位債權ニヨリ他ノ第三取得者ノ所有ニ歸シタル抵當物件ニ對シ競賣ヲ開始シ競賣代金ヲ得タリト假定シ此ノ時初メテ民法第五百一條第一項第三號ノ適用ヲ受ケ抵當物件ノ競賣代金中ヨリ所定ノ配當ヲ受クルヲ得ルノミ而シテ若シ不足アリテソノ代位債權ノ償還ヲ受クルコト能ハサル部分確定セハ民法第五百四條末段ノ適用ヲ受ケ「償還ヲ受クルコト能

ハサルニ至リタル限度ニ於テ」始メテ其ノ責ヲ免ルルコト確定スヘシ而モ被上告人カ責ヲ免ルヘキ金額ハ抵當權ヲ消滅セシメタル舊債權ニ對シテ其ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ヘキノミ〔大審院明治三十九年(オ)第三六號同年六月二十九日判決御參照〕之ヲ要スルニ被上告人カ民法第五百四條ニヨリ其ノ責ヲ免レタリトスルニハ先ツ抵當債權者タル上告人ニ對シ其全債權ノ代位辨濟ヲ爲シ代位登記ヲ完了シ競賣手續ヲ進行シ民法第五百一條第一項第三號ノ配當ヲ受ケ而シテ尙不足アル場合ニ限リテ始メテ其ノ不足ノ部分ニ對スル卽償還ヲ受クルコト能ハサル限度ニ於テ責ヲ免レ其ノ責ヲ免レタル金額ハ抵當權ヲ消滅セシメタル原債權者ニ對シテ償還ノ請求又ハ損害賠償ノ方式ニヨリ救濟ヲ求ムルノ外途ナキニ拘ラス被上告人カ未タ抵當付債權ノ代位辨濟ヲ爲サスシテ恰モ代位辨濟ヲ了ヘタルモノノ如ク主張シテ本訴ノ請求ヲ爲スハ失當ナリト云ハサルヘカラス故ニ若シ本件ニシテ民法第五百四條ヲ適用スルトセハ被上告人ハ代位辨濟ヲ爲シタリヤ否ヤ競賣手續ヲ進行シ配當ヲ受ケタリヤ否ヤ又償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ハ幾千ナリヤ等ニ付判示セサルヘカラサルニ拘ラス何等原判決ハ之等ノ點ヲ審究スルコトナクシテ漫然上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ民法第五百四條ノ解釋ヲ誤リ且理由不備ノ違法アリト信スト云フニ在リ（法律新聞三二六六號一一頁●法律新報二五六號一〇頁）

◎本條免責ノ主張ト訴訟完結ノ遲延

一〔大審院〕原審ハ上告人カ原審ニ提出シタル抗辯卽チ債權者タル被上告人ノ過失ニ因リ本件抵當權消滅ニ歸シタルヲ以テ其限度ニ於テ保證人タル上告人ノ債務ハ消滅ニ歸シタル旨ノ抗辯ヲ新ナル抗辯ニシテ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムルモノト認メ之レヲ却下シタルコト判文上明白ナリ然レトモ被上告人ノ過失ニ因リ本件抵當權カ消滅シタリトノ抽象的事實ノ主張ノミニ依リテハ直ニ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムルヤ否ヤヲ判定スルヲ得サル可ク宜數ク其抵當權消滅ニ關スル具體的事實ノ主張ニ付釋明ヲナサシメ以テ其判定ヲ爲ササル可カラス而モ當事者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防禦ノ方法ニアラサレハ之ヲ却下シ得サルコト民事訴訟法第百三十九條ノ規定ニ徵シ明瞭ナルニ拘ラス原審ハ何等此點ニ付審査セス漫然上告人ノ新抗辯ヲ單ニ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムルトノ理由ノミニ依リ之レヲ却下シタルハ違法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス（大審院昭和七年オ一九九九號同八年六月一四日判決法律新報三三八號一二頁）

第二款　相殺

第五百五條　【相殺ノ要件】

1 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

2 前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎相殺ニ關スル諸問—一

一　相殺契約ノ自由（二續民六〇四頁）
二　相殺ト反對債權ノ成立時期（三續民補遺五〇六條）
三　相殺ト對當額ノ範圍（本條後出一四〇二頁）
四　同種ノ目的ヲ有セサル債權ノ一例（二續民六〇一頁）
五　簡易引渡ト相殺トノ異同（三續民五八八條「借主ヘ交付スル貸金ト相殺」ノ一參看）
六　第三者ニ對スル債權ト相殺契約（本條後出一四〇二頁）
七　不作爲債務ニ相殺ノ適用アリヤ（續民法一一九九頁）
八　相殺ノ無效ナル場合（二續民六〇〇頁）
九　無效ノ相殺ト事後承認ノ效力（二續民六〇四頁）

一〇　相殺權ノ不行使ト權利ノ拋棄（三續民五一九條「權利ノ拋棄ニ關スル諸問」ノ一九參看）
一一　時效ノ中斷ト相殺ノ抗辯（民法二九二頁）
一二　必要費（租稅）ト收益トノ相殺ノ可否（二續民二八二頁）
一三　債權質ト第三債務者ノ相殺（本條後出一四〇二頁）
一四　滌除金ノ辨濟ト相殺更改（民法一八五頁）
一五　日本通貨ト鎭平銀トノ相殺（本條後出一四〇三頁）
一六　代位ニ依ル相殺權ノ行使（三續民四二三條一〇六二頁）
一七　保證人ノ相殺抗辯ト提出時期（三續民四五七條）
一八　連帶債務者ノ一人ト相殺ノ效力（三續民四三六條一一五一頁）
一九　保證債權ト代金債務トノ相殺（本條後出一四〇三頁）
二〇　抗辯權ノ附著セル債務ト相殺（本條後出一四〇三頁）
二一　債權ノ讓渡ト相殺適狀（本條後出一四〇四頁）
二二　代物辨濟カ相殺カノ判定（續民法一一八〇頁）
二三　金錢給付ト米穀給付トノ相殺（續民法一一九九頁）
二四　支拂差止ノ債權ト相殺（三續民五一一條）
二五　兩替屋ノ交換者ニ對スル債務ト相殺（續民法一一九九頁）
二六　消費貸借豫約ニ基ク債權ト相殺（本條後出一四〇五頁）
二七　無期限消費貸借ト相殺適狀（本條後出一四〇五頁）
二八　期限前ノ債權ト相殺適狀（本條後出一四〇五頁）

二九　當座借越契約ノ解約ト相殺適狀（本條後出一四〇六頁）
三〇　貸金ト預金トノ相殺（民法二八九頁）
三一　借主ヘ交付スル貸金ト相殺（三續民五八八條）
三二　賃借人ノ有益費ト賃料トノ相殺（三續民六〇八條）
三三　數金ト家賃又ハ損害金トノ相殺（三續民六一九條）
三四　委任當事者間ニ於ケル相殺ノ適否（二續民六〇一頁）
三五　定期預金債權ノ相殺ト預金證書（本條後出一四〇六頁）
三六　講關係ニ基ク債權ト相殺（三續民六六七條）
三七　組合財產ノ分割請求權ト相殺（民法四四八頁）
三八　相殺ノ不當ニ基ク不當利得返還ノ請求（民法二九一頁）
三九　不法行爲ニ因ル債權債務ト相殺（三續民五〇九條）
四〇　遺贈金ノ分配ト受遺者相互ノ相殺（三續民一一一四條）

◎相殺ニ關スル諸問—二

一　出資義務ト相殺（續商法五五九頁・同六二九頁）
二　株金ノ拂込ト相殺（本條後出一四〇七頁）
三　株金拂込懈怠ノ損害金ト相殺（本條後出一四〇七頁）
四　株式ノ額面超過額ノ拂込ト相殺ノ許否（二續商一四四〇頁）
五　受託逆金ト銀行債權トノ相殺適否（二續民六〇一頁）
六　手形債權ノ相殺ト手形ノ授受（本條後出一四〇八頁）
七　共同海損ノ債務ト相殺（續商法一一八七頁）
八　破產債權ト相殺ノ適否（本條後出一四〇九頁）
九　破產者ノ自由財產ト相殺（本條後出一四一〇頁）
一〇　破產管財人ト相殺權ノ行使（本條後出一四一一頁）
一一　自働債權ノ否認ト相殺ノ效力（本條後出一四一二頁）
一二　和議開始決定後ノ債權ト相殺（本條後出一四一二頁）
一三　寺院ニ對スル什金返還義務ノ相殺（民法二九〇頁）
一四　廢祿者ニ對スル賦與金ト祿高トノ相殺（民法二九〇頁）
一五　制限超過ノ利息ト相殺（民法二九〇頁）
一六　相殺ヲ許ササル補償契約上ノ債務（本條後出一四一三頁）
一七　爭アル債權ト相殺ノ適狀（三續民五〇六條）
一八　訴訟中ノ債權ト別訴ノ相殺ニ供用（本條後出一四一三頁）
一九　相殺ノ抗辯ト訴訟代理人ノ權限（三續民五〇六條）
二〇　相殺ノ主張ト請求ノ異議（三續民五〇六條）
二一　相殺ニ關スル立證責任（三續民五〇六條）
二二　相殺ノ抗辯ト理由不備（三續民五〇六條）
二三　相殺抗辯ノ排斥ト其ノ債權ノ效力（民訴二四一頁）
二四　訴訟費用ト相殺（續民法一二〇〇頁）
二五　訴訟費用ト相殺時期（續民法一一九八頁）
二六　俸給受給權ト相殺適否（續民法一二〇〇頁）
二七　教員ノ未來俸給ノ讓渡契約（三續民四六六條一二五四頁）
二八　債權ノ轉付ト債務者ノ相殺（三續民四六八條一二九九頁）

二九　再競賣ノ不足額ト相殺（民訴五五九頁）
三〇　相殺以前ノ狀態ニ復セシムル契約（本條後出一四一四頁）
三一　第三者ニ對スル相殺ノ效力（本條後出一四一四頁）

◎相殺ト對當額ノ範圍

一〔大審院〕按スルニ原判決及ヒ其ノ引用セル第一審判決ノ各事實摘示ヲ對照スレハ被上告人ハ原審ニ於テ上告人所論ノ如ク賣掛代金十二圓ノ債權及ヒ立替金十三圓ノ債權ヲ以テ本訴請求ノ貸附元金二十圓及ヒ之ニ對スル利息ノ債權ニ付キ相殺勘定ヲ爲シテ之ヲ消滅セシメタル旨抗辯シタルコト明カナレハ本訴債權カ其ノ相殺ニ因リ消滅シタリトスルニハ相殺ニ利用セラレタル賣掛代金及ヒ立替金ノ債權ノ總額カ本訴ノ債權額ニ對當スルコトヲ必要トスルハ民法相殺ニ關スル法規ニ照ラシテ明カナリ然ルニ原判決ニ於テ被上告人カ相殺ノ用ニ供シタル債權ハ賣掛代金十二圓ノ債權ニシテ而カモ之ニ因リ本訴二十餘圓ノ元利金債權全部ヲ消滅セシメタル旨判定シタルハ債權消滅ノ範圍ヲ對當額以上ニ擴張シタルコトヲ爲リ相殺ニ關スル法規ヲ不當ニ適用シタルモノト謂フヘク從テ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院大正七年オ四四四號同年九月一一日判決法律新聞一四九六號二四頁）

二　債權一部ノ訴訟ト債權全部ノ相殺（續民法一二〇〇頁）

三　對當額ノ相殺ト殘額ノ付遲滯（續民法一二〇一頁）

◎第三者ニ對スル債權ト相殺契約

一〔大審院〕相殺ハ當事者カ互ニ債務ヲ負擔スル場合ニ於テノミ之ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ合意ヲ以テ相殺契約ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ相殺ノ目的タル債務ハ當事者互ニ相手方ニ對シ負擔スルモノナラサルヘカラス本件ニ於テ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人等カ被上告會社ニ對シ負擔スル債務ト相殺シタリト稱スル上告人等ノ債權ナルモノハ被上告會社ニアラサル第三者ヲ債務者トスル手形債權ナルヲ以テ之ヲ目的ト爲シタル被上告會社トノ間ニ爲シタル相殺契約ニ依リテハ相殺效力ヲ生スルニ由ナキモノトス（大審院昭和七年オ二九六六號同八年七月七日判決大審院判例集一二卷民事二〇一一頁・法律新聞三六三八號六頁・法律新報三五〇號一一頁）

二　第三者ニ對スル債權ト相殺（二續民六〇三頁）

◎債權質ト第三債務者ノ相殺

一〔大審院〕第三債務者ハ質權設定者ニ對シ有スル債權ニシテ其ノ質權設定ノ通知迄ニ辨濟期ニ達セサルモノヲ質權ノ目的タル債權ト相殺スル爲辨濟期到來ノ後質權者ニ對シテ有效ニ其ノ旨ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得サルハ當院ノ判例トスルトコロニシテ（大正七年（オ）第八百四十五號大正七年十二月二十五日判決參照）今茲ニ之ヲ變更スルノ要ヲ見ス（大審院大正一五年オ六三〇號同年一二月二五日判決法律新聞社編大審院裁判例〔二〕民事二〇頁）

二　右一ノ引用判例ニ續民法一〇二七頁「債權質ト第三債務者ノ相殺」一ノ四參看）

◎日本通貨ト鎭平銀トノ相殺

一〔關東高〕凡ソ相殺ヲ許ス債務ハ同種ノ目的ヲ有スルモノニ限定セラルルコトハ民法第五百五條ニ明定スル所ナリ而シテ本件ハ日本ノ通貨ニアラサル鎭平銀ト日本ノ通貨タル金トニ係ルモノナルヲ以テ之ヲ同種ノ目的ヲ有スル債務ナリト言フコト能ハス故ニ或方法ニ依リ交互ニ差引計算ヲ爲スハ格別所謂相殺ハ之ヲ爲シ得サルモノトス從テ論旨ノ如ク當事者ニ相殺ノ合意アリタリトスルモ該合意ハ相殺ノ效力ヲ發生セシメ得サルモノナルヲ以テ合意ノ有無ニ關スル上告人ノ主張事實ニ對シ裁判ヲ爲ササリシトテ相殺ヲ排斥シタル裁判ニハ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス（關東廳高等法院昭和三年上一八號同四年一〇月一八日判決法律新聞三一〇八號一六頁）

◎保證債權ト代金債務トノ相殺

一〔法曹會〕甲ハ乙所有ノ某市某町某字ノ土地（乙所有土地ハ同字中一箇所ノミナルニ付目的物ハ特定セリ）ヲ代金千五百圓ニテ買受ケ手附金三百圓ヲ交付シ手附金ヲ控除シタル殘代千二百圓ハ所有權移轉登記濟ト同時ニ支拂フ旨ノ契約ヲ締結セルモ其ノ後登記未濟ナリ而シテ一方甲ハ乙ヲ連帶保證人トシテ丙ニ對シ金千三百圓ヲ貸與シ其ノ辨濟期到來セル場合ニ於テハ假令乙ハ單純保證ヲ爲シタルニ止ルトスルモ甲ハ土地買受代金支拂債務ノ期限ノ利益ヲ拋棄シテ乙ニ對スル保證債權ト代金債務トヲ對當額ニ於テ相殺ノ意思表示ヲ爲シタル上乙ニ對シ所有權移轉登記手續ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス（法曹會昭和四年五月一日決議法曹會雜誌七卷六號一一一頁）

◎抗辯權ノ附著セル債務ト相殺

一〔大審院〕債權ニ抗辯權附著スルモ債權其ノモノノ存在ヲ否定スルモノニ非サルヲ以テ一見之ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルモ何等妨ナキカ如シト雖相殺ハ一方的意思表示ニ依リテ行ハルルモノナルヲ以テ抗辯權ノ附著シタル債權ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルコトヲ得ヘシトセンカ相手方ハ抗辯權ヲ提出スルノ機會ナク從テ故ナク抗辯權ヲ剝奪セラルル結果ヲ招來スルニ至ルヘキヲ以テ抗辯權ノ附著シタル債權ヲ働方債權トシテ相殺

チ爲スコトハ債權ノ性質上之ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス本件ニ於テ上告人ノ相殺ノ用ニ供スル債權ハ被上告人ニ對スル單純ナル保證債權ニ過キサルコト原判決ノ確定シタル事實ニシテ被上告人ハ保證人トシテ催告及檢索ノ抗辯權ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル抗辯權ノ附著スル限リ上告人ハ其ノ債權ヲ以テ被上告人ニ對シ相殺ヲ爲スコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス（大審院昭和五年オ六二八號同年一〇月二四日判決大審院判例集九卷民事一〇四九頁・法律評論二〇卷民法二八頁）

○右一ノ批評—東學士法律評論二〇卷民法四〇二頁

二　抗辯權ノ附著セル債權ト相殺（續民法一一九九頁）

三　同時履行ノ債務ト相殺適狀（二續民六〇〇頁）

◎債權ノ讓渡ト相殺適狀

一〔大審院〕按スルニ被上告人ハ訴外阿波公道無盡株式會社ニ對スル債權ノ爲メ判示債務名義ニ基キ强制執行トシテ右會社カ上告人ニ對シテ有スル無盡掛返金債權ノ內金八百三十一圓四十六錢ノ部分ニ對シ差押命令及轉付命令ヲ管轄裁判所ニ申請シ右命令ハ昭和三年十二月二十八日第三債務者タル上告人ニ同月二十九日債務者タル右會社ニ夫々送達セラレ之ニ因リ右債權轉付ノ效力ヲ生シ被上告人ハ上告人ニ對シ之カ債權者トナリタル事實ハ原判決ノ認定シタル所ナリトス然ラハ上告人ニ於テ被上告人ニ對シ別途ニ金錢債權ヲ取得シタルニ於テハ右差押命令ノ送達ノ前後ヲ問ハス之ヲ以テ上告人ニ對スル被上告人ノ右債權ト對當額ニ於テ相殺ヲ爲スヲ得ヘキコト勿論ナリトス

2而シテ記錄ニ依レハ上告人ノ所論抗辯ハ昭和五年九月二十六日上告人ニ於テ前記會社ヨリ被上告人ニ對スル別途金錢債權ヲ讓受ケ被上告人ニ對シ債權ヲ有スルニ至リタルヲ以テ之ト上告人ニ對スル被上告人ノ前記債權ト對當額ニ於テ相殺ス旨云フニ在リテ上告人ハ前記債權差押命令ノ目的トナリタル債權ト全ク別個ノ債權ヲ右會社ヨリ讓受ケタル事實ヲ主張スルモノナレハ假ニ此ノ債權カ存在シ既ニ辨濟期ニアリ且其ノ讓渡カ眞實ニシテ民法第四百六十七條所定ノ第三者ニ對抗スル要件ヲ具備スルニ於テハ上告人ノ相殺抗辯ハ必スシモ之ヲ排斥スヘキモノニ非サルコト上叙ノ說明ニ照シ明白ナリトス然ルニ原判決ハ論旨ニ摘錄ノ如ク說示シ上告人ノ右債權取得ノ時期カ前記差押命令ノ送達後ナルコトヲ理由トシテ右相殺抗辯ヲ排斥シタルコトハ相殺ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リタル不法アルモノトス（大審院昭和六年オ二六〇四號同七年六月四日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事一七六頁・法學二卷一號九七頁）

二　債權ノ讓渡ト債務者ノ相殺（三續民四六八條一二九七頁）

三　取立ノ爲ノ債權讓渡ト債務者ノ相殺（二續民六〇〇頁）

四　相殺供用ノ債權讓受ト信託法（三續民四六六條一二三七頁）

五　讓渡禁止債權ノ讓受ト相殺（二續民六〇〇頁）

六　讓渡禁止ヲ知レル讓受人ト相殺（三續民四六六條一二五七頁「讓渡禁止ノ債權ト惡意ノ讓受又ハ轉付」ノ一參看）

◎消費貸借豫約ニ基ク債權ト相殺

一〔大審院〕抑モ金錢消費貸借ノ豫約ニ基キ豫約義務者ニ對シ相手方カ有スル債權ハ金錢ノ交付ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ目的トスル債權ニ過キスシテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ非サルカ故ニ豫約義務者カ相手方ニ對シテ有スル金錢給付ノ反對債權ヲ以テ之ト相殺スルコトヲ得サルモノトス（大審院昭和五年オ五四號同年五月二四日判決法律新聞社編大審院裁判例〔四〕民事五〇頁）

二　消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ト相殺（民法二八九頁）

◎無期限消費貸借ト相殺適狀

◎期限前ノ債權ト相殺適狀

一〔大審院〕案スルニ民法第五百五條ノ規定ニ依レハ凡ソ相殺ヲ爲スニハ雙方ノ債務カ既ニ辨濟期ニ在ルコトヲ要スルモノナルカ故ニ辨濟期ノ未タ到來セサル以前ニ於テ雙方ノ債務カ相殺ノ適狀ニ在リト謂フヘカラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ果シテ然ラハ原判決カ上告人主張ノ本訴債權ニ付其ノ成立日カ大正十一年四月七日ニシテ辨濟期ハ大正十三年十二月二十五日ナリトノ事實ヲ確定シタルニ拘ハラス論旨摘錄ノ如ク右債權ノ成立日タル大正十一年四月七日ニ於テ雙方ノ債務カ相殺ニ適シタル旨判示シタルハ畢竟法律ノ適用ヲ誤リタルモノトス（大審院昭和七年オ一二六三號同年一二月二三日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事三四八頁）

二〔大審院〕相殺適狀ニ在ルカ爲ニハ反對債權ハ已ニ辨濟期ニ在ルコトヲ必要トスルハ論無キモ主債權ニ付キテハ之ヲ必要トセス債務者ニ於テ卽時ニ其辨濟ヲ爲スノ權利アル以上期限拋棄ノ意思表示ハ現ニ之ヲ爲サストモ債務者ハ直チニ相殺ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス上告人ノ主張ニ從ヘハ楠本ヨリ三宅ニ對スル反對債權一萬五千二百圓ノ辨濟期ハ大正十一年五月十一日ニシテ三宅ヨリ楠本ニ對スル主債權一萬圓ノ辨濟期ハ同十二年六月二十五日ナルモ債務者タル楠本ニ於テ期限ノ利益ヲ拋棄スルヲ得サル何等カノ事由アルコトハ毫モ確定セラレサル力故ニ楠本ノ前記債務ハ何時ニテモ其辨濟ヲ爲スヲ得ルヤ論ヲ俟タス從ヒテ三宅ヨリ楠本ニ對スル一萬圓ノ債權カ

被上告人ニ讓渡セラレタルコトノ通知アリタル大正十二年六月二十日以前ニ於テ已ニ楠本ハ三宅ニ對シ有效ナル相殺ヲ爲シ得タル狀態ナリシニ於テ上告人ノ代位ニ依ル相殺ノ又從ヒテ有效ナルハ疑ヲ容ル可カラス（大審院昭和八年オ二三五號同年五月三〇日判決大審院判例集一二卷民事一三八一頁・法律新聞三五八〇號一五頁・法律新報三三六號九頁）

三〔大審院〕相殺ノ抗辯ノ當否ヲ判斷スルニ當リテハ先ツ被上告人主張ノ債權ノ存在セルコトヲ認定スルニ止マラス進ンテ右債務カ相殺ニ適スル狀態ニ在ルヤ否ヤ換言スレハ其辨濟期ニ在ルヤ否ヤヲ確定セサルヘカラス蓋シ自働債權ハ受働債權ト異ナリ其辨濟期ニ在ルコトヲ以テ相殺ノ意思表示ヲ有效ナラシムル必要條件ナルヲ以テナリ然ルニ原審ハ云々「當事者ノ本件以外ノ期米取引ニ因リ控訴人（上告人）ハ被控訴人ニ對シ金五百四十二圓ヲ支拂フヘキ義務アルコトヲ認メ得ヘク卽チ被控訴人ハ控訴人ニ對シ同額ノ反對債權ヲ有スルモノニシテ云々被控訴人ノ相殺ノ抗辯ハ洵ニ理由アルモノトス」ト判示シ單ニ被上告人カ上告人ニ對シ其主張ノ反對債權ヲ有スルコトヲ認定シタルノミニテ右債權カ辨濟期ニ在ルヤ否ヤヲ確定スルコトナク輒ク其相殺ノ意思表示ヲ有效トシテ該抗辯ヲ採用シ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ卽チ理由不備ノ不法アリ原判決ハ破毀ヲ免レス（大審院大正九年オ五號同年五月三

◎當座借越契約ノ解約ト相殺適狀

一〔大審院〕當座借越契約ハ債務者ニ於テ何時ニテモ解約ヲ爲シ得ヘキモノニ屬シ而シテ債務者カ其ノ債務ヲ消滅セシムル意思ヲ以テ債務全額ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ解約ノ意思表示ヲ爲スト同時ニ債務ノ辨濟ヲ爲シタルモノト做スヘキモノナルヲ以テ債務者カ相手方ニ對スル債權ヲ其ノ預金口座ニ振替フルコトナク却テ其ノ債務ト相殺スル旨ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ之ヲ解約ト同時ニ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルモノト做シ得ヘキモノトス從テ右解約ニ因リテ債務ノ辨濟期到來シテ相殺適狀ヲ生シ相殺ハ適法ニ爲サレタルコトト爲ルヘキモノトス（大審院昭和八年オ一四五〇號同年一一月二一日判決法律新報三四七號一一頁）

◎定期預金債權ノ相殺ト預金證書

一〔大審院〕甲一號證ノ一ナル定期預金證書ニ此ノ證書引換ニ元利金ヲ支拂フヘキ旨ノ記載アリトスルモ必スシモ債權者タル預金者カ該證書ヲ呈示スルニ非サレハ預金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得サル約旨ト解セサルヘカラサルモノニ非サルヲ以テ債

權者タル被上告人カ上告人ニ對シ定期預金債權ヲ以テ相殺ノ意思表示ヲ爲スニハ必スシモ右證書ヲ呈示スルコトヲ要セサルモノトス（大審院昭和六年オ二三七六號同七年四月一四日判決法學一卷一〇號一〇八頁）

◎株金ノ拂込ト相殺

一〔大審院〕被上告會社ノ設立ハ所謂募集設立ノ手續ニ依レルモノナルカ故ニ創立總會ノ終結前ニ在リテハ會社未タ成立セサルコト勿論ナレハ斯ル間ニ發起人ノ一人タル別所襖（訴外）カ或營業權其ノ他機械器具ヲ被上告會社ニ讓渡シ被上告會社カ代金債務ヲ負擔スト云フカ如キコトハ到底是認シ得ヘカラス從テ會社ノ代金債務ト別所襖ノ株金拂込債務トカ對立シ相殺行ハレタリト云フコトモ亦認容シ難シ假令創立總會カ承認ヲ與ヘタレハトテ之カ爲相殺カ有效トナリ第一回ノ拂込タル效果ヲ生スルモノトハ謂フヲ得ス（大審院昭和七年オ五一九號同年一二月二四日判決法學二卷七號一一五頁）

二〔大審院〕案スルニ資本團體タル株式會社ノ資本ナルモノハ株金ノ拂込ニ俟ツノ外無キカ故ニ其拂込ハ現實ニ爲サルルコトヲ要スルヤ殆ント論無ク從ヒテ株主ノ一方的意思表示ノミニ依リテ其拂込義務ト其會社ニ對シテ有スル債權トヲ相殺スルカ如キハ固ヨリ一般ニ之ヲ許容スヘキ限リニアラス是ヲ商

◎株金拂込懈怠ノ損害金ト相殺

一〔大審院〕原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被上告人ハ株式會社ニシテ其ノ定款ニ株主カ株金ノ拂込ヲ怠リタルトキハ百圓ニ付日歩四錢ノ損害金ヲ支拂フヘキ定アル處上告人ハ第四回

法第百四十四條第二項ノ趣旨ト爲ス則チ爾ルカ故ニ會社ノ側ヨリ爲ストコロノ相殺ノ如キ若クハ所謂相殺契約ノ如キ決シテ同條ノ當然ニ禁止スルトコロニアラス左レハ今同條ヲ援引シ苟モ現金ノ授受無クシテ拂込アリタルト同一ノ效果ヲ生スル一切ノ場合ヲ擧ケテ之ヲ排斥シ去ラムトスルアラハ开ハ竟ニ不當ナル擴張解釋タルヲ免レス其極或ハ奇異ナル結果ヲ見ルニ至ルハ之ヲ察スルニ難カラス他無シ斯カル解釋ヲ是ナリトスルトキハ例ヘハ其會社ニ對スル金錢債權ニ付執行力アル正本ヲ有スル株主ハ執達吏ヲ帶同シテ會社ニ臨ミ之ヲシテ現金ニ對スル執行ヲ爲サシムルト共ニ此現金ヲ以テ其場ヲ去ラス拂込ニ充ツルカ如キコトモ亦法禁違反ノ無效行爲ヲ以テ目セサル可カラサルニ至ラムナリ何者之ヲシテ尙現金ノ授受アリト云フカ如キハ殆ント一片形式ノ論ニ過キサレハナリ（大審院昭和五年オ四三四號同年一一月一一日判決法律新聞三三七一號一五頁・法律新報二八一號一六頁）

三　株金ノ拂込ト相殺（二續商一四四〇頁）

及第五回ノ拂込金額合計九百三十圓ノ拂込ヲ怠リタルニ付失權手續ニ依リ費用ヲ差引タル賣得金百二十一圓三十九錢ヲ得タリト云フニ在リテ被上告人ハ本訴ニ於テ前示損害金卽第四回拂込金額ニ對スル昭和二年三月二日ヨリ昭和四年三月八日迄ノ九十一圓五十一錢第五回拂込金額ニ對スル昭和三年二月十一日ヨリ昭和四年三月八日迄ノ九十七圓二十二錢（以上二口合計百八十八圓七十三錢）並昭和四年三月九日以降ノ株式競賣不足金八百八圓六十一錢ニ對スル損害金ヲモ請求シ上告人ハ之ニ對シ相殺ヲ主張シタルモ原審ハ商法第百四十四條第二項ノ規定ニ依據シテ之ヲ排斥シタリ然レトモ前示損害金ノ支拂義務ト株金ノ拂込義務トハ其ノ性質ヲ異ニス卽前者ハ後者ノ懈怠ノ結果生スルモノニ外ナラスト雖兩者ハ固ヨリ同一ノモノニアラサルハ勿論之ヲ同視スヘキモノニモ非サルカ故ニ前揭法條ヲ前者ニ付適用スルハ正當ニ非スサレハ若上告人主張ノ反對債權ニシテ是認セラレム乎本訴請求中前示損害金ノ請求ハ其ノ限度ニ於テ排斥セラルヘク從テ右反對債權ノ主張ノ當否ヲ判斷セスシテ上告人ノ相殺ノ抗辯ヲ否定シタル原判決ハ違法ナリトス（大審院昭和五年オ二三一一號同六年五月四日判決大審院判例集一〇卷民事二四三頁）

◎手形債權ノ相殺ト手形ノ授受

一〔大審院〕手形債權ト其ノ他ノ金錢債權ト相殺スル旨ノ契約ハ手形債務者ニ於テ相手方カ手形債權者ナルコトヲ認メ當該手形債權ト相手方ニ對スル金錢債權ト其ノ對當額ニ於テ消滅セシメムコトヲ合意スルモノニ外ナラサレハ其ノ當事者間ニ於テ手形ノ授受ヲ要セスシテ當該契約ノ效力ヲ生スルコト論ヲ俟タス之ト反對ノ見解ノ下ニ原判決ヲ非難スル論旨亦採用スルニ由ナシ（大審院昭和六年オ八〇四號同年一〇月一〇日判決法律新聞三三二六號九頁・法學一卷三號一三六頁）

二〔東京控〕手形債權ヲ自働債權トシ之ヲ以テスル相殺ハ單ナル意思表示ヲ爲スノミニテハ足ラス必ス手形ヲ相手方ニ交付スルコトヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ相殺ハ自働債權ノ消滅ヲモ成スモノナルコトハ辨濟ノ場合ト異ナラサルニ拘ラス相手方タル自働債權ノ債務者ヲシテ該手形ノ交付ヲ受ケシメスシテ可ナリトスルトキハ債務者ハ該手形ノ善意無過失ノ取得者ヨリノ手形金請求ニ會フコトアルヘキ虞アリテ商法第四百八十三條ノ趣旨ニ矛盾スル結果トナルヲ以テナリ今本件ニ於テ被控訴人ハ同人ノ所持スル自働債權ノ手形ヲ相手方ニ交付シテ以テ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトハ更ラニ主張セサルトコロナルニヨリ被控訴人主張ノ相殺ハ他ノ點ノ判斷ヲ爲ス迄テモナク其ノ效ナキモノト謂ハサルヘカラス（東京控訴院昭和五年ネ二一〇八號同六年五月二三日判決法律新聞三二八二號九頁・法學一卷三號一三六頁）

三〔大審院〕右二ノ上告審―手形ノ所持人カ手形債權ヲ自働債權トシテ相殺ヲ爲スニハ其相殺ニ依リ手形債權ノ全部カ消滅スヘキ場合ニ限リ相殺ノ意思表示以外ニ手形ヲ相手方ニ交付スルコトヲ必要トスヘキモ其ノ手形債權ノ金額カ受働債權ノ金額ヲ超過シ從テ之カ相殺アルモ手形債權ハ對當額タル一部ノミ消滅スヘキ場合ニハ相殺ノ意思表示以外ニ手形ノ交付ヲ必要トスルモノニ非ス蓋手形債務者ハ手形金額ノ全部ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ商法第四百八十三條第一項第五百二十九條ニ依リ之ト引換ニ手形ノ交付ヲ受クヘキ權利ヲ有スヘキモ其ノ一部ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ斯ル權利ヲ有セス從テ自働債權タル手形債權全部ヲ消滅セシムヘキ相殺ヲ爲ス場合ニハ右商法ノ規定ノ準用ニ依リ手形ノ交付ヲ要スルモノト解スヘキモ自働債權タル手形債權ノ一部ノミヲ消滅セシムヘキ相殺ヲ爲スニハ手形ノ交付ヲ必要トスヘキ理由ナケレハナリ本件ニ付原判決ノ認定ニ依レハ上告人ノ相殺ノ抗辯ニ於テ自働債權ト爲セル約束手形債權ノ金額カ被上告人ノ本訴請求ノ債權ノ金額ニ超過セルコトハ所論ノ如ク算數上明白ニシテ從テ上告人カ右相殺ヲ爲スニ付其ノ所持セル約束手形ノ交付ヲ必要トスヘキニ非ス然ルニ原判決ハ上告人ヨリ右手形交付ノ主張ナキコトノミヲ理由トシテ相殺ハ效力ナシトシ右抗辯ヲ排斥シタルモノニシテ此點ニ於テ相殺ノ要件ニ關スル法規ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリ全部破毀スヘキモノトス（大審院昭和六年オ一七二五號同七年二月五日判決大審院判例集一一卷民事七〇頁・法律新報二九〇號一四頁・法律評論二一卷商法二八四頁）

○右三ノ批評―法學博士水口吉藏氏法律論叢一一卷六號八四頁・法律評論二一卷商法三三三頁

四〔大審院〕手形債權者カ手形債務者ニ對シテ負擔スル債務ト手形債權トヲ相殺スル場合ニ於テハ商法第四百八十三條第一項ノ準用ニ依リ手形ノ交付ヲ要スルモノトス從テ幾判所カ右手形ノ交付ノ事實ニ關シ何等說明スルトコロナク直ニ手形債權ト債務トノ相殺ヲ是認シタルトキハ理由不備又ハ法律誤解ヲ免レサルモノトス（大審院昭和三年オ五四八號同四年二月一六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔三〕民事五四頁・法律評論一八卷民法一二八三頁）

○右四ノ批評―辯護士松木太郎氏正義五卷七號三八頁・法律評論一八卷民法一二八一頁

五　手形債權ニ對スル相殺（二續民六〇二頁）

◎破產債權ト相殺ノ適否

一〔東京控〕和議法第五條ニ依リ和議債權者及相殺權ニ付準用

セラルル破產法第百四條竝和議法第六條ニ依レハ和議申立人ノ債務者カ支拂ノ停止アリタルコトヲ知リテ和議債權ヲ取得シタルトキハ其ノ取得ハ(一)決定ノ原因ニ基クトキ(二)債務者カ支拂ノ停止若クハ和議開止ノ申立アリタルトキヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ(三)和議開始ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキノ外相殺ヲ爲スコトヲ能ハサルモノニシテ被控訴人等ノ前記預金債權ノ取得行爲カ右(一)乃至(三)ノ事項ニ該當スルコトハ被控訴人等ノ主張立證セサルトコロナルカ故ニ被控訴人等ノ該債權ノ取得ハ右列記事項ニ該當セサルモノト認ムルノ外ナシ而シテ前示破產法第百四條ノ要件ニ適合セル事實アル以上相殺ノ意思表示カ和議開始決定ノ前ニ行ハレタルト其ノ後ニ行ハレタルトヲ問ハス共ニ相殺ハ無效ニ歸スヘキモノト解スルヲ正當ト爲スカ故ニ前記ノ如ク昭和六年十一月二日和議開始決定アリタル以上被控訴人等カ昭和六年三月十四日前訴訟ニ於テ爲シタル相殺ハ遡ツテ無效ニ歸シタルモノト謂ハサルヘカラス(東京控訴院昭和七年ネ一〇五八號同八年六月二八日判決法律新聞三五八四號一七頁・法律評論二二卷諸法六〇四頁)

二　連帶債務ナル破產債權ノ相殺(三續民四三六條一一五二頁)

三　破產者ノ自由財產ト相殺(本條後出次問)

四　破產管財人ト相殺權ノ行使(本條後出一四一一頁)

五　自働債權ノ否認ト相殺ノ效力(本條後出一四一二頁)

◎破產者ノ自由財產ト相殺

一〔函館地〕被控訴人ノ爲シタル右相殺ノ意思表示カ有效ナリヤ否ニ付審究スルニ抑々破產債權者カ其ノ破產債權ヲ以テ破產者ノ自由財產ニ屬スル債權トノ間ニ相殺ヲ爲スコトヲ許スヘキヤ否ニ關シテハ破產法上直接ノ明文ノ認ムヘキモノナシト雖モ同法第十六條第九十七條第一項及第九十八條ノ趣旨ヨリ推知スルモ將又破產者ノ自由財產維持ト破產債權者間ノ辨濟ニ關スル公平維持ト鑑ミルモ寧ロ法ハ右ノ如キ相殺ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス蓋若シ之ヲ然ラストセンカ破產債權者ノ一方カ斯カル相殺ヲ爲ストキハ破產債權ノ範圍ハ減少シ他ノ破產債權者ノ爲ニハ寧ロ利益タルコトアリ得ヘシト雖モ各破產債權者ハ各自破產宣告後ノ自由財產ヲ目的トシ故ラニ之ト相殺ヲ爲シ得ル機會ヲ作爲シ偶々其ノ機會ヲ得タル者ハ之ニ因リ債權ノ完全ナル辨濟ヲ受ケ得ルコトトナリ一方ニ於テ破產手續中ニ於ケル破產者ノ自由財產ノ維持ヲ危殆ナラシムト同時ニ他方ニ於テ破產債權者間ニ其ノ債權ノ滿足ニ甲乙アラシメ不公平ナル結果ヲ招來スルニ至レハナリ果シテ以上ノ如クンハ被控訴人ノ爲シタル前記相殺ノ意思表示ハ前段說示ニ徵シ法律上當然無效ノモノナリト謂ハサルヘカラス(函館地方裁判所昭和七年レ一七五號同八年三月九日判決法律新聞三五三六號六頁・法律評論二二卷諸法四四一頁)

◎破產管財人ト相殺權ノ行使

一〔東京區〕1原告等主張ノ如ク原告角田喜太郎ノ先代角田喜藏及原告鈴木平作ノ各前主訴外吉田弘カ東京物產株式會社ニ對シ各債權ヲ有シ右會社カ破產宣告ヲ受ケ被告其破產管財人ニ選任セラレ訴外吉田ハ右債權届出ヲ爲シ債權調查會ニ於テ損害賠償債權トシテ金四千五百圓手形債權トシテ金一萬四千圓ヲ認メラレ右損害賠償債權ヲ訴外角田喜藏ニ右手形債權中金五千圓ヲ原告鈴木ニ讓渡シ各讓渡通知ヲ爲シタル事實右喜藏死亡シ原告角田喜太郎其家督相續ヲ爲シタル事實被告カ第一回配當金トシテ原告等ニ其主張ノ金額ノ配當通知ヲ爲シ配當表確定シタル事實及被告カ右吉田ニ對シ同人ノ東京物產株式會社ニ對シ株金拂込義務アリ之ヲ判決ニ依リ確定シタル債權金一萬千九百二十五圓ヲ有シ被告ハ此債權ヲ自働債權トシ右各配當金ト對當額ニ於テ相殺シタル事實ハ孰レモ當事者間ニ爭ナキトコロナリ

2仍テ被告ノ爲シタル相殺ノ當否ヲ按スルニ相殺ヲ爲ス債務者ハ常ニ其負擔スル債務全額ヲ受働債權トシテ相殺ヲ爲ササルヘカラサルモノニアラス相殺ヲ爲スヘキ債務全額ノ範圍ヲ定メテ之ヲ受働債權ト爲シ得ル自由ヲ有スルモノト謂フヘク殊ニ債權者カ債權ノ一部ヲ訴求スル場合ノ如キ右請求額ニ對スル相殺ハ其請求額ニ對當スル部分ニ付テノミ相殺ノ效力ヲ生シ債權全部ニ對シ其效力ナキコト當然ナリ然レハ本件ニ於テ原告等ニ配當スヘク配當表ニ記載セラレ確定判決ト同一效力アル配當金債權カ原告等ノ有スル債權ノ一部ニ過キサルコト明ナリト雖モ先ツ以テ之カ支拂義務アル破產管財人ニ於テ此債務ヲ受働債權ト爲シ相殺ニヨリ消滅セシメ得ヘキハ前叙ノ理由ニ依リ明カナリ

3加之聖當表確定後ハ右配當金ニ對シ相殺ヲ許ササルコトハ破產法ノ規定ノ精神ニ鑑ミ之ヲ認メ得サルハ勿論破產管財人ハ破產財團ニ屬スル債權ヲ取立テ財團ヲ充實シ一般債權者ニ公平ニ分配ヲ爲スヘキ任務アルヲ以テ對抗シ得ル權利アル以上假令一部債權者ノ一時ノ不利益アリトモ之ヲ顧慮セス一般債權者ノ利益ノ爲メ相殺ヲ爲スモ亦已ムヲ得サルヘク其結果交付ヲ免レ殘存シタル金額ハ更ニ全債權者ニ配當セラルヘク又原告等ノ全債權ト雖モ自働債權ニ超過スル部分ハ結局辨濟ヲ受ケ得サルニアラサルヲ以テ必スシモ其債權ヲ害サレタリト爲スニ當ラサルノミナラス被告ノ相殺ニ供シタル自働債權ハ株金拂込請求債權ナルヲ以テ原告等ノ有スル債權ハ之ニ對シ相殺ヲ以テ對抗シ得サルモノナレハ被告ヨリ相殺ヲ爲サス

別個ニ請求セラルレハ拒ミ得サルコト當然ナルニ却テ之ヲ被告ヨリ任意相殺セラルルニ於テハ原告等ノ爲メ寧ロ利益アリトシテ甘受セサルヘカラサルモノト謂フヘシ果シテ然ラハ被告ノ爲シタル相殺ハ適法ニシテ又何等失當ナルコトモ認メ難キヲ以テ原告等ノ本訴請求ハ之ヲ棄却スヘキモノト認ム（東京區裁判所昭和七年ハ三五五四號同年七月一四日判決法律新聞三四五七號九頁・銀行判例八卷五號七〇頁）

◎會社側ヨリ爲ス株金ノ拂込ト相殺（本條前出一四〇七頁「株金ノ拂込ト相殺」ノ二參看）

◎自働債權ノ否認ト相殺ノ效力

一〔大審院〕破產法第百四條第三號但書ノ場合ニ該當スル有效ナル相殺ト雖其ノ相殺ニ於ケル自働債權カ讓受債權ニシテ其ノ讓受カ有效ナルカ爲ニハ債務者ノ承認ヲ要件ト爲シタルモノナル處其ノ承認カ後日同法第七十二條第一號ノ規定ニ依リテ否認（同法第八十四條ノ一年ヲ過クルモ此ノ否認ヲ妨ケス）セラレタルニ於テハ自働債權ヲ有セサル者カ相殺ヲ爲シタルト同一ノ結果トナリ隨テ右ノ相殺ハ初ヨリ無效トナルヘキモノト云ハサルヘカラスサレハ結局是ト同旨ニ出テタル原判決ハ正當ナリ（大審院昭和六年オ三四八九號同七年五月二一日判決法律新聞三四三九號一二頁）

◎和議開始決定後ノ債權ト相殺

一〔大審院〕和議ノ申立ヲ爲シタル債務者ノ債務者カ和議開始ノ後他人ノ和議債權ヲ取得シタルトキハ該債權ヲ以テ相殺ヲ爲スコトヲ得サルコトハ和議法第五條ニ依リ準用セラルル破產法第百四條第二號ニ規定スルトコロナルモ已ニ和議認可決定確定シ和議手續終了シタル後ハ右ノ如キ債權ト雖モ只和議ノ效力ヲ受ケ和議條件ニ基キ履行ヲ受クルヲ餘儀ナクセラルル外通常一般ノ債權ト何等ノ差異アルコトナク爾後債權者カ其ノ債務ノ履行ヲ爲ササルニ於テハ請求假差押又ハ强制執行ヲ爲シ得ルハ勿論相殺ヲモ爲シ得ルコト論ヲ俟タス是和議法第四十條又ハ同法第五十七條ニ依リ準用セラルル破產法第三百四十二條等ノ法意ニ鑑ミルモ明ナルトコロナリ然リ而シテ原審ノ確定シタルトコロニ依レハ被上告人カ和議開始ノ決定ヲ受ケタルハ昭和二年四月三十日ナルニ上告人カ本件相殺債權ヲ取得シタルハ昭和三年中ナリト謂フニ在ルヲ以テ上告人ハ右債權ヲ以テ和議手續中ニ於テハ被上告人ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シ得サルコト勿論ナリト雖其ノ終了後ニ於テハ之ヲ以テ相殺ヲ爲スモ毫モ妨ケサルコト前段說示ノ理由ニ依リ明ナルカ故ニ原審ハ須ラク和議認可決定カ確定シテ和議手續カ終了シタリヤ否ヤヲ究明シタル上相殺ノ適否ヲ判斷スヘキニ單ニ和議開始決定後ニ取得シタル債權ヲ以テ爲シタル本件相殺ハ和議法第五條第六條ニ依リ準用セラルル破產法第百四條第二號ニヨリ無效ナル旨判示シ以テ相殺ノ抗辯ヲ排斥シタルハ和議債權ノ相殺ニ關スル規定ノ解釋ヲ誤リタル違法アリト謂フヘシ（大審院昭和七年オ二一一八號同八年四月二一日判決法學二卷一二號一二二頁）

◎相殺ヲ許ササル補償契約上ノ債務

一〔大審院〕按スルニ原判決ハ本件請求金額ト中原直人カ被上告人ニ支拂フヘキ補償金債務トノ相殺ヲ認容シ上告人ノ請求ヲ排斥シタルモノナリト雖原判決ノ認定ニ依レハ右補償金ニ關スル債務カ成立シタル事情ハ被上告人ハ中原ニ對シ昭和五年四月二十六日ノ講會ニ於テ中原カ講ヨリ受領スヘキ金額中最初ノ千九百二十七圓ヲ中原カ上告人ニ支拂フヘキ債務ノ辨濟ニ充ツルカ爲先ツ上告人ヲシテ受取ラシメ其ノ殘額ヲ被上告人ニ於テ受取ルヘク若被上告人ノ受取金高カ四千四百圓ニ足ラサルトキハ中原ハ之ヲ被上告人ニ補償スヘキコトヲ約シタルニ由來スト云フニ在ルヲ以テ右補償契約ハ總テ上記ノ契約カ履行セラルルコトヲ期待スル前提ノ下ニ成立シタルモノナルコト明ナルカ故ニ此補償債務ヲ以テ相殺ノ用ニ供シ之カ爲ニ上告人ノ受取ルヘキ右金員カ現實ニ中原又ハ上告人ノ手中ニ歸スルコトヲ妨クルカ如キ結果ヲ生セシムルコトハ正ニ右契約ノ本旨ニ副ハサルモノト解スヘキヲ以テ前記補償債務ハ其ノ當初ノ約旨ニ於テ既ニ右ノ如キ相殺ヲ許ササル性質ヲ有シタルコト疑ヲ容レサルモノアリト云フ可ク原判決カ如上約旨ヲ無視シ此兩債務ヲ相殺ニ適シタルモノト判定シ之ニ基キ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ審理不盡ノ憾アルヲ免レス原判決ハ此點ニ於テ之ヲ破毀スヘキモノトス（大審院昭和六年オ二〇一一號同七年四月二八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事一二二頁）

◎訴訟中ノ債權ト別訴ノ相殺ニ供用

一〔東京控〕民事訴訟法第二百三十一條ハ既ニ裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ更ニ訴ヲ提起シ得サルコトヲ規定スルニ止マリ既ニ裁判所ニ繫屬スル事件ノ訴訟物タル債權ヲ以テ他ノ訴訟ニ於ケル相殺ニ供シ得サルコトニ付テハ特ニ規定セスト雖モ相殺ノ爲メ主張セラレタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有スルコト民事訴訟法第百九十九條ノ規定スルトコロナルニヨリ既ニ裁判所ニ繫屬スル事件ノ訴訟物タル債權ヲ以テ他ノ訴訟ニ於テ相殺ヲ主張スルコトヲ許スヘキモノトセハ同一債權ノ存否カ二個以上ノ

◎債權讓渡ノ承諾ト詐害行爲（三續民四二四條一一一七頁）

互ニ獨立シタル判決ニヨリテ判斷セラレ而モ其判斷ハ相牴觸スルコトナキヲ保シ難キヲ以テ同一債權カ同一範圍ニ於テ何レモ既判力ヲ有スル判決ニヨリ一方ニ存在スルモノト判斷セラルルト同時ニ他方ニ於テ存在セサルモノト判斷セラルル結果ヲ生シ得ルモノニシテ斯クノ如キハ同一法律關係ニ付何レモ既判力ヲ有スル數個ノ判決ニヨリ相牴觸スル判斷ノ爲サルルコトヲ避クル爲メ規定セラレタル民事訴訟法第二百三十一條ノ法意ニ副ハサルヲ以テ同法條ヲ類推適用シ既ニ裁判所ニ繫屬スル事件ノ訴訟物タル債權ヲ以テ他ノ訴訟ニ於テ相殺ヲ主張スルコトハ許ササルモノト解スルヲ相當トス（東京控訴院昭和六年ネ三九八號同八年九月一二日判決法律新聞三六二八號一一頁）

◉爭アル債權ト相殺ノ適狀（三續民五〇六條）

◉相殺以前ノ狀態ニ復セシムル契約

一〔大審院〕縱令相殺ノ意思表示カ其ノ效力ヲ生シタル後ニ於テモ其ノ當事者ノ合意ヲ以テ相殺ナカリシ狀態ニ復セシムルコトノ契約ハ之ヲ有效ニ成シ得ヘキモノトス（大審院昭和四年ネ一三三六號同五年一月二八日判決法律評論一九卷民法三四三頁）

二　相殺ヲ爲ササリシ事ノ取極（三續民一一九條三〇九頁「消滅セル債權債務ノ復活契約」ノ一參看）

三　相殺ヲ取消ス合意ノ許否（民法二九一頁）

◉第三者ニ對スル相殺ノ效力

一〔大審院〕1相殺カ當事者間ニ於テ有效ニ爲サレタル以上之ニ因ル債權消滅ノ效果ハ絕對的ナルヲ原則トシ法律ニ別段ノ規定アル場合ノ外相殺者ハ第三者ニ對シテモ其ノ效果ヲ主張シ得ヘキコト勿論ナリトス此ノ場合假ニ相手方カ相殺者ニ對シ取引上ノ信義ニ違背スル行爲ヲ爲シ期限ノ利益ヲ失ヒタル結果相殺者ノ債權カ辨濟期ニ達シ茲ニ始テ相手方ノ債權ト相殺ヲ爲スニ適スルニ至リタリトシ尙ホ相手方ニ右ノ如キ行爲ナシトセハ相手方ノ債權ハ相殺者ノ別口債權ノ辨濟ニ充當セラルヘカリシ事情ノ下ニアリタリトスルモ之カ爲相殺者ヨリ第三者ニ對シ相殺ノ效果ヲ主張スルノ妨ト爲ルモノニ非ス

2本件ニ付之ヲ觀ルニ原審ニ於テ上告人ハ被告人六名及富士製糸株式會社ニ對シ其ノ共同振出ニ係ル約束手形二通ノ所持人トシテ其ノ手形金額及利息ノ支拂ヲ請求シ被上告人六名及右會社ハ孰レモ此ノ手形債務ニ對シテハ右會社カ上告人ニ賣ヲ委託シタル生糸賣上金ノ交付ヲ受クヘキ債權ヲ以テ大正十四年十一月十九日相殺ヲナシタリトノ抗辯ヲ爲シ之ニ對シテハ上告人ハ此ノ賣上金交付ノ債務ニ對シテハ上告人ハ別ニ

右會社ヨリ燒失生糸ノ損害分擔金ノ支拂ヲ受クヘキ債權ヲ有シ同月十三日之ヲ以テ相殺ヲ爲シタルニ依リ右會社ノ爲シタル前記相殺ハ效力ナキ旨ヲ主張シタルコト記錄上明白ニシテ原判決カ上告人及富士製糸株式會社間ノ關係ヲ審案スルニ當リ上告人カ同月十三日右會社ニ對シ燒失生糸ノ損失分擔金ノ債權ヲ以テ賣上金交付債務ニ對シテ爲シタル相殺ハ有效ニシテ該債務ハ之ニヨリテ消滅シタルカ爲右會社カ同月十九日此ノ賣上金債權ヲ以テ本件手形債務ニ對シ爲シタル相殺ハ效力ナシト判示シ以テ右會社ノ前記相殺ノ抗辯ヲ排斥シタルコトモ亦判文上明白ナリ然ルニ原判決ハ上告人及被上告人六名ノ關係ヲ審案スルニ當リ上告人カ同月十三日燒失生糸ノ損失分擔金債權ヲ以テ生糸賣上金交付ノ債務ニ對シ爲シタル相殺ヲ前記ノ如ク上告人及右會社間ニ於テ有效ナリト認定スルニ拘ラス上告人ハ此ノ相殺ノ效果ヲ第三者タル被上告人六名ニ對シテハ之ヲ主張シ得サル旨ヲ判示セリ而シテ其ノ理由トシテ說明スル所ハ右會社ハ上告人ニ對シ取引上ノ信義ニ違背シ恣ニ上告人以外ノ問屋ト取引ヲナシタル結果特約ニ依リ期限ノ利益ヲ失ヒ上告人ハ其ノ燒失生糸ノ損失分擔金債權ニ付其ノ殘額ヲ一時ニ請求シ得ルコトトナリ茲ニ始テ賣上金交付債務トノ相殺ヲ爲スニ適スルニ至リシモノナルヲ以テ若シ右會社ニ前記ノ如キ行爲ナカリセハ上告人カ右會社ニ交付スヘキ賣上金ハ商慣習ニ從ヒ本件手形債權ノ辨濟ニ充當セラルヘカリシモノト謂フヘク如此事情ノ下ニ於テハ被上告人六名ハ右相殺ノ效果ヲ否認シ得ヘシト謂フニアルモノノ如シ然レトモ右ノ如キ事情アリトスルモ之カ爲上告人ヨリ被上告人六名ニ對シテ右ノ相殺ノ效果ヲ主張スルノ妨トナルモノニ非サルコトハ冒頭說明スル所ニ依リ明ナリ卽原判決ハ此ノ點ニ於テ相殺ノ效力ヲ誤解シタルカ又ハ理由不備ノ違法アルモノニシテ上告ハ理由アリ（大審院昭和三年ネ一〇四〇號同四年三月二日判決法律評論一八卷民法五七〇頁）

第五百六條　【相殺ノ意思表示ト遡及力】

1相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

2前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其效力ヲ生ス

◉相殺ノ意思表示ニ關スル諸問

一　本條ニ所謂相手方ノ意義（民法二九二頁）

二　相殺ノ要件ト意思表示（本條後出）

三　相殺ノ意思表示ノ性質（續民法一二〇一頁）

四　相殺契約ノ自由（二續民六〇四頁）

五　無效ノ相殺ト事後承認ノ效力（二續民六〇四頁）
六　相殺ノ意思表示ト時效中斷ノ事由（二續民六〇五頁）
七　買戻權喪失後ノ相殺ノ意思表示（二續民六〇五頁）
八　相殺適狀ノ意義及實例（本條後出）
九　爭アル債權ト相殺ノ適狀（本條後出）
一〇　相殺ノ抗辯ト訴訟代理人ノ權限（本條後出）
一一　相殺ノ抗辯ト理由不備（本條後出）
一二　相殺適狀ノ時期ト理由不備（本條後出）
一三　相殺ノ主張ト請求ノ異議（本條後出）
一四　民法前ノ債權ト相殺ノ遡及力（本條後出）
一五　相殺ノ遡及力（民法二九二頁）
一六　相殺ノ遡及力カ契約解除ニ及ホス效果（二續民六〇六頁）
一七　第三者ニ對スル相殺ノ效力（三續民五〇五條一四一四頁）
一八　相殺ニ關スル立證責任（本條後出）

◎相殺ノ要件ト意思表示

一〔大審院〕相殺ノ意思表示ニ付テハ法律上何等形式ノ定ナキヲ以テ訴訟上ノ防禦方法トシテ之ヲ爲スモ妨ナク從テ訴訟代理人ハ相手方ニ對シ相殺ノ抗辯ヲ提出スルノ權限ヲ有シ敢テ特別ノ委任ヲ要スルモノニ非ス（大審院昭和六年オ二八二二號同七年五月六日判決大審院判例集一一卷民事八八七頁・法律新聞三四三五號八頁・法律新報二九八號九頁）

二〔大審院〕相殺ノ主張ヲ爲ス者ハ如何ナル債權ヲ以テ相殺ヲ對抗スルモノナルカヲ明ニスルコトヲ要スルハ論ヲ俟タスト雖モ其ノ債權ノ同一性ヲ認識シ得ル程度ニ於テ其ノ主張ヲ爲スヲ以テ足リ敢テ其ノ債權發生ノ日時其ノ發生原因タル事實ヲ詳細ニ陳述スルノ要ナキモノトス而シテ被上告人ハ原審ニ於テ上告人ハ被上告組合ノ副長タリシ田島常吉及會計係タリシ葛島金之助ト共謀シ被上告組合ノ工事施行ニ當リ故意ニ約三萬圓ノ不當支拂ヲ爲シ被上告組合ニ對シ金三萬圓ノ損害ヲ與ヘタルヲ以テ被上告組合ハ上告人ニ對シ右損害賠償請求權ヲ有スルニ依リ本訴債務ト相殺ノ意思表示ヲ爲ス旨主張シタルモノニシテ右ノ主張ハ被上告人ノ反對債權ノ同一性ヲ認識スルニ足ルモノナリト認メ得ヘク又原審ノ採用シタル證據ヲ綜合スルトキハ論旨摘錄ニ係ル原判示ノ事實ヲ認定スルニ足ルヲ以テ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法ナシ（大審院昭和六年オ二八二二號同七年五月六日判決大審院判例集一一卷民事八八七頁・法律新聞三四三五號八頁）

○右一、二ノ批評―福井勇二郎氏法學協會雜誌五二卷四號一八二頁

三〔大審院〕審按スルニ金錢ノ請求ヲ受ケタル被告カ原告ニ對シテ同シク金錢ノ請求權ヲ有スル場合ニ於テ被告ヨリ相殺ノ意思ヲ表示セサル以上ハ裁判所ハ原告ノ請求金中ヨリ被告カ請求權ヲ有スル金額ヲ控除スルコトヲ得ルモノニアラス故ニ原院カ本件ニ於テ被上告人ノ請求金ニ對シテ上告人カ有スル請求金額ヲ控除セスシテ上告人ニ對シテ被上告人ノ請求金額ノ辨償ヲ命シタルハ相當ナリ（大審院明治四一年オ五四號同年四月二七日判決大審院判決錄一四輯民事四九八頁）

四〔大審院〕按スルニ一取引ノ當事者カ互ニ其ノ取引ヨリ生シタル債權ヲ有スル場合ト雖特約アルニ非サレハ相殺ニ依ルノ外其ノ相互ノ債權ハ相消サルヘキモノニ非サルモノナルニ原審ハ當事者間ニ桑苗ノ賣買アリテ被上告人ハ上告人ニ對シ三百圓ノ代金債權ヲ有シ被上告人ハ上告人ニ對シ右桑苗ノ運送料貨卸料倉入料立替金トシテ百四十七圓六十錢ノ債權ヲ有スル事實ヲ確定シタルニ止リ當事者間ノ其ノ旨ノ特約ノ存在ヲ確定スルコトナク且相殺ノ意思表示ヲ俟タス右債權カ一取引中ニ生シタルノ故ヲ以テ性質上差引カルヘキ旨ヲ判示シ上告人ハ被上告人ニ對シ請求スヘキ債權ヲ有セサルモノト爲シ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ審理不盡ノ違法アルカ然ラサレハ相殺ニ關スル法則ヲ誤解シタル違法アルモノトス（大審院昭和五年オ一七六八號同年一一月一五日判決法律新聞社編大審院裁判例〔四〕民事一一六頁）

五　相殺ノ要件ト意思表示（續民法一一九七頁「相殺ノ要件」ノ一參看）
六　相殺ノ意思表示ノ要件（續民法一二〇一頁）
七　相殺事實ノ主張カ相殺ノ意思表示カ（二續民六〇四頁）
八　裁判上ノ相殺ノ意思表示（民訴一五二頁・同三四八頁・同六六二頁）
九　爭アル相殺ノ意思表示ノ時期（續民法一一九八頁）
一〇　相殺ノ主張時期ニ關スル諸問（續民法一一九八頁）

◎相殺適狀ノ意義及實例

一〔大審院〕相殺ノ意思表示アリタルトキハ雙方ノ債務ハ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其ノ效力ヲ生スルコトハ民法第五百六條第二項ノ規定ヌル所ナルモ茲ニ所謂互ニ相殺ヲ爲スニ適シタリト爲スニハ啻ニ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルヲ以テ足レリトセス雙方ノ債務カ同一當事者間ニ對立セルモノタルコトヲ必要トス故ニ雙方ノ債務カ何レモ辨濟期ニ達シタル時ニ於テハ其當事者ヲ異ニシ其後債權ノ讓渡ニ因リテ同一當事者間ニ對立スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ讓渡ノ時ニ於テ雙方ノ債務ハ始メテ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルモノニシテ從テ其ノ後ニ相殺ノ意思表示アルトキハ右ノ讓渡ノ時ヲ標準トシテ雙方ノ債權ノ元利金ノ額ヲ定メ之カ充當ノ計算ヲ爲スヘク雙方ノ債務ノ辨濟期ニ達シタル時ヲ標準ト爲スヘキニ

非ス論旨ハ之ニ反スル見解ヲ主張スルモノニシテ理由ナシ（大審院昭和七年オ三五二一號同八年五月二三日判決法律新聞三五六九號一七頁・法律評論二二卷民法七一五頁）

二〔大審院〕被上告人カ豐次所有ノ馬匹ヲ他ニ賣却シテ其代金五十圓ヲ受領シタル事實アルニ於テハ其金額ヲ被上告人ヨリ豐次ニ支拂フヘキ債務ト豐次ノ被上告人ニ對スル前示立替金ノ債務トハ特別ノ事由ナキ限リ相殺ヲ爲スコトヲ妨クヘキ謂レナク從テ右契約ニ基ク本訴請求ニ於テモ其請求金額ヨリ右馬匹ノ賣却代金額ヲ控除スヘキコトヲ主張スル上告人ノ抗辯ハ直ニ之ヲ排斥シ難キニ似タリ然ルニ原裁判所ハ被上告人カ豐次所有ノ馬匹ヲ他ニ賣却シテ其代金五十圓ヲ受領シタルコトヲ認メナカラ其金額ハ前示契約ニ基ク本訴請求ノ金額ヨリ控除スヘキ理由ナキ旨判示シタルモ其理由ナキ所以ハ判文中之ヲ知ルニ足ルヘキモノアルヲ見ス故ニ原判決ハ其理由不備ナルモノニシテ違法タルヲ免レス（大審院大正一〇年オ九一號同年四月二六日判決法律新聞一八五二號二一頁）

三　本條第二項ノ意義及ヒ適用（續民法一二〇一頁）

四　期限前ノ債權ト相殺適狀（三續民五〇五條一四〇五頁）

五　當座借越契約ノ解約ト相殺適狀（三續民五〇五條一四〇六頁）

六　株金ノ拂込ト相殺（三續民五〇五條一四〇七頁）

七　爭アル債權ト相殺ノ適狀（本條後出）

八　相殺適狀ノ時期ト理由不備（本條後出）

◎爭アル債權ト相殺ノ適狀

一〔大審院〕存否ニ付爭アル債權ト雖該債權ニシテ客觀的ニ存在スル以上之ヲ相殺ノ用ニ供シ得ヘク而シテ一度其ノ用ニ供セラレシ債權ハ爾後再ヒ相殺ニ供シ得サルコト勿論ナルヲ以テ上告人ノ爲シタル相殺ニシテ被上告人等ノ爲シタル相殺ニ先ツコト判示ノ如クナルニ於テハ上告人ノ爲シタル相殺ハ卽客觀的ニ存スル求償債權ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ生スヘクシテ之カ效力ハ後ニ爲サレシ被上告人等ノ爲シタル相殺ニ因リ動サルルコトナキヤ洵ニ明瞭ナリト云ハサルヘカラス然ラハ本件ニ於テハ上告人ノ爲シタル相殺ニ因ル效力ノ範圍如何ヲ確定スヘキニ拘ラス原判決ハ玆ニ出テス上記ノ如キ判斷ノ下ニ上告人ノ相殺抗辯ヲ排斥シタルハ違法ニシテ上告ハ其ノ理由アルモノトス（大審院昭和七年オ九一七號同八年一一月六日判決法律新報三四六號一二頁）

二〔大審院〕1同種ノ目的ヲ有スル雙方ノ債權カ相殺ニ適スルヤ否ヤハ單ニ雙方ノ債權カ辨濟期ニ在ルヤ否ヤヲ認定スルヲ以テ足レリトセス債權ノ成立ニ爭アルトキハ裁判所ハ審理ヲ盡シ其ノ成否ヲ認定スルニアラサレハ轍ク相殺ヲ認容スヘキニ非ス債權ノ成立ニ爭アルニ不拘審判ヲ盡サスシテ相殺ヲ認容スル裁判ハ不當ニシテ破毀ヲ免レス

2相殺ノ目的タル一方ノ債權カ一日金二十錢ノ勤務報酬金カ約四ヶ年分合計金八百餘圓ノ請求ナリト主張スルニ拘ラス其ノ債權ハ四ヶ年間未タ曾テ一回モ請求又ハ受領シタルコトナク而シテ同債權者カ相殺ノ相手方ニ對シ負擔スル百圓ノ債務ハ借入金ニシテ利息及ヒ抵當權附ノ債權ナリト云フニアリ此ノ場合ニ於テ八百餘圓ノ勤務報酬金債權ノ成立ニ付キ爭アリトセハ裁判所ハ何ニカ故ニ斯ル長年月間支拂ヲ受ケタルコトナキニ拘ラス一回モ之ヲ請求スルコトヲ爲ササルヤ又斯ル債權ヲ有シナカラ何ニカ故ニ之ヲ請求スルコトヲ爲サス態々利息及ヒ擔保附ノ借入金ヲ其ノ債務者ニ對シ負擔スルヤ宜シク此ノ問題ニ付キ審理ヲ盡ササルヘカラサルニ之ヲ盡サスシテ輙ク相殺ヲ認容スル裁判ハ所謂審理不盡ノ不法アルヘク又右八百餘圓請求權ノ存在ヲ主張スル者ノ月割額ハ金四圓五十錢ナリト云フニ拘ラス裁判所カ一日金二十錢宛（月割トスレハ六圓）ノ日割額ヲ容認スル裁判ハ獨リ相殺ノ裁判トシテ審理不盡ノ不法アルノミナラス當事者ノ請求額ヲ超越シテ債權額ヲ認ムル不法アルモノニシテ何レヨリ論スルモ破毀ヲ免カレサルモノトス（大審院昭和五年オ一八九一號同六年三月三一日判決判例彙報四二卷一二號民事六六三頁）

◎訴訟中ノ債權ト別訴ノ相殺ニ供用（三續民五〇五條一四一三頁）

◎相殺ノ抗辯ト訴訟代理人ノ權限

一〔大審院〕民事訴訟法カ訴訟當事者ニ認許スル相殺ノ抗辯ハ相手方ノ請求ニ對スル防禦ノ方法ニシテ一ノ訴訟行爲タル性質ヲ有スルモノトス從テ訴訟代理人ノ代理權中ニハ相手方ニ對シテモ此ノ抗辯ヲ提出スルノ權限竝ニ相手方ヨリ其ノ抗辯ニ對抗セラルル權限ヲ包含スルモノト解スヘキコトハ夙ニ當院判例（大正元年（オ）第一一二號同年十二月二十三日判決）トスルトコロニシテ原審カ同一見解ノ下ニ被上告人訴訟代理人ヨリ上告人訴訟代理人ニ對シテ爲シタル本件相殺ノ抗辯ヲ理由アリト判斷シタルハ相當ナリ（大審院昭和八年オ一二四八號同年一〇月二八日判決法律新聞三六三二號一三頁・法律評論二二卷民訴四八四頁・法學三卷三號一〇四頁）

二　右一ノ引用判例―民訴五〇頁「相殺ノ抗辯ト訴訟代理人ノ權限」ノ一

三　訴訟上ニ於ケル相殺ノ抗辯（民訴一八九頁）

◎相殺ノ抗辯ト理由不備

一〔大審院〕按スルニ上告人カ原審ノ口頭辯論ニ於テ昭和四年

四月中本訴債權ノ讓渡ニ付債務者タル被上告組合ニ通知シタルノミナラス又其ノ承諾ヲ得タル旨主張シタルコトハ昭和七年三月十一日ノ口頭辯論調書ニ徵シ明白ナリ然ルニ原審ハ右通知ノ點ニ付テハ其ノ之ナカリシ旨說示シタルモ承諾ノ有無ニ關シテハ何等判示スルトコロナクシテ上告人提出ノ相殺ノ抗辯ヲ排斥シ去リタルハ到底重要ナル爭點ノ判斷ヲ遺脫シタル違法アルヲ免レサルモノニシテ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス（大審院昭和七年オ一一五六號同年一〇月一四日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二七八頁）

二〔大審院〕原判決事實摘示ニ依レハ上告人主張ノ要旨ハ被上告人ハ上告人ニ對スル山形區裁判所大正十年（ロ）第二四號執行命令ニ基キ元金三百圓及之ニ對スル利息ノ辨濟ヲ得ルカ爲上告人所有ノ動產ヲ差押シタリ然レトモ上告人ハ大正十年二月三日被上告人ニ金三千五百圓ヲ交付シ以テ當時被上告人ニ對シテ負擔セル全債務（利息共）ノ辨濟ヲ爲シタルヲ以テ右執行命令ニ表示スル債權モ亦消滅ニ歸シタルモノトス假ニ然ラストスルモ前記交付ノ三千五百圓中金五百二十八圓六十五錢五厘ノ過渡シアルヲ以テ其ノ返還ヲ受クヘキ債權ト本訴債權トヲ對當ノ額ニ於テ相殺スト謂フニ在リ而シテ原判決ノ確定セル事實ニ依レハ上告人ハ曩ニ右執行命令ノ執行カ排除ノ爲大正十年二月三日辨濟ニ因リ債務消滅セルコトヲ理由トシテ請求異議ノ訴ヲ提起シタルモ同異議ノ原因ハ執行命令送達前ニ發生シタルノ故ヲ以テ請求棄却セラレ同判決確定シタルモノナルヲ以テ本訴異議ノ原因中前訴ト同樣大正十年二月三日ノ辨濟ノ事實ヲ主張スル部分ハ所謂前訴判決ノ既判力ノ當ヲ得サルコトニ歸スルコト明ナルモ上告人カ豫備的ニ提出セル前陳ノ相殺ニ因リ債務消滅シタリトノ異議ノ理由ハ前訴ノ判決ニ依リ判斷セラレタルモノニ非サルヲ以テ此ノ部分ニ付前訴判決ノ既判力ノ及フヘキ筋合ニ非サルコト勿論ナリ然リ而シテ上告人ノ主張ニ依レハ右相殺ノ意思表示ハ前示執行命令ノ送達後本件ノ訴狀ヲ以テ之ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ原裁判所ハ須ラク相殺ニ因ル債務ノ消滅ヲ原因トスル異議ノ正當ナルカ否ヲ判斷スヘキモノナルニ事茲ニ出テス前記辨濟ノ主張ト其ノ基礎タル事實ヲ同一ニシ單ニ法律上ノ觀點ヲ異ニスルニ過キスト解シ許ス可ラサル異議ノ理由ナリト判示シタルハ到底審理不盡ノ不法アルヲ免レス（大審院昭和五年オ五四九號同年一一月五日判決法律新聞三二〇四號一六頁）

三〔大審院〕原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被上告人（被控訴人）ハ上告人ニ對シ損害要償權ノ目的タル金二百圓ヲ消費貸借ノ目的トシタル甲第一號證ノ債權ヲ有シ其ノ債權ハ既ニ辨濟期ニ到リタルモノトス故ニ若上告人（控訴人）カ原審ニ於テ主張シタル如ク上告人ニ於テ被上告人ノ爲其ノ債權者タル岩垂善一ニ對シ金二百圓ノ借用金ヲ辨濟シタル事實アリトセハ被上告人ニ對シ其ノ金額ニ付求償權ヲ有スヘキ筋合ナルヲ以テ特別ノ事由ナキ限上告人ハ被上告人ニ對シ之ヲ以テ甲第一號證ノ債權ト相殺シ得ヘキモノト謂ハサルヘカラス而シテ原裁判所ハ上告人ハ被上告人ヨリ受取リタル金二百圓ヲ以テ債權者岩垂善一ニ支拂フヘキ義務ヲ被上告人ニ負擔スルカ故ニ假令上告人カ其ノ主張ノ如ク連帶保證人トシテ岩垂善一ヨリ強制執行ヲ受ケ之ニ辨濟シタル事實アリトスルモ被上告人ニ對シ求償權ヲ有セスト說明スレトモ原審ノ認定スル所ニ依レハ上告人ハ被上告人ノ債務ノ免除ヲ得ンカ爲岩垂善一ニ支拂フヘキ依賴ノ下ニ被上告人ヨリ金員ヲ受取リタルモノニシテ該金員ハ上告人カ岩垂善一ヨリ強制執行ヲ受ケ辨濟ヲ爲シタル金員ト別個ノ關係ニ在ルモノナレハ原判決說明ノ如ク上告人ノ求償權ノ發生ヲ妨ケ之ニ因ル相殺抗辯ヲ排斥スヘキ筋合トナルモノニ非ス然ラハ原判決ハ上告人ノ相殺抗辯ヲ排斥スルノ理由ヲ具備セサルモノニシテ上告論旨ハ理由アリ（大審院大正一三年オ八五三號同一四年二月一二日判決法律新聞二三七五號二一頁）

四　相殺抗辯適否ノ判斷（續民法一二〇一頁）

五　相殺ノ抗辯ト審理不盡（三續民四六八條一三〇〇頁）

六　相殺適狀ノ時期ト理由不備（本條後出）

第三續民法　債權　總則　債權ノ消滅　相殺

◎相殺ノ主張ト請求ノ異議

一〔東京控〕被控訴人等ハ控訴人カ本件請求異議ノ原因トシテ主張スルトコロハ債務名義タル確定判決ニ關スル口頭辯論終結後ニ生シタルモノニ非サルヲ以テ民事訴訟法第五百四十五條ニ依リ本訴ハ之ヲ許スヘカラサルモノナリト主張スレトモ控訴人ハ本件相殺ニ供セラレタル自働債權ハ判決ノ確定及之ニ基ク差押ノ結果發生シタリト主張スルモノナルカ故ニ該債權ハ債務名義タル確定判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結後ニ發生シタルモノナルコト明白ノミナラス控訴人主張ノ相殺ノ意思表示ニ至リテハ更ニ其ノ後昭和三年七月二十四日被控訴人等ニ到達シタリト主張スルモノナレハ等シク最終口頭辯論後ノ發生ニ係ルモノナルコト言ヲ俟タサルトコロナリ從テ控訴人ノ主張自體請求異議ノ訴ノ原因タリ得サル旨ノ被控訴人等ノ抗辯ハ之ヲ採用スルニ足ラス（東京控訴院昭和六年ネ一三一九號同八年三月二二日判決法律新聞三五六〇號九頁・法律評論二二卷民訴二五八頁）

二　辯論終結後ノ相殺ト異議ノ原因（續民訴一二八二頁）

◎相殺適狀ノ時期ト理由不備

一〔大審院〕相殺ノ意思表示アリタルトキハ雙方ノ債務カ相殺

適狀ニ在リシ時ニ遡リ對當額ニ付債務消滅ノ效果ヲ生スヘキモノナレハ本件ニ付テモ被上告人ノ債權額五百圓中右二百圓ハ相殺適狀ト爲リシ時ニ於テ消滅スヘク爾後其ノ二百圓ノ債權額ニ付テハ利息ヲ生スヘキモノニ非サルニ原判決ハ漫然控訴棄却ノ判決ヲ爲シタル結果二百圓ニ付債務消滅シタルニ拘ラス依然トシテ右二百圓ノ債權額ニ付テモ利子ヲ附スルコトト爲ル不合理ヲ生スルニ至ルモノニシテ是全ク原判決カ相殺ノ效力發生時期タル相殺適狀ト爲リシ時期ヲ確定セサル不法アルカ爲ナリトス（大審院大正一二年オ八七七號同一三年四月四日判決法律新聞二二七〇號二〇頁）

二〔大審院〕按スルニ相殺ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生スヘキモノナルコト民法第五百六條第二項ノ規定ニ徵シ毫モ疑ヲ容レス今本件ニ付之ヲ觀ルニ原判決ハ被上告人主張ノ相殺ノ效力ヲ說明スルニ方リ受働債權ニ付テハ被上告人カ昭和五年八月十六日上告人ヨリ金四百五十圓テ利息年一割二分ノ定メニテ借受ケ被上告人所有ノ土地四筆ノ上ニ抵當權ヲ設定シタルコト上告人カ辨濟期到來後右抵當權ノ實行ニ依リ元金ノ內金百二十七圓十一錢及貸付當日ヨリ昭和六年四月二十三日迄ノ利息ノ支拂ヲ受ケ昭和六年四月二十三日當時殘元金三百二十二圓八十九錢存在シタル事實ヲ確定シタルモ自働債權ニ付テハ上告人カ

◎民法前ノ債權ト相殺ノ遡及力

一〔大審院〕雙方ノ債務ハ明治二十九年中卽チ民法施行前ニ於テ互ニ相殺ニ適シタルモソノ後レ然レハ被上告人カ民法施行後

抵當權ノ實行トシテ抵當不動產四筆ニ付競賣ノ申立ヲ爲シ昭和六年四月二十四日內三筆ニ付自ラ競落人ト爲リ其ノ旨ノ競落許可決定アリタルモ支拂期日ニ代金ヲ支拂ハサル爲再競賣ト爲リ昭和六年七月三十一日競落許可決定アリテ被上告人ハ民事訴訟法第六百八十八條第五項ニ則リ上告人ニ對シ競落代金不足額金三百二十二圓及再競賣費用金七圓三十二錢支拂ノ請求權ヲ有スルニ至ルモノニシテ是全ク原判決カ相殺ノ效力發生時期タル相殺適狀ト爲リシ時期ヲ確定セサル不法アルカ爲ナリトス（大審院大正一二年オ八七七號同一三年四月四日判決法律新聞二二七〇號二〇頁）

二〔大審院〕按スルニ相殺ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生スヘキモノナルコト民法第五百六條第二項ノ規定ニ徵シ毫モ疑ヲ容レス今本件ニ付之ヲ觀ルニ原判決ハ被上告人主張ノ相殺ノ效力ヲ說明スルニ方リ受働債權ニ付テハ被上告人カ昭和五年八月十六日上告人ヨリ金四百五十圓テ利息年一割二分ノ定メニテ借受ケ被上告人所有ノ土地四筆ノ上ニ抵當權ヲ設定シタルコト上告人カ辨濟期到來後右抵當權ノ實行ニ依リ元金ノ內金百二十七圓十一錢及貸付當日ヨリ昭和六年四月二十三日迄ノ利息ノ支拂ヲ受ケ昭和六年四月二十三日當時殘元金三百二十二圓八十九錢存在シタル事實ヲ確定シタルモ自働債權ニ付テハ上告人カ

◎民法前ノ債權ト相殺ノ遡及力

一〔大審院〕雙方ノ債務ハ明治二十九年中卽チ民法施行前ニ於テ互ニ相殺ニ適シタルモソノ後レ然レハ被上告人カ民法施行後卽チ上告人ヨリ本訴ノ請求ヲ受クルニ至リテ爲シタル相殺ノ意思表示ハ民法施行法第五十八條第二項ニ從ヒ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生スルモノト爲ササル可カラサルコト多言チ俟タス然ルニ原院カ判決理由ノ末段ニ於テ「而シテ甲第一號證ノ元利金ハ明治二十九年中ニ在リテハ六百圓ニ滿タサルカ故ニ該證ノ債務ハ右相殺ニ因リ全部消滅ニ歸ス」ト判示シタルハ被上告人ノ爲シタル相殺ノ意思表示ヲ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始メ卽チ民法施行前ニ遡リテ效力ノ生スルモノト爲シタルニ外ナラサレハ民法施行法第五十八條第二項ヲ適用セサルト同時ニ民法第五百六條第二項ヲ不當ニ適用シタル不法アリ（大審院明治四一年オ一五號同年五月五日判決法律新聞四九八號一三頁）

◎相殺ニ關スル立證責任

一〔大審院〕相殺ノ意思表示アリタルトキハ一應反對債權ノ存在ヲ推測スヘキ證據法上ノ理ナキヲ以テ原審ニ於テ何等ノ立證ヲ爲ササリシ上告人ハ其ノ主張ニ係ル反對債權ヲ否定セラレタルコトニ對シ固ヨリ何等ノ不服ヲ述フルニ由ナキモノトス（大審院昭和六年オ二一號同年九月一七日判決法學一卷二號一一三頁）

二　相殺主張者ノ立證責任（民訴一九三頁）

三　相殺ニ關スル推定（民法二九一頁）

第五百七條　【履行地異ナル相殺】

1相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條　【時效消滅ノ債權ト相殺】

1時效ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

◎時效消滅債權ノ相殺ニ關スル諸問

一　本條ノ法意及解釋（本條後出「時效消滅ノ保證債務ト相殺」一ノ1 2參看）

二　瑕疵擔保ノ除斥期間ト本條（本條後出）

三　消滅時效ニ罹リタル債權ノ相殺（民法二九二頁・續民法一二〇二頁）

四　時效消滅ノ保證債務ト相殺（本條後出）

五　時效消滅債權ト身元保證金トノ相殺（本條後出）

◎瑕疵擔保ノ除斥期間ト本條

一〔大審院〕民法第五百八條ハ消滅時效ノ場合ニ關スル規定ニシテ瑕疵擔保ノ場合ニ於ケル除斥期間ニ適用シ得サルモノトス（大審院昭和三年オ六四四號同年一二月一二日判決法律評論一八卷民法四二七頁）

◎時效消滅ノ保證債務ト相殺

一〔大審院〕1案スルニ相殺ニ適スル債權ノ對立スル場合ト雖相殺ノ意思表示ナキ限リ雙方ノ債權ハ消滅セス從テ之ヲ法律上ヨリ觀レハ相殺ヲ爲シ得ヘキ債權者ト雖未タ相殺ヲ爲ササル間ハ債權ヲ有シ債務ヲ負擔セルコト勿論ナルモ取引ノ實際ニ於テハ相殺ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ何時ニテモ自己ノ債權債務ヲ消滅セシメ得ヘキ地位ニ在ルカ故ニ未タ相殺ヲ爲ササルモ恰モ既ニ相手方ニ對シ債權ヲ有セス債務ヲ負擔セサルカ如キ觀念ヲ有スルヲ通常トシ其ノ結果自己ノ債權ノ行使ヲ怠ルコトアルヘキハ免レ難キ所ナリトス於茲民法第五百八條ハ斯カル觀念ノ下ニ債權ノ行使ヲ怠ルヘキ虞レアル債權者ヲ保護シ其ノ債權カ不行使ノ結果時效ニ因リ消滅シタル後ト雖之ヲ以テ消滅前之ト相殺適狀ニ在リタル相手方ノ債權ニ對シテハ相殺ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノトス

2然ルニ債權者カ連帶保證人ニ對スル債權ヲ以テ其ノ連帶保證人ニ對スル債務ト相殺ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テモ其ノ債權者ハ何時ニテモ此ノ相殺ニ因リ自己ノ債權（連帶保證人竝ニ主タル債務者ニ對スル）及債務ヲ消滅セシメ得ヘキ地位ニ在ルカ故ニ未タ相殺ヲ爲ササルモ恰モ既ニ此等ノ債權ヲ有セス債務ヲ負擔セサルカ如キ觀念ヲ有スルヲ通常トシ其ノ結果連帶保證人ニ對シテハ勿論主タル債務者ニ對シテモ其ノ債權ノ行使ヲ怠ルコトアルヘキハ取引ノ實際ニ於テ免レ難キ所ナリト謂フヘク從テ其ノ不行使ニ因リ先ツ主タル債務者ニ對スル債權ニ付消滅時效完成シ之カ爲ニ連帶保證人ニ對スル債權モ亦消滅スルニ至リタル場合ニ於テモ債權者ハ民法第五百八條ノ保護ヲ受クヘキハ當然ニシテ卽此場合ニ債權者ハ連帶保證人ニ對スル債權ヲ以テ其ノ消滅前之ト相殺適狀ニ在リシ連帶保證人ニ對スル債務ト相殺ヲ爲シ得ルモノト解セサルヘカラス而シテ債權者カ此ノ相殺ヲ爲シタルトキハ其ノ相殺ノ效力ハ雙方ノ債權債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始（從テ主タル債務者ニ對スル債權カ未タ時效ニ因リテ消滅セサル時）ニ遡リテ生シ此ノ時ニ於テ連帶保證人ハ自己ノ債權ト連帶保證債務トノ相殺ニ因リ卽自己ノ出捐ニ因リテ主タル債務ヲ消滅セシメタル者ト爲ルカ故ニ主タル債務者ニ對シ求償權ヲ有スルコトアルヘキハ當然ニシテ斯カル結果ヲ生スルノ故ヲ以テ民法第五百八條ニ關スル前示解釋ヲ不當ト爲スヘキニ非ス

3本件ニ於テ被上告人ノ主タル債務者關善兵衛關義滿津ニ對スル債權カ右兩名ノ商行爲ニ因リテ生シタルモノナルコトハ原判決ノ確定セル所ナレハ其ノ保證人タル上告人ハ右兩名ノ爲メ連帶保證債務ヲ負擔スヘク原判決ハ被上告人ニ於テ右兩名ニ對スル主タル債權カ時效ニ因リ消滅シ之カ爲メ其ノ連帶保證人タル上告人ニ對スル債權モ亦消滅シタル後ニ此ノ債權ヲ以テ其ノ消滅前之ト相殺適狀ニ在リシ上告人ニ對スル本訴債務ト相殺ヲ爲シ得ヘキ旨判示シタルモノニシテ之ヲ以テ違法ト爲スヘカラス論旨ハ理由ナシ（大審院昭和七年オ二八〇一號同八年一月三一日判決大審院判例集一二卷民事八三頁・法律新聞三五四八號七頁・法律新報三二七號一七頁）

◎時效消滅債權ト身元保證金トノ相殺

一〔大審院〕上告銀行ノ所謂積立金ト不法行爲ニ基ク債權ト差引若ハ前者ヲ以テ後者ノ辨濟ニ充テタリトノコトハ畢竟相殺ノ意思表示ヲ爲シタリトノ意義ニ外ナラサルコトハ辯論ノ全趣旨ニ徵シテ看取スルニ難カラス然リ而シテ被上告人モ其ノ成立ヲ認ムル乙第一號證及同第五號證ニ依レハ身元保證金ハ被上告人ニ於テ故意若ハ粗漏意慢ニ依リ銀行ニ損失ヲ被ラシメタル場合ハ勿論銀行ニ對シ債務アルトキハ名義ノ如何ニ不拘直ニ保證金ヲ以テ充用スルコトヲ得ル旨ヲ當事者間ニ特約セルコトヲ看取シ得ヘキニヨリ原院認定ノ如ク被上告人カ宮城商業銀行ニ對シ不法行爲ニ因リ五千圓ノ損害ヲ被ラシメ同銀行カ大正八年十一月二十九日ニ於テ其ノ事實ヲ知リタリトセハ同銀行ハ身元保證金トシテ被上告人ノ爲シタル積立金ノ債權ト相殺シ之カ賠償ニ充ツルコトヲ得ハク從テ積立金ノ辨濟期限ハ被上告人ノ不法行爲ニ基キ銀行ニ被ラシメタル損害ヲ賠償スル限リニ於テハ其ノ當時到來シタルモノト云ハサル可カラス民法第五百八條ニハ時效ニ因リテ消滅シタル債權カ其ノ消滅以前ニ相殺ニ適スル場合ニ於テハ其ノ債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ト規定セルヲ以テ上告銀行ノ前身タル宮城商業銀行カ昭和三年一月三十一日ニ被上告人ノ爲シタル積立金ヲ以テ前示被上告人ノ不法行爲ニ基ク債務ノ辨濟ニ充テタルコト卽相殺ノ意思表示ハ法律上其ノ效力ヲ生スルモノト云ハサル可カラス然ルニ原院ハ思ヲ玆ニ致サス漫然前記ノ如ク判示シ上告銀行ニ敗訴ノ判決ヲ言渡シタルハ不法ニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ（大審院昭和六年オ九五〇號同年一一月一三日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事二四二頁・法學一卷四號九九頁）

第五百九條　【不法行爲ノ債務ト相殺】

1債務カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎不法行爲ニ因ル債權債務ト相殺

一〔大阪地〕民法第五百九條ニ依レハ債務カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其ノ債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スル事ヲ得サル旨規定シ其ノ債務者カ相殺ヲ以テ對抗スヘキ反對債權ノ原因ニ付何等制限スル所ナキヲ以テ不法行爲ニ因リ生シタル債務ヲ負擔スル者ハ相手方タル債權者ニ對シ不法行爲ニ因リ生シタル反對債權ヲ有スル場合ニ於テモ尙相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大阪地方裁判所昭和二年リ三八一號同四年六月一二日判決法律評論一八卷民法八八一頁）

二〔大審院〕不法行爲ニ因リテ生シタル債務ヲ負擔スル者ハ相手方タル債權者ニ對シ不法行爲ニ因リテ生シタル反對債權ヲ有スル場合ニモ相殺ヲ以ニ對抗スルコトヲ得サルモノナルコト既ニ當院判例〔昭和三年（オ）第六〇〇號同年十月十三日判決〕ノ存スル所ニシテ今之カ變更ノ必要ヲ見サルヲ以テ論旨採用シ難シ（大審院昭和八年オ五四號同年六月二八日判決法律新聞三五八一號七頁・法律評論二二卷民法八三四頁・法學三卷二號九九頁）

三〔大審院〕右二ノ引用判例ー民法第五百九條ニ依レハ債務カ不法行爲ニ因リニ生シタルトキハ其ノ債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得スト規定シ其ノ債務者カ相殺ヲ以テ

對抗スヘキ反對債權ノ原因如何ニ付何等制限スル所ナク又之ヲ制限スヘキ理由モ存セサルモノト認メ得ルヲ以テ同條ハ不法行爲ニ因リテ生シタル債務ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ債權者ニ對シテ有スル反對債權ノ如何ニ拘ラス一切之ヲ以テ相殺ヲ爲スコトヲ得サラシメタル趣旨ナリト解スヘク從テ相手方タル債權者ノ不法行爲ニ因リ生シタル反對債權ヲ有スル場合モ尙相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ禁セラレタルモノト認ムヘキモノトス（大審院昭和三年オ六〇號同年一〇月一三日判決大審院判例集七卷民事七八〇頁・法律評論一八卷民法二五七頁）

四　不法行爲ニ因ル債務ト相殺（民法二九二頁・續民法一二〇二頁）

第五百十條　【差押禁止ノ債權ト相殺】

1 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條　【支拂差止ノ債權ト相殺】

1 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎支拂差止ノ債權ト相殺

一　支拂ノ差止ヲ受ケタル者ノ相殺權（續民法一一七九頁・同一四六五頁）

二　破產宣告後取得ノ債權ト相殺權（續民法一四六六頁）

三　破產財團ニ對スル相殺ノ適否（續民法一一九八頁・商法三八八頁）

四　破產者ノ自由財產ト相殺（三續民五〇五條一四一〇頁）

五　自働債權ノ否認ト相殺ノ效力（三續民五〇五條一四一二頁）

第五百十二條　【相殺ノ充當】

1 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

◎相殺充當ノ適否

一〔大審院〕按スルニ所論ニ係ル金五十圓ノ債務ニ付テハ大正六年五月末日カ返還期ナルコト及ヒ金五百圓及ヒ金二百圓ノ二口ノ債務ニ付テハ大正八年三月末日マテ辨濟ノ猶豫アリタルコトハ當事者間ニ爭ナカリシ所ナルコト本件記錄ニ依リ明白ナリ故ニ民法第五百十二條及ヒ第四百八十九條ノ規定ニ從ヒ相殺ノ充當ヲ爲スニ際シテハ右五百圓ノ債務ヲ辨濟期ノ先ツ至リタルトスルヲ得サルコト洵ニ明白ナリ然ルニ原裁判所ハ事茲ニ出テスシテ「債務者タル被控訴人（被上告人）茂太郎ノ爲メ特ニ相殺ノ利益多キモノト認ムヘキモノナキヲ以テ辨濟期ノ最モ先キニ到來シタル元金五百圓ト對等額ニ於テ相殺スヘキモノナルカ故ニ此元金五百圓ヨリ右殘金二百十二圓二十三錢二厘ヲ差引クトキハ五百圓ノ元金殘額二百八十七圓七十六錢八厘ト爲リ」ト判示シ上告人敗訴ノ判決ヲ言渡シタルハ相殺充當ニ關スル法則ニ違背シタルモノトス（大審院大正九年オ八〇七號同一〇年四月一三日判決法律新聞一八五二號二一頁）

二　相殺ト充當ノ法則（二續民六〇八頁）

第三款　更改

第五百十三條　【更改】

1 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

2 條件附債務ヲ無條件債務トシ、無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ

◎更改契約ニ關スル諸問

一　辨濟ト更改トノ差異（二續民五六〇頁）
二　更改ノ意義及要件（二續民六〇八頁）
三　更改契約ノ成否ニ關スル實例（本條後出）
四　當事者ノ變更ト債權ノ同一性（本條後出）
五　二箇ノ債權ノ合併ト更改（本條後出）
六　更改カ準消費貸借カノ判定（本條後出）
七　更改契約ト錯誤ノ存否（本條後出）
八　似テ非ナル更改契約（民法二九三頁）
九　無效ノ行爲ヲ目的トスル更改契約（續民法一二〇五頁）
一〇　更改ノ成否ト舊債務證書ノ留存（本條後出）
一一　滌除金ノ辨濟ト相殺更改（民法一八五頁）
一二　主債務ノ更改ト保證債務ノ消滅（民法二四四頁・續民法一一三八頁）
一三　雙務契約ノ更改ト抗辯權ノ消長（二續民六一二頁）
一四　更改契約ノ解除ト舊債務ノ復活（三續民五一七條）
一五　賣渡擔保ヲ單純賣買ト改ムル契約（三續民九四條一六五頁）
一六　更改ト準消費貸借ト請求ノ基礎（本條後出）
一七　地上權ヲ賃貸借ト變更（續民法一二〇五頁）
一八　賃料ノ增額又ハ變更ト更改（續民法一二〇五頁）

一九　雇傭ノ給料ヲ歩合ニ變更ト更改（續民法一二〇五頁）
二〇　賣買代金ノ寄託ト更改契約ノ不成立（續民法一二〇五頁・民法二九四頁）
二一　株金拂込ノ債務ト免除又ハ更改（三續民五一九條）
二二　商事債權ノ更改後ノ性質（商法一二九頁）
二三　手形債務ヲ普通債務ニ變更（民法二九四頁・續民法一二〇四頁）
二四　手形ノ授受ト既存債權トノ關係（本條後出）
二五　手形ノ不渡ト原債權ノ行使（本條後出）
二六　更改前ノ舊債務ニ基ク競賣ノ效力（三續民五一八條）
二七　債務名義ナル債權ノ更改ト執行權（民訴四三九頁）

◎更改契約ノ成否ニ關スル實例

一〔上告論旨〕第一點ハ原審カ本件ニ對シ債務ノ更改アリト認定シタルハ（一）甲第一號證ノ債權千圓ニ其ノ利子二百三十圓ヲ合セテ甲第二號證ノ千二百三十圓トナシタルコト（二）甲第二號證ノ債權ニ債務者所有ノ不動産十數筆ノ抵當權ヲ設定シ登記ヲ了シタルコト（三）其ノ擔保不動産ニ第一第二順位ニ相當スル抵當權設定シアルモ鑑定人ノ評價ニ依リ甲第二號證ノ金額ニ對スル擔保トシテ無價値ニアラサルコトノ三點ニアルモノノ如シ然レトモ民法ニ於ケル更改ハ債務ノ要素ニ變更ヲ來ス場合ニ限リ成立スルコトハ其ノ條文（民法第五百十三條）ノ示ス處ナリ而シテ利子ヲ元本ニ組入レ證書ノ切替ヲナスカ如キハ債務ノ內容タル給付ノ要部ニ何等變更ヲ及ホササルモノナレハ利子ヲ元本ニ加算シ千二百三十圓ノ新規證書ヲ作成シタレハトテ此ノ一事ヲ以テ更改ナリト謂フヘカラス所謂法律ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云ヒ同第二點ハ甲第二號證ニ抵當權ヲ設定シ登記ヲ經由シタルハ事實ナレトモ從來ノ人的擔保ニ不足ヲ感シ更ニ物的擔保ヲ追加スル如キハ單ニ債務ノ態樣ヲ變更シタルモノニテ當事者カ特ニ之ヲ以テ更改ノ要件トナシタリト認ムヘキ事情ノナキ限リ當然更改ヲ來タスモノニアラス然ルニ原審ハ此ノ點ニ付何等ノ說明ヲ加ヘス單ニ抵當權設定ノ登記ヲ了シタル一事ヲ以テ更改ナリト判斷シタルハ理由不備ノ裁判ナリトスト云フニ在リ

二〔大審院〕依テ按スルニ原審ハ上告人ト主タル債務者服部揚作トノ間ニ本件債務一千圓ト其ノ利息ヲ消費貸借ノ目的トスルト爲シタル債務二百三十圓トヲ合シテ新タニ辨濟期日竝利息ヲ定メ債權額ヲ千二百三十圓ニ改メ債務者所有ノ不動産上ニ抵當權ヲ設定シ訴外服部松五郎ヲ保證人ト爲シタル借用證書ヲ揚作ヨリ上告人ニ差入レタル事實ヲ確定シ之ニ基キ本件債務ハ更改ニ因リ消滅シタル旨判示シタリ然レトモ右事實ノミニ因リテハ債務ノ態樣ニ變更ヲ生シタルニ止ルヲ以テ之ヲ更改ト爲スニハ當事者カ本件債務ヲ消滅セシムル意思ヲ以テ右ノ如キ契約ヲ爲シタル事實ヲ確定セサルヘカラス然ルニ原審カ此ノ擧ニ出テス前示事實ノミニ依リ本件債務ノ消滅ヲ認メ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ理由不備ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アルモノトス（大審院昭和四年オ一〇〇〇號同五年二月七日判決法律新聞三一〇二號九頁・法律評論一九卷民法四九六頁）

三　二箇ノ債權ノ合併ト更改（本條後出）
四　物ノ數量ノ變更ト更改ノ成立（民法二九四頁）
五　代金ノ變更ト更改（民法二九四頁）
六　利子ノ增加及組入ノ追約ト更改（民法二九三頁）
七　抵當貸借ヲ根抵當貸越ニ變更（三續民五一八條「更改ニ因ル抵當權移轉ノ登記」ノ二參看）
八　辨濟期ノ變更ト更改成否（二續民六一一頁）
九　履行方法ノ約諾ト更改契約（民法二九六頁）
一〇　更改カ準消費貸借カノ判定（本條後出）
一一　證書ノ入替ト更改（民法二九四頁・同三八七頁）
一二　手形ノ切替又ハ書換ト更改成否（本條後出「手形ノ授受ト既存債權トノ關係」ノ八、九、一〇參看）

附、上告人ハ本訴債權ノ存在ヲ主張シ更改ノ事實ヲ全然否認シタルモノナレハ原院ハ須ラク前顯五口ノ債權ノ內五千圓ノ部分ニ付テノミナラス二百十八圓四十三錢七厘五毛ノ部分ニ付テモ更改アリタルヤ否ヤヲ判斷スヘキモノニシテ若シ後ノ部分ニ付キ更改セラレサル事實ヲ認定シ得ヘシトセハ其內本

訴九百五十圓ノ元利金ニ屬スル部分卽チ未タ更改セラレサル債權ノ幾何ナルヤヲ確定シ其限度ニ於テ上告人ノ請求ヲ採用セサルヘカラサルモノトス然ルニ原院カ單ニ右五千圓ノ部分ニ付キ更改アリタル事實ヲ判斷シタルニ過キスシテ二百十八圓四十三錢七厘五毛ノ部分ニ付キ更改アリタルヤ否ヤヲ判斷セサリシハ當事者ノ爭點ヲ遺脫シタル不法アルモノトス（大審院大正八年オ七七九號同九年一一月四日判決法律新聞一八〇五號二一頁）

◎二箇ノ債權ノ合併ト更改

一〔大審院〕按スルニ二個ノ金錢債權カ均シク消費貸借ニ基クトキト雖之ヲ合算シテ一口ノ債權ト爲シタル當事者ニシテ舊債務ヲ消滅セシムルト同時ニ新債務ヲ發生セシムルノ意思ニ出テタルトキハ茲ニ債務ノ目的ニ變更ヲ來シ更改成立スルモノト解スヘキモノトス（當院大正四年（オ）第百五十四號同年四月八日判決參照）本論旨ハ叙上ト異ナル見地ニ出發シテ原判決ヲ攻擊スルモノニ外ナラス素ヨリ採用ノ價値ナシ（大審院昭和五年オ二六六一號同六年五月二六日判決法律新聞三二九二號一六頁・判例彙報四二卷二三號民事五六七頁）

二　右一ノ引用判例ー民法二九四頁「目的ノ變更ニ因ル更改ノ成立」ノ一

◎當事者ノ變更ト債權ノ同一性

◎更改カ準消費貸借カノ判定

一〔大審院〕然レトモ「本件ニ於ケル如ク未成年者カ現ニ負擔セル既存債務ヲ目的トシ準消費貸借ヲ爲スカ如キハ」トアル原判示ニ依レハ原審ハ本件所謂準消費貸借ハ固ヨリ夫ノ新債務ヲ成立セシムルコトニ依リテ以テ舊債務ヲ消滅セシムルテフ更改ノ場合ニハ非スシテ既存債務ノ同一性ハ之ヲ維持シツツ單ニ債權證書ヲ書キ改メ利息又ハ辨濟期等ノ點ヲ定メタルニ過キスト認定シタル消息ナルコトヲ諒知スルニ餘アリ而モ這ハ當該證據資料ニ基キ適法ナル範圍内ニ於テ爲サレタル事實上ノ判斷ナルノミナラス抑一般論ノ上ヨリスルモ債權關係ハ對人的ナリト云フ點ヲ强調スルノ結果債權關係ノ主體若クハ其ノ内容ノ變更ハ其ノ同一性ヲ失フコト無クシテハ之ヲ爲スヲ得スト觀シタル時代ハ格別斯カル變更ト債權關係ノ同一性トハ決シテ杆格スルトコロ無シトノ見地ニ立テル現在ニ於テハ當事者ノ意思ノ特ニ明白ナル場合ヲ外ニシテ夫ノ更改ノ如キハ輙ク肯定ス可キ限リニアラス所論ハ原審ハ更改ヲ是認セルモノナリ若クハ本件取引ハ更改ト認メサル可カラサルモノナリトノ前提ニ出テルモノコレ原判示ニ副ハサル立言ニ

外ナラス若シ被上告人カ第一審ニ於テ更改云々ヲ口ニセルハ他無シ其所謂準消費貸借ナルモノニ對スル法律上ノ意見ヲ忽漫ニ吐露シタル次第ニ過キス固ヨリ自白若クハ自認ヲ以テ目ス可キ限リニアラサルコトハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ推移ニ徵シ之ヲ窺フニ餘アリ之ヲ要スルニ所論ハ採用ノ由無キモノトス（大審院昭和七年オ八八五號同年一〇月二九日判決法律新聞三四八三號一七頁・法律評論二一卷民法一二六四頁・銀行判例九卷二號八一頁）

◉準消費貸借ト舊債權ノ消滅（三續民五八八條）

◎更改契約ト錯誤ノ存否

一〔水戸地〕銀行カ右準消費貸借ヲ締結スルニ際シ被告ノ保證竝右擔保契約カ有效ニ成立スルコトヲ重要ノ要件ト爲シ且該各契約カ有效ニ成立シタルモノト確信シ之カ有效ニ成立スルニ非サレハ該準消費貸借ヲ締結スル意思ナカリシモノト解スルヲ以テ一般ノ取引ノ通念ニ照シ正當ナリト認メラルヘキカ故ニ該更改契約ハ要素ニ錯誤アリテ原告主張ノ如ク無效ナルモノト斷定スルヲ相當トス從テ舊債務タル本件債務ハ未タ消滅セサルモノト謂ハサルヘカラス（水戸地方裁判所土浦支部昭和七年ヲ八〇號同八年三月二〇日判決法律新聞三五六四號一〇頁三段・法律評論二二卷民法九一六頁）

二　更改契約ニ於ケル錯誤及過失ノ存否（二續民一三〇頁）

◎更改ノ成否ト舊債務證書ノ留存

一〔大審院〕當事者間ニ舊時債務關係アリテ債權者カ其證書ヲ所持シ異日新債務ニ變更シテ更ニ證書ヲ授受シタル場合ニ於テハ舊證書ハ債務者ニ返付シ若クハ毀棄スルハ通例ナレトモ舊證書依然トシテ債權者ノ掌裡ニ留存シタリトシテ新債務ノ成立ヲ妨クヘキ理アラス又本件ニ於テハ原院ハ甲第一號證ノ眞正ニ成立シタル事實ト證人齋藤德松及ヒ證人山田善左衛門ノ證言トニ依リテ當事者間ニ債務關係ノ存在スル事實ヲ認定シタルヲ以テ別ニ舊債務ノ存在ヲ確定スル必要ナシ本論旨ハ畢竟原院ノ事實認定ヲ非難スルニ外ナラス（大審院明治四一年オ三五九號同年一一月一四日判決大審院判決錄一四輯民事一一七八頁・法律新聞五三八號一八頁）

二　舊債權引直證書ノ存在ト立證責任（民法二九六頁）

◎更改ト準消費貸借ト請求ノ基礎

一〔大審院〕1今訴ノ變更ノ許否如何ヲ討ヌルニ當リテハ基礎ニ變更ナキヤ否ヤヲ問議スルハ寧ロ末ナリ新訴ニ對スル被告ノ防禦ハ舊訴ニ對スルソレニ比シ全然若クハ大部分其ノ陣容ヲ改メサルヲ得サルヤ否ヤ先ツ此點ヨリ觀察スルノ勝レルニ

如カス此クノ如クナ改ムル必要無キ場合ハ則チ所謂基礎ニ變更無キモノトシテ訴ノ變更ハ之チ許ササル可カラス若シ夫レ以上ト異ニシテ原告ノ主張カ如何ニ變更セラルルニモセヨ之カ爲訴訟物タル請求ハ其ノ同一性チ動カサルルトコロ無シトセムカ這ハ始メヨリ訴ノ變更ニ非ス固ヨリ以テ基礎ノ變ト不變チ論スルノ餘地アルコト無シ

2本件チ案スルニ當該抵當權ハ昭和三年八月二十七日チ以テ成立シタル金六千七百四十圓ノ貸金債權ト云フ一ノ具體的債權ノ擔保タルコトニ付テハ當初ヨリ何等主張ノ變更セラレシコト無キカ故ニ本訴訴訟物タル抵當權設定登記（ノ申請ニ連署ス可シトノ）請求權ソノモノモ亦終始一貫何等ノ變更アルコト無シ但前記債權ノ成立原因トシテ原告ハ始メハ更改チ主張セシチ後ニ準消費貸借ト改ムルトコロアルモ抑更改ト準消費貸借トハ相容レサルモノニ非ス蓋準消費貸借ハ已存ノ債權ノ同一性ハ之チ維持シツツ唯附後ハ專ラ消費貸借ニ關スル規定ノ支配チ受ケシメムトスル合意ノ下ニ締結セラルルコトアリ而モ當事者ノ意思不明ナル場合ハ債權ノ同一性チ失ハシムルテフ夫ノ更改ヨリモ寧ロ穩和ナル前叙ノ方法チ採リタリト認ムルチ當レリトスト雖更改ノ意思ニ出ツル準消費貸借固ヨリ必無ト云フ可カラス此ノ場合ニ始メハ更改ト主張シ後ニハ準消費貸借ト主張スルコト擧竟單ナル用語ノ相違以上ニモ以下ニモ非ス若シ又前ノ場合ナレハ幷ハ債權成立ノ原因ニ關スル主張チ變更スルニハ相違無クシテ嚴格ナル純理論トシテハ債權自體ニ關スル主張モ亦改メラレタリト云ハサルチ得ス何者債權成立ノ原因ハ債權ノ個別性チ認識シ辨別スル有力ナル一標目ニ外ナラサレハナリ左レトノ之チ本件ニ觀ルニ當該抵當權ノ基本タル一ノ具體的債權ソノモノチ以テ始メハ甲債權ナリトセシチ後ニ乙債權ト主張スル次第ニ非ス主張セラルル債權ソノモノハ唯一ニシテ無二終始渝ルトコロ無クシテ抵當權ソノモノ又從ヒテ其ノ登記請求權モ總テ變更アルコト無キカ故ニ之チ訴ノ變更ナリト稱スル上告人ノ謬レルハ勿論請求ノ基礎ニ變更ナシト判示シテ以テ此主張チ排斥シタル第一二審裁判所モ亦等ク誤レリ蓋已ニ訴ノ變更チ生セサル以上請求ノ基礎チ云々スルカ如キハ其ノ必要モ餘地モ未タ曾テコレ無ケレハナリ而モ結局ニ於テ原判決ハ正鵠チ失ハサルニ於テ所論ハ採用ノ由無シト云ハサルチ得ス（大審院昭和七年オ二八七一號同八年二月七日判決法律新聞三五四八號六頁・法律新報三二七號一九頁）

◎手形ノ授受ト既存債權トノ關係

一〔大審院〕既存ノ債務ニ對シ爲替手形チ發行スルニ當リテハ當事者ハ或ハ其ノ履行ニ代ヘテ之チ授受スルノ意思ナルコトアリ又然ラサルコトアリテ其ノ何レナルカハ個々ノ場合ニ判斷スヘキ事實問題ニ屬スル而シテ既存債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形發行セラレタルトキハ茲ニ更改ノ成立チ見ルコト勿論ナリト雖原審ハ所論爲替手形カ既存ノ手形債務ノ履行ニ代ヘテ發行セラレタルモノト認ムルニ足ル訴訟資料之レナキモノトシ更改ニ因ル手形債務消滅ノ抗辯チ排斥シタルハ要スルニ其ノ職權チ適法ニ行使シタルモノニ外ナラサルモノト謂フヘク之チ攻擊スル本論旨ハ孰レモ採用ニ値セサルモノトス（大審院昭和五年オ五〇一號同年九月三日判決法律新聞三一七四號一三頁・法律評論一九卷民法一二八七頁）

二〔臺灣高〕既存債務ノ辨濟チ確保スル爲メ債務者カ爲替手形ノ引受チ爲シ之チ債權者ニ交付スルコトハ固ヨリ法律上許容セラルル所ナレハ叙上原判決ノ認定ハ所論ノ如ク違法ニ非ス右ノ場合ニ於テ債權者ハ既存債權ノ辨濟チ求ムルト將又爲替手形ノ支拂チ求ムルトハ自由ニ之チ選擇スルコトチ得ルモノナレハ被上告人カ本訴ニ於テ爲替手形ノ支拂チ求メスシテ消費貸借ニ因ル債務ノ辨濟チ求メタルハ正當ニシテ從テ原判決カ專ラ本件消費貸借ノ殘元利金ニ付審判シタルハ洵ニ相當ナリ（臺灣高等法院昭和四年上民三號同年二月二六日判決臺法月報二三卷六號七九頁・法律評論一九卷民法二一九頁）

三〔大審院〕既存ノ債務ニ付約束手形チ振出シ交付スルトキハ其ノ辨濟チ確保スル爲ニ爲サレタルモノト解スルチ通常トスルモ既存ノ債務ノ支拂ニ代ヘテ約束手形チ振出シ交付スルコトモ事實上有リ得ヘキ所ナリトス（大審院昭和六年オ二八四八號同七年一〇月一二日判決法學二卷六號九〇頁）

四〔臺灣高〕1按スルニ既存債務ノ支拂チ確保スル爲債務者ヨリ債權者ニ對シ約束手形チ振出交付シタル場合ニ於ケル債權者ノ手形債權ハ反對ノ合意ナキ以上原因債權卽チ既存債權ト共ニ同一目的チ有スル各獨立シタル債權トシテ併存シ其ノ何レチ先ツ行使スルカ又ハ二者同時ニ行使スルカハ一ニ債權者ノ自由ニ選擇シ得ヘキトコロニシテ唯其ノ孰レカノ債權ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ目的チ達シタルトキハ其ノ目的チ達シタル部分ノ割合ニ應シ最早他ノ債權チ行使シ得サルニ止マリ目的チ達セサリシ部分ニ付テハ尙二者ノ債權ハ併存シ各別ニ獨立シテ前叙ノ方法ニ從ヒ行使シ得ヘキモノトス而シテ約束手形カ既存債務ノ支拂確保ノ爲メニ振出サレタル約束手形ノ書換手形又ハ切替手形ナル場合ニ在リテハ反對ノ事情ノ觀ルヘキモノナキ以上該約束手形ハ從前ノ約束手形債務ノ支拂延期ノ爲振出シタルモノト解スルチ相當トスルニヨリ此ノ場合ニ於ケル既存債權ト書換手形債權トノ關係モ前叙ノ說明ト其ノ理チ異ニスル謂ハレアルコトナシ

2然リ而シテ前叙二者ノ債權カ同一ノ目的ノ爲ニ併存スト云

フ所謂目的トハ二者ノ債權ニ依リ本來ノ目的タル給付ノ實現ノ達成又ハ之ト同視シ得ヘキ出捐ニ因ル滿足ノ享受ヲ指稱スルモノニシテ右ノ目的以外ノ事由ニ依リ其ノ執レカノ債權消滅スルモ之ヲ以テハ未タ其ノ目的ヲ達シタルニアラサルヲ以テ反對ノ合意ナキ限リ他ノ債權ハ依然トシテ殘存シ其ノ效力ヲ保有シ債權者ハ其ノ殘存債權ヲ行使スルニ妨ケアルコトナシ蓋既存債權ノ支拂ヲ確保スル爲約束手形ヲ振出スニ當リテハ其ノ併存スル既存債權ト約束手形債權トハ各別個ノ法則ニ支配セラルル結果二者其ノ運命ヲ異ニスルハ其ノ當然ノ事理ナルヲ以テ通常ノ場合ニ於ケル當事者ハ其ノ執レカ一方ノ債權ニヨリ同一目的ノ達成ヲ期センコトヲ企圖シ既存債權ノ支拂ヲ確保スルノ擧ニ出タルモノト解スルヲ此ノ種取引ノ性質ニ鑑ミ寔ニ妥當トスレハナリ

3又約束手形債權カ消滅時效ニ因リ消滅シタル場合ニ其ノ手形ノ所持人ハ振出人ニ對シ利得ノ返還請求權ヲ有スルコトハ商法第四百四十四條ノ明定スルトコロナレハ振出人ニ叙上ノ利得存スルニ於テハ手形所持人ハ其ノ利得ノ返還ヲ請求シ得ヘク茲ニ所謂利得トハ該手形ノ振出人カ其ノ振出ノ對價トシテ積極的ニ又ハ消極的ニ經濟上利益ヲ取得シタルコトヲ謂フモノナルコト固ヨリ言ヲ俟タス而シテ右ノ約束手形カ所謂書換手形ナルトキト雖當初ノ約束手形ニシテ其ノ振出ニ當リ振出人ニ利得存シタルトキハ書換手形ニ關シテモ亦振出人ニ利得在リトスルニ妨ケナシ

4然リ而シテ消費貸借契約ノ下ニ金員ヲ借受ケタル債務者カ借受ト同時ニ其ノ支拂確保ノ爲約束手形ヲ振出シタル場合ニ在リテハ約束手形ノ振出ハ其ノ借受ケ交付ヲ受ケタル金員ヲ對象トシテ行ハルルモノナレハ該金員ヲ經濟上ヨリ觀察シテ廣ク叙上約束手形振出ノ對價ト稱スルヲ此種取引ノ特質ニ照シ相當トスルトコロ特ニ銀行業者ノ爲ス所謂約束手形貸付ニ於ケル金員ノ授受ハ手形ノ交付ト交換的ニ行ハレ事實上貸付債務卽チ消費貸借上ノ債務ト約束手形債務トハ同時ニ發生スルモノナルコト當部ニ顯著ナルトコロニシテ右ノ場合消費貸借上債務ヲ既存債務トシ之カ支拂確保ノ爲ニ約束手形ノ交付アリトスルハ叙上二個ノ事實ヲ理論上法律的ニ構成シテ斯ク說明スルニ止マリ之ヲ經濟的ニ觀察スルトキハ叙上ノ金員ハ消費貸借上ノ債務負擔ト約束手形ノ振出トノ二者ノ對價トシテ積極的ニ授受セラレタルモノト解スルノ外ナキカ故ニ其ノ約束手形債權ニシテ時效ニ因リ消滅シ既存債權ニ付他ニ民事上ノ請求權ナキニ於テハ斯ル約束手形ノ振出人ハ借受ケタル金員相當ノ利得ヲ爲シタルモノト解スルヲ寔ニ妥當ト謂ハサルヘカラス以上說明シタル如クナレハ併存シタル原因債權タル既存債權カ消滅時效ニ依リ消滅シタル場合ニ於テモ約束手

形債權存續スルトキハ勿論假ニ約束手形債權モ亦消滅時效ニ依リ消滅シタリトスルモ尙振出人ニ對シ利得返還ノ請求權存スルトキハ手形所持人タル債權者ハ其ノ利得返還請求權ヲ行使スルニ妨ケアルコトナシ何トナレハ約束手形債權時效ニ依リ消滅シタル場合ニ於ケル利得返還請求權ハ法律ノ手形所持人ニ附與シタル特殊ノ權利ナルモ之約束手形ヲ振出シ交付セラレ之ヲ所持スルニヨリ有スル權利ナレハ手形ヲ離レテ存スルモノニアラサルニヨリ此ノ權利ノ行使モ亦當初當事者ノ企圖シタル目的達成ノ一手段ト觀察スルヲ相當トスレハナリ從テ若叙上ノ約束手形ニ關シ振出人ニ利得存スル以上手形所持人ハ叙上ノ利得返還請求權ヲ行使スルニ何等ノ妨ケアルコトナシ

5今本件ニ付之ヲ觀ルニ上告銀行ハ手形貸付トシテ大正九年頃被上告人ニ一定ノ金員ヲ貸付ケ其ノ利息ノ前拂ヲ受ケ貸金總額ニ付相手方テシテ約束手形ヲ振出サシメ之ヲ受取リ爾來約束手形ノ書換ヲ爲シ來リ本件約束手形ハ最後ノ書換手形ナルトコロ原因債權ハ商事時效ニ依リ既ニ消滅シ且本件約束手形債權モ亦手形時效ニ依リ消滅シタルヲ以テ振出人タル被上告人ノ利得ニ歸シタル本件手形額面金三千圓ノ返還ヲ求ムル爲商法第四百四十四條ノ規定ニ則リ本訴ニ及フト主張シ之ニ對シ被上告人ハ大正七年中上告銀行ヨリ金三千圓ヲ借受ケ其ノ擔保トシテ株券ヲ差入レ且右借受金ノ支拂確保ノ爲本件約束手形ト同額ノ約束手形ヲ振出シ爾來其ノ書換ヲ爲シ來リタルカ本件約束手形ハ最後ノ書換手形ナル旨ヲ述ヘタルコト原判決摘示事實ニ徵シテ寔ニ明白ナリ右ノ事實ヨリスレハ貸借ノ成立時期ニ不一致アルモ少クトモ本件書換手形ノ基本手形ハ金三千圓ノ消費貸借ノ成立ト同時ニ其ノ支拂ヲ確保スル爲振出サレ上告銀行ニ交付セラレタルモノナレハ既存債權タル消費貸借上ノ返還請求權ト右約束手形ノ債權トハ上告銀行ノ爲併存シ然カモ右ノ消費貸借ハ現實ニ金員ノ授受行ハレテ成立シ又約束手形ハ其ノ現實ニ授受セラレ成立シタル消費貸借上ノ返還請求權ノ支拂ヲ確保スル爲併存的ニ振出シ交付セラレタルモノナルヲ以テ被上告人ニシテ既存債權又ハ手形債權ノ執レカニ對シ其ノ負擔スル債務ヲ履行スルカ又ハ其ノ他ノ出捐ニヨリ上告銀行ニ滿足ヲ與ヘサルニ於テハ債權者タル上告銀行ハ未タ其ノ目的ヲ達セサルハ勿論叙上ノ各債權カ時效ニ依リ消滅スルモ其ノ履行ヲ免レタル結果被上告人ノ爲ニ借受受領シタル金三千圓ノ範圍ニ於テ同人ニ利得存スルコト明ナレハ上告銀行カ時效ニ依リ右二個ノ債權ヲ失ヒタリトスルモ本件手形ノ所持人トシテ斯ル場合ニ法律上附與セラレタル利得返還ノ請求權ヲ振出人タル被上告人ニ對シ有スルモノナルコト前段ノ各說明ニ照シテ寔ニ明白ナリ

五一三條

6加之叙上ノ利得返還請求權ハ法律ノ特ニ附與シタル權利ニシテ從前ノ手形債權ト全ク獨立シタルモノナレハ從前ノ手形債權ニ付存スル擔保ハ當然利得返還請求權ノ擔保タラサルハ勿論ナルモ從前ノ手形債權又ハ其ノ原因債權ノ爲ニ提供セラレタル擔保ニシテ存スルトキハ債權者ノ擔保ノ處分ニヨリ債務者ノ債務ハ一部又ハ全部消滅スルコト在ルヘク若之アリトスレハ債務者ノ返還スヘキ利得額モ其ノ消滅ノ割合ニ因リ減少スヘキコト當然ナリ本件ニ付被上告人ハ原因債權ノ成立ニ際シ擔保ノ爲上告銀行ニ對シ臺北鐵道株式會社株二百五十株當時一株時價三十三圓ノモノヲ提供シタル旨陳述シタルコト原判決摘示事實ニ徴シ窪ニ明白ナレハ原審ハ上告銀行ニ對シ右被上告人ノ主張ニ係ル擔保提供ノ有無及若擔保ノ提供アリトセハ其ノ處置ニ付釋明ヲ求メ被上告人ノ利得額ニ對スル影響ノ有無ヲ審査スヘキ義務アルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ事茲ニ出テス原審ハ原因債權ニシテ消滅時效ニ因リ消滅シタルニ於テハ被上告人ハ本件手形債務ヲ免ルルハ當然ナルノミナラス手形債務其ノモノカ消滅時效ニ依リ免レタル場合ハ商法第四百四十四條ニ所謂利得返還ノ原因發生セサルモノトシテ直ニ上告銀行ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル結果遂ニ審理不盡ニ陷リタルモノニシテ原判決ハ爲ニ破毀ヲ免レス（臺灣高等法院昭和八年上民四二號同年九月二

○日判決法律新聞三六四五號一〇頁）

五　爲替手形ノ振出ト更改契約ノ成否（二續民六〇九頁）

六　爲替手形ノ振出ト既存債務トノ關係（二續商一八〇七頁）

七　約束手形ノ振出ト既存債務トノ關係（二續商一八九二頁・二續民六〇九頁）

八　手形ノ切替又ハ書換ト更改成否（三續民一二條一八頁「延期手形又ハ書換手形ト同意」一—五參看）

九　手形ノ書換ニ關スル諸問（二續商一八九一頁）

一〇〔大審院〕同一當事者間ニ於テ同額ニ近キ手形カ反覆シテ振出サレタル事實アリトスルモ必スシモ之ヲ以テ直ニ後ノ手形ヲ以テ前ノ手形ニ代ヘタルモノト認ムヘキモノニ非ス（大審院昭和五年オ三〇九五號同六年九月二一日判決法學一卷二號一〇二頁）

一一　小切手ノ振出ト更改又ハ代物辨濟（三續民四八二條一三二九頁「小切手ノ授受ト代物辨濟」ノ三參看）

◎手形ノ不渡ト原債權ノ行使（本條後出）

◎手形ノ不渡ト原債權ノ行使

一　手形ノ不渡ト原債權請求ノ慣習（二續民一〇二頁）

二　手形金ノ不支拂ト原債權ノ行使（續民法一二〇四頁・同一四六六頁）

三　手形上ノ權利喪失ト原債權ノ行使（續商法一〇五二頁）

四　代物辨濟トセル手形ノ不渡（三續民四八二條一三二九頁）

第五百十四條【債務者交替ノ更改】

1債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

◎債務者ノ交替ニ因ル更改ノ諸問

一　名義ノミノ更改契約ト本條（三續民一〇八條二三四頁）

二　債務者ノ交替ニ因ル更改ノ成否（本條後出）

三　債務者ノ交替ニ因ル一部更改（本條後出）

四　保證人又ハ連帶債務者ノ添加ト更改（本條後出）

五　當事者ノ變更ト債權ノ同一性（三續民五一三條一四三〇頁）

六　連帶債務者ノ一人ト更改（三續民四三五條）

七　雙務契約ノ權利義務ノ讓渡（三續民四六六條一二三八頁）

八　債務引受ニ關スル諸問（本條後出）

九　履行引受ニ關スル實例（本條後出）

一〇　雙務契約ノ更改ト抗辯權ノ消長（二續民六一二頁）

一一　更改カ準消費貸借カノ判定（三續民五一三條一四三〇頁）

一二　營業讓渡ト債務ノ移轉（三續民四六六條一二四四頁）

◎債務者ノ交替ニ因ル更改ノ成否

一〔大審院〕按スルニ本件記錄ニ依レハ訴外山本助一ハ訴外森イソニ對スル債權額五千七百圓ニ付同人所有ノ本件不動產上ニ抵當權ヲ取得シ訴外森清四郎ハ右債務ノ連帶保證人トシテ爲リタル處抗告人ハ大正十四年四月十五日訴外山本助一ヨリ右抵當權ヲ債權ト共ニ讓渡ヲ受ケテ右抵當權ニ基キ競賣ノ申立ヲ爲シ競落許可決定アリタルコト明ナリ然レトモ本件抵當權カ抗告人ニ於テ讓渡ヲ受クル以前訴外山本助一ト訴外森清四郎トノ間ノ更改契約ニ因リテ消滅シタリトノ事實ハ本件記錄ニ依リテハ之ヲ認メ難シ甲第三四號證ニ依レハ恰モ更改アリシニ非サルヤノ觀ナキニ非サルモ同第三號證ハ連帶保證人タル森清四郎カ債務ノ辨濟方法ヲ改定シタルニ止リ債務者森イソヲシテ債務ヲ免レシムル趣旨ヲ約シタルモノトハ認メ難ク又同第四號證ハ抗告人ヲシテ本件不動產上ニ順位一番ノ抵當權ヲ取得セシムルコトアルヘキ便宜ノ爲ニ交付シタルニ止ルコトハ甲第七號證ニ依リ之ヲ認メ得ルヲ以テ此等書證ニ依リテハ本件債權ニ付債務者ノ交替ニ因ル更改アリシモノト認メ得ヘキニ非ス甲第六號證ノ森清四郎ノ供述ニハ信ヲ措キ難ク爾餘ノ甲號證ニ依ルモ債務者ノ交替ニ依ル更改ノ成立ヲ認ムルヲ得ス然ルニ原審カ更改ニ因ル債務竝抵當權ノ消滅ヲ認メテ

競落不許ノ決定ヲ爲シタルハ失當ナリ（大審院昭和四年ク七二〇號同年九月二日決定判例彙報四一卷一三號民事七三二頁）

二　債務者ノ交替ニ因ル更改ノ成否（二續民六一二頁）

三　債務者ノ交替ニ因ル更改ト有效條件（二續民六一一頁）

四　債務者ノ交替ニ因ル一部更改（本條後出）

五　保證人又ハ連帶債務者ノ添加ト更改（本條後出）

◎債務者ノ交替ニ因ル一部更改

一〔法曹會〕可分債權ノ一部ニ付テモ債務者ノ交替ニ因ル更改ヲ爲スコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ該債權ヲ擔保シタリシ抵當權ノ一部ヲ更改ト同時ニ新債權ニ移スコトヲ得ヘシ然ルトキハ此ノ抵當權ハ更改トナラサル債權ヲ擔保スル抵當權ト共ニ第一順位ニ屬スルモノトス而シテ之ヲ移スニハ更改ノ當事者タル債權者ト新債務者間ノ契約ヲ以テシ尙舊債務者（舊債務者以外ノ第三者カ抵當權設定者タルトキハ其ノ第三者）ノ承諾ヲ得ヘキモノトズ（法曹會昭和六年一〇月一四日決議法曹會雜誌九卷一一號一〇〇頁）

◎保證人又ハ連帶債務者ノ添加ト更改

一〔大審院〕連帶債務者ヲ附加シタレハトテ之ニ依リ當然更改ノ成立スヘキ謂レナキモノトス（大審院昭和四年ヵ六一號同

年五月一八日判決法律新報一八六號一一頁）

二　連帶債務者ノ添加ト更改（民法二九八頁）

三　貸借成立後ノ連帶保證ト更改成否（續民法一四六六頁）

四　保證人ノ增減ト債務ノ更改（民法二九八頁）

◎債務引受ニ關スル諸問

一　債務引受ノ動機（本條後出）

二　債務引受ト錯誤ノ存否（三續民九五條一八一頁）

三　債務引受契約ノ成立（二續民六一四頁）

四　債權拋棄及債務負擔ヲ內容トスル契約（民法二九八頁）

五　債務引受豫約ノ效力（續民法一一五三頁）

六　債務引受契約ノ當事者（二續民六一四頁「債務引受契約ノ成立」ノ一—六參看）

七　債權者ノ關與セサル債務引受（本條後出「鐵道省ト收用地借家人ノ債務引受」ノ一參看）

八　債務引受人ト取消權（二續民一七七頁）

九　債務引受人ト第二項（四六七條）ノ第三者（三續民四六七條一二八七頁）

一〇　債務引受第五三七條（本條後出）

一一　債務引受ト保證債務トノ關係（本條後出）

一二　鐵道省ト收用地借家人ノ債務引受（本條後出）

一三　債務引受ノ爲ノ土地讓受ト詐害行爲（三續民四二四條一一二三頁）

一四　債務引受ト保證債務トノ關係（本條後出）

一五　併存的債務引受ト舊債務者ノ意思（本條後出）

一六　意思不明確ナル債務引受契約ノ解釋（二續民六一五頁）

一七　債務ノ引受ト契約自由ノ原則（二續民八四頁）

一八　債務引受人ト代位辨濟（續民法一一九五頁）

一九　子ノ遊興代ヲ支拂ヒタル父ト法律關係（三續民五三七條）

二〇　債權ノ讓渡債務ノ引受ト本條ノ準用（二續民二三四頁）

二一　債權讓渡債務引受ト解除權（續民法一二二五頁）

二二　限定承認ト相續債務引受トノ關係（二續民一二七五頁）

二三　會社ノ行爲能力ト債務ノ引受（二續商一三三〇頁）

二四　債務引受ノ效果（二續民六一五頁・民法二九九頁）

二五　債務ノ引受ト更改及其ノ效果（續民法一二〇六頁）

二六　債務引受人ノ責任及辨濟方法（本條後出）

二七　債務ノ引受ト求償權ノ取得（二續民六一五頁）

◎履行引受ニ關スル實例（本條後出）

◎債務引受ノ動機

一〔大審院〕第三者カ債務者ノ爲メニ所謂債務引受ノ契約ヲ爲スヤ其由テ來ルトコロハ必スシモ一樣ナラス或ハ債務者ニ對シ負擔スル既存債務ノ辨濟方法トシテ爲スコトアルヘク又贈與ノ意圖ノ爲メニ爲スコトアルヘク或ハ又債務者ニ金員ヲ貸與スルコトヲ約シ而モ直接金錢ノ授受ヲ爲スニ換ヘ便宜債務者ノ爲メ其ノ債務ヲ引受クルコトモ亦之レナキニアラサルヘシ（大審院昭和七年ヵ一七五五號同八年二月二五日判決法學二卷一〇號九四頁）

◎債務引受ト第五三七條

一〔大審院〕免責的債務引受契約ハ第三者カ從來ノ債務者ヲシテ其債務關係ヨリ免脫セシメ自ラ之ニ代テ債務者トナルコトヲ債權者ト約スル契約ニシテ當事者ノ一方（前記第三者）カ第三者（前記從來ノ債務者）ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ相手方ト約定スルモノニハ非サルカ故ニ之ヲ以テ民法第五百三十七條所定ノ第三者ノ爲ニスル契約ナリト爲スヘカラス（大審院昭和八年ヵ一五五五號同年九月二六日判決法律新聞三六一八號七頁・判例彙報四四卷二五號民事五三七頁）

二　履行ノ引受ト第三者ノ爲ニスル契約（本條後出）

◎債務引受ト保證債務トノ關係

一〔長野地〕各事實ヲ綜合考覈スルトキハ本件債務引受ハ重疊的ニ非ス免責的債務引受契約ナリト斷スルヲ相當トスヘク該

認定ヲ左右スルニ足ル何等ノ證左ナシ果シテ然ラハ被告土屋久雄ハ本件債務ニ付已ニ其責ヲ免レタルモノト謂フヘク終ニ被告齋藤房雄同上村寅ノ本件保證契約ノ責任ニ付按スルニ保證人ハ債務者其人ヲ信用シテ保證債務ヲ負擔スルモノニシテ特定ノ債務者以外ノ者ノ爲ニ之カ負擔ヲ爲ス意思ヲ有セサルヲ通常トスルヲ以テ舊債務者ノ保證人カ債務引受ニ同意シ又ハ新債務者タル引受人ノ爲ニ保證人トナリタルコトヲ承諾シタルニ非ラサル限リ舊債務者ノ保證人ノ責任ハ債務引受契約ノ成立ニ因リテ舊債務者ノ責任ノ消滅ト同時ニ解消シタルモノト解スルヲ相當トス（長野地方裁判所上田支部昭和七年ソ四六號同年一二月二一日判決法律新聞三五〇二號一四頁）

二　債務ノ脫退的引受ト保證債務ノ消滅（二續民五一二頁）

三　債務ノ引受ト擔保ノ消長（續民法一一五四頁）

◎鐵道省ト收用地借家人ノ債務引受

一〔東京地〕證據ニ依レハ大正十四年十月初頃右隧道工事ノ爲メ右原告所有ノ家屋ノ表ヨリ土臺下ニカケテ所々地盤ニ龜裂ヲ生シ家屋傾斜シ建付カ惡クナリ夜間ハ工事ノ音響喧シク漸次居住ニ適セサルニ至リタルヲ以テ右久野純及同樣ノ被害ニ苦シミ居タル附近ノ借家人等十數名カ鐵道省ニ陳情ヲ爲シタルトコロ大正十五年二月中鐵道省ハ東京第一改良事務所ニ右

借家人等ヲ呼出シ本件土地及其ノ地上ノ家屋ハ收用セラルルコトト爲リタルヲ以テ借家人等ニ對シテハ移轉料ヲ支給シ且大正十四年十月一日以降大正十五年二月末日頃ニ至ル迄ノ家賃ハ被告ニ於テ之ヲ家主ニ支拂ヒ遣ル故借家人等ハ速ニ立退クヘキ旨ヲ聲明シタル事實ヲ認メ得ヘク……原告ハ被告カ大正十四年十月一日以降收用ノ時期（昭和二年九月末日）ニ至ル迄ノ家賃相當ノ損害ヲ賠償スヘキ旨ヲ聲明シタリト主張シ……右聲明ハ借家人等ヨリ家主等ニ支拂フヘキ賃料ヲ被告ニ於テ之ヲ家主等ニ支拂フヘキコトヲ約シタルモノナルヲ以テ畢竟被告ハ借家人等ノ賃料支拂義務ヲ引受ケタルモノト謂フヘク被告國カ借家人等ノ債務ヲ引受クルコトハ債權者タル家主等ニ何等不利益ヲ招來スルモノニ非サルカ故ニ右ノ如キ債權者ヲ關與セシメスシテ爲サレタル債務ノ引受モ亦有效ナルモノト認ムルヲ相當トス（東京地方裁判所昭和三年ソ三七〇三號同四年一一月一八日判決法律新報二〇四號二一頁）

◎併存的債務引受ト舊債務者ノ意思

一〔大審院〕重疊的債務引受ハ假令債務者ノ意思ニ反スルトキト雖モ常ニ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スヘキモノトス〔大正十四年（オ）第一〇六四號同十五年三月廿五日本院判決參照〕論旨ハ之ニ反スル見地ニ立チテ原判決ヲ攻擊スル

モノニシテ其ノ理由ナシ（大審院昭和六年オ三七一五號同七年四月一二日判決法律新聞三四〇〇號一一頁・法律評論二一卷民法三八五頁・法學一卷一〇號一〇八頁）

二〔大審院〕第三者カ債權者トノ間ニ原債務者ト相竝ヒテ其ノ債務ヲ負擔スヘキコトヲ約スル所謂併存的若ハ重疊的債務引受契約ヲ爲ス場合ニハ原債務者ノ意思ニ反スルトキト雖有效ニ之ヲ爲シ得ルコトハ既ニ當院ノ判例トスル所ナリ〔大正十四年（オ）第一〇六四號同十五年三月二十五日判決〕原判決ニハ上告人ノ代理人カ中村龜次郎トノ間ニ町谷彥作ノ支拂フヘキ運搬賃ヲ引受クルコトヲ約シタル事實及此ノ契約ニ於テハ上告人ハ彥作ノ爲ニ龜次郎ニ對シ支拂フ約旨ナルコトヲ認定シアリ卽重疊的債務引受契約ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルモノト解シ得ヘキヲ以テ原判決カ町谷彥作ノ承諾アリシヤ又ハ同人ノ意思ニ反セサリシヤ否ニ付審究判示セスシテ右債務引受契約ヲ有效ト爲シタルハ違法ニ非ス（大審院昭和二年オ八九二號同年一二月二四日判決法律新聞二八一八號一三頁・法律評論一七卷民法四一三頁）

三　右一及二ノ引用判例—二續民六一四頁「債務者ノ意思ニ反スル債務引受契約」

四　右一及二ト同旨判例—大審院昭和三年オ一七五號同年五月二日判決法律新聞二八六八號一〇頁・法律評論一七卷民法八

五〔東京地〕債務ノ重疊的引受ハ所謂免責的債務引受ト異リ從來ノ債務者ヲシテ債務關係ヨリ脫退セシムルモノニアラスシテ單ニ新ナル債務者ヲ添加シテ實質上債權ノ效力ヲ確保スル效力ヲ有スルモノナルコト保證債務ト異ナラサルヲ以テ之ト同樣從來ノ債務者ノ意思ニ反スルトキト雖有效ニ爲シ得ヘキモノト解スルヲ相當トス（東京地方裁判所昭和四年ソ四〇四二號同五年五月二四日判決法律新報二二三號二四頁）

六〔東京地〕重疊的債務引受契約ニ在リテハ從來ノ債務者カ其契約ニ參加スルコトハ必スシモ必要ニ非ス其ノ不知ノ間ニ行ハルルモ尙有效タルヲ失ハス蓋シ重疊的債務引受トハ債權者ト添加スル新債務者トノ契約ニ依リテ從來ノ債務ト同一內容ヲ有スル新債務ヲ發生セシムル行爲ニシテ實質的ニ債權ノ效力ヲ確保スル作用ヲ有スルコト保證債務ト異ルコトナク保證ハ債務者ノ意思ニ反スルトキト雖モ爲シ得ヘキ旨ノ民法第四百六十二條第二項ノ精神ヨリ推及シ第三者ハ在來ノ債務者ノ不知ノ間若ハ其意思ニ反スルトキト雖債務引受ヲ爲シ得ヘキモノト解スルヲ相當トスレハナリ（東京地方裁判所昭和七年ソ三七五五號同八年一〇月三〇日判決法律新聞三六二七號五頁・法律新報三四五號二四頁）

◎債務引受人ノ責任及辨濟方法

一〔大審院〕苟クモ他人ノ債務ヲ引受クヘキコトヲ債務者ニ約シタル者ハ其ノ引受カ所謂免責的引受ケナルトハタマタ重疊的引受ナルトヲ問ハス辨濟ノ責ニ任セサルヲ得サルコト勿論ナリ（大審院昭和六年オ三四九三號同七年六月二九日判決法學二卷一號一〇三頁）

二〔大審院〕所謂重疊的債務引受ノ場合ニ在ツテモ引受人ノ辨濟方法ハ必スシモ原債務者ノ辨濟方法ト同一ナラサルヘカラサルノ理由ナシ（大審院昭和六年オ一三〇一號同年一二月二一日判決法學一卷五號九一頁）

◎履行引受ニ關スル實例

一〔東京控〕甲ハ乙ノ債權者丙ノ爲ニ乙トノ契約ニ依リ乙ノ債務ノ履行引受ヲ爲シタル場合ニ於テハ該契約ハ第三者タル債權者丙ノ爲ニスル契約ナリト認ムルヲ至當トスルヲ以テ縱令丙カ該契約ニ關與セスト雖甲ニ對シ受益ノ意思ヲ表示シタルトキハ直接ニ甲ニ對シテ債務ノ履行ヲ請求スル權利ヲ取得スルモノトス（東京控訴院大正一四年ネ六五四號昭和二年三月二四日判決法律評論一六卷民法一〇九二頁）

二〔大審院〕原判決ノ採用シタル證據ヲ綜合スレハ上告人ト副島延一トノ間ニ上告人カ被上告人ニ對シ負擔セル本件債務ノ履行ヲ引受クル契約成立シ其ノ後被上告人モ右事實ヲ知ルニ至リタルニ過キサルモノニシテ上告人主張ノ如キ上告人トシテ本件債務關係ヨリ脫退セシムル趣旨ノ債務引受契約成立シタルモノニ非サルコトヲ認定シ右上告人主張事實ニ符合スル所論ノ各證據ヲ排斥シ得サルニ非ス又債務ノ履行ヲ引受クル契約成立シタルトキハ特段ナル事情存セサル限リ債務者ハ債務ヨリ脫退シタリト肯認スヘキ實驗則存セサルコト明ナルヲ以テ所論ハ結局證據ノ取捨判斷及事實ノ認定ニ關スル原審ノ專權行使ヲ論難スルニ歸著シ上告ノ理由ト爲スニ足ラス（大審院昭和五年ネ六一二號同年八月二二日判決法律評論一九卷民法一三一一頁）

◎履行ノ引受ト第三者ノ爲ニスル契約（本條後出）

◎履行引受ノ意思解釋ト事實問題（本條後出）

◎抵當附債務ノ履行引受ト理由不備（本條後出）

◎辨濟ノ引受ト債務ノ引受トノ異同（二續民六一三頁）

◎履行引受ト第三者ノ爲ニスル契約

一〔大審院〕債務者ト第三者トノ間ニ締結セラレタル債務者ノ負擔スル債務ノ履行ノ引受契約ハ民法第五百三十七條所定ノ第三者ノ利益ノ爲ニスル契約ニ外ナラサルコト當院ノ判例ト

スル所ニシテ〔大正六年（オ）第三百八十七號同年十一月一日第二民事部判決〕今之ヲ變更スルノ必要ヲ見ス（大審院昭和六年オ二一〇八號同七年三月二六日判決法律新聞三三九六號一一頁・法律新報二九二號一六頁）

二右一ノ引用判例—續民法一二二一頁「債務ノ引受ト第三者ノ爲ニスル契約」ノ一

三債務ノ引受ト本條ノ適要（民法三一二頁）

◎履行引受ノ意思解釋ト事實問題

一〔大審院〕當事者ノ一方カ相手方ノ第三者ニ對スル債務ノ履行ヲ引受ケ支拂ヲ爲スコトヲ約スル場合ニ在リテハ當事者ハ或ハ第三者ヲシテ直接權利ヲ取得セシムルノ意思ナルコトアリ又然ラサルコトアリテ其ノ何レナルヤハ各場合ニ付決スヘキ事實問題ニ屬スル而シテ原審ハ上告人提出援用ノ各證據資料ニ依リテハ斯ル意思ノ存在スル事實ヲ肯定シ難キモノト爲シタルモノニシテ原判決ニ擧示スル各證據上論旨ニ云フカ如ク直接上告人ヲシテ權利ヲ得セシムルノ意思表示アリタルモノト認メサル可ラサルモノニ非ス（大審院昭和四年オ一六六九號同五年三月一二日判決法律新報二一八號一四頁）

◎抵當附債務ノ履行引受ト理由不備

一〔大審院〕1按スルニ原判決ノ確定スル事實ニ依レハ訴外株式會社三重農工銀行ハ大正十四年一月二十九日訴外亡小林喜市ニ對シ同人ノ所有ニ屬スル本件不動產二筆ノ山林及立木ニ第一順位ノ抵當權ヲ設定セシメテ金七千圓ヲ貸與シ且其ノ登記ヲ了シタルコト又上告人ハ右喜市ニ對シ昭和三年三月金一萬圓ヲ貸與シ本件不動產外三筆ノ山林及立木ニ第二順位ノ抵當權ヲ設定セシメ其ノ登記ヲ了シタルコト右喜市ハ昭和四年一月中死亡シ友藏其ノ家督ヲ相續シタルカ同人ハ被上告人ニ對シ賣買ヲ原因トシ本件土地ニ付テハ所有權移轉登記ヲ爲シ又本件立木ニ付テハ所有權移轉ノ假登記ヲ爲シタルモノトス然リ而シテ上告人ハ右第一順位ノ抵當權ハ被上告人ノ爲シタル債務辨濟ニ因リ消滅ニ歸シタリト述ヘ其ノ理由トシテ被上告人カ訴外小林友藏ヨリ本訴物件竝山林畑等ヲ買受クルニ際リ代金ノ支拂ニ代ヘ株式會社三重農工銀行ニ對スル右友藏ノ抵當債務ヲ引受ケ辨濟スルノ特約ヲ爲シ其ノ履行トシテ抵當債權者ナル同銀行ニ支拂ヲ了シタルモノナルカ故ニ之ト同時ニ三重農工銀行ノ有セル本訴第一順位ノ抵當債權ハ當然消滅ニ歸シタル次第ニシテ從テ被上告人ニ於テ其ノ移轉ヲ受クルニ由ナカリシモノト主張シタルトコロ原審ハ本件抵當債務ノ履行引受ニ關スル右上告人ノ主張事實ハ略之ヲ肯定シ被上告人ハ昭和四年九月二十二日小林友藏ヨリ其ノ所有ニ係ル本訴

ノ物件及山林畑各二筆ヲ買受クルヤ其ノ代金ノ支拂ニ代ヘ被上告人カ同人ニ對シ有スル四口ノ債權額合計四千九十圓ヲ消滅セシムル外尙同人カ此等ノ物件中山林及立木ニ對スル第一順位ノ抵當債務（右三重農工銀行ニ對スルモノ）殘額ハ全部被上告人ニ於テ負擔シ辨濟ヲ爲スヘキ旨特約シタルモノト認定シタリ

2 叙上原判示ノ事實ニ依レハ被上告人ハ右友藏ニ直接代金ヲ支拂フニ代ヘ三重農工銀行ニ對スル同人ノ抵當債務ヲ辨濟スヘク特約シタルモノト解スヘキカ故ニ結局被上告人ハ右友藏ノ出捐ニ於テ三重農工銀行ニ對スル同人ノ抵當債務ヲ辨濟スルコトヲ特約シタルモノニ外ナラサルコト明ナリ然リ而シテ被上告人ハ昭和五年一月十五日ニ至リ三重農工銀行ニ對シ小林友藏ノ借受金七千圓ノ殘額元利ノ外遲延利息手數料合計五千二百七十三圓三十四錢ヲ支拂ヒタルコト原判決ノ確定スルトコロナレハ反對ノ事情ノ見ルヘキモノナキ限リ一應叙上ノ約旨ニ從ヒ前示小林友藏ノ出捐ニ因リ支拂ハレタルモノニシテ從テ同抵當債務ハ之ニ因リ當然ニ消滅ニ歸シタルモノト做スヲ相當トスヘシ然ルニ原判決ハ何等肯定スルニ足ル理由ヲ示スコトナク漫然被上告人ハ三重農工銀行ニ前示ノ金員ヲ支拂ヒ其ノ對價トシテ同銀行ノ小林友藏ニ對スル殘存債權金額及抵當權ノ讓渡ヲ受ケタルモノト說示シ之ニ基キ上告人ノ請求ヲ排斥シ去リタルハ到底理由不備又ハ審理不盡ノ違法アルヲ免レサルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院昭和七年オ三七六號同年七月一五日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二一七頁）

第五百十五條　【債權者交替ノ更改―一】

1 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎債權者交替ノ更改ニ關スル諸問

一　本條ニ所謂第三者ノ意義（補遺五一五條）

二　債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權ノ讓渡（民法二九九頁）

三　雙務契約ノ權利義務ノ讓渡（三續民四六六條一二三八頁）

四　債權者交替ノ更改ト準消費貸借（本條後出）

五　債務名義ナル債權ノ更改ト執行權（民訴四三九頁）

◎更改契約ノ成否ニ關スル實例（三續民五一三條）

◎債權者交替ノ更改ト準消費貸借

一〔大審院〕1 債權者ノ交替ニ因ル更改ノ場合ニ於テハ債務者ハ新債權者ニ對シ債務ヲ負擔スルニ至ルヲ以テ其債務カ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ナルトキハ當事者ハ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スヘキコトヲ約シタルモノト雖モ解シ難キニ非ス若シ果シテ其趣旨此ニ在リテ且之ヲ眞實ナリトセハ準消費貸借ハ成立シタルモノト謂ハサルヲ得ス從テ原裁判所カ消費貸借又ハ準消費貸借ノ契約ニ基キ金五百圓貸借ノ趣旨ヲ記載セルモノト認メタル本件公正證書ハ右事實ニ吻合セサル事項ヲ記載シタルモノト論斷スルコトヲ得サル筋合ナリ然ルニ原裁判所カ上告人ニ於テ其債權ハ債權者ノ交替ニ因ル更改契約ニ基因スルモノナリト主張シタルノ故ヲ以テ直ニ本件公正證書ハ現實ノ事實ニ吻合セサル事項ヲ記載シタル無效ノ證書ナリト論斷シ上告人主張ノ趣旨及ヒ實際ノ事實ヲ審究セスシテ上告人敗訴ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリトス（大審院大正六年オ六〇四號同七年一月二五日判決法律新聞一三八二號二九頁）

第五百十六條　【債權者交替ノ更改―二】

1 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條　【新債務ノ不成立又ハ取消】

1 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

◎本條ニ關スル諸問

一　本條ノ趣旨（二續民六一六頁）

二　更改契約ニ於ケル錯誤及過失ノ有無（二續民一三〇頁）

三　新債務者ノ詐欺ニ因ル更改契約（其取消ノ效力）（民法二九七頁）

四　更改契約ノ不成立ノ推定（民法二九七頁）

五　更改契約ニ關スル判斷（民法二九七頁）

六　舊債務カ無效ナル場合ト更改ノ效果（續民法一二〇七頁）

七　更改契約ノ解除ト舊債務ノ復活（本條後出）

◎更改契約ノ解除ト舊債務ノ復活

一〔大審院〕1按スルニ更改モ亦一ノ契約ナルカ故ニ契約解除ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之カ解除ヲ爲シ得ルモノト解セサルヘカラス而シテ凡ソ契約ノ解除ハ當該契約ニ基ク法律關係ヲ遡及的ニ消滅セシメ以テ同契約締結以前ノ狀態ニ復歸セシムルノ效力ヲ有スルモノニシテ特ニ更改ニ限リ別異ノ取扱ヲ受クヘキ理由ナキカ故ニ若更改契約ニシテ適法ニ解除セラレンカ契約當事者間ニ在リテハ更改ニ因リテ生シタル新ナル債務消滅スルト同時ニ舊債務關係ハ當然ニ復活スルモノト爲ササルヘカラス

2民法第五百十七條ニ依レハ更改ニ因ル新債務カ不法ノ原因以外ノ事由ニ因リ成立セス又ハ取消サレタル場合ニ於テハ當事者カ初ヨリ其ノ事由ノ存スルコトヲ知悉セル限リ舊債務ハ新債務ノ發生セサルニ拘ラス竟ニ消滅ニ歸スルコト明ナルモ同條ノ規定ハ原狀回復ニ關スル更改契約解除ノ效力ヲ排除スルモノニ非サルヤ文理上明白ニシテ絲毫ノ疑ヲ容レス然ルニ原判決ハ上告人主張ノ契約ヲ解シテ更改ナリト爲シナカラ上告人ヨリ解除ノ意思ヲ表示スルモ一旦消滅シタル舊債務ハ之カ爲ニ復活スルモノニ非ストノ見解ニ出發シテ漫然上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ全ク叙上法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノニシテ論旨ハ此ノ點ニ於テ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス（大審院昭和二年オ六九二號同三年三月一〇日判決法律新聞二八四七號一五頁・法律評論一七卷民法六三二頁）

二　更改契約成立後ノ契約解除（續民法一二二七頁）

三　更改契約ノ解除又ハ取消ノ效果（續民法一二三七頁）

◎主債務ノ復活ト保證債務（三續民四四六條一一八〇頁）

第五百十八條　【更改ト擔保ノ移轉】

1更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

◎更改契約ノ擔保移轉ト其ノ登記

一　更改契約ト擔保ノ移轉（本條後出）

二　更改ニ因ル抵當權移轉ノ登記（本條後出）

三　手形ノ書替ト擔保權ノ消長（續商法一〇三五頁）

餘　錄

1更改前ノ舊債務ニ基ク競賣ノ效力（本條後出）

◎更改契約ト擔保ノ移轉

一〔大審院〕借越金債務カ手形債務ニ更改セラレタルヤ否ハ原

害ニ於テ主要ナル爭點タリシモノニシテ若シ更改成立シタルモノトセハ縱令貸越契約ニ基ク債務ニ付質權カ設定セラレタリトスルモ特ニ民法第五百十八條ニ規定シタル擔保移轉ノ契約ヲ爲スニ非サレハ右質權ハ更改ニ因リテ生シタル手形債務ヲ擔保セサルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原院カ右ノ爭點ニ對スル判斷ヲ爲サスシテ貸越契約ニ基ク債務ヲ擔保スル爲後纔仲買人推薦權ニ對スル質權カ設定セラレタル事實ヲ認定シタルモノニシテ直ニ被上告人カ右質權實行ニ因リ取立テタル推薦料十三萬圓ヨリ別除ノ辨濟ヲ受ケタルハ正當ナリト判斷シ本件破產財團ニ對スル上告人ノ異議ヲ排斥シタルハ理由ニ不備アル不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス（大審院昭和四年オ四九九號同年一一月一一日判決法律新聞三〇六六號九頁）

二　三續民五一四條一四三八頁「債務者ノ交替ニ因ル一部更改」ノ一

三　更改契約ト舊債務ノ擔保ノ移轉（二續民六一七頁）

◎更改ニ因ル抵當權移轉ノ登記

一〔法曹會〕更改契約ニ依リ舊債權ノ抵當權ヲ新債權ニ移ス登記ハ變更登記ヲ爲スヘキモノニ非スシテ直ニ抵當權移轉登記ヲ爲スヘキモノナリヤ（民法第五百十八條參照）決議—變更登記ヲ爲スヘキモノトス（法曹會昭和八年六月一日決議法曹會雜誌一一卷七號八八頁）

二〔法曹會〕通常ノ抵當權付消費貸借ヲ根抵當權付當座貸越ニ更改シ其ノ變更登記ヲ爲シ得ルヤ、決議—本問ノ場合ハ之ヲ更改契約ト解シ難キヲ以テ民法第五百十八條ノ規定ニ依ル抵當權ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス從テ其ノ旨ノ變更登記ヲ爲シ得サルモノトス（法曹會昭和四年一一月二七日決議法曹會雜誌八卷三號一二〇頁）

三〔法曹會〕債務者交替ノ更改契約ニ因リ舊債務ヲ消滅セシメ新債務ヲ發生シ之ト同時ニ舊債務ノ爲ニ提供シアル擔保物權ヲ新債務者ノ新債務ノ爲ニ移スコトノ特約ニ因リ抵當權ヲ新債務ニ移轉ノ登記申請アリタル場合ニハ不動產登記法第五十六條ニ因リ利害關係人アルトキハ其ノ利害關係人ノ承諾又ハ之ニ對抗スル裁判ノ謄本ヲ添附シアルトキハ附記登記ヲ爲シ然ラサルトキハ主登記ニテ爲スヘキモノナリトノ說ト又次順位ノ抵當權アルモ其ノ抵當權者ノ承諾ヲ要セサルニ付不動產登記法第五十六條ニ依ラサル說トアリ何レヲ相當トスルヤ、決議—更改ノ當事者ニ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ認ムルハ抵當權ノ順位ヲ保全セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ抵當權ヲ新債務ニ移スモ次順位抵當權者ニ何等ノ利害關係ヲ生スルコトナシ從テ問合ノ場合ニ於テ次順位抵當權者ノ關係ニ於テハ單ニ變更ノ附記登記ヲ爲スヲ以テ足リ次順位抵當權者ノ

承諾又ハ之ニ對抗スル裁判ヲ要セサルモノトス（法曹會昭和八年一〇月二六日決議法曹會雜誌一一卷一二號八一頁）

四〔法曹會〕可分債權ノ一部ニ付債務者ノ交替ニ因ル更改ヲ爲シタル場合該債權ヲ擔保シタル抵當權ノ一部ヲ更改ト同時ニ新債權ニ移スコトヲ得ルモノニシテ此ノ抵當權ハ更改トナラサル債權ヲ擔保スル抵當權ト共ニ同一順位ニ在ルモノトス（法曹會昭和六年一〇月一四日決議法曹會雜誌九卷一一號一〇一頁）

◎更改前ノ舊債務ニ基ク競賣ノ效力

一〔大審院〕本件抵當權ハ前記ノ如ク更改セラレタル新債務ノ擔保トシテ有效ニ存續スルモノナルコト原判決ノ確定シタル所ナルヲ以テ抵當權者タル上告人源重郎ハ更改セラレタル消費貸借上ノ債權ニ基キ抵當權ノ實行ヲ爲スヘキモノニシテ既ニ消滅シタル手形債權ニ基キ抵當權ヲ實行スルコトヲ得サルモノナルコト論ヲ俟タス從テ抵當權者タル上告人源重郎カ本件抵當權ノ實行ニ當リ既ニ消滅シタル手形債權ニ基クモノトシテ競賣ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者タル被上告人ニ於テ異議ヲ主張シテ其ノ不當ヲ矯正シ得ヘシト雖何等異議ヲ主張スルコトナク競賣手續ヲ完結シタル以上抵當權其ノモノハ有效ニ存續スル本件ノ如キ場合ニ於テハ其ノ競賣手續ヲ

第四款　免除

第五百十九條　【債務ノ免除】

1 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

◎債務ノ免除ニ關スル諸問

一　契約ニ依ル免除ト本條ノ適用（續民法一二〇七頁）

二　債權ヲ消滅セシムル合意ノ適否（本條後出）

三　免除ノ方法ト債務者ノ選擇（續民法一二〇八頁）

四　登記ノ完了ヲ免除ノ時トナス約旨（三續民一七六條）

五　不履行ニ因ル責任免除ノ推定（續民法一二〇八頁）

六　保證債務ノ免除ト本條（三續民四五〇條）

七　數人中ノ一人ニ對スル保證債務ノ免除（民法二五三頁）

八　連帶保證人ニ對スル債務免除ノ效力（三續民四五八條）

九　主タル債務ノ免除ト保證債務ノ消滅（續民法一一三八頁）

一〇　免除契約ト代物辨濟契約トノ併存（本條後出）

一一　債權共有者ノ一人ノ免除ノ效力（本條後出）

一二　遲延利息ノ一部請求ト殘部免除ノ推定（本條後出）

一三　數千圓ノ債務免除ト特別事情ノ存在（本條後出）

一四　連帶債務ノ免除ニ關スル諸問（三續民四三七條）

一五　連帶債務者ノ一人ト連帶免除（三續民四四〇條）

一六　權利ノ拋棄ニ關スル諸問（本條後出）

一七　第三者ノ爲ニスル債權免除ノ契約（續民法一二〇七頁）

一八　代金債務ノ免除ト買主權利ノ消長（本條後出）

一九　貸金請求ノ受任者ト一部免除ノ權限（三續民六四四條）

二〇　不法行爲ニ因ル責任免除ノ豫約（民法三〇〇頁）

二一　過失上ノ賠償責任ト免除特約ノ效力（民法四七〇頁）

二二　犯罪利得金分配ヲ原因トスル免除ノ效力（民法三〇〇頁）

二三　姦通ニ原因スル債務免除ノ效力（民法二二頁）

二四　株金拂込ノ債務ト免除又ハ更改（本條後出）

二五　引受人ニ對スル債務免除ト裏書人及振出人（二續民六一八頁）

二六　手形金減額ノ承認ト免除（民法三〇〇頁）

二七　會計法規ニ反スル債務免除ノ效力（本條後出）

二八　村ト過意金免除ノ意思表示（續民法一二〇八頁）

二九　債務免除ト緣由ノ判示（本條後出）

◎權利ノ拋棄ニ關スル諸問

一　權利拋棄ノ方法（二續民二頁・民法三〇一頁）

二　權利拋棄ノ適否（二續民四一四頁）

三　權利ノ拋棄ト權利ノ無償讓渡トノ別（民法二六二頁）

四　未發生權利拋棄ノ效力（民法二一頁）

五　權利拋棄豫約ノ效力（民法三〇三頁）

六　權利拋棄ノ認定（民法一四四頁）

七　權利拋棄ノ推定（民法三〇〇頁）

八　債權ノ拋棄アリト解シ得ル場合（二續民六一八頁）

九　表決權ノ讓渡又ハ拋棄（續民法七六一頁）

一〇　時效ノ拋棄ト權利ノ拋棄トノ別（三續民一四六條）

一一　登記拋棄ノ合意ト登記抹消ノ原因（三續民一七七條五三二頁）

一二　優先權ノ拋棄カ混同カ（三續民五二〇條）
一三　地代値上請求權ノ拋棄カ（續民法一二〇八頁）
一四　抵當權ノ拋棄ト次順位抵當權ノ侵害（三續民三九二條）
一五　滌除權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ（續民法一〇四〇頁）
一六　契約違反ノ默認ト請求權ノ拋棄（續民法一二〇八頁）
一七　豫定賠償額ノ拋棄ノ推定（三續民四二〇條）
一八　連帶者ニ對スル權利不行使ノ特約（續民法一一二九頁）
一九　相殺權ノ不行使ト權利ノ拋棄（二續民六〇三頁）
二〇　債權拋棄及債務負擔ヲ內容トスル契約（民法二九八頁）
二一　債權拋棄ノ契約ト其ノ解除（本條後出）
二二　贈與契約ニ因ル權利拋棄ト免除（續民法一二〇八頁）
二三　代金殘額ノ減額及拋棄ト認定ノ當否（本條後出）
二四　示談契約ト暗默ノ權利拋棄（本條後出）
二五　養育費ノ拋棄アリヤ否ノ認定（本條後出）
二六　相續開始前ノ相續權拋棄ノ效力（三續民一〇三八條）
二七　親權ノ拋棄又ハ制限ノ效力（民法五七七頁）
二八　資本減少ノ權利拋棄ト認定ノ當否（本條後出）

餘　錄

1 消滅セル債權債務ノ復活契約（三續民一一九條）
2 更改契約ノ解除ト舊債務ノ復活（三續民五一七條）

◎債權ヲ消滅セシムル合意ノ適否

一〔大審院〕1 債權ノ消滅ハ必スシモ民法所定ノ免除其ノ他ノ事由ノミニ因ルモノニアラス當事者カ特ニ債權ヲ消滅セシムルノ合意ヲ爲ストキハ之ニヨリテモ亦債權ノ消滅ヲ來スコト契約自由ノ原則ニ照シ蓋疑ナカルヘシ

2 然リ而シテ原判示稍明瞭ヲ缺クノ嫌アルモ被上告人ハ訴外平野味噌製造株式會社及丸上味噌合資會社ノ兩會社ニ對シ資買代金九百三十二圓五十六錢ノ債務ヲ負擔シ居リタルトコロ大正十四年三月四日右當事者及平野平助間ニ於テ平助ヲ債權者トスル債權者ノ交替ニ因ル更改契約ヲ締結シ且之ヲ準消費寄託ニ改メタルモノニ係リ尙右準消費寄託契約成立ノ際當事者間ニ於テ訴外平野ヒテカ訴外原田光ニ對スル借財金三千圓ヲ大正十四年三月五日ニ辨濟セサルトキハ本件消費寄託ニ基ク債權ヲ消滅セシムル旨ノ合意ヲモ爲シ而カモ前示三月五日右約定ノ辨濟ナカリシカ故ニ約旨ニ因リ同日ヲ以テ本訴債權消滅ニ歸シタルヲ以テ其ノ後讓渡ヲ受ケタリト主張スル上告人ノ請求ハ排斥セラルヘキモノナリトノ趣旨ナルコトハ原判文上之ヲ諒シ得サルニアラス而シテ叙上ノ債權消滅ヲ目的トスル合意ニ因リ債權消滅スルコトハ既ニ冒頭ニ於テ說示スル如クナレハ原審カ叙上ノ事實ヲ肯定シテ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ毫モ違法ニアラス（大審院昭和七年オ三〇三五號同八年五月二四日判決法律新聞三五六一號一六頁・法律評論二二卷民法五八八頁）

二　本條後出「債權拋棄ノ契約ト其ノ解除」ノ二

◎免除契約ト代物辨濟契約トノ併存

一〔大審院〕代物辨濟ニ依リ遂ニ債務ノ全部カ消滅スヘキトキハ更ニ連帶債務免除ノ契約ヲ締結スルノ必要ナキコト論ヲ俟タスト雖前記ノ如ク代物辨濟セラルヘキ債務額ノ範圍カ具體的ニ定マラサル時期ニアリテハ連帶債務免除契約ノ外ニ代物辨濟ノ契約ヲ爲スコトハ其ノ必要ヲ見ルヘキ所ナルヲ以テ前記兩契約ノ認定ハ觀念上毫モ矛盾スルモノニアラス（大審院昭和七年オ三五一九號同八年六月一七日判決法律新聞三五七六號一五頁）

◎債權共有者ノ一人ノ免除ノ效力

一〔大審院〕債權共有者ノ一人カ爲シタル免除ノ效力ハ自己ニ屬スル債權ノ持分ニ付テノミ效力ヲ有シ其ノ全部ニ對シテ效力ヲ及ホスモノニ非ス（大審院昭和二年オ一〇八八號同三年三月一五日判決法律新聞社編大審院裁判例〔二〕民事三三頁）

◎遲延利息ノ一部請求ト殘部免除ノ推定

一〔大審院〕元金ト遲延利息ノ一部トヲ請求シ乍ラ殘部ノ遲延利息ヲ請求セサリシ事實ノミニ依リ直ニ殘部ノ遲延利息債權免除ノ默示ノ意思表示アリト推定スルコト能ハサルモノトス（大審院昭和四年オ一〇三〇號同年一二月二一日判決法律評論一九卷民法三七二頁）

○右ノ批評—法學博士中島玉吉氏法學論叢二三卷六號一三九頁・法律評論一九卷民法七八七頁

◎數千圓ノ債務免除ト特別事情ノ存在

一〔大審院〕原判決ハ被上告人カ辰島六郎ノ負擔シタル本件債務ヲ保證シタリシモノト爲シ尙乙第五號證ニ依リ上告人ハ右債權ノ擔保トナリ居リタル建物一棟ヲ七百圓ト見積リ之ヲ代物辨濟トシテ引取リ貸金元利ニ充當シ其ノ殘額三千餘圓ニ付テハ辰島六郎ニ對シ其ノ債務ヲ免除シタルモノト認メ甲第七號證ニ依リテハ右認定ヲ覆ヘスニ足ラサルモノニシテ既ニ主タル債務消滅シタル以上保證債務ノ存續スヘキ理由ナキカ故ニ上告人ノ請求ハ之ヲ認容スルニ由ナキモノナリト認メタリト雖凡ソ三千七百餘圓ノ債務ニ對シ僅ニ七百圓ノ辨濟アリタルノミニテ其ノ餘ノ債務カ無條件ニ免除セラレタリト云フカ

如キ事實ハ何等カノ特別事情存在スルニ非サレハ一般ノ事例ニ照シ直ニ之ヲ首肯スルヲ得サルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ付上告人ハ主債務者辰島六郎ニ對スル債務ヲ免除スルト同時ニ保證人タル被上告人ニ貸金ノ辨濟ヲ求ムルカ爲甲第七號證ノ借用證書ヲ作成シ乙第五號證ニ於テ其ノ趣旨ヲ表ハシタルモノナリト云フモ幷ハ單ニ甲第七號證ノ成立ニ關スル沿革ヲ示スニ止マリ何カ故ニ上告人カ辰島六郎ニ對シ其ノ債務ノ免除ヲ爲シタルカノ消息ハ依然トシテ不明ナルヲ免レサレハ原判決ハ上告人ノ辰島六郎ニ對スル債務ノ免除ヲ認定シタルノ理由ハ原判決ヲ通シテ終ニ之ヲ知ルヲ得サルノ憾アルノミナラス主タル債務消滅セハ從タル債務モ亦消滅スヘキヲ以テ上告人ニシテ前記ノ如キ意圖ヲ以テ主タル債務ヲ免除シタルモノトセハ其ノ免除ハ辰島六郎ニ對シテ債務ヲ免除スルモ被上告人ニ對スル債權ハ消滅セスト爲シタルノ錯誤ニ出テタル無效ノモノナラサル限リ幷ハ原判決認定ノ如キ單純無條件ノモノニアラサリシコトヲ推測スルニ難カラサルヲ以テ原判決ノ認定ハ此ノ部分ニ於テモ矛盾アルヲ免レサルモノニシテ其ノ執レヨリスルモ原判決ハ審理不盡又ハ理由不備ノ違法アリテ之ヲ破毀ス可キモノトス（大審院昭和四年オ二〇一一號同五年六月二六日判決法律新聞社編大審院裁判例〔四〕民事七七頁）

◎債權拋棄ノ契約ト其ノ解除

一〔上告論旨〕原判決ハ「被控訴人ハ第五假ニ拋棄カ契約ニシテ從テ之ヲ解除シ得ヘシトスルモ拋棄ニヨリ一旦消滅セシメタル債權ハ逢ニ之ヲ復活スルコト能ハサルモノナリト抗辯スレトモ契約解除ノ效果ハ遡及的ニ契約成立以前ノ狀態ニ復歸セシムルモノナレハ拋棄ト雖契約ニ依リ之ヲ締結セル以上一般契約解除ノ法則ニ準據スヘキモノニシテ彼是其ノ取扱ヲ異ニスヘキ根據ナキヲ以テ本抗辯モ亦失當ナリ」ト判示セラレタリ然レトモ債權ノ拋棄ハ其ノ性質單獨行爲ニシテ契約ニ非サルコト前既ニ論述セルカ如シト雖今假ニ之ヲ契約ニヨリ拋棄シタリトスルモ此ノ契約ヲ敢テ無效トスヘキ理由モ存セサルカ故ニ此ノ契約モ亦法定ノ原因存スル場合之ヲ解除スルコトヲ得サルニ非ス然リト雖拋棄ニヨリ物權的ニ一旦消滅セル債權ヲ其ノ後ニ至リ契約解除ノ效果トシテ遡及シテ消滅セサルコトトナシ以テ同一債權ヲ再ヒ蘇生セシメントスルカ如キハ事實ニ於テ不能ナリ如何ニ法律上謂ヒ理論上謂フモ事實ノ不能ハ絕對ニシテ之ヲ强ユルコトヲ得サレハナリ（大審院判例集第七卷第五號二五五頁參照）果シテ然ラハ本件免除ヲ契約ナリトシテ之ヲ解除シタリトスルモ此ノ解除ニヨリ事實上一旦適法ニ消滅セシ債權ヲ遡及シテ消滅セサルモノトナスヲ得サルヤ當然ナリ加之債權拋棄ノ表意ハ其ノ契約ナルト單獨行爲ナルトヲ不問其ノ效力ハ絕對的ニシテ後ニ至リ其ノ表意ヲ撤回又ハ消滅セシムルコトヲ得サルヤ勿論ナリ然ルニ原判決カ此ノ事實上適法ニ消滅セシ債

權モ解除ニヨリ當然復活スルモノト解シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノト謂ハサルヲ得スト云フニ在リ

二〔大審院〕然レトモ論旨ニ示ス判例ハ本件ニ適切ナラス而シテ債權拋棄ノ方法ハ單獨行爲ニ限定セラレタルモノニ非ス債權ハ契約ニ因リテモ亦之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキモノニシテ契約ニ因リテ拋棄セラレタル債權ハ其ノ契約ノ解除ニ因リ原狀ニ回復セラルルモノナルカ故ニ論旨ハ理由ナシ（大審院昭和三年オ一三九〇號同四年三月二六日判決法律新聞二九七六號一一頁●法律評論一八卷民法五八三頁）

三　右一ノ上告論旨引用判例―三續民一一九條三〇九頁「消滅セル債權債務ノ復活契約」ノ一

○右二ノ批評―法學博士中島玉吉氏法學論叢二二卷二號一五四頁●法律評論一八卷民法一二〇四頁

◎代金殘額ノ減額及拋棄ト認定ノ當否

一〔大審院〕原審ハ被上告人ハ上告人先代ニ對シテ昭和二年六月十七日ニ於テ藍賣掛代金殘額二百十四圓二十錢ノ債務ヲ負擔セルコトヲ認メタル後同日右債務ヲ五十圓ニ減額シ其ノ餘ヲ拋棄シタルモノト認定シ因テ以テ上告人ニ一部敗訴ノ判決ヲ言渡シタリ然レトモ成立ニ爭ナキ甲第一號證ニハ其ノ後ノ昭和三年一月ニ於テ上告人カ被上告人ニ對シテ尙二百十四圓二十錢ノ債務ヲ有スル旨ノ記載アルニヨリ右ノ減額及拋棄ハ全ク無カリシモノト一應認ムルコトヲ得ヘキニ似タリ故ニ原審ニ於テ叙上ノ如ク認定ヲ爲スニ當リテハ須ク該證ノ採ルニ足ラサル理ヲ說明セサル可カラス然ルニ事茲ニ出テス漫然上告人ノ全立證ニ依ルモ其ノ主張事實ヲ是認スヘキ心證ヲ惹起セサル旨ヲ說示シタルノミニテ輙ク上告人ノ一部ヲ排斥シタルハ理由不備ノ違法アルモノトス（大審院昭和四年オ二〇四七號同五年六月二八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔四〕民事七六頁）

◎代金債務ノ免除ト買主權利ノ消長

一〔大審院〕原判決ヲ查スルニ上告人カ原審ニ於テ本件ノ賣買契約ヲ假ニ有效ノモノトスルモ上告人ハ賣主タル脫退原告ヨリ代金支拂債務ノ免除ヲ受ケタリトノ抗辯ヲ提出シタルニ對シ原審ハ「乙第二號證ノ二、三ニヨレハ代金支拂期限猶豫後上告人ハ試掘權登錄竝該試掘權抹消ノ登錄ヲ爲シ居リテ債務ノ免除ナカリシコトヲ推知スルニ足ル」ト說示シ該抗辯ヲ排斥セリ然レトモ買主カ代金支拂債務ノ免除ヲ受ケタリトテ賣買契約カ解除セラレサル限リ買主トシテ取得セシ權利ヲ失フヘキ理由ナキカ故ニ上告人カ本件賣買代金ニ付支拂ノ猶豫ヲ得タル後判示ノ如キ登錄ヲ受ケタル事實アリトテ此ノ事實ハ

代金債務ノ免除ト相容レサルモノト謂フヲ得ス然レハ原審カ右登錄アリタル事實ニ依リテ代金債務ノ免除ナカリシ事實ヲ推認シタルハ證據ニ依ラスシテ上告人ニ不利益ナル事實ヲ認定シタル違法アルモノトス（大審院昭和五年オ二七四五號同六年七月八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事一六二頁）

◎示談契約ト暗默ノ權利拋棄

一〔大審院〕1原判決ヲ査スルニ上告人カ本訴請求ノ原因トシテ訴外脇田商會ト被上告銀行トノ間ニ締結セラレタル當座貸越契約ニ因ル同商會ノ債務ニ付キテハ同商會カ訴外河津ヒめニ對スル金五萬圓ノ抵當債權ト共ニ本件ノ爲替手形カ擔保ト爲リタルモノニシテ被上告銀行ハ其ノ振出及引受人タル上告人先代ニ對シ右手形金ノ支拂ヲ受クルトキハ前記五萬圓ノ抵當債權ヲ代償トシテ上告人先代ニ讓渡スヘク若シ上告人先代ニ於テ手形金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ被上告銀行ハ右抵當債權ヲ代物辨濟トシテ取得シ毫モ上告人先代ニ損害ヲ蒙ラシメサル旨契約シタリ然ルニ被上告銀行ハ此特約ニ違背シ擅ニ前記抵當債權ニ依リ脇田商會ニ對スル他ノ債權ノ辨濟ヲ受ケタル上更ニ上告人先代ニ對シ右手形金ノ請求訴訟ヲ起シ勝訴ノ確定判決ニ基キ强制執行ヲ爲シ上告人先代ヲシテ止ムヲ得ス然レハ原審カ右登錄アリタル事實ニ依リテ代金債務ノ免除ナカリシ事實ヲ推認シタルハ證據ニ依ラスシテ上告人ニ不利益ナル事實ヲ認定シタル違法アルモノトス（大審院昭和五年オ二七四五號同六年七月八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事一六二頁）

◎示談契約ト暗默ノ權利拋棄

一〔大審院〕1原判決ヲ査スルニ上告人カ本訴請求ノ原因トシテ訴外脇田商會ト被上告銀行トノ間ニ締結セラレタル當座貸越契約ニ因ル同商會ノ債務ニ付キテハ同商會カ訴外河津ヒめニ對スル金五萬圓ノ抵當債權ト共ニ本件ノ爲替手形カ擔保ト爲リタルモノニシテ被上告銀行ハ其ノ振出及引受人タル上告人先代ニ對シ右手形金ノ支拂ヲ受クルトキハ前記五萬圓ノ抵當債權ヲ代償トシテ上告人先代ニ讓渡スヘク若シ上告人先代ニ於テ手形金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ被上告銀行ハ右抵當債權ヲ代物辨濟トシテ取得シ毫モ上告人先代ニ損害ヲ蒙ラシメサル旨契約シタリ然ルニ被上告銀行ハ此特約ニ違背シ擅ニ前記抵當債權ニ依リ脇田商會ニ對スル他ノ債權ノ辨濟ヲ受ケタル上更ニ上告人先代ニ對シ右手形金ノ請求訴訟ヲ起シ勝訴ノ確定判決ニ基キ强制執行ヲ爲シ上告人先代ヲシテ止ムヲ得ス然レハ原審カ右登錄アリタル事實ニ依リテ代金債務ノ免除ナカリシ事實ヲ推認シタルハ證據ニ依ラスシテ上告人ニ不利益ナル事實ヲ認定シタル違法アルモノトス（大審院昭和五年オ二七四五號同六年七月八日判決法律新聞社編大審院裁判例〔五〕民事一六二頁）

◎養育費ノ拋棄アリヤ否ノ認定

一〔大審院〕原裁判所ハ上告人先代田中菊次郎カ被上告人先代品川長治ヲ養育スルニ際リ同人ノ衣食住教育疾病治療等ニ費シタル費用ニ付テハ其ノ支出ノ都度償還請求權ヲ拋棄シタルモノトナシ之ヲ以テ上告人ノ本訴請求排斥ノ一理由ト爲シタルコト原判文上明ナリ然レトモ凡ソ權利ノ拋棄アリト爲スニハ其旨ノ意思表示アルコトヲ要スルコト勿論ナルニ原判決ノ擧示スル小西及田中ノ兩證人ノ證言ニ徵スルモ右菊次郎ニ於テ本訴金員支出ノ都度償還請求權ヲ拋棄スル旨ノ意思表示ヲ爲シタル事實ハ遂ニ之ヲ確認スルニ由ナキカ故ニ原審ハ究竟證據ニ基カスシテ上叙爭アル事實ヲ認定シタル違法アルモノト爲スノ外ナク原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院昭和七年オ五九六號同年八月二日判決法律新聞社編大審院裁判例〔六〕民事二三九頁）

◎會計法規ニ反スル債務免除ノ效力

一〔東京地〕凡ソ官廳カ私法上ノ取引ニ於テ債務者タル場合ト債權者ノ地位ニ立ツ場合タルトニ干セス其ノ權利干係ニ付テハ總テ私法ノ規定ノ適用ヲ見ルヘキハ當然ニシテ其相手方ニ對スル契約又ハ其履行ノ結果カ官廳內部ノ執務規則ニ違背スルニ至ルト雖モ其ノ契約ノ效力ニ影響スルコトナキヲ以テ本則トス改ニ假令本件ノ如キ債務免除カ會計法規ニ反スルモノトスルモ其ノ私法上ノ效力ヲ左右スヘキモノニ非スト解スヘキモノトス（東京地方裁判所昭和四年リ一一三五號同七年二月二九日判決法律新報二九三號二二頁）

◎債務免除ト緣由ノ判示

一〔大審院〕債務免除ノ事實ヲ判斷スルニ當リ之カ緣由迄ヲ明ニセサルヘカラサル必要ナシ（大審院昭和七年オ二五七四號同八年二月八日判決法學二卷九號一〇〇頁）

◎株金拂込ノ債務ト免除又ハ更改

一〔大審院〕所論抗辯ノ趣旨ハ本件株金拂込ニ關スル債務一切ヲ總括シテ金百九十圓ニ減額シ其ノ餘ハ免除ヲ受ケ且右百九十圓ハ手形債務ニ更改シタリト云フニ在ルコト原審昭和七年七月四日ノ口頭辯論調書竝同日附準備書面ニヨリ明ナリ卽所論還延損害金債務ニ付特ニ免除更改アリタルコトヲ主張スルニ非スシテ株金拂込債務ヲ主トシ之ニ關聯セル一切ノ債務ニ付包括的ニ一個ノ免除及更改アリタリト主張スルモノナリ故

ニ原審カ斯クノ如キ株金拂込債務ヲ包含スル免除及更改ハ法ノ許ササル處ニシテ無效ナリトナシ之カ有效ヲ前提トセル所論抗辯ヲ排斥シタルハ相當ナリ（大審院昭和七年オ三四一六號同年五月五日判決法學二卷一二號一一二頁）

ニ　株金拂込義務ト拋棄又ハ免除（二續商一四一一頁）

◎株金ノ拂込ト相殺（三續民五〇五條）

◎資本減少ノ權利拋棄ト認定ノ當否

一〔大審院〕原院ハ訴外大橋銀行ハ訴外朝日商業株式會社（破産會社）ノ減資決議ヲ暗默ニ承認シテ同會社カ減資前ノ狀態ニ於テ存續スルモノト看做シテ自己ノ債權ヲ行使スル權利ヲ拋棄シタルモノト爲シ之ヲ以テ上告人ノ本訴請求ヲ排斥スル理由ト爲シタルコト原判文上明ナリ然レトモ前記訴外銀行カ減資決議ヲ承認シテ前記ノ如キ權利ヲ拋棄シタリト爲スニハ其ノ旨ノ表示アルコトヲ要スルコト勿論ナルニ原判決ノ擧示スル證據ニ依リテハ纔カニ前記訴外會社カ減資決議後數日中ニ訴外銀行ニ對シ減資決議アリタル旨ヲ口頭ヲ以テ通知シタル事實及訴外銀行カ訴外會社ト昭和二年頃迄取引ヲ繼續シタル事實ヲ認メ得ルニ止マリ訴外銀行ニ於テ前記趣旨ノ表示ヲ爲シタル事實ニ至ツテハ到底之ヲ確認スルニ由ナキヲ以テ原院ハ畢竟證據ニ據ラスシテ叙上ノ爭アル事實ヲ認定シタル違

第五款　混同

第五百二十條　【債權ノ混同】

1債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

◎債權ノ混同ニ關スル諸問

一　保證債務ト主債務ノ混同（續民法一二〇八頁）

二　連帶保證ノ混同ト求償權（本條後出）

三　混同ニ因ル追奪擔保ノ消滅（續民法一二四九ノ一〇頁）

四　所有權ト買戻權トノ混同（民法三〇一頁・同三六七頁）

五　賃借人ノ賃借物取得ト賃貸借終了（三續民六一七條）

六　限定承認ト混同ノ不成立（續民法一二〇九頁）

七　持分拂戻請求權ト入社出資トノ混同（續民法一二〇九頁）

八　發起人ト連帶債務ノ混同（續民法一一三〇頁）

九　優先權ノ拋棄カ混同カ（本條後出）

一〇　手形債權ト混同（本條後出）

一一　民法實施前ノ混同（民法三〇一頁）

◎物權ノ混同ニ關スル諸問（三續民一七九條）

◎連帶保證ノ混同ト求償權

一〔大審院〕被上告人ハ主タル債務者瀨上玉絲株式會社ノ株式會社福島縣農工銀行ニ對スル債務ニ付キ連帶保證人トナリタルコト右農工銀行ハ右瀨上玉絲株式會社ニ對スル債務及之ヲ擔保スル抵當權ヲ被上告人ニ讓渡シ之カ登記ヲ經由シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナルニヨリ被上告人ハ民法第四百五十八條第四百三十八條ノ規定ニ基キ辨濟ナシタルモノト見做サレタルモノニシテ被上告人ト主タル債務者瀨上玉絲株式會社トノ間ニ於ケル求償權ノ關係ニ付キテハ被上告人カ現實ニ主タル債務ヲ辨濟シタル場合ト法律上同一ノ效果ヲ發生スルモノト解スヘキモノナルヲ以テ原院カ被上告人ニ於テ主タル債務者ニ對シ同法第五百一條ニ因リ本件不動產ニ對スル抵當權ヲ取得シタルモノト認メタルハ夙ニ相當ナリトス（大審院昭和六年オ一一八〇號同年一〇月六日判決法律新聞三三七一號九頁・法學一卷三號一一九頁）

◎優先權ノ拋棄カ混同カ

一〔大審院〕本件假處分ノ目的タル債權カ轉付命令ニ因リテ被上告人ニ歸屬セシナラハ同人カ此ノ債權ニ對シテ有セル當該優先權ハ消滅セサルヲ得ス但其ノ消滅原因ハ混同ニシテ優先權拋棄ノ意思表示ニ非サルハ論ナク然ルニ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ右ノ債權ハ其ノ差押前已ニ藏內治郎作ヨリ上告人ニ讓渡セラレ其ノ通知ナモノ了リタルヲ以テ前記轉付命令ハ當該債權ヲ被上告人ニ移轉スルノ效力ヲ生セス混同ニ因ル債權消滅ノ如キモ亦從ヒテ之ヲ生スルノ餘地無カリシコト殆ト言ヲ俟タス若シ夫レ前記債權ニ對スル差押命令及ヒ轉付命令ノ申請ノ如キハ執行機關ニ對スル執行ノ申立ニ外ナラス之ヲ目シテ以テ當然ニ優先權拋棄ノ私法上ノ意思表示ナリト言ハムトスル上告人ノ主張ノ失當ナルハ蓋シ疑ヲ容ルヘカラス（大審院昭和五年オ六五八號同七年四月一三日判決法律評論二一卷民法五二八頁）

◎手形債權ト混同

一〔大審院〕爲替手形ノ引受人カ被裏書人ト爲リタルトキハ手形債權ト其ノ主タル債務トカ同一人ニ歸シタル次第ナルヲ以テ之ヲ民法ノ法理ニ照ストキハ縱令滿期日ハ未タ到來セサル

場合ニ於テモ有ノ債權ハ混同ニ依リ消滅シタリト解セサルヲ得ス何者混同ハ債務ノ辨濟期カ現ニ到來セルコトヲ要件トセサレハナリ然レトモ手形ハ素ト流通證券トシテ發行セラレタルモノニシテ一旦如上事態ニ立至リタレハトテ其ノ更ニ他人ニ移轉セラルルコトハ之ヲ豫期スルヲ得ヘク又豫期セサルヘカラサルコトニ屬スルカ故ニ此ノ際直チニ混同ヲ以テ律スルハ早計ニ失スルノ觀無キヲ得ス是此ノ場合混同ノ規定ヲ適用セサル所以ニシテ畢竟民法ノ規定ニ對スル一例外ニ過キス然ルニ斯ル事態カ滿期日到來ノ際マテモ尙存續シ若ハ其ノ到來後始メテ發生シタルトキハ混同ハ卽時ニ且當然ニ其ノ效力ヲ現ハササルヲ得ス蓋滿期日ノ到來テフコトハ何事ヲ意味スルヤト云フニ幷ハ手形關係ヲ決濟シ其ノ活動ヲ終結スヘキ本然固有ノ時期ノ開始シタリト云フコトニ外ナラサルカ故ニ已ニ此ノ時期ニ入リタル以上荀モ債權消滅ノ事由ニシテ客觀的ニ存在スル限リ之ヲシテ直ニ原則通リノ效力ヲ生セシメサルノ理由ハ之ヲ發見スルニ由無キコト猶滿期日到來後直ニ爲サレタル相殺ノ卽時ニ其ノ效力ヲ生スルコトヲ否定セムトスルノ解ス可ラサルト一般ナレハナリ（大審院昭和六年オ一〇一九號同年一二月二三日判決大審院判例集一〇卷民事一二七五頁・法律新聞三三七五號八頁・法律新報二八三號一九頁）

二〔大審院〕上告人ハ原審ニ於テ上告人ハ訴外合資會社廣興昌洋行ニ商品ヲ賣渡シ其代金ノ支拂ヲ得ル方法トシテ上告人自ラ本件手形ヲ振出シ同會社ハ之ニ引受ヲ爲スト共ニ同會社ノ社員タル被上告人ハ同會社ノ手形債務確保ノ爲右手形ノ受取人ト爲リテ之ヲ上告人ニ裏書ヲ爲シタルモノナル旨主張シタルコト明ナリ若シ右上告人ノ主張ニシテ眞實ナリトセハ被上告人ハ引受人不拂ノ場合ニ於テ償還義務ヲ履行スルコトニ依リテ保證ノ實ヲ擧ケントシタル趣意ト解スヘキヲ以テ其一旦所持人タル上告人ニ對シ償還義務ヲ履行シタル後轉シテ振出人タル上告人ニ對シ償還請求ヲ爲スカ如キ關係ニ非サルコトハ當然ノ結果ト云ハサルヲ得ス則チ之ヲ上告人ノ側ヨリ云ヘハ上告人ハ被上告人ニ對シ振出人トシテノ償還義務ヲ負擔スル事ナキ者トス果シテ然ラハ被裏書人トシテノ上告人ヨリ被上告人ニ對スル償還請求權ハ原判決說示ノ如キ混同ニ因リ消滅スル事ナキヤ洵ニ明瞭ナルヲ以テ原審トシテハ本件手形ノ振出引受竝ニ裏書カ上告人主張ノ如キ關係ノ下ニ行ハレタリヤ否ヤヲ審理判斷スルニ非サレハ上告人ノ本訴請求ノ當否ハ俄カニ之ヲ判斷スルヲ得サルモノトス（大審院昭和八年オ三〇號同年五月五日判決大審院判例集一二卷民事一〇七四頁・法律新聞三五六六號一五頁・法律新報三三〇號一四頁）

昭和九年十一月二十六日　印刷
昭和九年十二月一日　發行

著作權所有

9. 11.26

判決總攬・第三續民法（上卷）
正價金十圓

編輯者　半田鍵次郎
名古屋市東區關鍛冶町二丁目五番地

發行者　半田正一
名古屋市東區關鍛冶町二丁目五番地
判決例調査所印刷部

印刷者　半田賢一

發賣元　東京市本鄉區駒込淺嘉町五〇　電話小石川六三六八番　振替東京二四八九九番　酒井書店

取次店　東京神田一橋通町　有斐閣　東京神田朝鮮京城　巖松堂　大阪北區堂島　法政書房　大阪北區曾根崎　大同書院

發行所　名古屋市東區關鍛冶町二丁目一番地　電話東（4）二一三一　振替名古屋五九二番　判決例調査所

判決總攬

◎菊　版、六號二段組、茶色總クロース上製、但總索引上中下三册ハ春革上製

◎無數の愛讀各位の光顧を辱ふせる既刊各編の內容

明治、大正、昭和に亘る約四十年間の大審院の判例は實に無數であります。これに控訴院、地方裁判所、區裁判所等の、所謂事實審の見遁がすべからざる無數の判例を加へ、更に之に行政裁判所の判例、法曹會の決議、司法省の訓令回答、その他重要學說等を加へましたならば、實に々々浩瀚無數のものであります。判決總攬はこれら無數の案件を捉へて、遺憾なくその要旨を摘載し、一々簡明切實なる標題を揭げて。之を各法各條に逐條的に配列し、以て既往四十年間の總ゆる實問題を立ち所に知ることを得せしめたる、法曹實務家の一日も缺くべからざる、最要書であります

◎購讀各位の讃辭

「判決總攬」は非常に見よい、自然と此の本へ手が行く——此の本は編纂上の總てが篤實であるまたよく統一が保たれてゐる——その問題相互の引照、其の關連と波及とに力めたるところなど、或一問を引出せば關連する他の問題まで「づるづる」と出て來る——、此の本は諸法規も全部揃つてゐて何一つ缺けてゐないのは殊に嬉ばしい——我々は實際此の本に感謝する！。

「發行者發賣者の謝辭」愛讀各位の心からの讃辭に對し發行者發賣者一同深く深く感謝いたします。

◉判決總攬 民法	裁判所構成法實施以降大正四年十二月迄ノ判例、訓令回答、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、七八六頁	七版 金四圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬續 民法	大正五年一月以降大正八年十月迄ノ判例、訓令回答法曹會決議、其他重要學說等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、九八〇頁	七版 金六圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 第二續民法	大正八年十月以降昭和三年一月迄ノ判例及重要學說等ノ各要旨ヲ前二編ト同シク逐條的ニ編纂シタルモノ、一四四〇頁	六版 金十一圓 內地送料三錢
◉判決總攬 第三續民法 上卷	昭和三年一月以降昭和九年一月末日迄ノ判例、訓令回答通牒、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、一五四〇頁—總則、物權、債權總則ヲ收錄ス	新刊 金十圓 內地送料三錢
◉判決總攬 第三續民法 下卷	上卷同一內容—八百餘頁—契約以下、親族、相續、音引事項索引ヲ收錄ス	近刊 金五圓 內地送料三錢
◉判決總攬 商法	裁判所構成法實施以降大正四年十二月迄ノ判例、訓令回答、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、四〇〇頁	二三版 金二圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬續 商法	大正五年一月以降同十四年五月迄ノ判例、訓令回答法曹會決議、其他重要學說等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、八〇〇頁	三版 金六圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 第二續商法	大正十年二月以降昭和三年十二月迄ノ判例及重要學說等ノ各要旨ヲ前二編ト同シク逐條的ニ編纂シタルモノ、八一〇頁	六版 金六圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 刑法	裁判所構成法實施以降大正四年十二月迄ノ判例、訓令回答、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、四〇〇頁	二三版 金二圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬續 刑法	大正五年一月以降同十四年五月迄ノ判例、訓令回答法曹會決議、其他重要學說等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、八〇〇頁	三版 金六圓五十錢 內地送料三錢

◉判決總攬 第二續刑法	大正十四年五月以降昭和七年十月迄ヲ、前同樣逐條的ニ編纂シ、刑法ト竝置スルヲ便宜トスル、治安維持法外五法ノ判例ヲ附錄シタルモノ、一四七〇頁	五版 金八圓 內地送料三錢
◉判決總攬 民事訴訟法	裁判所構成法施行以降大正七年三月迄ノ判例、訓令回答、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、八五〇頁	五版 金四圓八十錢 內地送料三錢
◉判決總攬續 民事訴訟法	大正七年四月以降昭和四年九月迄ヲ、前編同樣逐條的ニ編纂シテ、改正法ト舊法トノ對比及改正案理由書ヲ附錄シタルモノ、一一〇〇頁	六版 金八圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 刑事訴訟法	裁判所構成法實施以降大正六年十月迄ノ判例、訓令回答、法曹會決議等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、四一〇頁	三版 金二圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬續 刑事訴訟法	現行法施行以降昭和五年六月迄ノ判例（及舊法時代ノ判例）竝ニ重要學說等ノ各要旨ヲ逐條的ニ編纂シタルモノ、九三〇頁	八版 金六圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 諸法令上卷	裁判所構成法實施以降大正十五年七月迄ノ、法令名及重要學說等ヲ編纂シタルモノ、七五〇頁	三版 金六圓五十錢 內地送料三錢
◉判決總攬 諸法令中卷	裁判所構成法實施以降昭和元年十二月迄ノ、法令名及重要學說等ヲ編纂シタルモノ、四七〇頁	三版 金四圓 內地送料三錢
◉判決總攬 諸法令下卷	裁判所構成法實施以降昭和四年二月迄ノ、法令名ノ頭音〔チ〕ヨリ〔ワ〕迄ノ、諸法令ニ關スル判例及重要學說ト上中卷ノ續編トヲ合纂シタルモノ、一〇五〇頁	三版 金八圓 內地送料三錢
◉判決總攬 總索引 上卷 中卷 下卷	以上十五編（第二續刑法ヲ除ク）ニ對スル「總索引」ニシテ「音引總索引」ト「條文總索引」トニ二大別シテ編纂シタルモノ、五五〇〇餘頁、眷革上製	初版 上中下三冊 實費二十五圓 內地送料三十錢

14 ?
148